建築と社會

昭和24年3月19日第3種郵便物認可　昭和28年11月25日印刷 昭和28年12月1日發行

The Architectural Association of Japan

特集

創立35年記念史

主要内容

☆35周年記念座談会☆
☆記念事業概記☆
☆褒賞☆
沿革・定款
理事会
評議員会
委員会
幹事会
講習会
座談会
博覧会
展覧会
☆索引☆

写真紹介　第一生命ビル

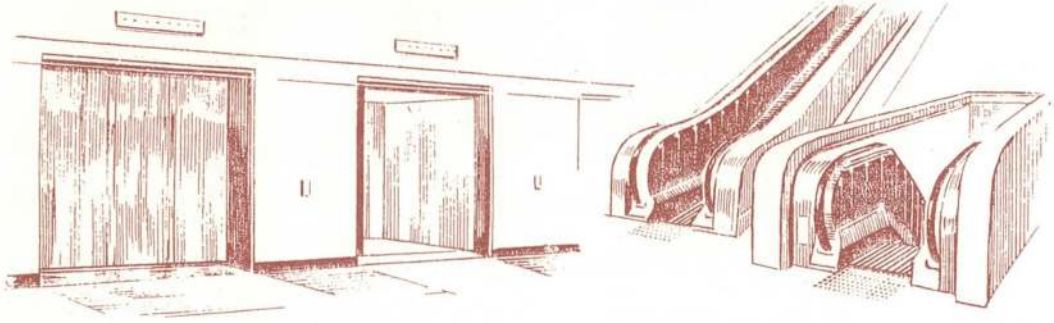
日本建築協会

Vol. 34
1953
12

HITACHI

快適な運行！

日立エレベータ

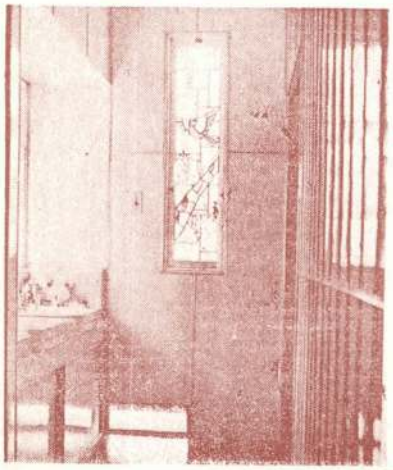


各種エレベータ　電動階段　ダムウエータ

東京 大阪 名古屋 福岡 仙台 札幌　日立製作所

建築物の自重軽減に 色彩調節に

サンウォール（琺瑯化粧板）



東洋鋼鈑公館（東京）

内装に ←

外装に →



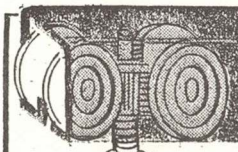
大分物産館（大阪・堺筋）

この外 サンウォール耐酸波板
サンウォール耐酸厚板
サンウォール耐酸看板

も御用命を御待ちします

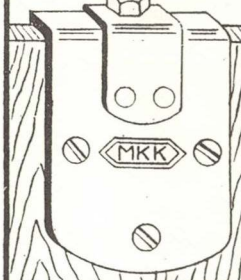
サンエナメル工業K. K.

本社 大阪市北区宗是町大ビル 電話 土佐堀(44)1115 5520
営業所 東京都千代田区霞ヶ関3/3 鋼鈑ビル 電話 銀座6111~5



TRADE MKK MARK ドアハンガー

御用命は東西代理店へ御願いします



種目

トラックレール　6尺 9尺 12尺
及
ガイドレール　曲リレール

スティール　ボール入　単車・複車
スティール　ローラー入

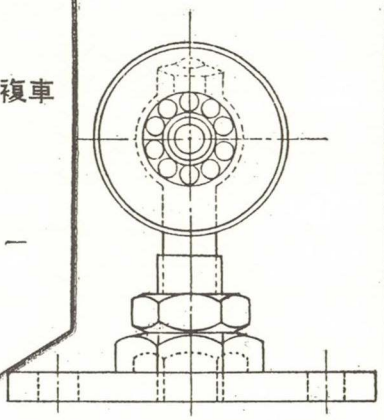
2連 3連用 天井受 側面受

エプロン付プレート付ガイドローラー

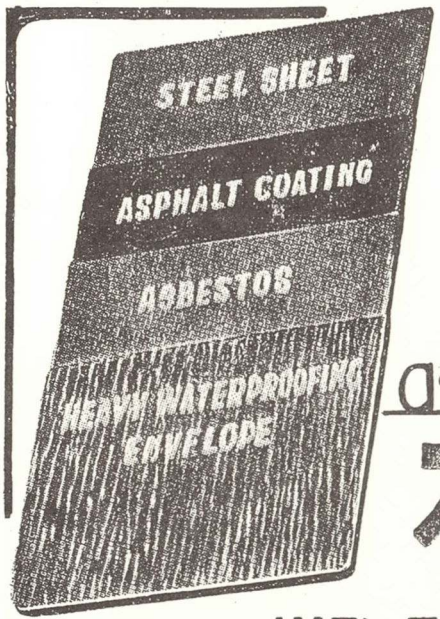
其の他附属品一切

用途

ガレージ 格納庫
倉庫・間仕切等



株式会社 三谷製作所　東京都足立区高野町 218 番地
TEL 足立 (88) 4048・4239



営業品目

特許 オリエンタルメタル製
屋根板・谷樋・軒樋・竪樋・呼樋
棟色・雨押類・ダクト並真突類
特許 オリエンタル ベンチレーター
特許 オリエンタル スカイライト
特許 特殊屋根材「セラクタイト」
特許 オリエンタル アスファルトブロック

製設造計販施売工

asbestos protected metal

オリエンタルメタル

オリエンタルメタル製造株式会社

本社並工場　兵庫県尼崎市大物北口　電話 尼崎 926・927番
東京支店並工場　埼玉県北足立郡蕨町四七五九　電話 蕨 252番
東北支店並工場　福島県郡山市外富久山町久保田　電話郡山267番
九州出張所　福岡県八幡市西本町七丁目　電話

ORIENTAL around the world

会　　告

建材優良証明発行の件

品　　名　　タクミ瓦

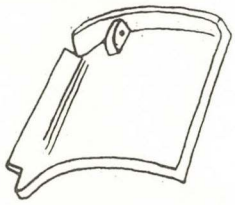
製造社名　　立工産業株式会社

昭和28年8月13日提出の資料につき本委員会に於て審査の結果下記特徴に依り28年11月13日附を以て優良証明を発行した。

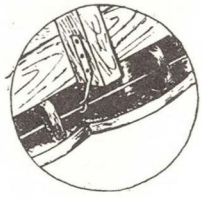
1. 特に屋根瓦の型を変へる事なく在来の瓦、スレートに簡易に適用し得る耐風上の新工法である。
2. この工法は実用に適し且つ経済的である。　　以　上

社団法人　**日本建築協会建材審査委員長　置塩　章**

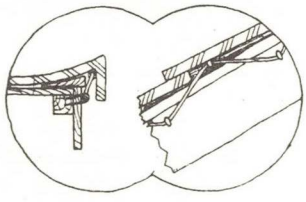
タクミ瓦



タクミ瓦1号軒端



タクミ瓦蝮羽1号



委員会規程抜萃

本証明の有効は発行日より一ケ年間である。

優良証明に対する責任は本委員会に提出された現品について負うものであるが本証明を不正に利用し又は本証明に関し本会の名誉を汚損する行為ありと認めた時は直ちに取消し通知を発すると共に会誌の外一般に其旨公表する

★目下審査中のものは浅野スレートKK、大波、小波、網代型三種、T・X耐アルカリ塗料、エマルリシン防水剤、スタッコ壁材、スタンダードメタル、エバーライト、防水、屋根材、ヤハズラス金属タイル板等である。此内浅野スレート、スタッコ、スタンダードメタル金属タイル板は審査を終り近く証明を発する運びである。

★斯界向上発達のため多くの建材関係者の受審申込を歓迎している。（建材審査委員会）

上記の外本年証明を発行したものは下記の通りである。

KK片山鉄工所	**ラテイ**	（螺釘）
住友化工材KK	**デコラ**	（メラミンプラスチック板）
朝日産業KK	**キルコート**	（殺虫塗料）
KK門田製作所	**緩止ボールトナット**	
日興産業KK	**ホモゲンホルツ**	（人造木材）

尚既往発行した証明に対し再審受理して有効期間一ケ年延長を認め再発行したもの次の通りである。

関西ペイントKK	**タイネン工事**　（防火塗料）
ナニワ瓦株式会社	**ナニワS瓦**
田島応用化工KK	**三星印石綿ルーフィング**
同　　社	**三星印アスファルトタイル**

以　上

会　　告

南街会館新築見学会

十二月の見学を竹中工務店の御好意に依り、協会、学会近畿支部、士会の三会連合の見学会で下記要領で開催致します。何卒多数御参加下さい。

時　12月11日（金曜日）午後3時

集合場所　ナンバ駅前南街会館入口前

会費　不要　但し本会会員に限る。会員章着用の事

参加団体　日本建築協会、日本建築学会近畿支部、建築士会

建築概要　設計・施工　竹中工務店、地下2階、地上6階、建築面積 656坪13　延面積 3342坪74　軒高 25米9　最高 34米8　大劇場 1500席（南街劇場）　小劇場 500席（ミユジックホール）地下劇場 1200席（難波東宝）6階大食堂予定

日本建築協会会勢委員会委員長　浅沼猪之吉

人　事　斡　旋

人を求められる向は、

学歴、年齢等希望条件と勤務先、待遇等採用についての要点をお知らせおき下さい。

職を求められる方は、

履歴書に給与等希望要項を記しお届けおき下さい。

以上何れも本会事務局長宛の事。該当事項発生の時相方に御連絡いたします。（**事務局長**）

会費分割払込みに就て

会費の払込みは誠に御面倒で御手数をかけておりますが現在の所本部又は支部所在に近い一部の方面以外集金に伺う事が出来ません。集金には非常な困難を来たし延いては諸事業の運営に影響する所が多いのであります。

協会から請求を待たずにお払込下さる場合は一ヶ月又は2ヶ月等随意分割結構です。本会よりの請求は整理上3ヶ月又は4ヶ月分等に分割いたします。請求を受けられた方は御面倒ですが、振替口座大阪 39975番を御利用折返し御払込み願います。（**主計理事**）

会員倍加に御協力下さい。

今年度本委員会の事業は見学、講演、映画会等開催の外会員増加を企画しております。会勢発展のため会員各位は只一名の新入会者御紹介に是非御協力御願します。

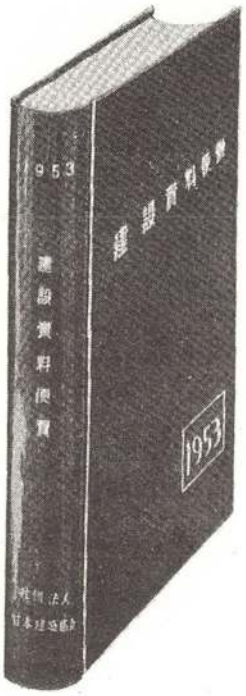
入会案内申込カードは10月号挿入、御利用下さい。

会勢委員長　浅沼猪之吉

水害特集号頒布

10月・11月は水害特集号として合併発行しました。御覧の通り平素の凡倍頁に集録した九州、和歌山、京都方面被害写真其他記事は貴重な参考資料であるとの好評を得ておりますので増刷り頒布中です。会員各位は拡く周知と頒布方に御協力お願します。

定価送料共　¥120.00　　会員紹介一部　¥100.00



☆　　☆　　☆

建設資料便覧發行迫る

☆　　☆　　☆

今春来準備中の上記発行については目下委員の手許で鋭意整理に努め８月より印刷に着手12月発行の運びに進捗している。内容は仮設、土工、杭打、防水、鉄骨、煉瓦タイル、石材、木工、左官、金属、建具、塗装、内装、硝子、コンクリート、屋根、管工、電気、設備等20余種目に亘り夫々の部門につき簡結した梗概を記し各関係業者350余の案内欄を附し一般設計、施工、技術家並に学生諸君の参考となる様編集されている。Ｂ５型装幀上製約 700頁で相当高価になる見込みであるが、建築協会が記念事業中の大きな企画の最終を飾るものにふさわしいと信じ、広く各位に御すすめする。

昭和28年12月１日

日本建築協会卅五年記念事業出版委員長　尾　崎　久　助

○尚今春発行以来好評を博している「大阪附近地質図表」￥1,200.00 で発売中。

建　材　陳　列　場　開　設

所　　市内東区北浜５丁目　　日建設計工務K. K. 玄関横一午前９時～午後５時

八月一日から開設した建材陳列場は漸次展示品の整備が完了した。スペースの関係で充分のケースが取れないが時々展示品を更新する事とし将来の完成を期しております。何卒御観覧の上御指導と御援助を願います。現在展示社数50社。

日本建築協会・関西建材会

編　集　記

本年度の編集委員会は年初以来内容充実に一段の努力が続けられ、殊に10月号は水害特集をものして好評を博する等、大変な張切り方であるが、残念ながら発行日が毎月著しく遅れ会員各位に申訳ない次第でもある。

一面、会の機関で定められている雑誌予算の枠を遥に超過し、台所を預る方としては何とかして決算迄辻褄を合せる為非常に悩まされている。あちら立てればこちらが立たず、もつと経済面が豊かであつたらとつくづく貧乏のつらさを感ずる。飛んだ所で楽屋裏をさらけ出したが此の状態では赤字決算は必然であるので目下事務局は出来る限り集金其他増収に努めている。此機会に会員の皆さんに特にお願い申上げたいのは会員増加、広告増収、会費払込み等に一層の御協力と御支援を煩したい。

10月、11月号は経費のバランスや発行期日の挽回等のため合併号とした事を諒とされたい。

本月号は35年記念事業委員会とタイアップ合同編集の下に本会35年記念史特集号として、平素の約三倍の頁を以ておおみえした。但し記念史の性質上内容は殆ど記録で埋まつており、一見興趣薄く所なく無味乾燥との声もあるべく、又多年各事業に尽力され、会に関心の深い方からは余りに圧縮され物足りなさを痛感される等、見る人により種々の感想を抱かれる事と思われるが、春風秋雨35星霜を閲みした吾等の団体の会歴が今日迄なさんとしてなし遂げられなかつた事が不充分ながら茲に一応まとめられた事は意義ある事であり、殊に雑誌索引と共に事業の記録は古い方の想出となり、新人には明日への躍進の参考となる事と思われる。終に非常な難事業であつたこの資料作成に御援助頂いた委員並関係各位に誌上から厚く御礼申上げます。　　大和事務局長

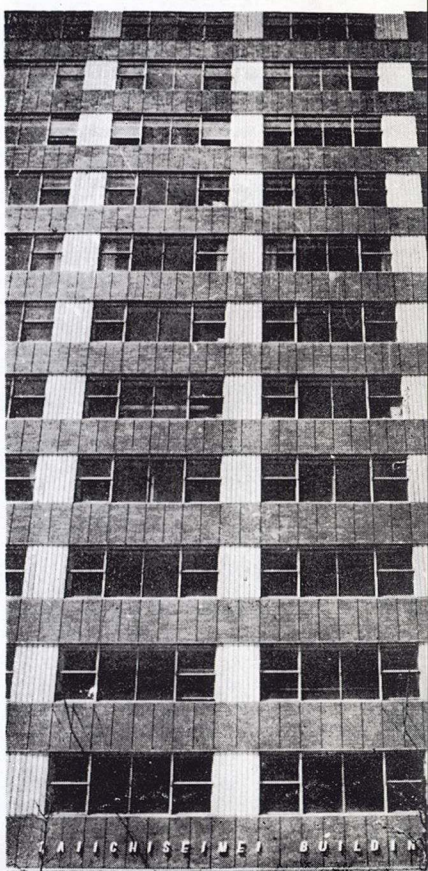


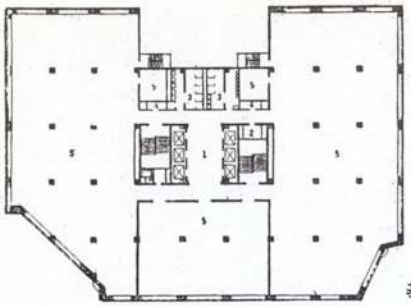
第一生命ビルデイング

設　計　第一生命ビルデイング管理部
施　工　株式会社　竹中工務店

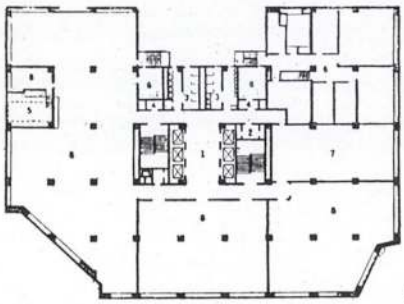
概　要

建築地	大阪市北区梅田町2
敷地面積	725坪10
建築面積	建坪　617.01坪　延坪9,042.31坪 （他に地下道連絡通路71坪）
構造	鉄筋鉄骨コンクリート造
階数	地下3階地上12階　塔屋付
高さ	標準地盤よりパラペット迄　41米23
	同　上　塔屋上端迄　48米80
深さ	同　上　基礎下端迄　12米30
工程	昭和26年2月2日　地鎮祭
	〃　11月15日　潜函沈下始式
	〃　27年1月20日　潜函セット完了
	〃　6月30日　コンクリート打終了
	〃　11月17日　12階認可
	〃　11月18日　9階迄竣工
	〃　28年5月20日　12階竣工





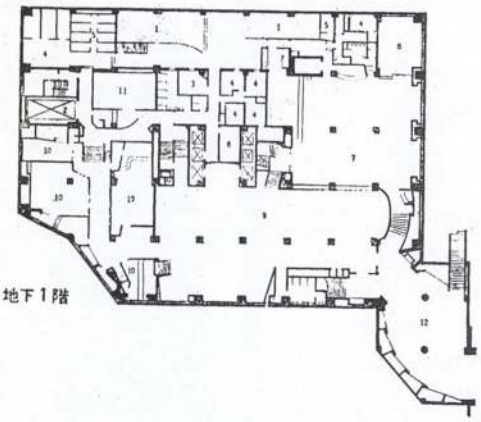
基準階



2 階



1 階



地下1階

階別	坪数
塔屋2階	54.20
〃 1階	63.94
12～2階	600.90
1階	617.01
地1階	691.06
地2階	325.80
地3階	680.40
合計	9,042.31

基準階

1 エレベーターロビー
2 湯沸室
3 便所
4 分電盤室
5 貸事務室

2 階

1 エレベーターロビー
2 湯沸室
3 便所
4 分電盤室
5 自動車リフト機械室
6 銀行
7 大阪市商工貿易相談所
8 貸事務所

1 階

1 アーケード
2 風除
3 ホール
4 エレベーターロビー
5 貸事務室
6 銀行
7 専門大店
8 地下街入口
9 自動車用リフト
10 ランプウエイ
11 リフト管理人室
12 中庭

地下1階

1 ランプウエイ
2 自動車リフト
3 守衛室
4 従業員休憩室
5 倉庫
6 電話機械室
7 ビヤホール
8 特別室
9 専門大店
10 名物食堂
11 理髪室
12 地下連絡通路





12階会議室・集会室ロビー

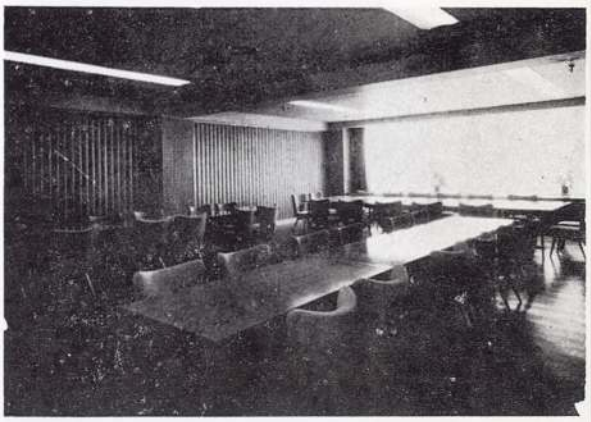


12階談話室

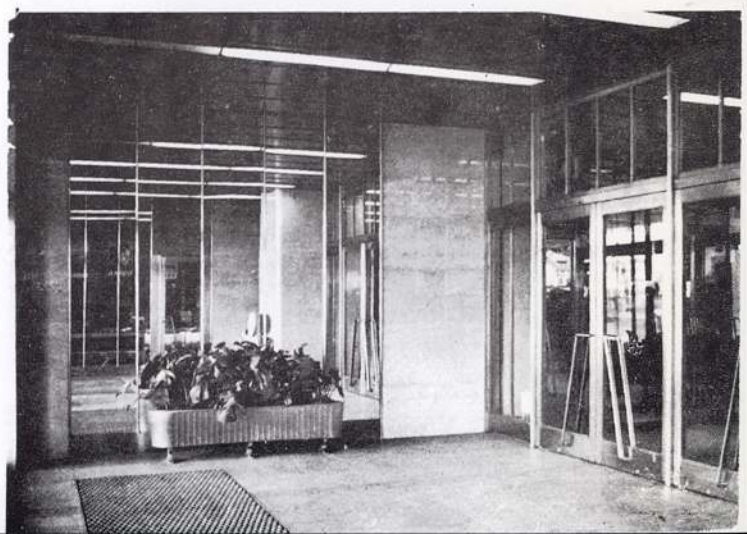
12階談話室



12階会議室



1階表玄関入口よりロビーにつづくところ
右正面は鏡壁



特　　集

創立35年記念史

社　団　法　人

日　本　建　築　協　会

巻　頭　言

会長　竹　腰　健　造

大正6年本会が呱々の声を挙げてより昨春を以て満35年に相当したので、これを記念する為、会員各位並に大方の御支援を得て各種有意義な事業が遂行された事は同慶の至りである。一口に35年と云えば誠に簡単であるが過ぎ越し方を顧みれば、この星霜を閲みて今日を迎えるには幾多の苦難や迂余曲折があり先輩のなみなみならぬ努力と苦心のあとが偲ばれて感慨浅からざるものあり、先賢各位に深く敬意を表する次第である。此間本会が成し来つた大小各般の事業や調査研究事項は広範多岐に亙り多くの業績を挙げているが、これらを取纏めた記録は今日迄なされていなかつたのである。偶昭和16、17両年に亙つて挙行された創立25年記念事業に際し、廿五年記念史出版の議が起り、記念史編纂委員会が設けられ当時多くの委員各位が分担、大項を取纏められていたが種々の事情で遂に刊行の運びに至らなかつたのは誠に遺憾であつた。吾々は昨年挙行の35年記念事業の経過を記録すると共に、之を報告するは何日の時代にか誰かがなすべき事柄であると考える。此処に於て今回35年記念事業中にこの事を取入れ、地質調査表、建設資料便覧につぎ、卅五年記念史編集を加え、先輩の意志を継ぐ事とした。爾来出版部会で十年前調査せしものを基準として之に追補すると共に、その後の十年間の記録蒐集に努めたが、何分にも35年間に亙るので相当尨大な量となつた。理想としてはこの資料を忠実に詳記し単行本として広く配布したいのであるが、之がためには非常な経費を要する上更に多くの日子を費し今回も又出版の機会を逸する懼れがあり、加うるに資料の保管に困難を来たし散失の危惧も多分に考えられるので、此度は一応之等の記録を要約保有する一つの方法として、本会35年間の大貌を知る程度に止め、会誌に掲載する事とした。記念出版部会に於ては此の方針の下に再三検討短縮の結果漸く稿を終えたので、茲に「**建築と社会**」十二月号を期して卅五年記念特集号として出版する運びとなつた。記する処審かならず興趣又薄き嫌いなしとはしないが、一読35年の会歴を知るに足り、本会が建築を通じ社会に貢献する目的とその使命を一貫して果し続け今日に及びたる経路をうかゞい知るを得、意義あるものと考える。希くは新旧会員が是非一瞥を与えられ先賢の業績を偲びつゝ明日の新しい前進の参考に供され、之を契機に益々健全な発達を遂げ将来輝かしい五十年史、百年史の出版を期待する次第である。

記念史編集について

本史の編集を嘱されたのは昨年4月であつた。然るに本部会は此外、地質調査図表と建設資料便覧の二大出版も課せられており、何れも大きな仕事で非常に面倒、且つ手数のかかるものばかりであつたので、遅々として進捗せず今日に至つたのである。此間地質図表は20年前出版のものを改訂追補し、昨年中は専ら原稿の作成に没頭本春漸く出版を見た。本史は昨年度を準備期間とし、本年1月より本格的に着手、10年前即ち創立25年記念事業で調査取纒められた資料を基本として、それを再調補足すると共に、其後の10年間の調査と資料の整理に当つた併し、本会は創立以来殆どビル住いで然も転々する事前後7回、一定の倉庫を有しない上、年々増積する書類の保管に悩まされ、移転の度毎に整理処分されたものもあり特に戦時中書類の疎開や戦後朝日ビル事務室の縮少と之に伴う分室設置など、繁雑混乱に際し処分されたり、又散逸したものもあつた。斯様な次第で書類の整備に一貫性がなく、此度の資料集収には少なからぬ困難が伴い非常な苦心と労力が費やされたのである。

幸にも「建築と社会」が創刊号から保存されていたので、誌中の記事を只一つの頼りとして之を中心に諸事業や経路を辿り連絡調整する外、永年勤続の大和常務理事の記憶をも参考に種々の面から検討集積した結果、本夏に至り一応の資料を纒めたが、之は相当大部のものであつた。然るに本会並に記念事業の予算に一定限度があり遺憾乍らこの資料全部を採録する事が不可能となつたので、止むなく短縮に着手、前後四回に亘つて稿を新にし最後に25項目と12委員会、3幹事会に別ち約200頁に圧縮し漸く稿を終えた。

これがため、歴代会長、副会長等、役員の面影、歴年評議員、委員、幹事氏名、物故先賢各位氏名等写真、事務所並に雑誌表紙の変遷や記録の一部を割愛した外、雑誌索引を出来る限り簡略し、なお、各会活動内容其の他動向は極力要点のみを記し、一応35年間先輩各位の努力と其の足跡が偲ばれ得、会歴の全貌を知る程度に止めた事は読者諸賢の御諒承を願いたい。斯様な経過の下に一応の取まとめをしたもので検討十分ならず従て記載内容も不備にして正確を期し難い点も多く、充分の意を尽し得なかつたが、之を完備するには尚年余の日子と多くの経費を必要とするので、吾々は許された範囲内に於て最善の微力を尽し10年前残された先輩の遺志を継承不充分乍ら其の責を果す事とした。

終りに他の編集事項と共に献身的努力をされた部会委員並に実行に当られた分科委員各位並びに大和常務理事に感謝の意を表する。

創立35年記念事業出版部会長
尾崎久助

目　次

巻頭言…… 6
記念史編集について…… 7
35周年記念座談会…… 8
　第1回・懐旧談…… 8
　第2回・回顧と将来を語る……12
　第3回・協会の過去と将来……17
創立35年記念事業概記……22
沿　　革……25
定　　款……26
事務所変遷……31
総　　会……31
評議員会……34
理事会・常務会……39
役員及び職員……51
会員動勢……55
財政状況……56
寄付金受領調……61
建議・陳情・意見書……65
「建築と社会」変遷……71
委　員　会……72
幹　事　会……86
講　演　会……90
講　習　会……93
座　談　会……95
博　覧　会……98
展　覧　会……99
創立15年記念事業…… 101
創立25年記念事業…… 104
新体制と時局対策委員会…… 105
学会・協会合併問題…… 107
懸賞及び賞金調…… 109
出版図書調…… 110
会員海外渡航者調…… 111

索　　引…… 112
索引目次…… 113
　第1部門（歴史・意匠・計画・設計）
　第2部門（各種建築）
　第3部門（材料・構造・施工・設備）
　第4部門（法規・都計・災害・座談・特輯）
　第5部門（雑）

35周年記念座談会

内　　訳

第 1 回　懐 旧 談　（28.6.23　於高麗橋吉兆）

第 2 回　回顧と将来を語る（28.7.16.　於大阪クラブ）

第 3 回　協会の過去と将来（28.8.13.　於産経会館）

第1回座談会

懐　旧　談

出席者（敬称略50音順）

池田谷久吉，井上福蔵，今林彦太郎，小笠原祥光，置塩章，竹腰健造，東畑謙三，中西六郎，中野順次郎（司会），古塚正治，松井貴太郎，松井清之助，松本儀八，大和栄衛常務理事，沖田書記長

東畑　本協会は年々発展の途をたどり昨年度で35周年を迎え色々記念事業を遂行いたしました。最後に残されたのは出版丈となり本年の継続事業となつておりま す。本日は協会35年の基礎を造られた先輩の方々に過去の歴史なり、思い出話なり、或は協会のあり方等、面白い有益なお話をして頂きたい。会場がせまくて行届かないが、ゆつくりとくつろいで頂きたい。それでは中野さんに司会をお願いいたします。





第 1 回 座 談 会

中野　副会長の御指名により司会をさせて頂きます。今日集られた方は昭和17. 8 年頃迄御活躍なされた方が多い。その辺りを中心に思い出話を願いたい。尚協会の進み方に御指導を与えて頂けたら幸であります。お集りの方で小笠原さんが一番お古いと思いますが如何でしようか。創立当時のお話を一つ。

松井　小笠原さんは何年に来られた。

小笠原　大正５年の春です。

小笠原　私の記憶としては大正６年に協会に入つていたが、片岡さんが主人公になられ、その頃は20人か30人しか居なかつた。日本の建築屋は一人よがりだ。一つ我々のグループを造つて啓蒙しようというので出席したのが始めです。

松井　協会の出来たのは大正６年。私は明治39年に来たが、その時オキナ会が出来た。木葉会は東大の建築を出た人達の会であつたが、オキナ会はそれと同じ様なもので東大を出たものの会であつた。私の記憶では神戸の河合浩蔵さん、大阪の河合幾次さん、宗さんが見えて居る。奈良に加護谷さん、京都の武田さんは大分あとで、片岡さん、日高さんが居られた。

中野　オキナ会は長い間続いたのですか？

松井　大正６年迄。私は大正３年東京に行き、大正７年に帰つて来たが、僕の居ない間に協会が出来た。

中野　関西建築協会から日本建築協会と変つたその理由は？

小笠原　別に理由はない。

松井　始め関西建築協会として出来た。

古塚　協会は片岡先生の歴史を語る様なものだ。

大和　小笠原先生は、大博覧会当時随分尽力された様ですが博覧会当時の展望をどうぞ……宣伝部隊で襷をかけて廻られたそうですね。

小笠原　博覧会から協会が世間に認められた。プランを練つて始めたのが、10月頃で無我夢中であつたが、よくやつたと思う。約30戸建てたが、各戸に全部女の子を一人づつつけて、大阪市の有名人を全部よんだ。始め博覧会場をどうするか、大きさをどうするか、どんなものを作るかが問題になつたが、専門の人をやとつて通路の巾から陳列場の間口を決めた。道は1間半、広いのは2間とし、写真や宣伝は大丸の大きいケースを借りて陳列した。3人寄つて色々プランを決めよくやつたと思う。あとで武田さんが来て、やればやれるものだと云われた。

会期を10月一杯迄延期し、東京の建築学会、建築士会20人ばかりを宝塚に招待し、料理屋に泊めて色々なものを引張り込んで騒いだ。博覧会の総裁は後藤伯爵に頼んだ。そんな事で「関西でこんな事をやつている」と有名になつた。この時から和洋折衷が始められた。

中野　そんな住宅博覧会は当時日本になかつたのか？

小笠原　なかつた。最初のものであつた。

大和　当時25万円程寄附が集つたそうですね。

今林　あんな規模の立派なものはないよ。1戸1万2、3千円で暖房装置もあつた。

松井　金に糸目はかけなかつた。

東畑　最近、あそこえ行つたが、大きな住宅ばかりそろつている。今桜ヶ丘といつて大きな桜が多い。あれが協会でやつたものだと聞いて全く驚いた。

池田谷　あそこに行つたのは当時の文化人の代表者であつた。新興の文化住宅であつた。

大和　協会の事務所は随分転々しているが、最初は今橋辺り次に中之島日綿附近の片岡事務所に一時世話になつたと古い会員の伊東宗太郎さんがよく云われていたが……。

小笠原　京町堀の不動ビルにあつたが片岡事務所では会合をやつた事はない。会合は不動の3階でやつた。

中野　小笠原さん、今の桜ヶ丘の博覧会で飛行機で宣伝したとあるが、飛行機からビラでもまかれたのですか。

小笠原　いや、ビラはまかない。自動車で廻つた。

中野　寄附金額は。

小笠原　始めは16万円であつた。僕が集めて報告したのだが、だんだん追加して20万円を突破した。金は主として請負業者から集めた。片岡さんは1万円出した。大きい金は請負から小さい金は会員が50円、30円と出し合つた。

大和　その他に懸賞設計募集等をやつた。

今林　博覧会で土地を択ぶのに金がかかつた。

小笠原　北川留吉が土地を周旋して買つた。その時に金がなくて困り日本生命から借りた。

中野　それから見ると今の協会はまだるつこいと思われるだろう。松井さんも古いから何かお話を。

松井　その時分、東京に居つたから記憶にない。私は無精で甚だ申訳ないが。

今林　私は大正5年の1月に来た。一寸務めるのは嫌な頃であつた。遠藤進さんが神戸に居られたが、手伝つてくれと云われたので、今から見ればのんきな話だが勤めるのを延ばして手伝いをやつた。私は発会当時から居つたが、小笠原さんの云われた事を大体申上げると、最初片岡さんの名前で会合をやるから出て来いと云われ、40人位行つたが出て見ると実はテンデンバラバラに会合がある様だが、もつと団結しなければならん、との事だつた。大体オキナ会は毎水曜日に道頓堀のカフェーに集るのだが、大先輩ばかりで、オヤジ連とやるのは詰らんという事で我々は大会をやつた。その時の大将が竹腰さんで、彼をけしかけて、オキナ会で小さくなつているのは詰らんからとやつたが、それが片岡さんの感情を害したらしい。とにかく個々にやるのはよくないと云う訳だ。この時に、松田伊作さんが居た。これは変つた人で片岡さんに正面から楯ついて意見を述べたと思う。最初僕の居る市役所に小谷君が居つて協会の仕事も手伝つた。この頃片岡さんが中心で建築物法が出来た。最初の博覧会に至る迄、協会で骨を折つたのは建築物法で、各国の建築条令や論文を翻訳しろ、と云うわけで割り当てられてやつた。最初の雑誌から見ると各号とものつている。その中に建築物法と都市計画法が出来た。協会はその間貢献したわけだ。

中野　その時分から雑誌があつたか？

今林　始めは関西建築雑誌といつて今見られたら、文はまずく間違いもあるが、実際片手間にやつた、片岡さんが部下を使つてやられた様なものだ。

中野　池田谷さんは古い時分からやられた様だが。

池田谷　今林、古塚、松本さんと一緒にやつた。

中野　発会当時から住宅博覧会までのお話が出ているがその当時のとつておきのお話をどうぞ。

大和　置塩さんはその当時兵庫県に居られましたね。

置塩　赴任したのが明治43年、それ迄陸軍に居つた。創立の際のお話が出たが、片岡さんを中心にして会を作る準備をしていたが、都市計画法がなくては不可んと云われ、それが当時の第一の問題であつた。それをそ

の時分に作つたのは片岡さんの努力であると思う。

中野　創立総会は活潑であつたと思うがその記憶は。

今林　記憶にない所を見ると別に変つた事はなかつたのだね。

置塩　会頭に後藤新平をつれてくる予定だつた。

大和　当時は会頭制で、片岡副会頭になり、会頭は後藤氏の予定で空席のままにしてあつた。

古塚　私は大正12年に入つたのでそんなに古くはないが入つた時は僕等の活動期で盛んに使われた。私のやつたのが5.6年その後松本さんが長くやられた。仕事とししは緑ヶ丘の住宅展。私は代表者として挨拶をやつた。その時分は時事新報が入つて居た。緑ヶ丘住宅地は今そのまま残つているが桜ヶ丘ほどの建物でないがは地形的には緑ヶ丘の方がよい。あの時分は2千部位の雑誌を出した。

大和　その当時は協会がさかんになつて来たので選挙に関心が持たれた。総会で学校別の会員数で割り当てたものだが、投票用紙を間違つて二枚送つて古塚さんからやられた事がありますね。

古塚　死んだ池田さんが、とつちめられた事がある。あれは公会堂でやつた時だつたね。

中野　会が発展したからですね。

池田谷　昭和8年頃が登り坂であつた。雑誌も「建築と社会」になつていた。大判になつて図版なども10頁で豪華なものだつた。会員の数が一時停頓し、長い間1,500から2,000位だつたが日本の仕事が世界に負けない様にやろうと云うのが一貫した流れであつた。社会に建築をにじみ込ませようと努力した。

大和　松室、坪井誠一さんの時代でしたね。

池田谷　編輯の職員で江村君が居たが、会長がこう云つたから等と会長をかさに着て居たので、皆でくびにしようと決議した事があつた。

古塚　僕等も会長に怒られたね。建築家が設計料を貰える様になつたのは一体誰のおかげだ、と怒られた。

池田谷　会長が当時防火建築と云う事に力を注がれたが公会堂で協会として講演会をやつたのが続いている。

古塚　爆撃をやられたら日本の建築は一たまりもない事を僕は云つた事がある。

池田谷　震災の当時、僕は役所に居つたが、片岡会長に見てこいと云われて皆で行つたが、あとで報告演説会をやつた。

古塚　委員を24.5名作つて講演会をやつた事もある。大正12年の事だつた。

松本　大正14年5月30日、但馬方面の震災には篠原、斉藤と私と片岡会長の命によつて行つた事を覚えて居る。写真は篠原、斉藤は補助、私が調査と云う事で、写真も相当撮つた。殆んど200枚位撮つた。あとで協会から実費を貰うのに気がひけた位撮つたが、片岡さんからこんな写真なら撮らん方がましだと怒られてガツカリした事を覚えている。公会堂で報告演説会をやつたが、案外満員の状況で会長も喜んで、これが建築家の社会奉仕だと賞められて前の怒られた償いをした。

中野　井上さんは随分古くからやつて居られた様だが。

井上　私は協会から飛行機に乗つた。当時飛行機に乗るには5円要るが協会から出して貰い只で乗つた、軍からも2人来て居たが飛行機を背景にして写真を撮つてから上つて行つたが、始めてなんで、之が最後になるかも知れんと思つた。その後色々と感想を書いた事を覚えている。昔の原始時代の穴居時代が再び来るであろうと書いた事を覚えている。

中野　防空演習をやつたのは協会の事業ですか。

井上　協会の事業です。大阪に小さいバラックを建て、上から焼夷弾を落し、どう消すかの防空演習であつたが、300匁程の弾を2度程落したが、盲弾で次に何かの方法で発火させ消火演習した。その時大佐と少将であつたが来て興味を持つて見ていた。軍部と協力してやつていたが軍は非常に力を入れていた。耐火、防火等色々考えていた。

中野　この辺から松井清之助さんの時代になりますね。

松井(清)　大正14年大同ビルと思うがとりあえず協会に入つた。その頃は池田谷さんが先輩で会長をボイコットした事があつた。いわば、協会の第一次の閉塞期、まあシユルンペンした時代で協会としては活動していなかつた。その時分、会員は少く私は当時安い月給で1円50銭の会費は高すぎると考え、1円にしたらどうかと中沢さん等と協力した事がある。始めは会費が足らなくて困つたが、会員を増せばいいじやないかないう事でやつた。その後協会を朝日ビルに移したがそれは片岡先生の留守中の事であつた。新しい会員は先生に反感を持つていたのではないかと思うが、私は建築行政に居つた関係上先生の題目には心から協力しようと思つた。当時市役所は中西さんなど錚々たる連中が協会と協力していた。役員は大体出身学校によつて比例配分していた。それから協会の仕事にもお互に力が入つて行つた様で、その中に日本で防空体制が強化される会員は増える、会費は安くなる、事業は活潑になるで昭和10年に大防空演習をやつた。先づ都市武装促進委員会を作り、池田さんが長になつて擬装に関した事をやろうというわけだ。その頃は6人しか乗れない飛行機に誰れを乗せるかが問題になつたが、結局三ペンに分けて調査した。昭和7年7月10日であつた。所が市内では500m程度の高度であつたから、サアツーとすぎて了うから擬装もなにもあつたものではない。上つてもせいぜい2,000m位だから擬装の研究には役立たなかつたと思う。1,000mの上空で京都を廻つたが

わかるのは御所位であとは道路がよく目立つ。そんな時に意見をはいた事もあるが、家の形が変つたものがあれば目立つ。コントラストの強いものは目立つと結論したがその結果は立派な単行本となつて出た。

古塚　その時は大学の先生にもだいぶ乗つてもらつた。

中野　それから後は中西さん、あなたの仕事になるが、戦争中の苦しい時代を育てて来られたが、あなたが入られたのはいつ頃ですか？

中西　私は学生の頃学会に入つていたが、大阪に居れば大阪の会に入らねばならんと思つて大正8年学生で入つた。で大所正10年不動ビル時代陳列場開設とあるがどういうわけですか。

大和　不動ビル時代見本を持つて来る人が多くなり棚を作つたのが陳列場開設の始りとなつたのです、陳列場などまとまつたものでなくほんの見本棚と云う事です。

中西　私も博覧会委員の末席をけがしたが、昭和9年朝日ビルに陳列場を創設したいと思つて大規模に4階で始めは50坪、後15.6坪拡張した。場長に松井さん、これは東京に対抗して出来たのだが、それについて思い出す事は、池田実さんを擁して新しい別の陳列場を作られたので私は之に対して逆ねじを喰わし二つの会場が出来るのはいけない、と云つたが会長は動物園にだつて虎や象も居る、大きなものと、兎や狐位の小さなものもある。一種類だけなら誰も見に行きはしない。はつておけ、と云われて引下つた事を覚えている。その頃大分お手伝いをした。松井さんの云われた様に会費1円に賛成し、我々だけで金曜会を作り会長に会費値下を要求した事がある。常務会では色々心配して居たが会長はほつとけ、と云われた。会長は何でも独断でやつて居られたが細かい所にも気を配つて居られた様に思う。

中野　それはいつ頃の話です。

中西　昭和に入つてからの話です。

松井　現在の会員の数は？

大和　4,000名位。

中野　それでは皆さんに協会のこれからのあり方などについて御意見を伺いたいのですが。

中西　私は例の学会との学併問題。これは伊藤滋さんが始めて口火を切られた。学会、協会は同じ様な仕事をしていながら名前と場所が違う位いで会員がダブつている。この際合併しようという訳でまとめ役として口火を切つた。伊藤さん、それに池田、中沢、私、それから会長の竹腰さん、東京は田辺泰、浜田、武富などが集つた。幹旋委員が交代で議長をつとめる事になつた。所が議長となると各々自分の方の利益に立つので私は対立したのでは仕事が出来ない。学会、協会を打つて一丸として新しい建築の新体制運動をするのだ、と断つて議長をつとめた事がある。一番もめたのは名前で、どつちも学会、協会の名前はおいて欲しい、という事がまとまらず、最後に小林会長は自分の任期中にまとめる積りで努力されたわけだ。で結局日本建築学会という名前に落付いたが、戦争がひどく、敵艦隊台湾沖に現る、というのでそれ所ではなくなつた。

現在の私は、両者を一つに合わして新しい団体を拵える事がよいと考えているが、竹腰会長は経済団体も加えてやつた方がよい、と云われるので合併問題から私は手を引いた。

中野　只今のお話は将来の問題にふれたが大先輩の方に協会のこれからの在り方、行き方についてうかがいたい。

松井　今のお話の経済団体を加えるには？

中野　協会は今迄個人会員本位で来たが、更に建築に関係あるいろいろの人を含んだ団体を加えて大きな総合的な団体にするということです。

東畑　事の起りは経済的な原因で団体会員を多く集める方が経済的にうまくゆくのではないか。バランスシートを見ても殆んど雑誌代になつていたが、社会奉仕をするためにももつとお金が要るというのでその方向に進んだわけですね。

中野　併し反面には団体会員の中にも『個人会員のしつかりした方が中に入つて協会を運営して行く。そんな人も居つて欲しい』と反つて団体会員の方から意見が出ております。

東畑　建築士会は協会と性格が似て、学会、協会、士会と3本になつているが、何とかしなければならんと思う。

今林　合併問題とか学会支部を作る問題とか云われるがほんとうの理想は一つのものとして完璧なものにする事だと思う。地方によつて条件がちがうが、それはそれぞれのグループの中でやる様になつたらよいと思う先立つものは金であり、今だとメンバーは必ずダブル合併問題の切実な問題はそれであつた。

古塚　合併したら雑誌に今の協会の様なものを数頁入れたらよい。

置塩　兵庫県でも建材会、学会、協会があり建築会は親睦の意味で何でも建築会について来るのでどうしてもつぶしては困るというので存続していると思つているが、会長が私なので自分の意志が余り出せない。

今林　大同団結して一つにしてやつて行くべきだ。

松本　一つになつて学会を含めばよい。

中野　協会を大きなものにしてですか。

今林　本部が一つで金もそこに集るからあとは親睦会など地方々々でやればよい。会に全部関係すれば会費もばかにならん。よその学会はどうか。

松井(清)　例えば土木学会などは一つだが、その中に港

湾とか橋梁とかある。本質上一本にする事は不可能であると思うが。

今林 建築学会でも或程度それに悩んでいるのではないか、共通の事で悩んでいるのではないか？

松井(清) 学会はあつてもよい。協会の支部を東京に作ればよい。

今林 矢張大同団結がよいと思う。

古塚 僕も同様だ。

置塩 出来るかどうかが問題だ。

中西 東京の考え方をうまくまとめてもらわんと難かしい。私が東京え行つたときに『建築協会はだんだん発展をたどり主な所には全部支部を置いているが、東京だけにないので東京え支部をおくから宜しく』と云つたら怒られた事がある。支部を東京に置く事は東京で受けつけない。アイツ本心で云つているのかと怒られた。東京の方がうまく行かんとね。

今林 東京以外の地方の考え方は同じだと思う。全国の金を集めてそれを東京の一部の人が運営している。関西の会員が全部ボイコツトしたらよいと書いて怒られた事がある。

池田谷 我々建築家が社会から一本立ちになると中央に対してもよい事と思う。私は色々の所え行つたが協会の事業がよいと云えば財閥は協力すると思う。建築は新聞と同じで数が多い。大集団を作つて中央え出て貰うとよい。

古塚 参議院議員の選挙でも建築家が団結すれば20人や30人は代表者として出せると思う。それなのに『いやあそこの社長が立候補したから』とか何とかで受けつけない。案外封建的な所がある。

井上 いや、建築家程仁俠の強いものはない。

小笠原 此間生コンクリートの見学があつたが、たしか昭和8年に委員会を作つて100万円の予算で生コンクリートの配給会社をつくることを協会の委員会で研究したことがあつた。今日漸く実現した事は感慨深い。

中野 では此辺で終りたいと存じます。（おわり）

第2回座談会

回顧と将来を語る

出席者

青木友一、浅海治平、大下順三郎、竹腰健造、東畑謙三、中野順次郎（司会）、藤木正一、三浦茂、藪中一良、大和常務理事、沖田書記長

東畑 35年の事業を終了し、出版事業だけが残されたのですが、これを機会に今後協会をどう運営して行くか？という事をお話願いたい。先般大先輩の方々に創立当時からのお話をいろいろして頂いたが本日は協会の中興の祖とでもいうか、今後ともお願いする有力なメンバーの方々にそれ以後の事、協会の歴史なり将来なりを活潑にお話願いたい。中野さんに司会をお願いします。

中野 御手許のプリントを差上げたが前回は創立当時からの古い方にお話を願つた。このプリントで言えば昭和15.6年迄の大きな問題をとり上げた。今日は戦争当時即ち昭和18年頃から活躍された方がお集りになつたが、皆さん元気な方ばかりなので将来の抱負なり今後のあり方なども含めて大いに語り大いに聞いてお互にぶちまける様な座談会としたい。昭和16.7年戦時体制といわれ防空体制なども強化されたが三浦さん如何ですか。

三浦 戦争当時の事は忘れたが14.5年頃クラブが廃止になつた。その後関係したのは主計の方で陳列所の方ばかりやつたがあれが復活したらよいと思う。

中野 クラブと陳列所を一緒にしたのは？

三浦 いやクラブは昭和7年朝日ビルに移転して間もなく出来た。

藤木 クラブはもつと早かつた。

大和 空襲がひどくなつたので燃えるものは書類でも



第 2 回 座 談 会

片付けろと言われた。18.9年後は談話室になつた。

中野　陳列場は有効だつたね。

三浦　今頃、時々材料の事をききに行くが分らん。新しい材料の紹介などよいと思うが。

大和　青木さんも見えて居るからそれは又あとに譲り、合併問題であなたの覚えているのを一つ。

三浦　25周年の頃の事はよく覚えている。私は常務をやつていた。昭和17年で戦争が勝つと思つて居た時分だ。その時分に合併問題もあつて東京といろいろやつた頃だ。あの時は30人だつたかな？

竹腰　3.40名で東北での会だつたね。あの時分は学会との交渉が割合密接だつた。

中野　三浦さんが若くて活躍なさつたのは昭和17.8年頃でしたね。今もお若いが。

三浦　あの時分はほんとうに協会らしかつた。今は僕は余り出て居ないが、余りひろがり過ぎている。

竹腰　あの時分は陳列場であり、集合場所であつたから集られた。今はその時分と違つた味もあるが。

大和　集りにくい事もあるがどうぞひとつ出て来て下さい。出て来れば味もわかると思う。時間的に出にくくなつているらしいが。気軽に来たいが上役に言いにくくて昔みたいに出られないといつている人が相当多い様だ。協会の会だけは出て頂く様に社長さんなり上司の方にお願いしたい。あの時分は三浦さんは時間割で定つた様に熱心だつた。

竹腰　考えて見ると今の人は一寸悧口になつたね。あの時分は温泉もよく廻つた。

三浦　中沢さんと、今の中西さんと同年で鼻息の強い連中ばかりだつた。同じ年生れは共通点がある。藪中さんはおとなしかつたね。

藪中　さあ考えを外に出すか出さんかでね。

中野　合併問題は？

大和　今日残つて居られるのは藪中、竹腰、滝沢さん。二人なくなられてね。5人が協会の代表だつたが。

中野　あと（プリント）の方にもあるが三浦さんと藪中さんは同じ仕事をたくさんやつて居られる様だが。

三浦　違うな。将棋ばかり好きでね。

大和　碁、将棋それにダンス、俳句、南画部もバーも一部設けた。

中野　クラブの閉鎖理由は？

三浦　部屋はあつた。金がなかつた。経済的な理由だ。協会でも止めてくれといつていた。

中野　幹事制でやつていたね。

大和　第1回幹事長の設楽さんが金を集められた。

中野　会計がうまく行かなかつたのか、戦争になつてから？

三浦　いやずつと前だ。今でも同じだろう。金が集らんよ。基本金がない。

竹腰　基本金をもつている所はないよ。

中野　合併問題で会長さん、藪中さんはお詳しいが、そもそもの始まりからうかがいたい。あれは学会から持ちかけられたのか？

大和　そうでない。建築の新体制問題から始まつた。

竹腰　その頃は新体制ばやりで学会が京都であつたとき東京の内田会長が片岡さんと大議論をやつた。協会も学会も同じ様な仕事をしている。協会は社会にサービスするのをモットーにしている。学会は学問ばかりやつているとウケが悪いので協会の仕事の真似をし出した。又協会も学問的な事をやり出し、両者がだんだん似て来たので新体制の問題が起きて来た。学術の問題を先にするか社会に奉仕する事を先にするかで内田さんと片岡さんの間に激論があり物別れになつた。それが始まりでその後体制の問題があり話し合う事になつた。私は協会創立のメンバーには入つていなかつた。外国から帰えつて来たばかりで若いし、入つていなかつた。片岡さんから呼ばれて「建築家は個人主義的傾向がありこれでは発展しない。建築自体としても国家に対して尽さねばならん」とやられた。それから入つたが不熱心でね。帰つて来たのが大正6.7年であつたが住友に入つた。

大和　朝日ビルに移つた頃から出て頂く事が多くなつた

竹腰　片岡さんは生涯を通じてサービスばかりだつたが私はそうはいかなかつた。片岡さんに説教を喰つてやつと引張り出されたが。

藪中　あなたはその時分副会長で私など大分怒られた。

竹腰　それから防空演習をやつて次に合併問題はどつちでもよかつたが合併しない方がよいと思つた。片岡さんの意向はそうでない。闘士ではなかつたが片岡さんの云う通りに動いて居た。

中野　小林政一さんが出て来て会長と会食したね。

大和　斡旋委員の案に任せる事が小林さんが出て来られ其通りになつた。

竹腰　片岡さんが今迄の案は打ち切ると。

大和　このままで行こうという事になつた。

竹腰　片岡さんは出て来ないので僕一人でやつている様で憎まれ者だつた。片岡さんに躍らされていた。

中野　協会の委員では？

竹腰　一番うるさいのが吉田君、よくねばつたね。選手だつた。

中野　合併で一番問題になつたのは名前か？

藪中　いや、体制、形式だよ。日本の為によい事だ。和気藹々のうちに話をつけようと別れたがあとがうるさい。向うの会員は1万2千、こつちは3千だ。吸収するという考えだ。こちらは商売しているのが多く一個の島でも大名だという気持だつたから。

中野　合併ならよい。吸収なら嫌だ、という事だつたの

か？

竹腰　日本建築学会と日本をつけ協会を学会にしたら一字しか違わん。日本はお前の方のものだ。といつて。

藪中　協会を学会にせよ。字数から云つても俺の方は日本とつけるから二字だがお前の方は協を学にかえるだけで一字だといつてね。

中野　名前でいい名前が見つかれば合併したかも知れないね。

大和　片岡、小林、中西三者の会合で最後的には学を入れることで決定したが戦争でそれ所ではなくなつた。

藪中　三月頃朝日ビルかアラスカで集つたとき伊藤君が、大阪ばかりでやつてよい、と云つていた。

竹腰　経済連合会で云つても関西経済連合会は10人受付見たいな形でやつていたが、日経連から入れと云われたが皆反対した。大阪、東京は経済的にも考え方がちがう。ローカルにも違う。大阪は大阪でなければならんと。これは学会、協会の話によく似ているが、東京の学会に似たものを大阪でも一つあつた方がよいと片岡さんが会長で21年頃そのお話があつた。それ以来合併問題は消えた形であつた。

中野　私共は戦争後にその経過報告をきいた。

竹腰　日経連も関経連も両方別々にやつている。関経連の方がむしろ活躍している。東京がこつちに支部を作つたが成り立たない。戦後は逆にアメリカの方針が絶ち切る事になつているので日経連、関経連が分れた事もあろうが関経連は独自の方針をもつている。それから先は皆が知つている様に岸田君が会長だつたが協会は協会、学会は学会の行き方があり矛盾しないと。

藪中　学会は学会で、協会は協会で行こう。大阪に学会の支部を作るから援助せよ、と話があつたね。

中野　片岡さんが亡くなつて竹腰さんが始めて会長になられた時、協会の性格等についていろいろ問題がある事を理事会で云はれ、総会では発表されましたか。

竹腰　私がそれを云い出したのは、学会と同じ性格のものをこちらでも作つている。国家、社会にサービスする事を主としてやるなら支部でもよいではないか。

中野　竹腰さんが会長になつた時、云われたのをきいた

竹腰　藪中、中西君も云つた。

藪中　何か性格を変えなければいけないと。

大和　戦後非常に会が困難になつた時、竹腰さんが会長になられたときに、こんな会では駄目だ、機構改革をせんといかんという事で、日建の寮でしばしば会合された。

竹腰　協会をそんな性格にかえる事は問題で片岡さん数十年の歴史をかえる事になるので前の副会長をやつた人の意見を全部きいて廻つた。役員はしなかつたが貢献された人々の意見もきいた。藪中君とは特に二、三人で集つた事もあつた。

藪中　25周年で支部を作る事で、技術者だけ集つたのではいけない。関係のある人を全部集めなければならんと。

竹腰　革命的な事をやらんとなり立たん。リエスタブリッシュする事でやつた。非難も大分あつた。協会の事をよく理解して居る人は賛成してくれたが客観的な目で見ている人は反対された。

藪中　藤木さんなど皆に集つて貰つた時大体の話はついて居たが、ふんぎりがついていない。あの時は石田さんに、話が決つていないぢやないか、と一本いかれた事を覚えている。

中野　その時の会合は相当集つたか。

藤木　4、50人集つた。

藪中　大体よかりそうで集つたね。

藤木　戦争で思想の変つた事が原因だ。その後すらすら行つた。予算を35万でいつたからね。

大和　70万とかいておこられた。

藤木　一口百円は少いという話も出た。

大和　竹腰先生の一大事業として会に残る大きな改革でした。

竹腰　あのまま行けばつぶれるところはなかつたか。

藪中　学会の行き方、協会の行き方があるから性格をはつきりする事はよい事だ。

中野　戦後の特筆すべき事項ですね。

竹腰　こんな形を作つておくと将来の運営方法によつて大きなものになる。

藪中　四会連合、学会、建築士会それぞれの考え方もあつたが協会だけは三つを一緒にした様な考え方だつた

大和　それから新定款作成で藪中さんの仕事も大きく残るものだ。朝日ビルのせまい所で実に熱心だつた。

中野　現在の規定は藪中さんが作つたのかと思つたが、藤木さんもよく関係して居られたのですね。

浅海　随分何回もやりましたね。

藤木　あれで私は大分賢くなつた。えらそうに云つているとすぐ「昔はこうだ」と藪中さんに云われたものだ

竹腰　藪中君はこればかりやつているが、これでメシを喰えるのかと思つて居たよ。

中野　その時分の藪中さんはこわかつた。

藪中　定款第1号にかいてある様な会員が1号会員で第2号に相当する様なのが第2号会員で団体会員という話もあつた。

中野　機構改革は定款改正に依つて生れたのか。

竹腰　定款改正は商法に合して作つた。

中野　それから雑誌が復活したね。

大和　雑誌を復活するのに大林さんが委員長になられ第1回だけは有料で会員に分けた。

中野　青木さん。建材会と協会の関係を一つ。

青木　建築協会に我々は賛助会員として入会した。建材

屋で肩みがせまく会費だけ納めて発言権はなかつた。9年に陳列場が出来た時に我々は陳列させて貰つた。当時私や古い連中は之ではいかん、我々だけで建材協会を作ろうと曽根崎ビルに造りその後陳列場を作り、大井博士を会長とし、440～450人程京阪神で集めたが協会と対抗する様で面白くないと協会の大和さんあたりが斡旋に出られた。池田実さんが10年に会長になり建築は三身一体とならなければならん事を言われたその後事変が始まり、東京、名古屋、大阪の建材協会が軍需省の命令で一体となれと言はれ大阪から理事を出して東京へ行つたが戦争が激しくなり、梅田の陳列場も焼失し、戦後我々も正会員にして頂いたので一人前のレベルに引き上げて貰つたわけだ。大和さんあたりがちりぢりになるのは寂しいと名簿を頼りに集めて協会の中で建材部を作り集つているが、それだけでは仕事にもならず、その後竹腰会長から会を作つて大々的にやつてはどうかと云われるので関西建材会を作つた。今は200人程会員が増えた。お願いしたい事は建材会は協会員で団体会員で入つている。建材会としても或程度貢献しているから建材会員が増えればそのまま協会も団体会員が増える事になるので何かいい対策を与えて欲しい。例えば附帯業者に対しても協会から建材会に入れ、という事を言つて頂けば会員も増える事になる。最近陳列場を日建から無料で拝借、小さくても常設陳列場をおいて一かどの陳列場も復活させ研究中である。

中野　建材会員は自動的に協会員か。

青木　そうだ。その中から会費を協会に払つている。

大和　雑誌を送つているから入つて貰はんと連絡上都合が悪いので自動的に入る様にしている。

藪中　建材会の会員になれというのはよいが、我々としては玉石混淆、変な会員でも居れば工合が悪いので、ギヤランティがなければ我々として云いにくい。

青木　我々は附帯業者の方を警戒する方で会員では妙な者は居ない。

藪中　ギヤランティする事を宣伝した方がよいよ。

竹腰　量より質だ。根本理念というか、建材会を作れといつたが建築協会は或意味では建築連合会を頭にもつて将来行く方がよくはないか。業者の方にはその会があるし、設計する方にもその会がある。協会に入つている上に外の会を作る事は（言はん方がよいが）将来の理想として会場をもつて、技術者の会、官庁技術者の会、学校の会、業者の会などの連合会に持つて行く方がよくはないか。

藪中　今はその傾向にあるのではないか。

浅海　何か設備協会に反旗をひるがえしている様な気持がする。建築協会の設備部門を強化するのが当然であるのに最近独自の歩みをしている。これでは費用がかかる。専門の人も置かねばならん。何か協会に対する反旗でないか。協会として一寸物足らん心持がする。今日偶然に米国の文化協会の人の挨拶で建築協会は国家の有力な諮問機関であると賛辞があつたがどうだろうか。この間三越で会があつた時、丁度私の隣りに中小企業の人が居つたが講演をきいてから仲間と「鉄筋コンクリートは我々には手がつけられんと思つて居たが、これなら出来るぢやないか」といつていた。

竹腰　全体を考えず局部的な事を考えて会を作る事はあり得る。同時に皆が連絡をとつて行く協会がある事を忘れずに居ればよい。見方を広くして反旗をひるがえすなどと考えず皆で協力して行くのだと考えれば会はいくつあつてもよいと思う。設備協会も協会のある事を忘れんで連絡して行く大局観をもつてやればよいと思う。諮問機関とか言われたが協会は実際やつている。協会も学会と一緒にやつて来たが社会的に重要な政府の諮問機関として働いている事は事実だ。

藤木　渡辺先生が委員長で都市不燃化の問題などやつたのは大きな貢献だ。

東畑　先般一松建設大臣が大阪に来られた時、直接話したが随分応えていた様だ。

藪中　建築界全体がそう考えている。

浅海　前の話の続きだが大衆は「仕様ない」と思いやすい。局限された補助でなく、会が有力に働らきかけてもう少し金をとつて大衆がもつと建築出来る様に出来んだろうか。加護谷さんは昨年大分県の営繕部長をやられたが図書館の仕事で私共仕事をさせて貰つた。こちらから出した図案をみて、こんな図案では駄目だ、直せといわれて徹夜して直したが、その後すぐきまつた。それは加護谷さんの力もあろうが昔は建築で押しの強い人が多かつた。現在は建築家が考慮しているのではないか。例えばこんな会合でも大阪クラブの部屋を借りんといけないかと思うと私は実に寂しい。

竹腰　会館は万全の準備を整えてかからんと難かしい。

藤木　学会の建築会館は？

藪中　もらつたのだ。

竹腰　建築会館の問題をこの際考えて見ると建設会館があるのにもう一つ作るのは工合が悪い。現在建設会館を主体にしてやつている我々も苦干物足りなさを感じる。作るとすれば之を主体としてやつて行かねばならぬ。今のものは小さいし、場所も悪い。建設業の方にもお願いして万全の準備を整えてスムースに行く様にしないといけない。第一に敷地の問題がある。ロケーションが悪ければいけない。どれだけの規模でやるかセメント、鉄鋼会社がどれだけ賛成するか。毎日新聞の西に入つた所に土地を譲つてもよいと言う所がある。あそこはロケーションはによいと思う。この間窯業の松島君に建設会館を建てるからセメントを頼むと

言つたら、一人ではやれんが、大いにやろうと云つていた。セメントも窯業だけでやるか全部でやるか。現物を出してそのかわりに株を持つて貰つたら6～7千万円位になつても割合楽でないか。藤木さん、業界の意向は如何でしようか。

藤木　会館はほんとうに必要だと思う。建築会館を拵えてもうかるかな。チヤンスを摑む事が大切だ。

浅海　建築界では「本年は不況だ」ときくが今年は好況と聞いた事はない。私共は家を借りればいつまでも居られる。金も借りて金利を出せばよいぢやないか。そう云う事を会誌の編集後記にかいた。

藤木　浅海さんの達者なうちにやらねばねー。

竹腰　セメントは安くても只で株になる訳でない。

東畑　私が寄附金を集めたときは皆乗気であつたが、藤木さん、あなたの所だけが遠慮勝ちだ。外の方は大体ゆけるよ。

竹腰　浅海さん、あなたはそう云はれるが主体は業者の方がやらねば出来ない。

竹腰　業協会の方が建築界に対して貢献しようとする考えがうすい。

藤木　そんな事はない。貢献する気持がうすいのでなく今となつて見るとこんな不景気な時分だ。

浅海　対社会的に古い客を持つているのは建築事務所だ。

藤木　前は設計事務所は力を持つて居た。

浅海　会館が立つとする。今からやつてよいに定つているから之を押し進めて行けば建築界が所得を得る事になる。ひいては之に関係した綜合的なものが皆利得を得る事になる。

藤木　差し当り必要のないものは、という考え方がある。時期を失したという事だ。

竹腰　今の建築会館では物足りない。地所だけでも確保しておく必要がある。

藤木　非常にこの会は会の中でも堅実だ。連合会の経費でも大阪はきちつとして居る。京都、兵庫は悪い。連合会で会費を1千万円増やそうといえば全国皆賛成するが皆未納だ。

竹腰　皆で協力して連合会を守り立てて行く考えでなくてはいけない。会館は是非実現して行きたい。

青木　私は鉄筋でなくても木造でもよいから早く建てて行きたい。

中野　大分、その気運が起つているのぢやないか。

藤木　事態としては左程必要を感じて居ないのぢやないか。

藤木　東京では立派な会館を持つて居る。各方面の気運が向けば多分大丈夫でしようとは云える。そんな事になつて来れば私としては大いに努力したい。

竹腰　東京の話が出たが、東京と性質の違つたものを作りたい。土地を買うのが第一だ。今の大阪建設会館を発展解決して進行する事を熱望している。

藤木　うまい事をして税金にとられない様にせねばいかん。燃え上つたものは消してはいけない。

藤木　私の言つたのは個人としての考えで、5人か6人呼んで懇談しないとね。

竹腰　敷地が一番大きな問題だ。

大下　前に一度こんな問題が出たね。

藤木　不動ビル、寺田のときは？

大和　絶対権利はゆづれん。配当を受ければ借すとの事だつた。

竹腰　鴻池もあつた。

竹腰　東畑さん、あなたにバトンをゆづつて。

東畑　力は藤木さんグループにある。

藤木　計画を立てて貰つて会長で招集して懇談された方がよい。

竹腰　この間土地評価で坪6万円というのがあつた。もう一つ外の所で倉庫だが8万円、平均6万円といつていた。住友にもう一度評価させたら坪8万5千円といつていた。一つ立案して欲しい。

竹腰　間口は5間半あればよいと思う。米国のアーキテクトビルを今度行つて見たがカタログだけでも全国至る所のものがある。斡旋をやつている。そこに行けば建築材料でもどこにどんなものがあるかという事が一目でわかる。

大和　一応もくろみ書を作つてみる必要がありますね。

東畑　そうすれば藤木さんグループも満足されると思う。

竹腰　株をやすくその上に若干の金を用意しなければならない。

竹腰　会社を今のを主体にして増資したらよい。反旗をひるがえしたり、非協調的な態度を変えたら協会を連合会見たいなものに直してもよい。理想としては各協会の連合したものとしたい。

藤木　景気がよい悪いといつて居たのでは出来んからね。

竹腰　ともかく建築しようとする人はその建物に行けば何でもわかるという様にしたい。贅沢を言つて遊ぶ部屋を作つて採算のとれん様にする事はいかん。上の方は権利金を取つて始めから約束し、地下室はバーみたいな事をやるとの話だ。

中野　ではこの辺で。　（おわり）

第3回座談会

協会の過去と将来

出席者

（司会）中野

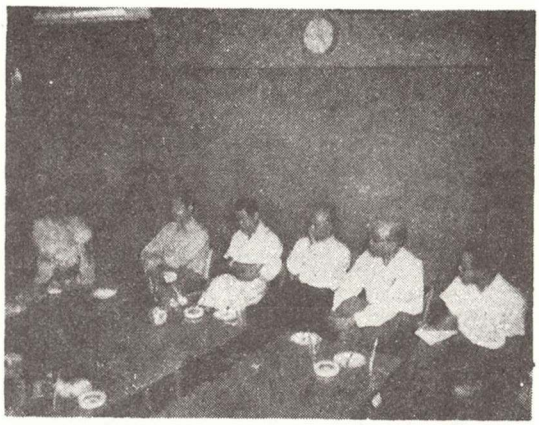
石川，小川，尾崎，櫂田，滝沢，田中，中村，野中，林野，堀口，政岡，鷲尾，飯田

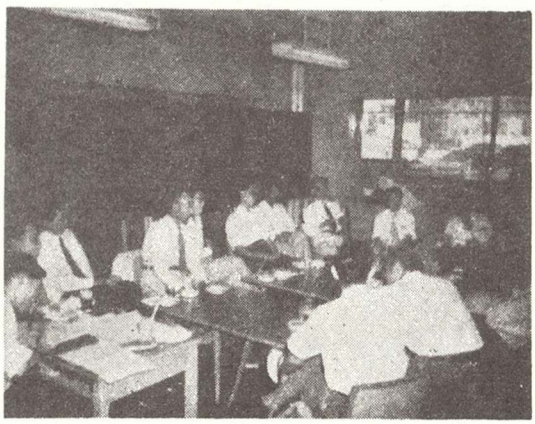
尾崎　協会の35週年の記念事業も大方終了し、あと残つて居るのは記念号の出版だけで、之も着々準備されている。座談会は既に2回済み、今日のはその最後のものであるが、過去を顧りみ、又協会の将来をどうするか、等についてお話を承りたい。司会は中野さんにお願いする。

中野　今日は只今のお話の如く協会の過去をふり返り、将来に重点をおいてお話願いたい。これから協会を発展させて行く上での問題、例えば之から如何なる事業をやればよいか「建築と社会」の向くべき方向、委員会の問題、出版の問題、それから若い会員をどう育てるか、会の運営、構成、ねらい、など、問題はつきないが之を一つ一つの題目にしないで、これを含んだ話題としようと思う。先づ滝沢さんから、御願いします。

滝沢　僕は今日断わろうかと思つて居たら沖田さんにつかまつて出て来たが自信はない。将来どうすればよいかと前に会長からきかれた事がある。片岡先生が作られた会と今とでは情勢が違う。建築士会も出来たし、協会でやる仕事は外でもやつている。協会は色々の建築関係の仕事をやつているが、建築綜合のサービス機関の方向に転向せねばならぬ。学会とも士会とも違う。「建築と社会」には金はない。ジリ貧ですよと云つたが、一部の人は雑誌さえよくすればよいと云つて居たが、それを良くするには機関誌ではだめだ。人が飛びつく様にならねばだめだ、と私は云つたんだが具体的に実施出来る事を云つて貰はねばと云われたが僕は客観的だ。将来を一番きめるのは若い連中がどんどん入つて呉れねば。入れろというが若い連中が喜んで入つて来るのでなければ自然消滅だ。少し根本的に方向を転換せねばならない。もう一つは最近午餐会があつた。結構な事だが特殊の人だけで寄るのはどうかね。協会のクラブ組織の様なものにせねばこのままではいかん。

中野　今のお話で、協会の性格を昔と変えんといかんというお話でしたが鷲尾先生、一つ之を解明するようにどうぞ。





第3回座談会

鷲尾　私は協会に関係して仕事をした者としては一番若いし、意見は無いし、教育委員会に関してもどうすればよいか分らん。今日は色々の団体が二重三重に技術者を色々の方からしばつている様な恰好で、その中からどういう面を取り上げてよいか分らん。実は今日のお話を伺つてから方向を決めたかつた（笑声）。今の若い人達、会員になつた人、未だ入つて居ない人が、協会をどう思つているか！それはまだ後でもよいから先づ先輩の方がどんな注文を持つて居られるか先づききたい（笑声）

中野　若い方にあなたは居られるわけですね（笑声）

滝沢　こんな問題がある。戦争中協会と学会が合同する話があつた。私は当時学会の役員をした事があるが、今なじみのある人は少い。私は合同しようとする気に

なつたが、その時感心したのは片岡先生だ。学会と協会の合同について主として問題になつたのは名前だ。我々委員会の方では意見が合わない。それでもつと政治的に折衝しなければいけないというので佐野利器先生と片岡先生に話し合つて貰う事になつた。それがはつきりせん中に戦争が終つたが、私は支部で或る時先生に、あの時はどういう結論を出そうと思つて居られたかと、うかがつたが「僕は協会を解消して学会にする積りだつたよ。俺は作つたが之からは若い連中だ。また作ればよいぢやないか」といわれたが作つた気迫が僕等とは桁違いだ。感心したね。

中野　学会との合併問題でいろいろ話が出たが今のお話ははじめてだ。

滝沢　特種だね。それぢや（笑声）

中野　そんなお話もあつたとして、次に過去に於て活躍された方で野中さん、星さん、昔はこうだつたという様な事は。

野中　そう云はれると日本建築協会がクラブ組織で娯楽設備をそろえてやられた事は素晴しい。私は戦後余り出て居ないが、当時は一つの委員会にしても型の変つた事業家がそれぞれたづさわり、どつしりと力強く積極的に責任をもつてやつた。委員にしても凡ゆる忙しい仕事の中から真剣に出かけては委員会を盛大にして行く、力のこもつたものだつた。委員会でも会員の選択をほんとうにやつてくれる人を自ら頼んで出て貰う。選挙や推薦によるのでなく自ら頼んで常に熱心に相寄つてやつた。今日は失礼だが、云い出したら責任を取らんといかん。ついて行けばよいという恰好ではないか。だから協会は発展しない。昔は俺がやろうと大きな力をもつてやつたが、その気風がこの頃の協会にどれだけあろうか。将来の問題は、先づ昔の様なクラブの設立、先づ場所をえらぶ事だがあの行き方が望ましい。

星　私は必ずしもそうでない。昔は片岡さんを中心にした特定の人の集りであつたのが戦後は大きくなつたのでこれが災いしたのかもしれぬ。もう一つは夫々仕事をもつて居る。業会、士会の様なのは何か自分に関係のある会だが協会は何もない。自分の事業に何も関係がない。これでは熱心になれぬ。勢い事務局が中心にならねばならぬ。常務理事が固りの中心になるが20年も30年も同じ人が居るとなると協会の発展にはならぬ。最近若い方が書記長になられたのはよい事と思う。滝沢先生の云われた様にこのままではジリ貧だ。学会も協会的な方向に変つて居る。特に士会は専門的な発展をして居る。学会は組織も大きい。人材も多い。

中野　しかし協会の会員の構成は学会とは違うが。堀口さんは何か。

堀口　僕も悲観的だね。前は協会は役員の選挙に狂奔したものだ。私等も東京の票を集めたものだが。現在では役員、委員会でも固定して居る。あれを民主的にする事だ。戦後は前に比べて会員の枠を一層拡張したのはよいが何か協会の色彩が変つた印象を受ける。協会を存続するならば何か方針を変えて若い人が入る様にすべきだ。一般の会員は雑誌しか送られぬのだから之に力を入れて欲しい。現在は意匠が多く構造がない。それで構造に興味を持つ人は学会誌をとる。凡ゆる方面の記事をのせて貰う事と、若い人を獲得する事、委員会で講習会式に若い人に協会を認識させる様にすべきだ。士会も出来たし、学会も社会的になつて来てどつちかと云うと、私は士会と協会が一緒になるか、学会の支部の様にクラブ式に存続する事を希望して居る。

中野　それでは林野さん、若い方から一つ。

林野　今日出席し得た事を内心喜んで居る。一番若い人の座談会に出て呉れといわれたので出て来たのだが僕は多分20前後の人で恐らく僕が最年長者だろうと思つて入つて来たがびつくりした。私より10、20も上の方が協会の若い人なら協会もおしまいだ（笑声）

協会の各委員会には若い人が出て居ない。30前後の人が加つてなければ将来伸びないのではないか。

星　今迄のは70のオツサンばかりだ（笑声）

林野　若い人は（僕は比較的自由だが）一般に時間的に縛られる。月2回の休みでもなかなかとれない。委員会に加つても出られない。夜集ればよさそうだがそれではますます出にくい。これは一例ですが若い人の出にくいのは社会的環境だ。

鷲尾　野中さんの云われた委員会活動について或は私の見聞違いかも知れんが、戦後の生活は自分の本分だけでも時間がない。それで幹事会に余計仕事を持つて行つても工合が悪い。出てくれといつても若い人が勝手に出て来れば、アイツはとにらまれる心配がある。

野中　悲観論が多いが協会を持続して行く為には年寄りでもよい。年寄りでまとめて行けばよいではないか。力の強い人をもつて、若い人を引張つて行く。戦後は若い人は理窟が多くて実際に仕事しない。若い人をひつぱつて行く。その若い人が年を取れば中心になるのだ。

鷲尾　その他に戦後世の中が変り、学会は全国的組織にのびて統制しようとする傾向が強い。職場の方では士会もある。協会が全国的なものをねらうか。東京がこちらをどう考えているか。立場を考えて地方的なクラブ活動をするなら別だが、まともに学会に対抗するのも工合が悪い。職場としての士会に対抗するのでもない。協会のあり方自体に多くの考えるべき点があると思う。

滝沢　今の人は実際出来ない。生活に余裕がなくなつて来た。貧すれば鈍すだ。

小川　協会は今迄の定款如何に拘らず進めたい。雑誌は毎号出して居るが予算がない。そこでどこへ気合を入れればよいか。あれも之もやろうとすれば満足な仕事は出来ぬ。やりにくい時人材と努力が要るが色々な委員会があつて何でもやろうとする。この際協会の実力を再認識すべきだ。もう一つは、20才末期から35～6の人が居ない。一番良い所の人が居ない。それを無視して仕事する所に無理がある。選挙にしてもあれでは30前後の人にアッピールしなくなるのも無理はない。若い人は団体生活になれない。昔はいろいろのグループがあつて自費を出してでもやつたものだ。野中さんは若い頃はメシを忘れても話し合つたものだと云われたが。

滝沢　もとは会費の心配はしなかつたが近頃は催促して来る。

堀口　事務所があそこに移つてから気分が変つたといわれて居る。事務局に変つたのは良いが会の拡張を考えると事務局が官僚式でないか。一寸どうもという気がする。

滝沢　別れたのは財政的な理由だろう？

野中　悲観論ばかり多いが、私も理事の末席を汚した事があり、一番若かつたものだ。過去を振り返つて昔を参考にして考えて頂きたい。

田中　野中さん、年寄りが若い人を引張ると云われたがあなたが理事になられたのはおいくつ位の時？

野中　29才。

田中　ちつとも年寄りでない（笑声）

中野　引つぱり出された時は自分の仕事をほつといて、もりもりやつた。私の様な連中が5～6人、週に3回は出てしんどがつたが仕事には熱が入つた。終戦迄やつたが時勢のかわりで止むを得ないが、そんな事ばかり言つて居られない。

堀口　新卒業生の入会率はどの位か。

中野　数は判らんが相当ある。

堀口　退会より入会が多いか。

沖田　多い。最近は多い。

鷲尾　工高卒は協会にしか行く所がない。工高の人が中心になるだろうといわれて居る。

田中　僕は年をとつて居るが協会から見れば若い（笑声）義務と思つて入つたが僕の所の若い連中は入つて居ない。無理に入れとも云えない。協会は大きくなつた。之程大きくなると学会と一緒にやる事も考えられるが関西にも一つ欲しい。学会近畿支部があつても今迄の協会の様な事は近畿支部では出来ない。関西でイニシヤチブを取る様な会がどうしても存続して欲しい。理事が多い事とか、午餐会千円の会費では若い者には進められぬ。若い人に行けという様になつて欲しい。組織が大きくなつたので若い人だけで集る様な事業もあつてよい。老人は老人だけで集つてもよいから（笑声）

滝沢　協会に会があれば若い人に行けという事があつたが、会は個人としても余裕がなくなつて来ている。

田中　若い人の集りがないので名前を知らない。それだから評議員でも同じ人ばかり出る。若い人が集り名前が判ればこんな事はなくなる。

中野　これから少し話を建設的な方向に向けてもらいたい。協会の骨骼はどんな風にあるべきか。尾崎先生に一つ。

尾崎　今迄皆さんの仰つた事には同感です。繰り返す事になるが、片岡先生の作られた時の主旨とは違つて来て居るが、今云われた関西に学会と別の会が欲しいとの事、これだけ建築に関係した人の多い所では学会の支部だけではあきたらん。そうなると学会と同じ性格よりも変つた性格の方がよいのは当然である。それから役員を若い人の中から入れる事、前から私も云つて居るがそうでなくてはならん。学会が進んで行くのは若いからではないか。滝沢先生も委員になられたのは若い頃だつた。

滝沢　役員になつてからは学校へ行くと叱られた。

尾崎　岡山、広島の支部は止めてもよいと思う。中心を確立して行く事だ。それから午餐会も結構だが誤解を招く惧れがある。若い者には一つもチヤンスを与えて呉れぬ。そんな声の出る惧れがある。今迄のお話ではないが雑誌をよくしようとする事、これは学会誌、国際建築とか新建築の様なものにもなり得ないし、機関誌は仕様がないと思う、が講演会の様なものに協会は努力を払うべきだと思う。

鷲尾　私も田中君と同じ様に若いが（笑声）根本は会員に何を与えて居るか。只委員会でやつて居るそうだ、だけでは会員のプラスにならんではないか。私は教育委員会でも果して会員のプラスになつているかどうかで実は足踏みしている。最後は会員のプラスになる様にもつて行くべきだ。クラブ活動でも金のない者でも加えて一緒にやらんと難かしい。そうすると残されたものは会誌だけで、之は相当充実したものでなければならぬ。皆盲点をもつてもう一つ喰い足りない感じだ。会誌をもう少し充実させる。頁をふやすとか、あれを取らんと工合が悪いという所まで。

中野　午餐会、支部の問題、若い人について講演、講習会など色々問題がたくさんあるが、中村さんどうぞ。

中村　片岡さんの時代は日本は資本主義の興隆期であつて迎合する人が多かつたが今日は半植民地なので如何にして日本的なものを作るか。外国に追随する事はい

けないと思う。問題は資本主義に沿つて行くより、その中からえぐり出して編集委員会でも批判的な人を網羅して活動して貰うとか、例えばノイトラの問題とか不燃都市の問題とか再批判すべきだと思う。委員には私の推薦したのは2人だけ入つたが、逆行しない様道を見つけて新らしい方向に切り変えるべきだ。第二に学会は封建的だと思う。学会に尽す事は批判されんで職場につくす事だと思われている。学会の中核をなすものは学校の先生で、僕は学校の先生を害毒を流すものだと思う(笑声)。封建的な中に建築家の若い人を押し込めようとする。学会中心は中央集権主義をますますのさばらし歯車を逆に廻す様で面白くない。私の感じだが学会はロータリクラブ式で中心人物は神様扱いになつて居る。協会は社会と結びついたものでなければならぬ。第三に一番困るのは会費だ。協会は960円学会は1,200円だ。協会、土会、学会が話し合つて、雑誌は要らんから皆協会の名簿の中に入つて、そして学会誌の欲しい人は学会誌、協会誌が欲しい人は協会誌をとる様にして、学会は名前だけ連ねて建築の仲間だと判ればよい。そんな協定が出来ぬものか。会員の自由意志で雑誌を取る様にすれば会費の問題は解決する。

中野　雑誌の問題が出たが今度は石川さんに。

石川　雑誌の事で根本の問題を考えんといけない。将来に対して悲観的だとうかがつたが結局、関心を持つてない人が多い。問題は三つある。第一は片岡さんの時分と今では時代が違つている。その時分は経済的な心配はなかつた。今日は全然反対で昔の様な訳には行かぬ。社会問題である。第二に昔は学会でも協会でも特色があつたが現在は同じ型のものがあり、旗幟不鮮明だ。第三は協会自体の問題だが会員の構成がまるで変つた。昔は同じような人達が集つたが今日では色々の方面の人が入つて来る。会勢拡張もあるが直接的に関係のない人も入つている。会員の構成が複雑になつてまとまりにくい原因となつている。根本は一つの団体としての形式だけでなく、まとまりつながりというか最大公約数があるという感じを会員が持てないと仕事が出来ない。その意味が雑誌に対してもその方向に持つて行かねばならぬ。会員と会の関係と同時に会員相互の関係が与えられなければならぬ。仕事の面でプラスになる事も大切だが精神的な面にも互に与えられるプラスになるものがなければならんと思う。その為に雑誌が唯一の、辛うじて面目を保つているものと極言されて居る位大事な問題であるが、午餐会にしても見学会でも来たくても来られない話があつたが機会を持つ事だ。クラブでも良い。結局そこに行ける様な経済力を持つて行かねば仕方ない。会員構成は今更会の制度を変更出来ないが、最大公約数を持たない縁のうすい人は遠慮した方が良いと思う。共通の観念を持つた人の集りとして特色を出すのは難かしいだろうが昔の如くはつきりした特色でなくてもよいから、ほんとうの意味での団体として集ればよい。雑誌には注文を出しても出来ない事だ。経済問題が解決せぬ限りは。

中野　櫻田さん、協会に対する魅力とか希望は。

櫻田　私は30何年前に片岡会長から云われて入つたが、我々建材業者はどこかに頼らなければならない。最近建材会としてお世話になつて居るが、建材会としては関西建材会の名前があるが、協会が隆盛に向つてますます発展して欲しい。唯一の代表的の会であるから内容の充実をはかつて貰いたいのが希望だ。我々協会の会員とは密接な関係がある。雑誌の内容を変える事に対しては意見もあるが、学会と一緒になるよりはむしろこのままでやつた方がよい。

中野　小川さんに伺いたいが、若い会員に問題を与える方がよいか、又若い人を対象としてどんな事業をやればよいか。

小川　先づ今持つて居る蔵書を公開すべきだ。死蔵して居る。今乏しい学校にカードでも渡して勉強させるべきだ。編集の時だけに使うのは勿体ない。アメリカのライブラリーの中にもよい本がある。責任をもつて借り出して公開すればよい。時間を決めて完全に管理するのが手つ取り早い方法だ。又各学校に時間外の特別講義をして若い人にぴつたりした奉仕をすべきだ。若い人を摑む事をしたらどうか。金のかからん方法だ。

田中　そんな事は余り一般には知られてない。

尾崎　若い人がどんな事を欲して居るかは委員の中に入らねば判らない。

小川　内部的な無駄を省く為に余計な事はやらん事だ。力を集中すべきだ。

滝沢　その問題は困難だ。学会の支部が出来た時もあなたの様な事が、云われたが費用は学会でもつから講師を派遣するといつても中々申し込みがない。

鷲尾　極端な話だが会員の為になる事を与える事が承認されたが、例えば今の外国雑誌をとつて居る事も、会員全体に関係のない事なら止める。見学会などは評判が良い筈だが、この間有力な事務所の方が全然知らなかつたといつて居る。見学会をやつたならやつたで後からでも目ぼしい方に寄つて貰つて批評する。そしてそれを雑誌に発表すれば、会員全部で行つた事になる。理事会でやつて居る事にしても雑誌で詳しく皆に知らせる。結果的には会員全体に知らされる様に、雑誌を通じて要点だけでもよいから発表すべきだ。講習会にしても参加出来ない人は雑誌を通じて知らせて貰える様にすれば会員は安心してやつて貰えると思う。

中野　政岡さん、運営の問題に関して御意見を。

政岡　大体もう出尽して居るが、片岡さんの時代から比

べて経済上の問題もあるが戦後特に会員の層が広くなつて、マネージメントしにくいとの意見があるが建築と社会という立場からそれでよいのではないか。経済上こうなつたかも知れぬが学会に比して特色があると思う。之をのばして特異の存在を考えるべきだ。業界に対してもフランクに役員を割当てる。会員にプラスになる事をやるのは当然で、最後には色々問題があるが雑誌にしても、分野が広くなり当然設備、材料もあるがそれをうまく上の方で引き出して頂く。こうすれば外の団体と違つた特色が出る。縦のつながりについい、私が27才の時学校を出て、かけ出しの時代委員会で片岡さんの前で小さくなつて居た時のこと、当然私の名前など知るはづがないと見て居たのにヶ政岡どうかヶと意見をきかれた。若い者が何かしないと居られん様に信頼をかけられ、始めての委員会で光栄を感じたものだ。若い者を参加させるには上の者がうまくあやつて行かねばならぬ。経済上の問題があつて無理かも知れぬが、何としても時勢の影響でオレンヂジュースなら飲むが雑誌は買えんというのが一般的な考え方の様だ。これが直る様善導せねばならない。むしろ施工、設備、材料業者に雑誌に出して頂く事でうまくひつぱり出せば将来に対して明るいと思う。

中野　飯田さんの御意見をどうぞ。

飯田　編集の上から感じた事で、教育委員会とか災害委員会とか委員会が色々あるが雑誌の上に余り連絡がないのでのせるにもよく判らぬ。もつと連絡をとつて下さい。近頃事務局に若い人が入られて活動が活潑になりました。新しい人の意見を更に多く受入れてヤングジエネレーション・エネルギーをのばしてほしいです尾崎さんから展覧会をやつてはと云われたが、去年関西学生建築連盟というのが学生の自主的発意で出来、シビツクセンターの競技設計をやる事になつて居たがしまいには学会がとつてしまつて学生の自主権をつぶしてしまう様な結果になり、今年は全々そういつた企をきいていません。之なども学会なり協会が応援して賞などを出す程度で若い人の意慾を伸ばす様にすべきだと思います。若い人を教育し育てる事は会の発展、ひいては日本の建築界を発展せしめる事になる。

中野　大分おそくなつたがもう10分程。関西を中心として学会と別な団体を拵えるというのが今日の収獲だが之に関して、皆さんから一寸づつ伺いたい。

田中　協会と学会とは、はつきりした問題だ。戦後若い人達で集ろうという人が居る。新日本建築家集団はそうした集りで、一面では学会に対抗した会だ。政岡さん、小川さんを中心にしたデザイン会もそうだ。それ等を協会が育てて行く様に。

堀口　戦後講習会をやつたがあれには若い人も大分出た。雑誌はやはり変化に富んだ昔の建築界に準じた編集が望ましい。

滝沢　関西建築協会から日本建築協会になつたが、あくまで学問的のものは学会で、社会的なものは協会でという協定がある。

林野　教育委員会の記事が出たがその中で、学生を交えないで「近頃の若い者は」という工合にきめつけて居る（笑声）
そんな会に学生と交えなければ無意味だ。

鷲尾　あそこでは名前を出して居るので、学生とか若い者が入つて反ぱくすればクビになる心配がある。若い人を引き出す事に真剣に考えなければいけないのではないか。

小川　色々の出版で学会でやられて居る事を踏襲する必要はない。雑誌等は極めて総華式になつて居る。日綿見学会をやつたのがあの程度の建物ならばあれだけでも一冊になるデータがある。

鷲尾　大賛成だ。

小川　材料、設備、プラン、外観等、デイテールに迄つつ込んだ方針で。

鷲尾　新聞見たいに建物を作られた方も意見を出す様に。

小川　座談会も学校を出たての人にアンケート式にするとよい。

鷲尾　教育委員会、会勢委員会、編集委員会と一緒にやる計画があるが、どうしても会勢が中心になる。

林野　支部特輯号よりも毎月号に支部の事をもう少し詳しく知らせて欲しい。

星　卒業生に賞を出すのは学校の先生が渡して居るが、之を協会の代表者が渡す様にしては。

中野　30何校で時間的に殆ど同じだから無理だ。

星　賞を出すのは高校だけか。

中野　協会は高校だけ。学会は大学にも出して居る。
ではもう時間がないからこの辺で尾崎さんに御挨拶を。

尾崎　皆さん非常に熱心に、今日は回顧的な事もあつたがむしろ将来の建設に関して色々お話を承り、協会の方でも喜んで居る事と思う。年よりとかの話が出たがここでは余り若い方も居られないが、もつと若い人に役員になつて貰つて若い人の意見をどんどん入れる様な企画を作られたらよいと思う。格別挨拶の言葉もないが、暑い所お忙しい中をありがとうございました。

（おわり）

× × × ×

× × × ×

創立35年記念事業概記

各部の委員名は（昭和27年3月号）雑誌参照の事

委員長	東畑謙三	――副委員長	大林芳郎	中野順次郎	
総務部長	中野順次郎	――委員	青木友一	外7名	
慰霊祭部長	中西六郎	〃	池田静	外10名	
表彰式部長	池田宮彦	〃	井上福蔵	外9名	
祝賀部長	鈴木末尾	〃	井場績	外9名	
講演講習部長	伊東五郎	〃	栗林一馬	外9名	
見学部長	松本儀八	〃	石井一信	外9名	
出版部長	尾崎久助	〃	池田宮彦	外9名	
住宅部長	吉田安三郎	〃	浅沼猪之吉	外16名	
資金部長	東畑副会長	〃	浅海治平	外11名	

慰霊祭　昭和27年4月26日於大阪中央公会堂3階

参列者、遺族61名（氏名略）祭主側、竹腰会長外36名。新聞記者、一般参列者等100余名。

既往物故会員560余柱（故人名略）の霊を祭る。遺族各位を地下別室に招じ、待合せ定刻祭場に案内、中西部長司会の下に開式、豊国神社神宮の修祓、降神、献饌後、斉主祝詞ありて後竹腰会長別記の通り祭主祝詞奏上、斉主祭主、遺族全員玉串奏奠、来賓並各代表玉串奏奠、昇神後祭主竹腰会長より懇切丁重を極めた遺族に対する挨拶ありて一同感慨無量、遺族代表銭高久吉氏の答辞、記念撮影後遺族を地下別室に案内し、中西部長挨拶、茶菓接待、一同ありし日の懐旧談あり、此間東畑委員長外委員接待に当り4時過遺族各位夫々供物を土産に解散。

祭文　時昭和27年4月26日

社団法人　日本建築協会会長　竹腰健造

恭シク清酌庶羞ノ奠ヲ供ヘ、虔ンデ物故会員並職員諸士ノ霊ヲ祭ル、顧レバ本会ハ創立以来茲ヲ閲スルコト35年、今ヤ会員四千有余名ニ達シ会勢隆盛ノ域ヲ辿リ戦後ノ混沌タル社会状勢ヲ克服シ各種事業ノ進展ト共ニ社会ニ貢献スル所益々大ナラントス。又一面会員相互ノ発展ト文化ノ向上ニ努メ団体トシテノ使命ヲ遂行シツツアリ。惟フニ諸士曽テ本会ニ在ルヤ会員トシテ或ハ委員役員其他幹部又ハ事務局職員トシテ克ク本会ノ目的ニ尽瘁今日ノ隆昌ニ寄与セラレシ所多大ニシテ寔ニ感謝ニ堪ヘス、本日此処ニ祭祀スル。560余柱ノ諸霊ハ邦家ノ為戦死ヲ遂ケ或ハ公職ニ殉シ、又ハ不幸病魔ノ犯ス所トナリ易簀英魂永ヘニ天ニ帰セラル、洵ニ痛恨哀惜ノ念禁シ難ク感慨亦新ニシテ其功績ヲ景仰シ寧護無窮ナランコトヲ祈ル。今ヤ講和第一年ヲ迎ヘルニ当リ吾等更ニ奮励諸士ノ遺鉢ヲ享ケ本会ノ目的達成ニ献身以テ在天ノ霊ニ報センコトヲ期ス。茲ニ創立35年記念事業ヲ行フニ当リ追慕ノ情甚タ切ナルモノアリ。即チ本日ヲトシ御遺族多数御臨席ノ下ニ厚ク諸士ノ霊ヲ祭リ其遺徳ヲ偲ヒ本会各部門並ニ会員一同ヲ代表シ感激ノ至情ヲ捧ケルト共ニ先覚諸霊ノ加護賜ラン事ヲ祈念シ謹ミテ蕪辞ヲ呈ス。冀クハ雄魂髣髴トシテ吾等カ微衷ヲ饗ケラレンコトヲ。



物故会員560余柱の霊を護祀る慰霊祭状況

住宅展示会（昭和27年11月7日～16日）

於、南海沿線羽衣駅東南1丁、本会主催毎日新聞社、住宅公庫大阪支所。南海電鉄KK後援。

住宅建設27社、28戸。出品者（50音順）浅沼組、安藤組大阪支店、新工務店大林組、鹿島建設大阪支店、鴻池組、清水建設大阪支店、銭高組、竹中工務店、

大成建設大阪支店、戸田組大阪支店、藤木工務店、松村組、東組、井上組、今西組、大阪土木工業KK、鍵仲建設KK、大末組、大洋建設KK、中道組、中村組、藤本工務店、大西建設KK、吉村組、田中組、あめりか屋。

会場には最も苦心され最後に京阪沿線香里と南海沿線羽衣二ヶ所を撰び委員実地踏査の結果此地に決定した。会期中来場者延25,000人の盛会であつた。即売16戸、公庫扱譲渡8戸、出品者引取4戸。一戸当、敷地100坪内外。建坪延20坪内外。土地共で〆100万円未満とした。尚期間中、出品住宅図案並懸賞募集図案を集録し「之からの住宅図集」を発売した。又南海電鉄は住宅人気投票をなし、1等1万円、2等5千円、3等千円、10名に賞金を呈した。

之からの住宅展（昭和27年11月11日～16日）於、南海高島屋7階ホール、本会主催。大阪府住宅復興促進会後援。展示。協会募集入選案の一部をモデルルーム一室。新しい建材数種、羽衣住宅並懸賞募集入選図案。住宅に関する各種資料、パネル、写真、家具、模型類。

見学部会。当初中国、北九州を経て長崎、島原、阿蘇、別府経由を企画したが参加者予定に達せず中止。尚関東方面立案せしも九州に鑑み廃案、近県のみに止める事とした。

名古屋方面見学。（昭和27年5月23日～24日）四日市日本板硝子工場、東洋ゴムKK、常滑一泊、伊奈製陶KK、名古屋トヨダ自動車工場、ユタカブレコン工場見学、此間東海支部会員と交歓、パーティーを開いた。参加者31名。

岐阜白川方面見学（昭和27年7月11日～13日）当日大雨のため俄に減員し松本団長外参加20余名。岐阜（11日）の尾関提灯製造工場、鵜飼実況雨の為め中止、鵜匠松山祇雄宅見学。名和昆虫研究所。12日大日開拓村、白川村大家族民家、13日遠山、和田両家見学、帰阪。

小豆島見学（昭和27年11月1～3日）竹腰会長外25名参加、夜天保山発、翌朝小豆島坂出港着、寒霞渓。午御丸金醤油と北岸名所旧蹟、3日オリーヴ園其他南岸見学後離島、同夜帰阪。

京都見学（昭和27年12月6日～7日）松本団長外43名参加、6日京都大映スタヂオ、市川右太衛門案内、次に松竹スタヂオ新建築見学、大徳寺（お茶料理）一泊、翌早朝座禅（静座の気分を味う）菅長講話後宝物拝観次に真珠庵、聚光院、孤蓬庵見学。竜光院で中食解散。

表彰式（昭和27年11月24日）於三越劇場。金屏風に松柏の鉢植、会長中央に、部長池田宮彦司会の下に開式。会長挨拶後、創立当時の功労者8名代表小笠原祥光氏。多年役員委員20名代表者藪中一良氏。事務局多年勤続代表大和栄衛氏

協会協力者、KK大丸、各業界功労会社代表銭高輝之氏。各部門代表藤木正一、菅谷三郎、浅海治平、山本潔の諸氏、東海支部5名代表、京都支部4名代表松井清之助氏、兵庫支部3名代表岡本茂樹氏、和歌山支部4名代表島村佐次郎氏、中国支部7名代表青盛繁男氏、九州支部6名代表に夫々表彰並感謝状を贈つた。

次に東畑副会長より竹腰会長に対して今日の隆盛に寄与された感謝の言葉を述べ、全表彰者代表して小笠原祥光氏が会に対し感謝を表した後、東畑副会長閉会挨拶、式を閉じた。

祝賀会（昭和17年11月24日）於、三越8階グリル110余名、席定るや、鈴木末尾部長開宴挨拶後、竹腰会長所感を述べ食事開始、デザートに入るや学会長代理伊東五郎氏祝詞、来賓坂静雄、渡辺建築士会長外、支部長総代松井清之助、顧問代表藪中一良、松本儀八、中西六郎、大林芳郎、綜合代表鍵仲尊一、電気代表佐藤太、管工代表管谷三郎、建材代表山本潔、文化方面竜沢真弓、夫々テーブルスピーチあり。最後に年長者谷民蔵氏に依り万才三唱。東畑委員長閉会の辞あり解散。

出版部 地質図表（大阪中心衛星八都市ボーリング表）20年前の発行後集めし資料に衛星都市分を加へ約600個所の調査図表に整備し、27年中は専ら原稿調整に努力、28年4月大阪附近地質図表と題して出版、B5型200頁、500部発行す。

35年協会記念史 35年間の協会諸般の記録を集録、27年より之が整理に着手、圧縮、原稿再検討し28年12月雑誌記念号として出版企画中。

建設資料便覧。建設資料に就て、従来各方面で型録が出版されているが、本会はこのカタログ的集成と異り、設計、施工上の参考と併せて学生の副教材にも提供したい目的で各種資材部門に付、概概仕様書等に併行して業者案内を拡く募集、資料便覧として発行企画を建て、27年度より準備に着手、28年度中出版目標にて目下引続き原稿作成中。

講演講習会 新材料、新構生、住宅問題、耐火助成法問題、土法問題等を主要題材として此のテキストを作成、下の通り各地で講習講演会を開いた。（各地共各新材展示、潜函フイルム、スライド使用等参考に供した）

松江（松江産業高等学校）	昭和27年	5	月 5 日	250名
下関（下関警察会館）	〃	5	〃 20 〃	290 〃
福岡（福岡市立記念館）	〃	5	〃 20 〃	170 〃
熊本（熊本県税務講習所）	〃	5	〃 22 〃	190 〃
長崎（長崎町村会館）	〃	5	〃 22 〃	210 〃
和歌山（和歌山市労働会館）	〃	6	〃 21 〃	86 〃
神戸（看護婦会館）	〃	6	〃 28 〃	55 〃
鳥取（県立図書館講堂）	〃	10	〃 7 〃	300 〃
岡山（商工会議所）	〃	10	〃 7 〃	150 〃
広島（中央公民館）	〃	10	〃 8 〃	250 〃
名古屋（商工会議所）	〃	11	〃 11 〃	150 〃
大阪（三越劇場）	〃	11	〃 24 〃	500余名

各地分担講師、講演者。竹腰健造、小川正、日野勝好、谷口尚武、伴潔、伊東五郎、中沢誠一郎、横尾義貫、奥島正一、小林清、高橋慶夫、錦田直一、諫早信夫、大林武、中村尚等此の外、新材料メーカー側講師、関西ペイント、田島応用化工、朝日石綿工業、東洋リノリユーム、日本油脂、プラスチツク大阪支部、新光レイヨン、盤城セメント。

大阪講演会（11月24日）於、三越劇場。竹腰会長開会挨拶、地元建築局、部長挨拶、「不燃建築の促進」大阪市建築局長伊東五郎氏。「最近の欧米建築」大阪府建築部長吉田安三郎氏（スライド使用。）「原爆と建築物（スライド使用）」東大教授武藤清氏映画「竹中式潜函工法」最新編集第一生命ビル。余興、三越新人落語。東畑副会長閉会の辞。

総務部　事業企画、委員構成、予算大項編成、後援会費募集方法等を役員会の議を経て、1月事業部門別委員の委嘱を発す。

昭和27年2月9日、見本市会館に全会員（出席50余名）を招じ、竹腰会長、東畑副会長より挨拶。副委員長中野主記理事、事業大項案説明。各部長を依頼。各部門並に活動に入る体制を整えた。大林副委員長目的完遂を期したい旨閉会辞を述べた。2月14日、趣意書作成、モデルハウス懸賞募集の件。2月20日、予算330万円を計上、八割見当を以て実行に移る事とした。3月31日、各部長会開催、各部実行大項協議。3月末住宅懸賞募集発表。5月29日大阪建設会館審査会開催。入選決定、1等小林盛太300円、2等岩本博行200円、3等池亀暢雄100円、佳作今西茂雄以下4名50円。

羽衣住宅展主催、後援、名称等の案、アーチ、宣伝ビラ、ポスター等協議。開会式、閉会式、会場中管理、設備事項等之案協議。住宅図集刊行の件。高島屋モデルルーム製作、材料展示並企画と募集方法。

建材陳列場開設促進。関西建材会陳列場開設基金を交附し実現方を督励し28年8月、今橋にサンプルケース50小間付陳列場開設した。東海、近畿、四国、中国、九州に於ける工業高等学校の学生に対し表彰賞品を贈つた。日米学生作品交換の件立案交渉に努めた。

各部連絡連合会協議促進等数回開催、28年4月23日、綿業会館に出品者並全委員を招じ東畑委員長より謝辞を述べ今日迄の事案経過、収支概要中間報告をし、各部の感想と意見開陳。

資金部　27年3月10日以来、東畑委員長始め委員会数次開催。募集基本協議。綜合200万。建材70万、電気50万、管工50万、技術30万、合計400万円を目標と定め、各部門斡旋後を予定して招待、懇談、依頼、爾来各部門の世話係にて奔走、申込獲得に努めた結果27年3月30日現在に於て凡そ330万円を得たが28年7月末、収支下記の結果を得た。

収入の部……後援会費3,390,450円（内訳綜合部関係104万7千円、電気部門46万円、管工部門46万5千円、建築事務所21万3千円、建材部門988,800円、個人及支部216,350円）出版収入41万9千円（売上料、広告料、掲載中）雑収入44,644円（預金利息）計3,854,094円

支出の部……（28.7.31現在）慰霊祭部費133,740円、表彰式費109,365円、祝賀会費79,840円、講演講習部費282,250円、見学部費119,235円、住宅部費281,450円、資金部費55,142円、総務部費366,863円、予備買661,072円、出版部費243,001円、地質図表438,526円（目下準備中）記念誌59,260円（目下編輯中）計2,829,744円、差引残高1,024,350円。

× ×

× ×



建物クリーニングの店

創業30年　古い歴史と新しい技術

ビルデイングのクリーニング工事
古い住宅が新築同様になる美素工事
新築住宅にお手入れのいらぬ美素工事
請負

株式会社 美素工業所

大阪市東区瓦町（堺筋）三和ビル三階　電話北濱㊄5888番



沿　　革

1. 創　立

大正6年3月30日大正初期、近畿在住建築家有志凡そ20余名が親睦機関として「オキナ会」を組織していた。其後関西に於ける建築家漸増と同時に関西に建築家の団体設立の議が起り、片岡、波江氏等発起して檄を飛ばし此日大阪ホテルに会する者30有余名、創立総会開催、関西建築協会と称して呱々の声を上げた。

1. 会　名

創立当時、関西建築協会と称したが大正8年日本建築協会と改称、大正15年10月20日附を以て内務大臣より社団法人認可され今日に至る。

1. 機関雑誌

当初関西建築協会誌と題し 4、6版発行。大正8年「建築と社会」と改題、14年4、6倍版とし左横組とした。昭和19年3月国策順応の為め一時中絶したが昭和22年1月再刊、28年を以て30輯を算す。

1. 事務所

創立当時片岡事務所たりしが、十年京町堀不動ビルに移し、爾来大江、堂島に、江商、大同、朝日の各ビルに転じ現在に至る。23年12月大阪建設会館に分室設置。

1. 役員並事務局

創立当時片岡安氏理事長の下に理事制であつたが大正15年法人組織後会長、副会長、常務制とし、片岡会長外常務12名であつた。21年片岡会長没後、竹腰健造氏二代会長となり、定款改正、会長、副会長三名、理事28名、監事2名とし現在に至る。事務局は大正6年より11年迄は専任者少く、主として熱心なる会員中の数氏と外部嘱託であつたが、11年桜丘博覧会頃より庶務、編輯、会計係専任され、漸次組織化し、昭和16年書記長制を設け、昭和22年より常務理事兼事務局長を置く事とし、現在大和常務理事、沖田書記長以下嘱託を含み13名を容す。

1. 定款改正に付て

戦後の社会情勢に添うため定款の大改正をなし、拡く建築界関係を網羅する事とした。

事　業　概　要

建議陳情

大正八年来現在建築基準法の前身である都市計画、市街地建築物法、士法制定促進方を主唱法制化した外、時に応じ機に臨み建議陳情枚挙にいとまなし。

博覧会、展覧会

11年大阪桜丘、住宅改良大博覧会開催30余戸建設した。本邦に於ける住宅展の嚆矢であり和洋折衷の範となり協会存在ようやく世に認められた。その後創立15年、25年、35年の3記念事業に於て高野線、京阪線、阪和線、阪急線、南海線、奈良線に20戸乃至30戸の住宅博覧会を開催、現在繁栄している。各種展覧会主催の外、後援する事凡そ10数回。

災害調査

大正12年関東大震災に調査団派遣並に調査報告をなし、記録出版、組立家屋提案、義捐金募集等した外、爾来14年以来但馬、北但、福井等の地震、函館、静岡大火視察報告、昭和九年阪神風水害調査、耐震耐火普及宣伝と災害防止に努めた。

防　空

大正15年以来各種防空演習に協力参加、又防空普及の為め、トーキー映画を作成、其他各種防空事業に協力した。

幹事会委員会

常時各種の幹事会、委員会を設置し、建築に関する各般の調査、研究、実行等なく本会初期の目的達成に努めている。

会　勢

創立当時100名未満の会員であつたが15年法人組織をエポックとして逐年増加をとりしも戦前戦後一時減少した。現在4000有余名を容し東海以西に6個所支部設置す。

(97頁より続く)

木島雅美、今井四郎、中島善美、渡辺貞雄、山本潔、中野順次郎、大和栄衛。

「これからの建築技術の学校教育はどうあるべきか」(第一回設計関係)

昭和27月12月18日　大阪建設会館会議室

(司会)鷲尾健三(設計側)池上勝郎、池田谷久吉、樫根英郎、佐久間逸治、塚本猛次、森忠一(学校側)犬束徳郎、篠原太郎、滝沢真弓、豊田弥吉、長尾勝馬、福田朝生、元良勲、安井武一、(委員側)亀井貫一、上林博雄、菅田豊重、中野順次郎、日野勝好、益尾辰雄、山本利雄。

× × ×

定　　款

創立当時より法人組織となる迄は任意団体としての会則で施行、必要に応じ例会、大会等で改正変更、大正15年10月社団法人認可と同時に定款作成、爾来総会に於て会費、事務所の移転居、役員選挙方法等が改正された。昭和22年戦後の社会状勢に即応する様全面的検討を加え、変更したものが現行定款である。本史には紙面の都合上創立当時の会則と現行定款のみを掲げ、法人当時の定款や中間改正変更等詳細は略記した。

関西建築協会会則（大正6年創立当時）

第1条　本会の目的は我国建築界の堅実なる発展に期するに在り。

第2条　本会は関西建築協会と称す。

第3条　本会は事務所を大阪に置く。地方に支会を設くることを得。

第4条　本会は人格、学識、経験ある建築家を以て会員とす。会員の氏名住所は会員名簿に之を記録す。会員たらむとする者は、会員5名以上の紹介を以て入会希望書及履歴書を、本会に提出すべし。其諾否は理事会の詮衡を経て例会に於て之を議決す。

第5条　本会は其目的を賛成し事業を援助する者を賛助員とす。賛助員を分ち左の4種とす。1. 名誉賛助員——地位又は学識ある名望家。2. 終身賛助員——金100円以上又は之に相当する物件を本会に寄附する篤志家。3. 特別賛助員——建築に関聯する特種の技術家又は事業家。4. 普通賛助員——建築に関係又は趣味を有する者。賛助員の氏名住所、寄附の金額又は物件は各賛助員名簿に之を記録す。

第6条　名誉賛助員は例会の決議に依り本会之を推薦す。終身賛助員たらむとする者は会員2名以上の紹介を以て申込書及寄附の金額又は物件三本会に提出すべし。

前2項は理事会之を議決す。特別賛助員たらむとする者は会員2名以上の紹介及履歴書を、本会に提出すべし。其諾否は理事会之を議決す。普通賛助員たらむとする者は会員の紹介を以て申込書を本会に提出すべし。其諾否は理事之を議決す。

第7条　会員は第19条に関する権利を享有す。会員は会内に於ける其言行に付、会外に於て責に任ぜざることを得。名誉賛助員は本会の優遇を受け第19条に基く利得を享く。特別賛助員は第19条に基く利得を享く。普通賛助員は第19条に基き会誌の配布其他相当の利得を享く。

第8条　会員にして脱会せむとする者は其旨本会に申込むべし。前項の規定は賛助員に之を準用す。

第9条　本会は会員にして本則の規定に違背し、又は本会の名誉を汚すの行為ありと認めらる者に対し、理事会の決議を経て其権利を停止し、若くは之に脱会を勧告し、又は例会の決議を経て之を除名することを得。前項の規定は賛助員に之を準用す。

第10条　脱会其他の事由に因り会員たるの資格を失いたる者は既納会費の返還を求め、又は其債務を免かることを得ず。前項の規程は賛助員に之を準用す。

第11条　本会に左の役員を置く。会頭、副会頭、理事長各1名。理事6名。会頭は会務を総監し本会を代表す。副会頭は会頭を補佐し会頭事故あるとき其職務を代理す。理事長は会務を総理し会頭、副会頭事故あるとき其職務を代理し理事会を代表す。理事は会務を処理し理事長事故あるとき理事会の決議に依り其職務を代理す。

第12条　役員は会員中より例会に於て之を選挙す。但し会頭、副会頭は名誉賛助員中より之を選出することを得。役員の任期は2年とす。理事の改選は毎年半数とす。但し引続き兼任とすることを得ず。

第13条　本会に左の職員を置く。主記、主計各1名。編輯3名。編輯補、書記は若干名。主記は庶務を主計は会計を編輯は編纂を処理す。編輯補は編輯の旨を受け編纂を分掌す。書記は理事長理事の命を受け会務に従事す

第14条　主記、主計、編輯は理事之を互選す。編輯補は会員中より理事会之を指名す。書記は理事会之を任命し、有給となすことを得。

第15条　本会は調査研究の必要に応じ、例会の決議に依り各部の委員会を設け、各部に委員長1名、委員若干名を置く。委員長及委員は会員中より理事会之を指名す。委員長は互選とす。理事会は特殊事項に関し会員外の専門家を嘱託委員と為すことを得。

第16条　委員長は当該委員会を代表し、委員長事故あるときは、当該委員会の決議に依り委員其職務を代理す。委員会の経過は例会に於て之を報告す。委員会の調査研究報告は、例会の決議を経て本会の名を以て之を発表す。但し緊急事項に付ては理事会の承認を経て当該委員会の名を以てすることを得。

第17条　本会は毎月1回会員を招集し例会を開き重要事項を審議と報告会、談話会、討論会、講演会を催す。但し理事会は必要と認むるとき臨時に之を開催することを得。例会に於ける議案其他の事項は理事之を会員に報告す。但し緊急事項に付ては此限りにあらず。

第18条　本会は春秋二季大会を挙行す。

第19条　本会の行う事業左の如し。1. 建築に関する諸般事項の調査研究。2, 調査研究報告の発表。3. 建築に関

する重要事項の議決。4. 決議事項の実行促進。5. 会誌の発刊。6. 建築に関する図書の刊行。7. 建築に関する講演会の開催。8. 建築に関する展覧会の公開。9. 建築に関する視察。10. 建築に関する有志者の親睦会。11. 理想的建築の計画。12. 其他建築に関する有益なる事項。

第20条 会員は会費年額金12円を本会に醵出す。会員たるの承認を得たる者は入会金2円を本会に納付すべし。一時金100円以上を納むる者は爾後会費免除す。普通賛助員は賛助費年額金3円を本会に納付すべし。但し6期以内に之を分納することを得。

第21条 本会の経費は会費、入会金、寄附金、賛助費、其他の収入を以て支弁す。

第22条 本会の財産債権債務及毎月の収支は主計其計算書を作り翌月理事会に報告す。本会の財産債権債務及毎年の収支は理事会其決算書を作り翌年1月例会に於て報告す。

第23条 本会及本則に関する詳細の事項は例会の決議に依り細則に之を定む。

第24条 本則は例会の決議に依り之を変更することを得。

関西建築協会細則

第1条 本会の事務所は当分東区今橋1丁目11番地に之を置く。事務所の変更は経費に関係なき場合に限り理事会之を専行することを得。

第2条 支会に関する規程は別に之を定む。

第3条 本会は役員名簿、職員名簿、各部委員名簿、会員名簿、各賛助員名簿、会員履歴書綴、会員希望書綴、各賛助員申込書綴、財産記録簿、会計簿、会費収納簿、入会金収納簿、寄附金記録簿、寄附物件記録簿、賛助員収納簿、本会記録、本会日誌、理事会記録、会員照考録、各賛助員照考録其他必要なる書類を調整し之を事務所に備え付く。

第4条 会員は本会の目的を遂行するため相互の親睦を計り知識を交換し協同一致の態度を保持すべし。会員希望書及履歴書の様式は別に之を定む。

第5条 特別賛助員及普通賛助員の申込書の様式は別に之を定む。

第6条 会員の除名は脱会の勧告に応ぜざるときに限る。前項の規定は賛助員に之を準用す。

第7条 会頭副会頭は当分之を欠く。

第8条 理事会は理事長及理事を以て組織し理事長其議長となる。理事会は毎月一回以上随時之を開く。理事会に要する費用は本会の負担とす。

第9条 役員の選挙は無記名投票に依る。但し理事に付ては連記とす。同数の投票を得たるもの2名以上なる時は年長者を上位者と看做す。役員は理事会の同意を経るにあらざれば辞することを得ず。

第10条 役員に欠員を生じたるときは之を選補す。選補されたる役員の任期は前役員の残期間とす。

第11条 主記、主計、編輯事故ある時は理事会は役員中に於て臨時代理を定む。

第12条 編輯補は当分3名とす。書記は当分1名とし月手当金3円以上を給す。

第13条 委員会は毎月1回以上随時之を開く。委員会の経過は委員長之を当該委員会記録に記載す。委員会に要する費用は自弁とす。但し理事会の決議に依り其全部又は一部を補給することあるべし。

第14条 委員長及委員は理事会の同意を経るにあらざれば辞することを得ず。委員長は当該委員中に於て主査を指名することを得。主査は当該委員会の同意を経るにあらざれば辞することを得ず。

第15条 例会は13日を以て定日とし午後6時より10時に至る。但し土曜日、日曜日又は祝祭日に当るときは例会の決議に依り之を変更す。例会会場は当分北区堂島中二丁目九番地中央電気倶楽部を以て之に充つ。例会の予告は開会5日以前とす。

第16条 例会の議決は会員数の5分ノ2以上出席するを要す。

第17条 大会に関する規程は別に之を定む。

第18条 大会の調査研究すべき事項大要左の如し。1. 建築法規の制定及改正。2. 設計書工事規程、入札規程、請負規程、契約書標準。3. 建築に関する災害。4. 建築に関する時事問題。5. 建築衛生の改善。6. 細民住宅の改良。7. 都市計画。8. 建築教育。9. 新建築思想の紹及。10. 建築に関する迷信の打破。11. 建築に関する伝説及式事。12. 建築経済の調節。13. 建築職工の指導改善及救済。14. 建築家の品位向上。15. 建築請負業者の指導改善

第19条 会誌の発刊は当分隔月1回とす。

第20条 会費は前納すべきものとす。会費は例会会場に於て主計に之を月賦分納することを得。主計は例会に出席せざる会員の末期会費を集金郵便に依り分納することを得。

第21条 会則変更は会員数の2分ノ1以上の出席せる例会に於て出席会員の3分の2以上の賛成を得たる場合に限る。

第22条 本則は例会の決断に依り之を変更することを得。以上

大正15年より昭和21年の間に於て事務所の位置変更、会費改正、応召者取扱等変散あるも消略す。戦後社会状勢の変遷に即応する為、本会の存続にも幾多大改革を為す事になり、定款の大巾改正が行われた。即ち現行のもの下の通りである。

社団法人日本建築協会定款

（昭和22年12月5日変更、25年2月22日一部変更）
〔～印変更個所〕

第1章 総 則

第1条 本会は建築関係各部門の連繋協力によつて、

建築に関する学術、技芸事業の進歩発達を図ると共に建築を通じ広く社会に貢献することを目的とする。

第2条 本会は社団法人日本建築協会と称する。英文では The Architectural Association of Japanと称する。

第3条 本会の主たる事務所は、これを大阪市に置きなお必要に応じ各地に支部を置くことができる。主たる事務所の位置の変更、並びに支部の設置、変更若くは廃止については評議員会の議決でこれを定める。

第4条 本会は左の事業を行う。1. 建築関係各部門間並びに建築と社会との連繋。2. 建築関係事業の改善発達に資する意見の決定並びに表明。3. 建築に関する学術、技芸、施策の研究、調査及び社会指導並びに一般啓蒙。4. 建築関係各部門の振興に資する施設並びに営造物の設置及び管理。5. 建築に関する証明、鑑定、仲介、斡旋又は仲裁、検定試験・執行及び資格の認定。6. 会員の向上及び相互の親睦に関する諸施設並びに会合。7. 会報、雑誌、図書及び印刷物の刊行並びに発売。8. その他本会の目的を達するに必要な事業。

第5条 本会の事業年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終る。

第6条 本会の公告は、会報又は官報若くは総会の決議で指定した日刊新聞に掲げてこれをする。

第7条 本定款の施行に必要な事項は、細則でこれを定める。細則は評議員会の決議でこれを定める。

第2章 会 員

第8条 会員は正会員及び准会員の2種とし、正会員を以て民法上の社員とする。

第9条 正会員は次の各号の何れかに該当するものとする。1. 建築又はこれに関係ある職務を有し相当の学識又は経験を有する者。2. 建築又はこれに関係ある業務を営む者又は団体。

第10条 准会員は建築に趣味を有する者、若くは建築又はこれに関係ある学科に専攻する学生、生徒とする。

第11条 正会員で次の各号の何れかに該当する者は、総会の議決でこれを名誉正会員に推挙することができる。1. 学識名望がある者又は本会に対する功績顕著な者 2、30年以上正会員であつて年令65を超えた者。

第12条 会員となるには、細則の定める所によつて入会申込書に入会金を添えて本会に提出し、理事会の承認を経なければならない。会員が退会するには、会費を完納して本会にその旨を届出なければならない。

第13条 会員の氏名は、これを会員名簿に登録し、会員の権利義務は、名簿登録をした日から生ずる。会員の権利は、一身に専属しこれを他人に移転することが出来ない。但し第9条第2号による正会員で、本会の承認を経た場合はこの限りでない。

第14条 第9条第二号による正会員は、細則の定むるところに従つて、本会の承認を経て指名することができる。前項により指名された会員は、これを正会員とみなす。

第15条 会員は細則の定めるところにより、会費1口以上を前納しなければならない。但し名誉正会員及び前条により指名せられた会員は、この限りでない。

第16条 会員が会費を滞納した場合には、その期間中会員権の行使を停止されることがある。但しこの場合会員は、既往の債務を免れることができない。

第17条 会員が次の各号のいずれかに該当する者は、評議員会の議決でこれを除名することができる。但し第3号の場合に限り理事会の決議を以て、これに代えることができる。1. 本会の秩序を乱し又は本定款若くは細則に違反する行為があると認めた者。2. 本会の名誉を汚損する行為があると認めた者。3. 会費の滞納が4月に及びなお督促に応じない者。

第18条 退会又は除名によつて会員資格を失つた者は、如何なる理由によつても既納の会費又は物件の返還その他本会の財産に対する一切の請求権を失う。但し本会に対する債務はこれを免かれることができない。

第3章 役員・顧問及び参与

第19条 本会に次の役員を置く。会長1名、副会長2名以上、理事16名以上、支部長若干名、監事2名以上、評議員若干名。会長、副会長及び理事を以て、民法上の理事とする。

第20条 監事及び評議員は総会で、会長、副会長及び理事は評議員会で、正会員中からこれを選任する。支部長は支部規程により、支部所属正会員の互選によつて選任する。

第21条 役員の任期は2年とし、選任年度の次期の事業年度初からこれを起算する。但し評議員の任期は、選任年度の二月からこれを起算する。役員は同一の役員に重任することができない。但し特別の事情あるときは評議員会の承認を得て、重任することができる。会長、支部長及び常務理事を除く役員は、毎年その半数を改選す役員に欠員を生じたときは、遅滞なくこれを補選する。但し第19条の定数を欠かず、評議員会でその必要がないと認めたときは、この限りでない。補選に依る役員の任期は、前任者の残期間とする。

第22条 会長は会務を総理し、本会を代表し、総会及び理事会の議長となる。副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはその職務を代理する。

第23条 会長、副会長、理事及び支部長は理事会を組織して会務を執行する。理事会の議事は、出席者の過半数でこれを決し、可否同数の場合には、議長の決するところによる。理事会に出席できない者は、書面で決議に参加し又は他の出席者に委任して議決権を行使することを妨げない。

第24条 理事会は、理事中から又は理事以外の者から常務理事若干名を選任することができる。理事以外から選任された常務理事は、これを第19条による理事とする但しこの場合には選任後評議員会の承認を得なければならない。常務理事は会長、副会長を補佐し、常時会務を処理し、会長、副会長事故あるときは、その職務を代理する。

第25条 支部長は、支部を代表し、支部の会務を執行する。

第26条 監事は、常時会務及び財産の状況を監査し、特別の事由ある時は、総会又は評議員会を招集することが出来る。監事は、理事会に出席して意見を述べることができる。但し議決に加わることはできない。

第27条 評議員は、評議員会を組織し重要会務を議決する。

第28条 本会に名誉顧問、顧問及び参与若干名を置くことができる。1. 名誉顧問は、本会の事業遂行に其の協力を求めたるため理事会で推薦したる者。2. 顧問は、建築に関係ある学識経験者であつて、理事会の推薦により総会の議決を経た者、顧問は、会務の重要事項について会長の諮問に応じ又は意見を提出する。3. 参与は、会員中から理事会で推薦委嘱した者、参与は、会務に就て理事会の諮問に応じ又は意見を提出する。参与の任期については第21条の規定を準用する。顧問及び参与は、役員に就任したときは、その位置に退くものとする。

第4章 会 議

第29条 会議は、総会及び評議員会の2種とし、更に総会を通常総会及び臨時総会の2種に分ける。会議は、会長これを招集する。会議の議事録は、議事の経過の要領及び其の結果を記載し、総会の場合は議長及び出席正会員2名、評議員会の場合は議長及び出席評議員2名の署名を得て保存しなければならない。但し書面表決のときは会長の署名で足りる。

第30条 総会は、正会員を以て組織する。総会に於ける正会員の表決権は、会費1口につき1個とする。但し会員1名の口数が、総正会員の口数の20分の1を超えるときは、その超過分には表決権はない。

第31条 通常総会は、毎年1回1月これを開く。臨時総会は、評議員会又は会長が必要と認めたとき、若くは正会員100名以上から、会議の目的事項を示して要求があつたとき、これを招集する。

第32条 総会を招集するには、会日から1週間前に、会議の目的事項、日時及び場所を示して、書面又は公告によつて正会員に通知を発しなければならない。但し緊急の必要ある場合又は再度招集の場合は、この期間を短縮することができる。

第33条 正会員は、正会員10名以上の賛成を得て、総会に議案を提出することができる。総会で正会員が動議を提出するには、出席者の20分の1以上の賛成がなければならない。前項の動議による議決事項は、次の総会で承認を経なければならない。

第34条 総会の議事は特別の場合を除き、出席者の過半数でこれを決し、可否同数の場合には議長の決するところによる。臨時総会は、会議によらないで書面表決によることができる。この場合会長はその結果を遅滞なく公告又は書面によつて、正会員に報告しなければならない。書面表決は、議決と同一の効力を有する。

第35条 次の事項については総会の議決を経なければならない。1. 定款の変更。2. 重要な財産又は基金の処分3. 本会の解散及び精算。4. 収支財算及び決算。前項第4号の予算で、評議員会の議決を経たものについては、理事会は総会の議決がないときでも、原案を執行することができる。但しこの場合には次の総会に於て、承認を求めなければならない。総会は、会議の延期又は続行を議決することができる。この場合には、第32条の規定を適用しない。

第36条 前条第1項第1号乃至第3号に関する議事については、総正会員数の20分の1以上が出席し、総表決権の20分の1以上を行使し、3分の2以上の多数による議決を必要とする。出席が前項の定員数に達しないときは、出席者の表決権の過半数で、仮決議することができる。この場合には、遅滞なく再度総会を招集して、出席者の表決権の過半数で、仮決議の認否を決する。

第37条 総会に出席しない正会員は、書面で表決をし又は他の出席正会員をその代理人とすることができる。

第38条 評議員会は、毎年3月及び11月に、定時会議を開き、なお会長又は理事会が必要と認めたとき、若くは評議員10名以上から、会議の目的事項を示して要求のあつたとき臨時会議を開く。

第39条 評議員会に議案を提出するには、正会員は評議員5名以上の、評議員は評議員2名以上の賛成を得てこれをすることができる。

第40条 評議員会の招集及び議決に就ては総会の規定を準用する。評議員会の議長及び副議長は、評議員の互選とし、その任期は1年とする。評議員会は総評議員の3分の1以上出席しなければ決議を行うことができない

第41条 本会はその目的遂行のため、部会及び委員会を置くことができる。

第5章 資産及び会計

第42条 本会に基金を置く。基金はこれに指定せられた寄附金、その他評議員会でこれに編入の決議を行つたものを、これに当てる。

第43条 本会の財産は会長がこれを管理する。但し管理方法に就て評議員会が決議したときはこれに従う。本会の財産又は収入は之を会員に分配することができない。

第44条 本会の経費は会費、基金収入又は事業収入、寄附金、補給金その他の収入でこれを支弁する。

第45条 財産目録及び貸借対照表は、毎事業年度末現在によりこれを調製する。前年度の収支決算財産目録、貸借対照表及び事業報告書は、毎年6月迄に常務理事又は担当理事がこれを調製し、理事会の議決を経て監事に提出しなければならない。監事は前項の書類を受理したときは、これを監査し意見を附して、総会及び評議員会に報告しなければならない。

第6章 解散及び精算

第46条 本会の解散は、総会の議決による。

第47条 清算人は、総会でこれを選任する。清算人は就任の日から6月以内に清算及び財産処分の方法を定めて、総会に提出しなければならない。

附 則

本定款は民法第38条による認可の日から、これを施行する。従前の定款による終身賛助会員はそのままとする。

社団法人日本建築協会細則

（昭和22年11月20日変更同年12月5日実施、24年度に一部変更）〔～印変更個所〕

第1章 支 部

第1条 会員100名以上居住する地方では、支部を設置することができる。支部を設置するには発起人を定め地域を指定し、支部規程案及び賛成会員名簿を添付して本会に支部設置の要求をしなければならない。

第2条 支部地域内に居住する会員は、その支部に属するものとする。但し会員からこれと異る申出あるときはこれに従う。

第3条 支部の会務は、その支部規程によつてこれを執行する。支部規程及びその変更は、支部総会の議決でこれを定め、理事会の承認を経てその効力を生ずる。

第4条 支部規程には、支部に関する次の事項を、記載しなければならない。1. 名称2. 事務所の所在地。3. 地域。4. 事業。5. 総会及び役員会に関する事項。6. 役員の選任及びその権限に関する事項。7. 其他必要な事項。

第5条 支部の経費は支部交附金、寄附金、支部事業より生ずる収入及びその他の収入で、これを支弁する。本部は支部に対して、その支部所属会員の納付した会費の10分の4以内を、支部交附金として交附する。但し特別の場合には理事会の議決を経て、これを増額することができる。

第6条 支部の事業年度は、本会の事業年度に準ずる支部は、毎年2月末日までに次年度の予算を、5月末日迄に前年度の事業並びに決算報告書を本会に提出し、理事会の承認を経なければならない。

第2章 会員及び会費

第7条 正会員として入会するには、正会員1名を紹介者とし、所定の入会申込書に入会金100円を添えて、本会に提出しなければならない。但し定款第9条第2項による正会員は入会金を必要としない。学生生徒が准会員として入会するには、前項の入会金を金50円とする。但し当該学校の在学証明書を提出しなければならない。

第8条 会員種別の変更を希望する会員は、所定の転格申込書を本会に提出しなければならない。但し学生生徒である准会員は、当該学校を卒業と同時に、正会員に転格するものとする。

第9条 定款第14条により指名せられる会員の数は、指名者を含み会費口数と同数以内とする。但し会員1名の口数が経正会員数の20分の1を超えるときは、その超過分に対しては指名することができない。

第10条 1口の会費は次の通りとし、これを年3回以内に分納することができる。1. 正会員――定款第9条第1号による者、年額金960円、但し遠隔の地で且つ支部のない地方の正会員は前記10分の8とする。定款第9条第2号による者、年額金1,000円。2. 准会員――年額金600円。事業年度の中途で入会又は転格した者の会費は月割計算とする。会員に特別の事情が生じたときは、理事会の議決によつて、その期間中の会費の減免、又はその他の措置をすることができる。

第3章 役員及び選挙

第11条 副会長、常務理事、理事及び監事の定数は、次の通りとする。副会長2名。常務理事1名。理事28名監事2名。

第12条 評議員は、次の通り選出する。1. 支部に属せぬ地域の正会員は、その地域の正会員の表決権100個又はその端数毎に2名の評議員を総会で互選する。2. 支部に属する正会員は、その支部所属正会員の表決権100個又はその端数毎に2名の評議員を、支部総会で互選する。評議員の数は、毎年10月末日現在の正会員表決権の数に応じ、評議員会でこれを定める。

第13条 選挙は会長、副会長及び監事は単記、理事及び評議員は選挙する数の半数連記を以て、所定の投票用紙を用い、いずれも無記名投票でこれを行う。投票による選挙で、得票同数の者2名以上あるときは、年長者を以て上位者とする。

第4章 会務及び事務

第14条 理事は互選に依て次の如く分ち、会務を分掌する。主記（13名）事業並びに会務一般。主計（5名）会計。編集（10名）雑誌其他の編集。

第15条 本会の事務を処理する為め、事務局を置く。事務局に局長1名を置き、常務理事を以てこれに充て、事務局を統轄せしめる。事務局には書記長及び職員若干名を置く、その任免並びに事務局長以下の給与は、理事会でこれを定める。

第16条 本会は会報並びに雑誌「建築と社会」を発行する。

第17条 事務局規程、部会並びに委員会規程、その他定款及び本細則施行に必要な規程は、理事会で別にこれを定める。以上 （38頁下段に続く）

事務所変遷

事務所の変遷

創立当時の位置、建物、其後の移転先等、写真掲載の構想であつたが資料難と経費面で割愛した。

創立当時（大正６年９月）今橋２丁目片岡建築事務所内

大正10年５月１日　京町堀　不動貯蓄ビル

大正10年９月１日　絹笠町　大江ビル

大正12年１月１日　堂島浜通　堂島ビル三階一室

大正15年９月15日　中之島　江商ビル四階一室

昭和２年９月15日　土佐堀　大同ビル六階一室

昭和７年５月７日　〃　朝日ビル四階事務室１、クラブ、陳列場、凡100坪

昭和21年12月24日　〃　〃６階（ビルの都合で一室に縮少された）

昭和23年12月19日　天神橋大阪建設会館に分室設置

総会

（法人後は評議員に諮りたるものを総会の決議を得ているので評議員会記と重復の点多し）

大正6年2月　於　魚岩楼　出席39名

本会創立……関西建築家の団結を謀り、相互の意見を疎通して建築会の向上発展を期するに在り。依つて５名の委員を挙げて創立案を委嘱す。総立委員片岡安、武田五一、波江悌夫、池田実、設楽貞雄。

3月 17日　創立委員会合、

会則案の作成。会名……関西建築協会と称す。目的……我国建築界の堅実なる発展を期するに在り。６年度役員……理事長片岡安、理事武田五一、葛野壮一郎、池田実、宗兵蔵。

3月 30日　創立総会、於　大阪ホテル

会則案を配布、本会に附議。オキナ会と合併の事。

7月 13日　於　中央電気倶楽部

会則及び細則案の審議。７年度役員……理事長片岡安理事池田実、波江悌夫、野村一郎、日高胖、松本禹象

大正7年3月23日　於　静観楼

細則１部変更、第12条中、書記は２名とす。倘例会の決議を 3分の1 以上とす。会誌を毎月発行とす。

大正8年1月20日　於、中央電気倶楽部

雑誌表紙応募図案審査会。賞金授与式。７年度決算報告。雑誌会計報告。協会名「日本建築協会」雑誌名「日本建築協会雑誌」とす。

2月 17日　於、中央電気倶楽部

大都市知名有力者を名誉賛助員に推薦の件。

4月 17日　於、中央電気倶楽部

大阪府の建築規則を審議。

6月 12日　於　箕面公園一方亭、春季大会

「渡米所感」と題して日高氏の講演後開宴。

7月 18日　於商品陳列所

「海外視察談」と題して光安氏の講演あり。

9月 18日　於商品陳列所

「市街地建築物法施行令」に就いて。

10月20日　於　商品陳列所

議院設計応募懸賞図案観覧の件。市街地建築物法案に就き意見交換。

11月22日　於商品陳列所

雑誌「建築と社会」改題決議。９年度役員決定。

大正9年5月18日　於、大阪ホテル。春季大会開催

久保田、波江、須賀の三帰朝者歓迎。感想談、晩餐会

10月31日　秋季大会、於　法隆寺

古建築物及宝物を参観。奈良ホテルにて晩餐会。

11月27日　於、建築協会事務所

会則及細則中改廃の件。会則中「理事長は互選する」を加へ会費の件を改正。10年度役員決定。

大正10年4月11日　於、静観楼　春季大会

天沼俊一氏渡欧送別を兼ね宴を張る。

5月 17日　於、本協会事務所

講演会……安井氏「欧米視察談」伊藤氏（日本ペイント）「ペイントの種類並に応用に就いて」

8月 17日

会勢及び博覧会事務報告。耐火構造促進及び本会発展策に就いて討議。11年度役員決定。理事長横浜勉、理事９名。

大正11年1月17日　於、大江ビル集会室

臨時博覧会期設置組織の件。会計会報告。

3月6日　於、本協会会議室

改良住宅博覧会第３回懸賞住宅設計図案当選者、賞金授与式。協会細則変更の件。12年度役員決定。理事長池田実、理事９名。

大正12年1月17日　於、大江ビル広間

副会頭片岡安氏再選。12年度予算報告。前年度剰余金の件。

3月 19日　於、大江ビル広間

「日本建築協会を社団法人となす」との提案。

5月 17日　於、大江ビル集会室

名誉賛助員に4氏推挙の件。大阪府知事井上孝哉、外務部長、内務部長平賀周、府警察部長藤沼庄平、大阪府産業部長児玉考顕。

11月 9日　於、堂ビル207号室

四大都市計画促進に関する件。帝都復興に関する件、名誉賛助員推薦の件。

12月17日　於、大阪中央公会堂二階

会誌表紙図案懸賞金授与式。11年開催住宅改良博覧会役員及び理事に対する記念品贈呈式。会則一部変更改訂の件、帝都復興に関する建議案の件。

大正13年 1 月17日　於　大阪中央公会堂二階

12年度事業報告及収支決算。13年度予算。

5月 19日　於、中山文化研究所

会務其他諸般報告。会則、細則一部変更の件。

11月19日　於、中央公会堂二階

請負入札の方法改善に就て研究討議。

大正14年 4 月17日　於、府立実業会館

建築士法案に対する賛否の件に付討議。

6月 17日　於、府立実業会館

講演……ユニオン石油技師チヤーレス氏。「家屋と道路に就いて」タルボツト氏。活動写真「金庫の耐火及破壊耐力比較実験状況。

9月 25日　於、中央公会堂集会室

社団法人定款及び細則案の細成報告。

10月25日　春季大会、法隆寺奈良方面に見学、懇親会

11月17日　於、府立実業会館

会務報告……福永氏の「欧米視察談」の講演会。

12月17日　於、中央公会堂集会室

雑誌表紙図案懸賞金授与式。

大正15年 1 月25日　於、中央公会堂集会室

14年度事業報告、収支決算報告、15年度収支予算の件会則一部変更（普通賛助員年額金6円を9円に）

3月 24日　於、中央公会堂集会室

講演……下村光衛氏「欧米に於ける建築施行法の実情に就いて」実費精神式施行契約書及び同規定に関し臨時調査委任会設置の件。

5月 16日　春季大会、観心寺河南地方見学。

6月 17日　於、中央公会堂集会室

会務報告。講演「セメント規格統一改正に関して」

9月 17日　於、江商ビル集会室

講演……樋口氏「米国に於ける住宅に就いて」

10月20日　秋季大会於、灘万食堂。

社団法人設立の許可。祝賀会挙行。（来賓）名誉賛助員岩田実成、山口房五郎、本山彦一、杉山又三郎、（余興）旭堂南陵の講談「義侠の仇討」終つて開宴。片岡会頭挨拶、来賓代表本山氏祝辞、委員余興あり。

12月16日　於、大江ビル集会室

雑誌表紙図案懸賞々金授与式、15年度事業報告。

12月23日　於、大江ビル集会室

評議員年数選挙……野呂長四郎外35名。16年度収支予算の件。

昭和2年6月23日　於　中央公会堂

各種委員会追加予算に関する件。

7月4日　於　江商ビル

追加予算金 1,000円可決々定。

12月17日　於　大同生命ビル

懸賞論文「将来の日本の住居」当選者に賞金授与式。

1等賞、加藤善吉氏。

12月27日　於　大同生命ビル

評議員年数選挙……八木幸次郎氏他19名。2年度事業報告、昭和元年度収支決算報告。3年度収支予算の件

昭和 3 年12月22日　於　大同生命ビル

議長片岡安、評議員年数選挙……渡辺圭吾他19名。3年度事業報告、4年度収支予算の件、2年度収支決算報告。

昭和 4 年12月16日　於　大同生命ビル

評議員補欠年数選挙。4年度事業報告。5年度収支予算の件。3年度収支決算報告。

昭和5年 5月 5日　於　大同ビル集会室

定款一部及び細則一部改正に関する件。

11月29日　於　大同生命ビル

4年度収支決算報告。5年度事業報告。6年度収支予算の件。評議員選挙記事なし。

昭和 6 年11月26日　於　大同生命ビル

議長……小宇田副会長。監事選挙……津田敏雄、小笠原銅。評議員年数選挙。6年度事業報告、5年度収支決算報告、7年度収支予算の件。建築熟練職工の失業救済に関する建議の件。

昭和 7 年11月28日　監事選挙、評議員選挙19名。7年度事業報告、7年度収支決算報告。8年度収支予算の件

昭和 8 年11月25日　監事選挙、評議員選挙19名、8年度事業報告及収支決算報告。9年度収支予算の件。

昭和 9 年11月20日　監事選挙、評議員年数改選。9年度収支決算及び事業報告。10年度収支予算の件。

昭和10年11月29日　於　建築協会事務所

監事選挙。評議員年数改選。10年度収支決算及事業報告。11年度収支予算の件。

昭和11年 2 月22日　於、当協会

11年度更生予算の件。細則1部変更の件。有益事業を行う為の幹事会設置（第4条第2項）

11月30日　於、協会

監事選挙、評議員年数選挙。11年度事業報告及収支決算報告。12年度収算の件。

昭和12年11月29日　於、当協会

監事選挙、評議員年数選挙。12年度事業報告及決算報告。13年度収支予算の件。

昭和13年11月25日　於、当協会

監事選挙、評議員選挙。13年度事業報告及収支決算報告。14年度収支予算の件。本会員権藤貢、森本三次、大内重夫の3氏名誉の戦死。黙禱。

昭和14年11月24日　於　当協会

監事選挙、評議員年数改選。14年度決算及事業報告。15年度収支予算の件。細則1部変更の件。（入営、応召、応徴に関する件。第7条）（第8条評議員定員を600名に変更）

昭和15年11月25日　於　朝日ビル

監事、評議員選挙。15年度事業報告及決算報告並びに剰余金処分の件。16年度収支予算の件。

昭和16年5月13日　於　朝日ビル

細則1部変更の件（第5条1項を2項を第1項とし本会は会務及び会誌（建築と社会）を月1回発刊、会員賛助員に配布す）とし第3項は第2項とし現行通り。

11月25日　於　朝日ビル

監事、評議員年数選挙。16年度事業及決算報告。17年度収支予算の件。

昭和17年11月28日　於　朝日ビル

監事選挙、評議員年数選挙。17年度事業報告及収支決算報告。18年度予算の件。

昭和18年11月29日　於　朝日ビル

監事選挙、評議員年数改選。19年度予算の件。18年度収支決算及事業報告。創立25周年記念事業報告。18年度剰余金処分。

昭和19年11月28日　於　朝日ビル

監事選挙、評議員年数改選。19年度収支決算及事業報告。20年度収支予算の件。社団法人日本建築協会戦時措置令設定の件。

昭和20年6月5日　於　朝日ビル

本会戦時措置令、5月15日附大阪府知事より認可。19年度収支決算及剰余金並びに繰越金処分の件。基本金一部経営費に組替の件。記念事業中間報告及び追加予算要求の件。

11月26日　於　朝日ビル

監事選挙、評議員年数改選。20年度事業報告。21年度収支予算に関する件。

昭和21年6月17日　於　朝日ビル

故会長片岡安氏冥福を祈る為に黙禱を捧ぐ。社団法人日本建築協会定款及細則一部変更の件。

10月10日　於　朝日ビル

21年度更生予算に関する件。名誉会員推挙の件。池田実、日高胖氏等13氏。

11月27日　於　朝日ビル

21年度事業報告及収支決算報告。名誉正会員に永瀬狂三氏を推挙の件。

12月19日　於　朝日ビル

監事選挙、評議員年数改選。22年度収支予算の件。京都支部設置に付、本会広告に関する件（大朝、大毎、産経の内一種を選んでも差支えなし。名誉正会員推挙に関する件。伊藤忠太、清水釘吉両氏。

昭和22年11月25日　於　朝日ビル

定款改正に関する件（別紙改正案に依り詳細に説明）22年度事業報告及収支決算報告。工業新聞社と提携の件「建築と社会」発刊に関する件。「建築と社会」が現下の状勢上且つ経済上にも尚紙材面にも発刊容易ならず、以つて会員に満足を与える事困難なるを以つて今般工業新聞社と契約し、月3回同新聞を会員に配布し、協会と共同編集の下に、協会の希望する記事を掲載し、雑誌の1部に代えんとす。尚「建築と社会」は伝統的の物でもあり、別途経済を以つて自給自足の主旨で発刊する計画を樹てる事。従つて一般と同様、有料で希望者に配布する計画。23年度収支予算の件。東海、兵庫、広島、九州各支部設置に関する件。

昭和23年1月31日　於　朝日ビル

監事選挙、評議員年数改選。

昭和24年1月29日　於　大阪建設会館

監事選挙、評議員年数改選、名誉正会員推挙の件。松本儀八、波江悌夫、内藤多仲、清水一雄。22年度決算報告。23年度更生予算の件。

5月24日　於　大林組講堂

23年度決算報告。24年度収支予算の件。顧問推薦に関する件。池田実氏他10名。

昭和25年1月27日　於　大阪建設会館

監事選挙、評議員年数改選（大倉三郎氏他23名）定款1部変更に関する件。会長、副会長並びに理事を以つて民法上の理事とする。評議会員の「承認」を「議決」とする。役員の重任は特別の事情ある時と評議員会で認めた場合は承認される（評議員会議長及副議長は評議員の互選とし、任期を1年とする件）（40条2項）尚附則を（本定款は民法第38条に依る認可の日から之を施行する）（従前の定款に依る終身賛助員はその儘とする）と変更。

昭和26年1月30日　於　朝日ビル

監事選挙。顧問推薦に関する件。評議員年数改選。顧問に正会員藪中一良氏。24年度決算報告。25年度予算及更生予算に関する件。

昭和27年1月30日　於　大阪建設会館

監事選挙、評議員年数改選。25年度決算報告。26年度予算に関する件。

評　議　員　会

昭和元年12月27日　於　大江ビル

議事、監事及常務等選挙の件

昭和2年9月29日　於　大同ビル

1. 事務所移転の件（江商ビルより大同ビルへ）2. 名誉賛助員推薦に関する件（工学博士渡辺譲、第四師団長外、京阪神知事、市長、会議所会頭、電鉄社長等20余名）

昭和２年12月27日　於　大同ビル

議事1. 常務互選の件、2. 理事及び監事選挙の件、3. 会長、副会長選挙の件。

昭和4年1月29日　於　住友倶楽部談話室

議事1. 昭和３年度収支決算の件、2. 剰余金処分の件、尚雑誌価格値下決行に付き会長より了解を求め承認せり。

昭和４年11月28日　住友倶楽部３階小集会室

議案1. 昭和５年度収支予算の件、2. 昭和６年度収支決算の件、3. 協会員除名処分の件、4. 評議員１名補選に関する件、5. 定款改正に関する件。

昭和４年12月21日　於　大同ビル８階集会室

議事1. 理事３名、監事32名選挙. 2. 常務10名互選、3. 会長１名、副会長２名選挙。

昭和４年12月26日　於　大同ビル、ライオン食堂

議事1. 理事及び監事選挙、2. 常務互選、3. 会長、副会長選挙。

昭和５年　於　清交社

議事1. 昭和６年度収支予算の件、2. 会費、賛助費滞納者処置の件。

昭和6年12月5日　於　大同ビル

議事、理事３名選挙。

昭和7年２月５日　於　ライオン食堂

報告1. 昭和６年度収支決算報告、2. 備品の内一部償却の件報告、審議1. 昭和６年度剰余金、並前年度繰越金処分の件、2. 定款改正委員会設置の件。

昭和8年2月13日　於　建築倶楽部

議案1. 大阪商工会議所１級議員候補者として株式会社大林組（代表者大林義雄氏）を擁立推薦あるの件。

昭和8年5月15日　於　建築倶楽部

議案2.「建築研究」発刊に関する件、3. 昭和７年度収支決算報告の件、4. 昭和７年度剰余金処分の件、5. 会費滞納者処分に関する件、6. 定款改正案の件。

昭和９年11月10日　於　朝日ビル

報告1. 関西風水害に関する講演会開催の件、2. 備品一部売却に関する件、3. 都市武装促進事業費中間報告。第10号、15年記念事業決算報告、並残金処置に関する件。第12号、会費、賛助費、滞納者処置に関する件。

昭和10年11月18日　於　朝日ビル

議案第５号、昭和11年度収入予算の件。第６号、会費滞納者整理に関する件。

昭和10年12月４日　於　朝日ビル

議事1. 理事３名選挙、2. 会長１名、副会長２名選挙、3. 常務12名互選。

昭和11年２月12日　於　朝日ビル

議事に入る前に常務評議員三浦尚史氏、終身賛助員中川辰蔵氏は昨日逝去せられたるに就き、茲に１分間の黙禱をす。

議事……議案第１号、昭和11年度更正予算の件。第２号、会費滞納者整理に関する件。第３号、昭和10年度剰余金処分の件。第４号、細則１部変更の件（有益なる事業を行う為幹事会を設置）第５号、臨時総会開会の件、昭和11年度更正予算の件、1. 委員会規定改正の件、2. 昭和10年度決算報告、3. 建築倶楽部物品其他引継に関する件。

昭和11年11月11日　於　朝日ビル

議案第７号本会細則一部変更の件。

昭和11年12月３日　於　朝日ビル

第1、理事３名選挙。第2、会長１名、副会長２名選挙第3、常務12名互選。

昭和12年２月20日　於　朝日ビル

議案第１号、商工会議所員議員候補者推薦の件。昭和11年度決算報告。第２号、昭和11年度剰余金処分の件

昭和12年11月５日　於　朝日ビル

本会普通賛助員大内重夫氏は今回支那事変に於て名誉の戦死をせられたり。依つて１分間の黙禱を捧げ、次で議長より本会として戦死者弔内規を作つたり、詳細説明報告を為す。

議案６号、昭和13年度収入予算の件７号、会費滞納者処置に関する件。理事は登記上本年12月19日を以つて就任する事を附言し、異議なく賛成して決す。

昭和12年12月４日　於　朝日ビル

第1、理事３名選挙。第2、会長１名、副会長２名選挙第3、常務12名互選。

昭和13年11月７日　於　朝日ビル

議案第６号、昭和14年度収支予算の件。第７号、会費滞納者処置に関する件。第８号、常務、評議員辞退に

就き補欠に関する件。常務評議員山手研吾、清水組九州支店に転任の為緊急動議として提案したる旨を述べ、前例に従い年末改選迄補選せざる事に一致可決す

昭和13年12月5日　於　朝日ビル

理事3名選挙。会長、副会長選挙。常務選挙。

昭和14年2月17日　於　朝日ビル

議案第2号、昭和13年度収支決算に関する件。第3号昭和13年度剰余金処分に関する件。

昭和14年7月17日　於　朝日ビル

議案第4号、理事1名補欠選挙に関する件。第5号、常務(主計)1名補欠選挙に関する件。

昭和14年11月6日　於　朝日ビル

議案第6号、昭和15年収支予算の件。第7号、会費滞納者処置に関する件。第8号、評議員補欠選挙に関する件。小宮賢一、中井新一郎両氏今般内務省並神奈川県に夫々転任し、補欠選挙する事に決定す。

昭和14年11月29日　於　朝日ビル

1. 理事3名選挙、2. 会長1名、副会長2名選挙、3. 常務12名互選。

昭和15年1月23日　於　朝日ビル

議案第1号、常務1名補欠選挙の件（元常務米倉威夫氏逝去に伴い1名補欠）第4号、昭和14年度剰余金処分に関する件。第3号、昭和14年度収支決算に関する件。

昭和15年5月9日　於　朝日ビル

昭和15年11月12日　於　朝日ビル

議案第6号、昭和16年度収支予算に関する件。

昭和15年12月2日　於　朝日ビル

1. 理事3名選挙、2. 会長1名、副会長2名選挙、3. 常務12名互選。

昭和16年4月28日　於　朝日ビル

1. 評議員補欠選挙に関する件（評議員須藤員雄氏逝去に伴い補欠は会務に支障なきを以つて補充せず）、2. 細則一部変更に関する件（「建築学研究」誌を廃刊に伴い、細則第5条中変更、細則第10条中事務員の服務規定を明確化の為修正追加、承認可決す）、3. 昭和15年度収支決算に関する件。

昭和16年6月19日　於　朝日ビル

議案第4号、常務1名補欠選挙に関する件（編集常務政岡基次氏後任に増井敏克氏当選）第5号、会費滞納者処置に関する件。

昭和16年11月13日　於　朝日ビル

副会長今林彦太郎氏議長となり定款第24条但書に依り定数不問成立。議案第6号、昭和17年度収支予算に関する件。第7号、会費滞納者処置に関する件。

昭和16年12月4日　於　朝日ビル

1. 理事3名選挙、2. 会長1名、副会長2名選挙、3. 常務12名互選。

昭和17年3月2日　於　朝日ビル

創立25年記念事業予算に関し臨時総会開催の件。評議員補欠選挙執行に関し臨時総会開催の件（池田宮彦氏他5名辞任に就き補欠選挙を行う為臨時総会開催の可否を諮るも残任期少き為賛否両論あり、裁決の結果行わぬ事にす）昭和16年度決算に関する件。

昭和17年7月27日　於　朝日ビル

議案第4号、理事1名補欠選挙の件（理事副会長井上新二氏内務省に転任の為、補欠選挙は前例に依り詮衡委員に依り松本儀八氏が当選後任に決定す。

昭和17年11月2日　於　朝日ビル

議案第5号、昭和18年度収支予算に関する件。第6号会費滞納者処置に関する件。

昭和17年12月3日　於　朝日ビル

1. 理事3名選挙、2. 会長1名、副会長2名選挙、3. 常務12名互選。

昭和18年1月26日　於　朝日ビル

議案第1号「建築学会と日本建築協会」合併の件。議長より今日迄の経過と大要に就き別項の如く詳細に説明あり。進捗差支へなしと認め今後の折衝に就ては理事に一任、具体案を得て更に本会議に提案の上総会に諮る事とす。

昭和18年9月6日　於　朝日ビル

議案第2号、昭和17年度収支決算並に剰余金処分の件報告事項陳列場一部縮少並に事務室、集会室移動の件集会室受扱いに関する件。建築学会との合併問題経過並に本会定款改正に関する件。

昭和18年11月18日　於　朝日ビル

議案第3号、昭和19年度予算に関する件。報告創立25年記念事業中間報告。

昭和18年12月7日　於　朝日ビル

1. 理事3名選挙、2. 会長1名、副会長2名選挙、3. 常務12名互選。

昭和19年2月21日　於　朝日ビル

議案第1号、常務(編集)1名補欠選挙に関する件。選衡委員制に依り後任に浅野新一氏が当選せり。第2号昭和18年度収支決算に関する件。

昭和19年6月5日　於　朝日ビル

議案第3号、常務（主記）1名補欠選挙の件（選衡委員に依り景山正明氏の後任に長尾清一氏当選。報告事項、会誌「建築と社会」に関する件～政府決定の出版事業整備要綱に依り大阪府特高課より「建築と社会」を建築学会の「建築雑誌」に統合「建築と社会」を廃刊方慫慂あり、統合に関する協定事項、会報発行等、本会将来の方針に就き伊藤編集常務より報告あり。

昭和19年11月11日　於　朝日ビル

議長より本会が多年社会に奉仕したる建築資料綜合陳列場は国策順応の為本年8月末日限り之を撤去閉鎖し

た旨諒解を求められたり。議案第4号、昭和20年度収支予算に関する件。第5号、社団法人日本建築協会戦時措置例に関する件。

昭和19年12月12日　於、東区今橋5丁目　丹頂園

昭和20年度理事選挙。会長、副会長選挙。常務互選。

昭和20年5月21日　於　朝日ビル

片岡安氏議長となり昭和19年11月通常総会に於て決議されたる本会戦時措置令は同年12月当局に認可申請中の所、本年5月15日付を見て認可あり。同令第6条に依り定数不問合法成立。

議案第1号、19年度収支決算に関する件。第2号、同年度剰余金、並に繰越金処分の件。第3号、記念事業中間報告並に追加予算案要求の件。第4号、基本金の一部を経営費に組替への件。松久保常務より戦災会員に贈呈する見舞金見込額7,200円並に18年度迄に於ける収支不足約4,800円合計12,000円を基本金より経営費に組替えの件。

昭和20年9月24日　於、伏見町5丁目　銭高組高徳寮

本会戦時措置令により定数不問成立。片岡安議長。議案第5号、常務1名補欠選挙（元常務岡田達弥氏死亡の為、議長一任、長尾清一氏当選。災害地復興、仮設住宅建築の諸問題、建築学会との合併問題等に就き根本的に意見交換。現状に鑑み要研究となる。

昭和20年12月10日　於　朝日ビル

昭和21年度理事、会長、副会長選挙並に常務互選。

昭和21年3月4日　於　朝日ビル

議案第1号、資産管理の方法に関する件。資産管理の方法に関しては定款にも特別の定めがないが現状下に在りて運営上適当なる方法を決定しおく必要に迫られ、その結果会長に一任する事に決定。

議案第2号、仮払金中合併問題に要せし経費を記念事業勘定より支弁するの件。記念事業の一端として本会と学会との合併問題に要せし経費4,856円34銭は解決する迄仮払中の所、本年11月一応中絶する事になり2月末日之を記念事業勘定より支弁処理する旨説明あり。承認。

昭和21年6月4日　於　朝日ビル

議案第3号、社団法人日本建築協会定款及細則一部変更に関する件。定款改正委員長尾崎主記常務より原案に就き現行のものと対照、詳細に説明、質疑に入り維持会員の性格、終身賛助員の存廃、細則の変更等に就き夫々応答、可決確定す。

議案第4号、臨時総会開催に関する件。緊急動議提出議長より故片岡会長告別式経費支出の件。告別式に当り会長関係団体と共同にて挙行。本会負担金4,000円を予備費より支出。承認。

昭和21年8月5日　於　朝日ビル

副会長松本儀八氏議長となり会長補選の重要事項に付き19氏より委任状提出あり。報告、主務官庁に申請中の本会定款一部変更の件は7月26日付を以つて認可されたり。

議案第5号、理事会長補選の件（竹腰健造氏当選）

昭和21年9月27日　於　朝日ビル

会長竹腰健造氏議長となり開会、就任の挨拶あり、委任状含め成立。

議案第6号、昭和20年度収支決算に関する件。第7号昭和21年度更生予算に関する件。緊急動議（尾崎評議員）改正定款第10条に依り名誉正会員の推薦を本評議員会にて決議し、臨時総会に附議されたき事、尚上記該当者の選出は常務会に一任した事、本動議は賛成さる。

昭和21年11月20日　於　朝日ビル

議案第8号、昭和22年度収支予算に関する件。第9号細則一部変更の件。評議員を20名増員し中10名は任期1年、計80名。常務28名に変更。第10号、評議員1名補選に関する件。小西一良氏逝去による補選は運営に支障なき故付はず。第11号、名誉正会員推挙に関する件（正会員永瀬狂三氏は定款に依る適格者として推挙決定。

昭和21年12月13日　於　朝日ビル

議案第8号、昭和22年度収支予算に関する件（前回審議未了のもの）追加議案第1号、名誉正会員推挙に関する件。定款に依り伊東忠太、清水釘吉両氏を推挙する事。第2号、京都支部設置発起人代表者松井清之助氏より申請あり、承認の事。第3号、定款第8条に依る日刊新聞紙を大阪朝日、大阪毎日、産業経済各新聞社の中一社を選出して差支へなき事。

昭和21年12月24日　於　朝日ビル

昭和22年度理事選挙。会長、副会長選挙。常務互選。

昭和22年5月27日　於　朝日ビル

議案第1号、昭和21年度収支決算報告。第2号、京都支部収支予算に関する件。尾崎主記常務より説明、原案通り可決。第3号、広島支部設置方申出の件。

昭和22年8月14日　於　朝日ビル

会長竹腰健造氏議長となり先般就任の常務理事（仮称）西川総一氏を紹介。委任状ともで定数以上成立。

議案第4号、細則一部変更の件。西川常務より説明。（本年8月より実施の予定）細則第7条中　(イ)　正会員、賛助員会費年額「金48円」を「金120円」に変更。但し支部に属せざる地方会員は年額「36円」を「金96円」に変更。(ロ) 準会員会費年額「金24円」とあるを「金60円」に変更。右金額等に就き質疑あるも一応原案通りとし雑誌も出来る限り毎月発行する様、尚様子を見て赤字の時は値上を考慮する事とし原案承認す。

昭和22年11月20日　於　朝日ビル

議案第1号、定款並に細則改正の件。第2号役員選挙

延期の件（新定款認可の時迄延期する事）第3号、建築工業新聞社と提携の件（雑誌の毎月発行は現状に於て至難であり、雑誌は別に考慮する事とし次記要領により建築工業新聞社と提携したし）要領 (1) 建築工業新聞社と日本建築協会と共同編集すること (2) 当分毎月3回発行し、本会員に配布する事。但当分此の部数3千部とする。(3) 会報その他協会編集記事を掲載する事。協会の催し事は此の新聞に掲載されて通知に代へる事。(4) 発送費、原稿料は新聞社負担。(5) 協会は新聞代、送料代等の費用として1年間約20万円前後負担の事、但し此の中1万円は協会斡旋の広告料を以つて支弁の事。(6) 負担額は特別の社会状勢変動なき限り増額せぬ事。但し部数に著しき増減を生じたる時、又は発行回数変更の場合は双方協議の上善処の事（期限付にて契約実行してはとの意見あり、採用本案承認）

議案第4号、「建築と社会」発刊に関する件。雑誌の経営は別に自給自足の方途を講じ、会員にも一般同様有料で希望者に配布する計画を樹て、別途経済で発行の件は是非発刊の意見多く、進捗の事、承認。第5号昭和23年度収支予算の件。第6号兵庫、九州支部設置に関する件。

昭和22年12月22日 於 朝日ビル

議案第2号、入会金実施期日に関する件。第1号、細則に依る評議員選出数決定に関する件（細則第12条）

昭和23年3月29日 於 朝日ビル

議案1号、定款に依る議長互選の件（鈴木末尾氏に決定）2号、定款に依る会長、副会長、理事選任の件。3号、細則1部変更の件。4号、昭和23年度収支予算の件。5号、京都支部地域変更の件。

技術部—池田達雄、岩尾保衛氏以下12名。綜合工事部—大林芳郎、竹中錬一氏他7名。管工事部—城口亀吉氏他3名。電気部—浅海治平氏他3名。建材部—青木友一、志恒正次以上28名。

次に会長1名、副会長2名は詮衡委員の投票により選挙、会長、竹腰健造（当選11票）副会長銭高輝之（当選10票）井上新二（当選8票）

和和23年9月3日 於 朝日ビル

議案1号、細則1部変更の件（入会金の件）正会員入会金20円を50円に（細則7条）准会員10円を30円に改正正会員第1号会費年額240円を480円に、同第2号会費年額300円を1,000円に、准会員会費年額120円を240円に改正す（細則第10条）

議案第2号、事務室一部移転、天神橋分室設置の件。本会事務室狭隘の事、及び建築会館設置委員会の経過と今次設立の大阪建設会館応援経過並に之に合流し一部或は大部分の事務室を上記会館に移転（天神橋元野田屋工場跡二階約25坪）現朝日ビル事務室の件に就き2、3意見ありたるも賛成可決。

議案3号、建築工業新聞配布中止の件。新聞代を月3万円に増額方要求ありたるも財政上許されず。一時中絶したく、実施期を8月か9月限りとするか、理事に一任され度いと説明あり。星氏より「本問題の斡旋者として10月か、本年一杯は継続の温情政策を希む」意見あり結局本案の措置は理事者に一任とす。

議案4号、雑誌並に会報無料配布の件。会費値上に伴い雑誌並に会報を共に年4回以上無料配布の案。前議案と関連あるを以つて理事者に一任。承認。5号、昭和22年度決算報告の件。6号、昭和23年度更生予算の件。7号、任期1ヶ年の評議員半数互選の件。

昭和23年11月18日 於、清水建設大阪支店

議案第1号、細則に依る評議員選出数決定に関す件。第2号、名誉正会員推挙に関する件。清水一雄、内藤多仲、波江悌夫、松本儀八。

昭和23年12月24日 於、大阪建設会館

議案1号、常務理事選任の件（中沢誠一郎氏を選任）2号、細則1部変更に関する件（常務理事2名案を否決。

昭和24年3月29日 於、朝日ビル

議案1号、定款に依る議長改選の件（鈴木末尾氏当選）2号、副会長並に理事改選に関する件。3号、昭和24年度収支予算に関する件。副会長大林芳郎。理事技術小川正以下6名。施工—竹中錬一以下4名。管工堤耕作以下2名。電気—栗原信虎。建材—大西幸七。

昭和24年5月18日 於、朝日ビル

鈴木末尾議長、委任状とも定数以上成立。

議案1号、昭和23年度決算報告。大和書記長より別表に依り説明、収支不足金208,236円95銭は予て建設工業会より受入れの寄附金20万円から科目流用整理せり。妹尾監事より本案は正確の旨証言あり。承認。

議案2号、顧問推薦に関する件。竹腰会長より定款第28条第2項第2号に依る顧問として既往に副会長であつた下記池田実、松本儀八氏等11氏を推薦する旨述ぶ承認決定す。

議案3号、常務理事辞任に就き後任承任の件。竹腰会長より常務理事中沢誠一郎氏、去る3月限り辞任に就き、後任として現書記長大和栄衛氏を推薦する事に理事会で決議したから選任され度い旨述べ、異議なく満場一致で可決す。

昭和24年9月19日 於 朝日ビル

議案第1号、細則一部変更に関する件。竹腰会長より本会の財政状態を別表に依り説明、次の如く会費値上を提示。細則第7条中、正会員入会金50円を100円に細則第7条第2項中、准会員入会金30円を50円に、細則第10条第1項中、正会員第1号会費年額480円を960円に、細則第10条第1項中、准会員第1号会費年額金

240円を600円に（正会員第2号は従前通り1口年額1,000円）夫々値上げした。質問に入り「増額して余裕を生ずるや」に「増額しても会員数の減に依り結局収入の穴埋めとなり収入額に異動なき為、更生予算提出の要なきものと、理事会は解釈せる故、併せて審議願う」と述べ原案通り可決。

昭和24年11月24日　於　朝日ビル

議案第1号、細則第12条に依る評議員選出数決定に関する件。第2号、定款1部変更に関する件「支部長は民法上の理事より除くも役員としては現行通りとする。尚現行通り理事会の構成員として存置し、随つて第23条、第25条は現行通りで変更せぬ事、役員の重任は原則として認めぬ事とするも但書で特例を認むる事、評議員会の副会長は設ける事」修正案次の通りにて承認。第19条第2項を（会長、副会長及び理事を以つて民法上の理事とす）と変更し、第21条第2項として（役員は同一の役員に重任する事が出来ない。但し1案、評議員会で之と異なる議決ある時は此の限りではない。2案、特別の事情ある時は評議員会の議決に従う）を挿入、右但書の決定は理事会に一任の事、同条第2項を第3項と1以下順次繰下げる。第40条第2項を（評議員会の議長及び副議長は評議員の互選としその任期は1年とす）と変更、附則第2項を削除する。附則第3項を（従前の定款による終身賛助会員はそのままとする）と変更、第4項以下を削除する。第3号、細則一部変更に関する件。細則の附則は前変更の際の経過規定で現在その必要なき旨を説明、削除を承認。

昭和25年3月28日　於、朝日ビル

議案第1号、議長、副議長互選に関する件。議長鈴木末尾、副議長中野順次郎。第2号、役員重任に関する件。下記5名は定款に依り同一役員に重任出来ぬが特別の事情ある者として承認を乞う旨述ぶ。承認。竹腰健造、井上新二、鴻池藤一、松村雄吉、佐竹則蓁。第3号、会長、副会長及理事選任に関する件。第4号、昭和25年収支予算に関する件。

昭和25年5月16日　於　朝日ビル

議案第1号和歌山支部設置に関する件。第2号、評議員並に理事各1名補選に関する件。理事会では理事鈴木一幸、長尾清一両氏の辞任を認め、残期間も少い為会務に支障なき故補選せず。第5号25周年記念勘定を一般事業費に振替の件（大和常務理事、別表に依り説明の上、58,422.94円の内より24年度収支不足を補塡し、残りを一般事業費と振替えるもので、既に現金は他に流用又は債券であり、単に科目を整理するに止まる旨説明あり。承認。

昭和26年3月29日　於　朝日ビル

議案第1号、議長及副議長互選に関する件。議長に河合貞一郎氏、副議長に津村重一氏推薦あり当選す（常務理事旅行の為岡田孝男氏仮議長となる）第2号、役員重任に関する件。次記5氏は会の運営上是非重任を煩はす要あり、副会長大林芳郎、理事鈴木一幸、銭高輝之、竹中錬一、藤木正一。議案3号、副会長補選、理事の半数改選（14名）（井上副会長逝去に伴う補選）4号、昭和26年度収支予算に関する件。5号、創立35周年記念事業予算の件。大下主記より別表に依り説明「本予算との関係は」「全く別途会計にて本案収入の一般会員から寄附金を以てする」旨応答あり。承認。

昭和26年11月27日　於、朝日ビル

議案第1号、細則に依る27年度評議員選出数の事。第2号、昭和25年度決算に関する件。第3号、創立35周年記念事業に関する件。大和常務理事、本案は本年3月の定時評議員会に於て予算150万円の承認を得たが、その後社会情勢、新に制定された建築土団体等に関連して本会今後の在り方等、理事会で検討中で従つて静観中である旨述べ、「建築会館建設に関して」東畑副会長より「記念事業に関連して検討中」の説明。議案第4号、常務理事選再に関する件。中野主記より常務理事大和栄衛氏は本年5月18日を以つて任期満了なるも5月9日の理事会にて適任者と認め、再認を議決した故特別事情ありとして承認を要望。承認。

昭和27年3月31日　於、朝日ビル

評議員議長、副議長選任の件。議長河合貞一、副議長益尾辰雄。会長、副会長の理事選任の件。会長竹腰健造、副会長東畑謙三、理事14名。昭和27年度予算案、別紙の通り、議決。創立35年記念事業経過並に予算の変更。諒承。

昭和27年7月29日　於　朝日ビル

電気部門、佐竹則蓁氏逝去に伴う補選。理事1名補選佐藤太氏当選。細則1部変更の件（10条中に個人会員団体会員を加へる）可決。26年度収支決算、財産目録事業報告の件、35年記念事業、中間報告。以上何れも可決。

昭和27年11月29日　於　朝日ビル

細則に依る昭和28年度評議員数決定。名誉正会員推挙の件、議決。今林彦太郎、石田信夫、佐藤四郎、長谷部鎖吉。記念事業、中間報告、承認。

（30頁より続く）

昭和27年7月29日　於朝日ビル　臨時評議員会開催

細則第10条第1号中「定款第9条第1号に依る者」とある次に「（個人会員）」を加える。「定款第9条第2号に依る者」とある次に「（団体会員）」を加える。

会費経路	創立当時	年額	¥	1.00
	大正15年	〃	〃	18.00
	昭和10年11月	〃	〃	12.00
	昭和21年	〃	〃	48.00
	昭和22年8月	〃	〃	120.00
	昭和23年4月	〃	〃	240.00
	〃 23年10月	〃	〃	480.00
	〃 24年10月	〃	〃	960.00

理事会・常務会

任意団体時代の理事、法人后常務会となり22年定款改正后法人理事会となつている。本会の運営は此の役員会がすべての立案、協議后、実行に移る関係上、本項は他に比し出来る限り要点を抜萃した。

理　事　会

——創立より大正15年までの分——

（第1回～9回）

大正6年6月

第3会の例会の決議に依り会則起草会、誌発刊、役員及会員増加、編集員任命に付き協議し、会則起草は池田、葛野理事、会誌発行に関する調査は片岡理事長及び武田理事に託す。

大正7年度

5月　武田理事辞任、後任に瀬戸文吾氏を推す。市要求に掛る建築法規調査は第12部委員会で講究す。

6月　請合見積書提出期日の件。請負手数料金の事。請負保証金徴収の件。

大正8年度

2月　新入会員詮衡の件。新名誉賛助員推選の件。

3月　新任及現任理事分掌の件。辰野博士の御遺族に弔電、弔詞、供花を為す事。弔詞：：本協会名誉賛助員東京帝国大学名誉教授、正4位勲3等工学博士辰野金吾君急然として長逝せられ、是に痛惜哀悼の至に禁じえず、恭しく修典の礼を至し謹んで弔詞を捧ぐ。

5月　都市計画法案及市街地建築法案は、既に法律として公布せられたるを以つて、祝賀の意を表し通俗講演会開催に付、打合せ有りたり。設計者並に請負者との相対関係の現状に付、意見交換す。

12月　細則変更其他の件、雑誌改題に依り表紙図案選択大阪住宅経営株式会社より依嘱に係る、改良住宅設計懸賞募集及審査引受の件。

大正9年度

4月　新事務所併入れに付諸調度購入。書記給仕任用。5月例会を春季大会とし、新帰朝会員及渡米会員の送迎会を兼ねる事に決す。

11月　大阪府開催の市街地建築物法施行細則制定に就ての諮問会に野村、宗両理事出席の件。会則及細則中の一部変更の件（終身会費200円案）

大正10年度

2月　今秋開催の住宅博覧会に就き意見交換。副会頭に片岡安氏、会頭に後藤新平男へ交渉中。10年度予算審議決定す。会員詮衡。

住宅改造博覧会今秋開催の事。

イ、天王寺公園を会場とす。ロ、会期今秋9月20日～10月20日迄。又は来春3月20日～4月20日迄。ハ、予算5万円（寄附金3万円、入場料2万円）ニ、支出5万円）3万円：準備金及施設費、2万円：会場及余興費）ホ、目的：住宅改造の機運を促進する。ヘ、施設：図案懸賞、模型製作、史蹟沿革、家具装飾、建築材料衛生施設、庭園、遊園、講演宣伝、ト、実行方法：準備委員会を組織し委員が当る事。

3月　会費滞納者除名処分に関する事。

6月　市街地建築に対する仮設物建設に就て建築物前歩道上に設置場建築許可を以つて府庁に願出の事。歩道使用許可願の件につき法制委員会を組織し審議する事懸賞審査委員決定。材料見本陳列棚料金並規定制定。

7月　建築材料規格見本を協会事務所楼上に陳列する事。市街地建築に対する仮設物（露台改め）建設に関する建議書の件。

8月　丸屋呉服店の件。博覧会の件。市街地建築施行の為道路の一部に仮設物設置許可建築案の件。雑誌広告割引の件。第1回懸賞図案審査会の件。第2回改良住宅設計図案審査会合の件。道路上仮設物建築に関する建議書の件。本会事務所移転の件。博覧会開設予定地変更の件。属員詮衡。

9月　博覧会敷地の件。

大正11年度

1月　理事互選を以つて分掌を決定。理事長横浜勉、主記内藤太郎、主計瀬戸文吾、編集竹腰健造、野呂長四郎、中西甚作。18年度予算編成の件。博覧会々則の件

臨時理事会　各委員会幹事更迭。博覧会に関する諸事項。大阪計量博覧会へ木材及煉瓦規格見本協出品等に協付議す。

5月　協会出品実物住宅戸数（118戸件の）、協会出品実

物住宅施行に関し請負者との契約の件。本館前庭道路施行の件。

6月　窓枠購入の件。建築材料連合調査会より照会に係る調査会答案の件。7月例会講演者の件。大阪庁舎設計図懸賞募集に付、会員に周知するの件。

7月　三重県教育会及四日市教育会主催、学制領布満50年記念文化展覧会へ規格統一資料出品方の件協議せり。建設工事の隣接営造物保護の件。

8月　竹腰理事渡米に付理事補欠の件。ブルッセル市に於て開催の万国建築家会議の件。8月例会の件。

大正12年度

3月　満洲建築協会の照会に係る満鮮各地視察団の件。

4月　中西甚作渡欧の為役員辞退の件。各種委員会設置の件。（教化、都市、住宅、時事、災害、伝説各委員会）建築材料県連合調査会経費支出の件。

6月　事務所縮少の件。不用物品売却。普通賛助員費増額並に名誉賛助員推薦に付、通信決議に関する件。技術者連合大会に於て各団体委員会常置に付本協会委員選定の件。内藤理事辞任に付補欠選挙の件。職員出張旅限費並上半期賞与の件。本月例会の件。

7月　第4回講習会々催の件。

8月　建築材料見本陳列棚廃止の件。本会事務所移転に関する件。破損陳列棚売却の件。

臨時理事会　本協会事務室を堂島ビルディングへ移転実行の件。人事の件。書記山田静吾氏退職の件。

9月　関東大震災に付本協会の之に対する態度及行動に関する件。（建築工事監督、労務供給の件、大震災調査の件）仮住宅建設に関し簡便なる建築法に付府市に建議の件。震災義捐金寄附勧誘の件。震災地在住会員賛助員見舞状の件。

10月　京都、名古屋地方に於ける講演会開催9件。本夕は大阪朝日新聞社楼上に於て本協会主催、同社後援の下に「関東大震災視察講演会」開催

臨時理事会　名古屋に於ける講演会の件。会員詮衡。

11月　葛野博覧会幹事長及小笠原博覧会幹事より博覧会事務終了に付協会への引継書類提出、剰余金及現品の引継を完了したり。四大都市の都市計画事業促進の件及帝都復興に関する件。11月例会の件。会計事務員（大和採用）の件。会誌表紙図案懸賞募集の件。京都及堺市に於て震災（関東震災）講演会の件。

12月　都市委員会より報告に係る建議案の件。帝都復興に関する建議案の修正したるものに付、審議の上本日の例会に附議。

大正13年度

1月　13年度収支予算の件。財団法人組織委員会開催6件協議。

2月　博覧会本館売却代金収受の件協議。囲碁将棋盤購入の件可決。第4回講習会の件。帝都復興博覧会（建築資料）の件。震火災（関東地方）に依る請負工事損害に関する決議書の件。入会金免除期間の件。

3月　春季大会に関する予算の件。都市改造博覧会開催の件。

4月　会員中西甚作氏帰朝歓迎会の件。

8月　会誌を4、6倍版となす件を可決、明年1月より実施予定。写真機械購入の件可決。

11月　11月例会の件。講演金「塗料に就いて」評議員設置に伴う会則変更下調査の件。

大正14年度

4月　建築法に関する本協会の意見回答案の件。日本建築士会より照会に係る建築士法建議の件。

5月　但丹震災調査員派遣の件。震災通俗講演会の件。協会事務所移転の件。会員詮衡。

臨時理事会　震災通俗講演会の件。

7月　法人組織委員会の定款並細則審議の件。

9月　社団法人組織、定款並細則案愈々決定。

10月　社団法人定款及細則中字句を訂正。社団法人設立申請に関し、設立総代決定の件。秋季大会の件。

11月　大阪記念博覧会出品に関する決算報告。関東震災視察記出版の件。11月例会の件。

12月　構造建築計算調査委員会提出の標準風圧力に関し大阪府へ建議する件。

大正15年度

1月　14年度収支決定の件。15年度事業報告の件。左の諸件と附議決定す。1、構造計算調査委員会より要求事項の件。1、日本建築士会関西支部の家賃に関する件。

3月　1、2月分会計報告。講演（北米に於ける建築施行法の実情に就いて）下浦光衛氏。従来例会通知には往復ハガキを用いしが爾後回答を得て準備を要す以外は通知のみに止む事にす。当分入会金免除に関する通信決議の件。

4月　社団法人設立申請に付、定款並に細則修正案に関する件。先般大阪府内務部より申請書整備方通牒に接したるに依り、横浜市上京の際、内務省に出頭を煩し当局の意向を聞、帰阪後修正したる定款及細則に付再度当局に内示方照会し、今回その回答に接したるに依り之を基とし更に修正したる定款及細則案に付協議決定せり。尚当局内示に基き総会員の委任状募集決議会員詮衡。

5月　修正したる社団法人定款並細則案に付審議の結果一致決定す。実費計算式施行契約書起草連合委員会員選出の件に付、渡辺節氏、安井武雄氏、瀬戸文吾氏決定。会員詮衡。

7月　社団法人設立に伴う委任状蒐集の件。社団法人定款中1部補正の件。日本赤十字社へ住宅模型貸与に関する件、会員詮衡。

9月　飛行大会後援件、本協会事務所移転の件。今回江商ビルディング竣工に付取調中の所、協議交渉の結果移転に決定。会員名簿調整の件。工業新聞に協議記事掲載の件。和田理事より飛行大会の件報告。大阪市建築業協会及本協会連合講習会の件。

11月　社団法人成立許可の件。イ、社団法人設立登記に関し書記より諸種の事項聴取の上登記書類へ捺印し登記所へ提出に決定。ロ、法人設立に付事務引継決定来る11月11日午后灘万食堂にて引継会を開き全部の引継を為す事。雑誌広告一手取扱の件。

常　務　会　——大正15年法人後の分——

理　事　会　——昭和22年12月定款改正後の分——

昭和2年度

1月　佐藤四郎氏照会に係る鉄筋コンクリート床の塗装に付、人造石製造方法の特許権侵害訴訟の件。常務会内規に関する件。

3月　震災に関する通俗講演会。

6月　例会の件。事務所移転の件。賃借期間に対して引払いを江商ビルへ予告の事。職員上半期売与の事。

昭和3年度

1月　委員会規定の部改正の件。会議価格値下の件。原稿　値上の件。雑誌特別号出版及それに関する展覧会開催の件。

2月　展覧会開催調査委員会設置の件。定款改正調査委員会設置の件。雑誌発送中止期間制定。

3月　例会並春季大会の件。第5回全国工業家大会実行委員選定の件。

4月　古代住宅建築研究の為吉村邸見学出張の件。日本建築士会関西支部貸室減額の件。

7月　大阪鉄道株式会社主催住宅設計図案懸賞募集後援の件。展覧会出品物貸与の件。

9月　職工講習会開催の件。9月例会の件。石川県主催建築に関する展覧会開催に対し、出品の件。

12月　4年度収支予算の件。2年度、決算報告の件。今村博士より原稿寄稿を求める為、金500円編輯より支に出決定。

昭和4年度

1月　委員会規定改正（総委員長設置）の件保留。会費低減の件保留。雑誌価格値下の件可決。会費滞納者除名処分取扱規定の件。定款改正の件。火の用心展覧会後援の件可決。

3月　第1部委員長より労働者災害扶助法案に関する陳情書提出決行の承認。

8月　建築学会第3回建築展覧会開催に就いて協会出品の件。評議員会内に建築士法案調査委員設置に付評議員会開催の件。

11月　昭和3年度決算報告の件可決。5年度収支予算の件可決。処務細則1部変更の件。

昭和5年度

1月　4年度収支決算及剰余金処分の件。

3月　大阪朝日新聞社主催産業合理化展覧会に出品の件

4月　定款改正案に付臨時総会開催の件。

7月　第1部委員会より報告に係る大阪府劇場各種取締規則改定意見書建議の件（寄席等も含む）

11月　例月例会の件。6年度予算に関し評議員会を開催の件。6年度常設各部委員会委員の件。大阪都市計画第2防火地区指定促進の為第1部委員会より提出の建議案の件。

12月　病院産院取締規則改正建議案の件。

昭和6年度

2月　ボーリング表出版に関する件。

3月　春秋大会の件。京阪電鉄及大阪時事新報社主催を以つて今秋住宅博覧会開催に付援助の件。

4月　法制委員会より建議に係る都市計画法及市街地築築物法施行10年記念祭参加の件。世界最新建築図案集出版の件。法制委員会報告に掛る失業救済事業に依り建築計画中の建築物の有無問合せの件に付府県町村長宛て文書発送の件。

5月　法制委員会より報告に係る土地区画整理地区に於る公園実施に関し建議の件。会館建設に関する調査委員の件。

6月　学校建築図集第3版発行の件。諸建築懸賞当選図案集発行の件。

昭和7年度

1月　6年度収支決算報告並に剰余金及び減前年度繰越金処分の件。建築相談調査委員会委任選定の件。

2月　評議会八木幸次郎氏病気退会、評議員補選の件。

3月　創立満15年記念事業計画の事。ボーリング表の件。ワ事務所移転の件。

4月　創立満15年記念事業調査委員会設置の件。建築工事現場主任者資格の件。事務所移転準備の件。建築倶楽部設立の件。「市街地建築物法令」発行の件。防空問題の件。郷土建築資料編集の件。住宅設計懸賞図案総大観編集の件。

5月　記念事業実行委員会設置の件。各種雑誌製本の件。本年度常設委員会研究事項を以つて12月号会誌特輯に関し各委員長に予告の件。A、B、C徽章配布の件。定款中常務会出席定数改正の件。協会事務所併入れの件。各種委員会の建築クラブ室使用の件。記念事業実行委員の件。住宅博覧会準備委員の件。役員会及各種委員会食事費に関する件。電話機其の他備品売却差損を償却準備金より塡補する件。7年度予算編成替の件。

6月　職員勤務時間改正の件。朝日ビル404並405号両室併入契約の件。建築クラブへ一部貸室の件。買入備品建築クラブへ賃併の件。7年度予算編成替の件。諸会々費月末取纏め支払の件。朝日クラブへ推薦会員入会申込みに付経費の件。処務細則1部変更の件。創立満15年記念事業部局決定の件。雑誌横組実施期の件。資産運用方に就き中間報告の件。建築士会貸室料値上その他の件。終身賛助員の件。建築クラブより申越の併室及備品併用の件。片岡会長帰阪に付出迎への件。片岡会長寄附金使用途に関する件。

7月　7年度予算の件。請負契約書及工事請負規定改正の件。土木建築会業務調査の件。衛生陶器の標準寸法に付調査報告。

8月　7年度下半期実行予算の件。創立満15年念事業予算の件。

9月　紋章及賞牌の件。15年事業へ金1万円1時振替の件。定款改正案の件。請負契約書及規定に関し代表委員3名選出の件。博覧会総裁及其他職名の件。協会出品住宅請負契約の件。

11月　通常総会に関する評議員会開催の件。建築界失業者に関し、当局に陳情に付建築学会援助方依頼の件。定款改正案の件。8年度予算編成の件。会誌表紙図案懸賞募集の件。住宅博委員長より報告に掛る大美野住博協会出品住宅売約の件。日本土木建築請負業者連合会長より当局へ陳情書を提出に付援助方依頼の件。

12月　記念事業中既往功労者表彰の件。職員下半期賞与並昇給の件。記念事業費より一般会計へ振替の件。緑ヶ丘住宅博覧会未収入金請求の件。大阪駅前整理事業建議案の件。日本建築士会照会に係る建築競技会執行規準草案の件。

昭和8年度

1月　特別会計として取扱の内一般会計に振替の件。7年度剰余金処分の件。定款改正案の件。7年度決算報告の件。

2月　終身賛助員、大林義雄氏を大阪商工会議所議員に選挙援助の件。大阪鉄道株式会社より住宅博覧会開催の申込みの件。

3月　スチールサッシ規格案を材料委員会に附議の件。

4月　大美野住博協会出品住宅売却の件。

6月　法制委員会より報告に係る市街地建築物法令改正建議案の件。満洲建築協会より照会に係る同外る会聯合大会挙行の件。阪和住宅博協会出品住宅建築費支払の件。見学委員会報告に係る満洲見学旅行実施案の件ば緑ヶ丘健険住宅博協会出品住宅に付売渡し価格の件

8月　満洲見学補助金の件。日満鮮14会連合大会に提出協議事項の件。

9月　建材陳列場設置の件。鉄筋コンクリート標準任仕様無書宣伝講習会計画の件。

11月　9年度収支予算の件。建材陳列場収支予算の件。

昭和9年度

1月　緑ヶ丘住宅博覧会出品住宅（2階建）に付会社買取に関し契約方法の件。建材陳列場完成に付常設委員設置の件。

3月　武装都市建設に関し都市計画委員会より報告並建議の件可決。

4月　材料委員会より材料実地見学に付経費要求の件可決。市街地建築物法令第4版刊行の件可決。

5月　大阪附近に於る飛行場見学。都市武装促進委員会より経費金3千円支出方要求の件（可決総会附議）、建築学会より函館市復興対策に関する建議に付援助方の件。

7月　大阪市内に於て聯隊区司令部新庁舎建築に付、之を防空建築として完成方協会依頼の件可決。防空建築委員会を特設する事に決定。

8月　都市計画防火地区の拡大並に促進完成を期する為運動計画の件。

昭和10年度

3月　耐震耐火建築礼替映画製作に関し、脚本を懸賞募集の件。

4月　都市計画委員会より建議に係る大阪都市計画防火地区大拡張の件（委員会附議）同委員会より要求に係るアベノ橋附近改造に関する懸賞募集の件（保留）木材市場品規格調査委員会委員の件。

5月　耐震耐火建築宣伝用映画作成の件。

6月　6月例会の件。教化委員会より学校建築相談所設置の件。鷹取書記退職金其他の件。阿倍野橋附近改造の考案懸賞募集の件に付、都市計画委員会より照会の件（保留）建築に関する映画を調査し、目録作成の件。会員証明書交付の件。

7月　都市武装に関するトーキー脚本懸賞募集の件。会費滞納者処置の件。

8月　台湾建築会他る会等2回連合大会開催の件。名古屋汎太平洋博開催に付援助方依頼の件（承諾）神戸市公会堂、教会塔、土建事業殉職者慰霊塔設計懸賞募集を会議に無料紹介の件（可決）映画製作予算の件（可決）映画脚本懸賞募集に就き会告の件。映画製作特別委員会幹事2名東京出張の件。定款1部改正の件。会

員詮衡。東海建築資料協会発会式挙行報告。評議員会開催日及議事決定の件。実業教育振興委員会より実業教育振興に関し所見照会の件（附議）建築法規に関する質疑応答発表の件。大阪都市美座談会に於る要求問題の件。建築クラブ室を当会座談会として経営に関し回答の件。

9月 建築クラブ併合に関し詮衡委員選定の件。第2回関西四建築会連合大会及台湾博見学希望者募集の件。秋季大会開催の件。今秋挙行の防空演習参加の件。都市武装促進委員会より経費支出要求の件。大阪府市補助金に関し都市武装促進委員会より要求の件。建築年鑑編集委員依嘱の件。11年度「建築と社会」表紙図案懸賞募集の件。建築クラブ併合に付詮衡委員会合の件。映画作成委員会幹事1名東京出張の件。朝鮮総督府よりの懸賞募集を会誌に無料招介の件。青森県立工業学校建築展に図表貸与の件。久田原竜吉氏より鑑定照会の件。

10月 住宅実地見学及旅費支出の件。11年度雑誌表紙懸賞募集の件。11年度予算編成の件。四建築連合大会に於ける本会提出議事の件。評議員会並総会開催日取決定の件。第2回工業博後援方の件。

12月 都市武装促進委員会より映画製作費増額要求の件。四建築連合大会の件。ジャパンタイムス社より後援方依頼の件。学会50年記念事業援助の件。会員選衡。四建築会連合大会及台湾見学報告。建築クラブ合併折衝経過報告。

昭和11年度

1月 1月例会の件（新年宴会）10年度常務会より引継事項の件。委員会規定改正。建材陳列幹事会規定改正。「建築と社会」「建築学研究」編集合其他常設特設委員依嘱の件。旧建築クラブより引継事項処理の件。

2月 2月例会の件。会費滞納者処置の件。評議員会及臨時総会開会の件。建築士会開西支部より事務室使用料減額請求の件。映画被露経費支出の件。旧建築クラブより備品其他引継の件。四建築会連合大会（第3回）本学会創立四周年記念の開催の件。四建築会連合の本部を当会に設置の件（台湾、満洲、朝鮮、本会）3月例会の件。建築年鑑編集委依嘱の件。編集幹事会組織の件。処務細則1部変更の件。陳列場拡張の為事務室変更の件。映画版権の件。会員選衡。

3月 市街地建築物法令第6版出版具申の件。災害強度委員会3名増員の件。地震調査に付旅費要求の件。博多築港記念博土木建築館に参考品貸与の件。春季大会の件。塗装協議会審査員依嘱の件。木材市場品寸法規格案実施促進の件。「建築学研究」の件。会員選衡。

4月 事務室移転費支出の件。改訂第6版市街地建築物法令販売法の件。陳列場柵増設費半額負担の件。全国都市問題会議第5回総会議題の件。普通賛助員中資格ある者に転格勧誘の件。5月例会の件。都市計画委員増員及書籍購入要求の件。建築学研究の件。細則一部変更の件。木材市場品寸法規格案実施促進の件。

5月 日本ポルトランドセメント同業会より小住宅設計懸賞募集依頼之件。陳列場看視人増員の件。名古屋汎太平洋和博より出品依頼の件。

6月 大阪都市計画防火地区図印刷発売の件。会員増加に付臨時会員名簿作成の件。建築講座開設の件。木材市場品寸法規格案を知事に建議の件。陳列幹事長要求の職員東京出張の件。職員上半期賞与昇給の件。

7月 セメント防水剤試験の件。第5回全国都市問題会議総会出席者の件。材料委員会提出のセメント防水剤試験に関する具体案の件。設楽副会長辞表提出の件。関西技術団体協議会の件。建築溶接講座実施委員会特設の件。日本電建依頼の建築講座講師派遣の件。第5回全国都市問題会議総会に提出研究問題に関し回答の件報告。関西風水害に関する調査書刊行に付回答の件報告。

8月 木材市場品規格案に付、実施促進委員会設置の件。第5回全国都市問題会議総会に、代表出席並都市計画委員3名出席要求の件。関西風水害調査書の件。朝日ビル貸室料値上の件。第5回全国都市問題会議総会提出案の件。

9月 関西風水害調査書出版の件。本年度阪神防空演習の件。秋季大会の件関西風水害調査報告書の件。住宅に関する単行本発刊の件。学会建築統計連合委員会の件。新名簿調製の件。

10月 床版加工品規格統一の件。12年度収支予算の件。評議員会、通常総会開催の件。会費滞納者の件。細則一部変更の件。12年度予算の件。評議員会開催日の件。特殊建築物規則の講演の件。学会統計連合委員会の件。暖房設備研究費支出要求の件。小坂住宅地見学会の件。

昭和12年度

1月 日本ポルトランドセメント同業会より申出の懸賞論文募集の件。国際工業大博覧会後援の件。11年度引継事項検討の件。各委員、幹事年数改選の件。委員会、幹事会初会合の件。

2月 常務会引継事項検討の件。雑誌印刷費値上の件。11年度剰余金処分の件。会費請求並取立不能者扱方の件。除名退会者未収会費の件。2月例会の件。大阪商工会議所議員に大林、餓高両氏を業協会と連合にて推薦の件。大阪府下水の施設に付市当局の計画説明を受くる件。市街地建築物法令改訂版作成の件。防空施設研究会の件。名誉賛助員金森又一郎氏逝去の件報告。

3月 関西理工団体連合会本年第1回協議会出席者の件。東京都監査局長より申入れの土地整理事業実績周知方の件。年鑑に関する臨時事務員1名採用の件。11年

度常務会引継事項の件。クラブ室娯楽用具修繕代支出の件。

4月　住宅経営地見学経費支出の件。雑誌印刷請負契約更新の件。建築年鑑の予算其他の件。国際工業博に図表貸与の件。5月例会の件。

5月　倶楽部室什器修繕の件。第2旭ヶ丘土地区画整理組合より住宅博開催に付、主催者は後援依頼の件。財団法人実業教育振興中央会より援助方依頼の件。

6月　建築講座開催に関する立案の件。大阪木材市場関係道府県木材正量取引促進協議会に付臨席方の件。堅枠研究調査費請求の件。鉄材研究経費支出の件。床版規格案の件。学会より木造2階建小学校の構造規準に関する講演会共同主催（又は後援）申越の件。年鑑に関する件。大阪木材市場関係道府県木材正量取引促進協議会出席者の件。

7月　連続鋸屋根に対する風圧の分布状況調査費の件。7月例会並学会申越し講演会の件。都市計画委員協議会に代表出席の件。コンクリート夜間講習会後援の件連続鋸屋根風圧調査費の件、建材暴騰に関する対策研究答申の件報告。建築講座の件。

8月　防空演習参加経費の件。床版規格統一に関し答申の件。朝鮮建築会長より創立15年記念建築展に付設計図案等貸与の件。

9月　防空演習参加経費支出の件。土留工法研究に付経費支出の件。床版規格統一に付再度答申の件。13年度会員名簿調整の件。出征会員留守宅宛書面発送の件。基礎研究会近畿支部事務所を併置願出の件。終身賛助員櫛田藤郎氏より物品寄贈の件報告。

10月　応召会員留守宅書面の件。13年度予算の件。会費滞納者処置の件。支那事変空爆地へ派遣の件。鉄鋼工作物築造許可規則運用に関する意見書の件。

11月　支那事変戦死者表弔内規の件。関西理工団体連合会の件。鉄鋼工作物築造許可規則に関し鉄筋鉄骨使用数量調査の件。上海爆撃状況視察の件。住宅読本原稿作成経費支出の件。支那事変戦死者弔状案の件。上海視察費支出の件。学会、本会其他と工事請負規定に関する連合委員会組織の件。

12月　災害強度委員会より地質調査追加予算要求の件。同上より風圧調査に関する謝礼の件。「建築学研究」予算の件。基礎研究会近畿支部事務取扱の件報告。

昭和13年度

1月　常設委員会委員、幹事会幹事決定の件。引継事項検討の件。会誌寄贈先及交換先整理の件。12年度剰余金処分の件。時事問題研究の件。学会より木材制限規則公布に関し建議の件報告。

2月　電工溶接工技術検定試験方法比較実験写真焼付代予算請求の件。日本技術協会長よりメートルノ元制に関し、会誌掲載依頼の件。時事問題研究の件。女子事務員職名統一の件。

3月　南京防空施設見学の件。第8版改訂市街地建築物法令原稿作成に関し具申の件。上海視察報告書。第2回全国都市美協議会へ提出の原稿の件。非常時立法措置に関する連合委員会の件。会誌印刷請負契約の件。時事問題研究の件。中支方面視察の人選の件。支那事変聖戦博出品の件（大阪朝日主催右博に本会指導、竹中工務店施工、支那防毒室模型を出品する事になる）

4月　南京防空施設旅費の件。借室料値上の件。時事問題研究の件。鉄鋼使用承認票交附規定の件。鉄鋼使用統制の件。鉄鋼使用統制委員会顧問依嘱の件。建築団体各代表者会合の件。建築工事請負規定改正要項案の件。

5月　建築各団体懇談会に出席旅費支出の件。第2回全国都市美協議会出席委員並会費支出の件。満洲建築協会外3会連合大会に学会参加を書面勧誘の件。常務評議員八木憲一氏、村井進氏辞任届出の件。会費滞納者処置の件。白浜実物住宅博の件。

6月　第6回全国都市問題会議総会の件。処務細則1部変更の件。陳列場経費支出の件。燈火管制用暗幕作成の件。処務細則1部変更の件。時事問題研究の件。

7月　第6回全国都市問題会議総会の研究報告書提出並経費請求の件。銅同業者と座談会開催の件。時事問題研究の件。

8月　非常時立法措置に関する連合委員会解散の件。神戸方面災害調査費要求の件。ボーリング表増補原稿完了に付刊行要求の件。全国都市問題会議第6回総会の件。日本ポルトランドセメント同業会主催コンクリート専修講座後援の件。写真版代値上の件。神戸市水害復興資材展示会の件。建築技術者対策の件。国際代用品大展覧会開催に付援助方申越しの件。全国都市問題会議第6回総会出席者の件。ボーリング表増補刊行の件。

9月　建築技術者需給調整に関する学会より回答の件。神戸水害調査報告並経費支出の件。14年度予算編成方針の件。時事問題研究の件。石綿スレートの規格統一に関し工業品統一調査会より照会の件。時事研究問題の件。

10月　14年度予算の件。評議員会、通常総会開催日の件。普通賛助員中会員資格のある者に転格勧誘の件。建築関係法規集録出版要求。建築法規1覧表作成報告及印刷配布方の件。住宅読本作成に付予算組入方の件。市街地建築物法令追加発行の件。学会より技術員紹介に関するる委員会に出席の件。映画「愛の設計図」使用期間延期申請の件。住宅読本原稿謄写刷費請求の件。木材市場品寸法規格統一促進建議の件。防害問題に関する講演会開催要求の件。

11月　評議員並常務辞任申出の件。学会申越しの都市防

空防火講演会の件。全国都市問題会議理事当選の件。大工資格検定試験登録制度制定特別委員会設置の件。学会より申越しの建築関係団体第2回座談会開催に就き出席の件。土留支保工実測写真代要求の件。都市問題会議出席報告並謝礼の件。新評議員会開催日の件。

昭和14年度

1月 委員会規定1部改正の件。各委員、幹事特設委員の件。材料委員会より提出に係る建議案の件。引継事項検討の件。食券発行の件。書記長任命の件（初代大和書記長）常務分担の件報告。西谷書記慰労金募集の件。理事辞任申出の件。常設各委員幹事並特設委員依嘱の件。未収入会費整理の件。

2月 剰余金処分の件。竹中式潜函法映画観覧の件。市街地建築物法令改訂出版の件。教化委員会より大工資格検定試験制度に関する特別委員会設置方の件。

3月 防毒問題講習会開催要求の件。会員章種別を一種とする件。山口県営繕課長より講師派遣依頼の件。給仕採用の件。材料講演会出席の件。

4月 全国都市問題会議14年度予算承認の件。関西産業団体より入会勧誘の件。元評議員児玉広太郎氏香料贈呈の件。雑誌印刷請負継続の件。

5月 災害強度委員（臨時）依嘱の件。
クラブ室幹事長より申出の大会開催の件。

6月 6月例会（アルゼンチナ丸見学の件）図書紹介方依頼の件。

7月 理事及常務各辞任の件。評議員会開催の件。都市防空防火座談会の件。出征会員報告。設備委員会より要求の講演会7月中開催の件（8月例会として開催）1月例会々員意見検討の件。14年度第1回会計検査終了。

8月 徴用令適用者取扱の件。15年度会員名簿調整の件。出征、入営、応徴、報告。

9月 小板書記退職手当の件。全国都市問題会議第7回総会議題決定報告。片岡会長より図書寄贈の件報告。雑誌発行兼編輯人名儀変更の件。広告取扱事務分掌の件。会員台帳様式変更並にカード函購入の件。

10月 学会より忠霊塔設計図案に関する講演会共同主催申出の件。15年度予算編成の件。

11月 用材生産統制規則に関する講演会開催の件。細則1部変更の件。学会より厚生施設展覧会共同主催申出の件。忠霊塔講演会終了報告。木造建築統制規則に関する講演会開催の件。新評議員会開催日の件。

昭和15年度

1月 委員会規定改訂の件。15年度具体方針。会費其他取立不能金補塡整理の件。出征、入営、応徴者の未収会費取扱の件。労務者住宅設計懸賞募集の件。14年度収支決算の件。15年度版市街地建築物法令発刊の件。集団住宅設計図懸賞募集の件。静岡大火調査員派遣の件。元常務八木盛二氏逝去。

2月 紀元2600年記念事業委員会設置並委員依嘱の件。都市問題会議議題研究の件。

3月 片岡会長渡欧歓送会開催の件。災害強度委員より作成発売の件。

5月 建築と社会組方改正の件。全国都市美協議会提出論文印刷の件。満蒙支開発展後援の件。

6月 建築に関する非常時法規解説刊行の件。

7月 第1回会計検査報告。田島応用化工KKより物品寄贈報告。全日本科学技術団体連合会加入の件。訪伊使節団帰朝歓迎午餐会開催の件。本年度上半期の収支実際と下半期予算の件。全国都市問題会議研究議題報告。

8月 都市問題会議収支決算承認の件。都市問題会議出席者決定の件。全日本技術団体連合会代表委員選任の件。建設業協会より職工労銀、材料価格並指数寄贈の件報告。出征、除隊者報告。給仕解傭採用の件。会長より寄附金の件報告。全日本科学技術団体連合会発会式出席報告。学会より防火改修建議案の件報告。

10月 重要都市に於ける建築物防火方策急施に関する建議の件。委員会、幹事会等の報告原稿料支払の件。厚生大臣研究報告出席の件。元常務浦英之助氏逝去に付香料の件。建築用物資配給協議会出席の件。クラブ室大会開催の件報告。16年度予算編成大綱方針の件。日本建築文化展開催の件。会誌表紙変更の件。全国都市問題会議理事任期満了報告。出征除隊者報告。

11月 会費滞納者処置の件。全日本科学技術団体連合会々費負担の件。材料委員会より木材価格の発表並座談会開催の件。排水装置築造内規を会誌に掲載の件。2600年記念事業委員会調査研究案。都市問題会議事務局より総会文献領布方申越の件。建築文化展経過報告。軍需工業経営能率指導講習会終了報告。

12月 役員引継会、慰労会開催の件。建築文化展終了報告。15年度常務会引継事項の件。記念事業委員会経費処置の件。未収入金の内欠損補塡の件。

昭和16年度

1月 16年度実行予算編成の件。集金方法の件。クラブ室門閉室時間改正の件。15年度決算報告。大日本産業報告会創立の件報告。日本技術協会より建議の件報告創立25周年記念事業準備。木材規格建議の件。建材協定価格調査の件。新体制委員会設置の件。15年度実行予算の件。引継事項検討の件。

2月 新体制委員会設置並4会連合会委員選出の件。25周年記念事業の件。企画院科学部長より照会の件。本年度実行予算の件。処務細則変更の件。15年度会計検査終了報告。評議員会提出議題並開催日の件。図書整理並クラブ室一部模様替の件。中川村長より北山丸太に関する依頼の件。防空濠に関する展覧会に対し、本

会より資料提出の件。雑誌体裁変更の件。除隊者報告。

3月，評議員補欠選挙の件。4会連合新体制協議会に出席の件。都市武装促進委員委嘱の件、農林省木材統制課より建具材規格検討方依頼の件。陳列場幹事会より相談所設置具体案提出の件。雑誌印刷請負の件。出征、入営、応召、除隊者報告。都市武装促進幹事委嘱の件。学会と共同にて防空講演会開催の件。建具材規格検討報告の件。

4月　東京能率研究所より防空壕パンフレット出版願出の件。函館今井百貨店より防空壕資料開催に付指導依頼の件。第一土地建築株式会社より防空壕展写真複写方依頼の件。建築連合協議委員会第1回報告。評議員会並臨時総会開催日の件。防空建築施設に関する講演会を学会と共催の件。下関第一土地建築KKより防空壕展写真併用依頼の件。会員戦死に対し弔慰金贈供の件。創立25年記念事業準備委員会設置の件。防空壕展終了報告。

5月　防空建築施設講演会の件。学会長よりメートル基本実施建議の件報告。入営、出征者報告。学会より用材規格建議に付依頼の件。常務辞任、補選の件。

6月　会費滞納者処置の件。

7月　帝塚山学園より住宅展主催依頼の件。建築学研究会より同誌続刊の辞、会誌に掲載依頼の件。織本道三郎氏より「ヂベル」に関する講演会開催依頼の件。A、B、Cに代る新クラブ設立の件。学会より住宅に関すする建議に付援助依頼の件報告。第4回建築連合協会経過報告。建築新体制に関する対策の件。建築標準用語の件。記念事業経過報告。

8月　25年記念事業幹事会設置並幹事委嘱の件。新体制委員会各部会専門委員委嘱の件。16年度第1回会計検査終了報告。記念史編纂委員委嘱の件。記念事業の経費要求の件。

9月　記念誌編纂幹事会経費要求の件、会員名簿調整の件。爆弾弾実験演習参加の件。国民貯蓄組合加入の件。実爆演習調査委員委嘱の件。実爆演習参加経過報告。「建築学研究」続刊挨拶報告。住宅展設計図案入選者報告。

10月　16年度予算大綱方針の件。静岡市より復興霊域計画懸賞募集規定会誌に掲載依頼の件。焼夷弾演習経過報告。17年度予算の件。住宅展に関し帝塚山学園と覚書交換の件。元書記西谷節氏香花料贈呈の件。実爆演習終了挨拶報告。

11月　自衛消防戦斗実験参加の件。建築連合協議委員会より建議の件。名誉賛助員推薦の件。

12月　8日米英に対し宣戦布告に付、会務運行の為緊急常務会設置の件。諸会合時間の件。事務出勤時間繰上の件。事務員宿直の件。全日本科学技術団体連合会より国難打開課題通知。静岡市長より懸賞募集につき再度掲載申越の件。暗幕作成の件。石川県建築文化協会設立の件報告。

昭和17年度

1月　評議員辞任の件。法規発行の件。会費等欠損補塡の件。定款研究の件。16年度より中継事項検討の件。防火改修展開催の件。団体生命保険加入の件。

2月　記念事業振賛金処分の件。記念事業項目予算並委員決定の件。

3月　役員、委員会等会費の件。4会連合建築協議委員会経費負担の件。新体制部会報告。会勢幹事会より会員の福利施設に関する件。都市問題会議総会延期の件報告。会計検査終了報告。

4月　通信費値上りの件報告。附記念事業勘定中間報告。雑誌印刷請負契約の件。南方建設に協力する懇談会開催の件。元常務高橋栄治氏逝去香花料の件。会員より建築訓練所開設に援助懇請の件。

5月　会旗調整の件。海軍大臣宛建議の件。学会招待晩餐会の件。法規抄纂発行の件。定款研究促進の件。海軍技術応募の件報告。井上副会長より菖蒲池厚生住宅展セメント配給の件報告。

6月　警防団及町内会費支出の件。学会申越に係るメートル法建議の件。耐火木材に係る懇談会開催の件。全国都市問題会議総会開催の件。記念事業防空講演会の件。建築必携出版委員別設の件。建築工業新体制要旨建議の件報告。新駅前懸賞募集の件報告。

7月　新体制第5部会案に対する協会意見取纏の件。17年度第1回会計検査報告。

8月　神戸市に於ける防空講演会を兵庫建築協会と共催の件。記念事業経過及収支決算報告。兵庫県建築協会設立の件報告。翼政会より諮問に係る行政事務簡素の件。新体制第5部会東京委員と懇談会開催の件。東海支部設立申出の件。17年度会員名簿調整の件。建築施行組織再編成建議に関し、技術院より通知の件報告。防火改修展終了報告。

9月　クラブ室の件。空襲防火安全装置発明の件。国立公園協会の建議に関する件報告。

10月　会旗募集図案審査の件。木材公定価格に関する建議の件。京都支部設立の件。18年度予算編成並総会日予定の件。学会対協会問題の件。評議員会開催の件。日本ポルトランドセメント同業会よりセメント製章牌寄贈方申出の件報告。

11月　記念事業に関し、評議員会並総会に報告の件。クラブ室に関する件。会費滞納者処置の件。対学会問題に関し既往理事、監事と懇談の件。建築新体制要綱建議の件。南方建築展、学会と共催の件。学会より建築工養成に関する建議に付申越しの件報告。

12月　4会連合協定の工事請負規定の件。学会、協会合併問題協議委員の件。国庫債券購入の件。建築と防空展、金沢市にて開催の件。終身賛助員名儀変更申越の件。元評議員黒沢研氏逝去香花料の件。18年度常務会に引継事項の件。

昭和18年度

1月　評議員会開催の件。陳列場1部変更利用の件。支部設置問題の件。会費取立不能を補塡の件。戦時市民生活科学展賛助の件。学会との合併折衝委員会の件。4会連合請負規定委員会初会の件。片岡会長事業資金の件。

2月　合併問題協議会開催の件報告。木材統制に関する委員会設置の件。合併問題に関する経費の件。17年度決算の件。17年度剰余金並繰越金処分の件。建築協議委員会より報告の件報告。合併問題協議会経過報告。

3月　4合連合請負規定改正の件。女性と住生活展開催の件。両会合併問題の件。顧問弁護士委嘱の件。学会長小林政一氏就任。

4月　大阪市より市民防衛展に資料貸与の件。学会申越の4会連合工事請負規定再検討委員選出の件。合併問題経過報告。17年度会計検査終了報告。

5月　内務省防空局長より建築新体制確立に関し、懇談会開催の件。陳列場南側利用の件。会誌請負契約更新の件。木材統制建議の件。学会合併問題経過報告。

6月　町内会国債及増蓄申越の件。会員戦死に付弔慰金贈与の件。朝鮮建築界より爆風によるガラス破壊実験観覧方申越しの件報告。住友信託の会計検査報酬増額の件は年 450円にて承認契約の件報告。

7月　第7回両会協議会経過報告。学会より住宅用語に関する報告。18年度第1回会計検査終了報告。事務室移転の件。戦力増強対策委員会、実業教育振興中央会より申越の件。

8月　今後の各行事に関する件定款研究の件。建築法規発行の件報告。両会協議会その後の経過報告。事務室集会室移転の件。集合室取扱の件。在バンコック日本文化会館建築設計図案懸賞募集の件。

9月　4会連合工事請負規定調査委員長より成案報告の件。職員徴用の件。

10月　19年度予算編成の件。大林組社長逝去の件。。

11月　19年度予算案の件。予算外支出合併（問題の経費）処理の件。元役員平塚氏逝去に付香花料の件。科学技術関係者業績調査の件。創立25年記念事業報告並完結事業の分に限り決算報告の件。

12月　実業教育振興中央会より文部大臣宛答申の件報告。セメント統制会よりセメント規格改正の件報告。元副会長設楽貞雄氏並元評議員園部茂氏逝去の件。

昭和19年度

1月　学会との合併問題の件。帝塚山学園理事長より菖蒲池住宅展に関する挨拶報告。大阪府建築課長より課名改称挨拶報告。元理事葛野壮一郎氏逝去の件。山口正常務辞任申出の件。雑誌印刷費の件。引継事項検討の件。

3月　合併問題の件。戦時企画委員会より要求の件。日本建築士会より請負規定定価改正方申越の件。記念事業幹事委嘱の件。両会協議委員幹事委嘱の件。戦時企画委員幹事委嘱の件。建築工養成に関する委員幹事委嘱の件。

4月　建築に関する緊急研究題目の件。「建築と社会」の件（出版事業整備要綱に基き大阪府特高課の命に依り廃刊届提出の事。但し3月号は発行承認を求むる事）防火改修促進に関する方策具申の件報告。雑誌統合問題協議会の件。工事請負規定改正案の件。技術院より建築用常用木材規格制定の件通知報告。

5月　常務景山正明氏応召辞任の件。雑誌統合協議会経過報告。学会より雑誌統合問題に関する回答報告。

6月　元評議員姫野氏逝去香花料の件。

7月　長尾清一常務入営に付前后処置の件。

8月　合併問題の件。陳列場廃止の件。事務室移転の件。備品の部並「建築と社会」残本整理の件。学会より雑誌統合に関し謝意の件。常務会定例日変更の件。全日本科学技術団連合会より学会協会機関紙整備打合要領の件報告。

9月　会員戦死者に弔慰金贈与の件。技術院企画部長より日本標準規格送付の件報告。

10月　合併問題再検討の件。終身賛助員須賀藤五郎氏逝去の件。事務室移転せざる事になりたる件報告。20年収支予算の件。当会戦時措置令設定の件。

11月　記念事業計画の件懇談報告。

12月　職員厚生年金保険の件。

昭和20年度

1月　本年度常務会定例日の件。旧冬大阪府を経て提出中の戦時措置令に関する経過報告。

2月　19年度収支決算並剰余金処分の件。20年度実行予算。本会定款戦時措置令申請の件報告。

3月　学会との合併問題協議終了報告の件。技術院企画部長より臨時標準規格送付の件報告。学会長（内藤多仲氏）当選報告通知。

4月　戦災対策の件。罹災会員取扱の件。事務室並備品疎開の件。両会合併問題の件。

5月　朝日ビル特設防護団費値上の件。20年度第2回会計検査終了報告。申請中の戦時措置令15日付認可の内報を受領報告。協会備品に対し、火災保険 5,000円申込の件。罹災会員に対する件は会費の6ヶ月分に相当する額を決定報告。

6月　常務岡田遠弥氏逝去に付補欠の件。記念事業の件

7月　元役員宮本長治氏逝去に付香花料贈供の件。事務員罹災に際し見舞金支給の件。事務員に対し戦争保険並火災保険加入の件。事務員宿直手当支給の件。

8月　菅原顧問弁護士に薄謝並見舞金（罹災）贈呈の件

9月　常務会開催日復旧の件（月二回）時局対策の件。元副会長松本禹象、元監事岡部顕則氏逝去に付香花料贈供の件。朝日ビル事務所の件。

10月　通常総会開催の件。21年度収支予算編成の件（会費値上に依り収支バランスを採る）

11月，合併問題を根本的に再検討の件。集合室会員利用の件。記念事業勘定の件。評議員川勝健二氏戦死に付香料贈供の件。時局対策委員会より調査研究終了報告の件（取扱方理事に一任）

12月　特設委員会（建築教育委員会並建築資材委員会）設置の件。会報発行経営の件。元評議員小西一良氏死去に付弔意の件。常務会引継事項の件。明年度初回常務会日の件。事務員諸手当の件。事務員執務時間の件

昭和21年度

1月　全日本科学技術団体より連合軍司令部宛調書提出依頼の件（本会の現況報告）　引継事項検討の件。

2月　復興住宅展後援の件。朝日ビルより伊室料値上申越の件。合併問題に関し佐野委員長より通知の件（延期申込学会に通知）

3月　評議員会議案の件。「建築と社会」復刊の件。会員中住所不詳者に照会の新聞広告の件。職員給与及処務規程1部改正の件。各会合に要する車馬賃の件。評議員楠瀬徹氏逝去に付香花料贈供の件。復興住宅展表彰式挙行の件。20年度決算報告。

4月　法人臨時財産申告の件。

5月　学長より「メートル法」実施促進方に付協力要望の件。学長より「建築と社会」用紙に関し回答の件。日本設計監理統制組合関西支部より事務所併用依頼の件。日本建築士会近畿支部より「大阪府建築士規則」に関し、協力要望の件。片岡会長病気見舞の件。定款改正委員会より改正案送附の件。故片岡会長慰霊祭）26日死去）挙行の件。評議員会再度開催日並議案追加の件。会長問題の件（当分欠員副会長代行）時局対策委員会より建築行政建議の件。学会より片岡会長逝去に付弔電。

6月　時局対策委員会建築行政部会提出の建議の件。片岡会長追悼座談会の件。片岡家よりタイプライター寄贈に対する謝礼の件。片岡会長告別式経費清算の件。

7月　理事、会長補欠の件。評議員会開催の件。伊入金返済の件。片岡会長追悼号発行の件。

8月　改正定款前後処置の件。関西建築文化連盟より申入の件。元常務小川安一郎氏逝去香料の件。出版幹事会提案事項（故片岡会長追悼号発行の件。）新名簿発行の件。「建築と社会」復刊の件。日本建設工業統制組合より協力依頼の件（建設省設置）報告。時局対策委員会行政部会より建議済の件報告。維持会員獲得法並特賛転格の件。

9月　名誉正会員推挙（天沼俊一氏）　協会今后の活動及事業の根本方針に付竹腰会長提案に依る建築関係団体と提携の事申合せたり。建設省設置に関し学会より通知の件報告。

10月　名誉正会員推挙の件。賛助員正会員に転格の件。「建築と社会」表紙図案募集の件。朝日ビル電話料伊室料値上の件。協会事務所の件。支部並会勢幹事会の件。

11月　名誉正会員推挙の件。全国都市問題会議総会に出席の件。通常総会開催の件。大蔵省銀行局長より第1封鎖預金指定の件回答報告。

12月　再度総会開催の件。建築法に付公聴会開催の件。「建築と社会」発行の件。商工会議所入会の件。事務員下半期賞与並昇給の件。細則1部変更の件。22年度予算案の件。日本標準規格の件。建築法に関する特設委員会設置の件。名誉正会員推挙の件（伊藤忠太、清水釘吉氏）　本会広告紙の件（朝日・毎日・産経の1社）京都支部設立申出の件。22年度へ申継事項。事務室移転（朝日ビル6階）の件。元役員谷隆夫氏逝去、香花料の件。関西経済連合会より本会を評議員に委嘱の件。「建築と社会」表紙図案審査の件。

昭和22年度

1月　常務職員分掌の件。引継事項検討の件。本年度事業計画大綱の件。「建築と社会」表紙図案審査の件。

2月　会館建設の件）進行促進〜事務室伊室料値上の件。経済連合会申越の件。21年度収支決算並不足金の件。部会設置に関し、議構案の件。事務員給与に就て。

3月　電話基本料値上の件。紙購入の件。建築会館建設委員会設置の件。論文並設計図案募集の件（懸賞）学会名称変更「日本建築学会」（2月1日附）の件報告。21年度会計検査報告。

4月　京都支部創立総会開催の件。東海、中国支部問題の件。出版幹事会申出の件。（便覧発行に付）対外事業促進に就いて。日本建築監理協会設立の件。

5月　京都支部予算の件。広島支部設立申出の件。委員会その他規程検討並改正の件。協議会並部会規程作成の件。故片岡会長1周忌の件。終身賛助員鴻池忠三郎氏逝去の。本件年度事業計画に就て。会館建設委員会中間報告。

6月　管工事部会より申出の件。都市復興展（大阪市主催）に出品の件。支部に就て（連絡並取扱に就いて）日本建築学会支部設置懇談会の件。専務理事に西川氏委嘱の件（決定）備品購入の件。常務会定例日変更（第2木曜）都市復興講演会経費要求の件。

7月　会費値上其他増収問題の件（正会員10円、準会員5円）役員、委員等会合交通費改正の件。学会支部問題の件。事務員給与賞与の件。朝日ビルＡＢＣクラブ会費の件。復興展委員委嘱の件。大阪建築復興会と復興に関する座談会開催の件。会費値上実行の件。関西産業復興会議より申越の件。建築工業新聞と「タイアップ」の件。朝日ビル伊室料値上の件。建築便覧発行経過報告。建築会館委員会経過報告。

8月　金融問題検討の件。「建築と社会」出版の件根本的に検討。日本建設工業会解散同大阪支部より金20万

円寄附受領の件報告。広島支部事業の件報告。定款並細則改正草案検討の件（顧問弁護士とも打合せ修正案作成の上改めて附議する事）

9月 兵庫支部設置の件。名誉正会員天沼俊一氏逝去の件。役員、職員旅費規定並事務員早出居残、休日出勤手当改正の件。

10月 22年度通常総会開催の件。名簿調整に関し、指名会員調整の件。維持会員募集並会費徴集の件。会館問題経過報告。定款整備経過報告。

11月 改正定款並細則再検討の件。評議員会並通常総会開催の件。23年度収支予算の件。「建築と社会」発刊の件。電話料値上の件報告。

12月 評議員会開催の件。入会金実施期日の件（23年4月1日より）借室料値上の件。支部に関する件報告。定款認可の件報告。

昭和23年度

1月 通常総会開催の件。職員昇給の件。経済座談会開催の件。近畿地方地震予防の件（技術部に委員会設置の事）「建築と社会」発刊の件。工業新聞社と契約の件。6大都市建築部設置問題。建築界より政治面に進出の事。

3月 運営資金調達方の件。会費改正の件（倍額）23年度予算編成の件。評議員会開催の件。展覧会経過報告6大都市建議事項報告。耐震問題報告。徳山市博覧会の件報告。建築便覧、雑誌発行経過報告。

4月 役員任期決定の件（初年度に限り任期1ヶ年の役員互選となる）理事会務分掌の件。西川常務理事辞任後任の件。新旧役員事務引継の件。便覧売捌方の件。便覧借入金の件報告。技術部会経過の件報告。「建築と社会」発行経過報告。建設院技術研究所より講習会案内の件報告。

5月 会務引継の件報告。各種委員会設置の件。東京方面連絡委員設置の件。上半期賞与並昇給の件。関西経済連合会より部会所属決定依頼の件。主要府県建築部設置に関し回答の件報告建築会館建設の件。（大谷会館―難波別院所属―借入の件を進渉する事にす）建築士会近畿支部より申出の件（鉄筋コンクリート等耐火建築促進運動の発起人となられたし）

6月 4会連合請負規定改正委員選出の件。広島支部22年度決算報告の件。和歌山会務委員会事業の件。会館問題に就て報告。

7月 建築工業新聞より申出の件。日本学術会議会員承認並第6回分科会出席の件。建築標準用語審議の件。会計検査報酬値上の件。全国都市問題会議解散の件。（5月8日）兵庫副支部長岩尾氏見舞の件。福井地方震災調査講演会学会支部と共催の件報告。不燃都市建設運動促進の件。東京連絡員設置の件。4会連合工事請負規定改正の件。建築会館問題、地震対策委員会経過。大阪会勢並和歌山会勢委員会経過。主要都市建築部設置問題の件。

8月 会費値上の件。更生予算の件。大阪建設会館へ移転準備及朝日ビル事務室運営の件。不燃化運動参加の件。京府支部申出の件。（京都府に建築部設置運動方依頼の件）建築技士制度の件（学会長従憑に依る連合会出席の事）会計検査終了。建築部設置運動経過。雑誌発行並便覧経過。一松建設大臣西下に付懇談会開催の件

9月 朝日ビル事務室借料の件。工業新聞とタイアップ中止の件報告。便覧雑誌経過。建設大臣と懇談会経過。学術会議委員会と請負規定改正の経過。

10月 卓上電話機購入の件。共同募金支出の件。住宅金庫の件。支部長会議の件。建築設計競技執行規準検討の件報告。用紙配給の事。本年度第2号「建築と社会」印刷中の件。会報発行の件。不燃都市促進連合会の件。4連合会請負規定の事。

11月 名誉正会員推挙の件（清水一雄、内藤多仲、波江悌夫、松本儀八の四氏）工学協連委員会入会の件。宮脇監事福岡県建築部長へ栄転の件報告。元監事津田敏雄氏逝去の件。新しい家具展開催。会員審査員の件。建築技士問題会合の件。学術会議員推薦の件。第4回セメントコンクリート懇談会の件。建材部会開催の件

12月 事務室1部移転並朝日ビル事務室の件。越年資金の件。職員昇給並賞与の件。常務理事推薦の件（正会員中沢誠一郎氏を推薦し尚書記長大和栄衛氏を常務理事に推薦し、事務局長に任ずる件、評議員会に承認を求むる事）

昭和24年度

1月 中沢誠一郎氏常務理事に就任に付き挨拶あり。通常総会開催の件。朝日ビル借室料並敷金の件報告。建設会館に分室設置の件。関西経済連合会評議員当選。

2月 24年度予算編成の件。新評議員会開催の件。創立記念日の件。支部長会議の件。住宅金庫設置促進の件建設省主催展覧会、講習会の件。燃えない都市展応援の件。報告。広島、九州支部出張経過。不燃都市住宅金庫促進、雑誌1月号より毎月発行の件。

3月 24年度収支予算の件。請負規程委員会に上京出席の件。不燃都市展後援の件。

4月 各委員委嘱の件。春季大会並支部長会開催の件。資料集覧発行の件。23年収支決算並建築便覧決算の件。申継事項検討。常務理事の件（中沢誠一郎氏辞任申出、尚大和栄衛書記長を推挙、評議員会に諮る件。

5月 顧問推薦の件（11氏）評議員会、臨時総会開催の件。春季大会並支部長会議経費の件。大阪商工会議所に入会並関西経済連合会継続の件。

6月 諸規定検討の件。地震対策委員会より経費要求の件。財産目録承認の件。行政、災害、委員会設置の件。支部地域及名称変更の件（広島を中国に）大阪建設会

館併室契約の件。収支不足金を整理の件報告。大阪商工会議所に5月1日入会の件。日本建築士会創立35年記念式に列席の件。春季大会終了並経費支出の件。近畿地方災害救助対策協議会より会長に委員委嘱の件。5月26日前片岡会長3年忌に参拝の件。

7月 大阪府建築代理業審査委員推薦の件（東畑謙三氏）建築業審議会委員推薦の件。大阪日日新聞主催展に出品方申越の件。大丸より「これからの住宅展」開催方申越の件。23年度決算会計検査。

8月 併室料値上の件。委員会委員委嘱の件（建材審査委員設置）事務局規定改正の件。代願人受験講習開会催の件報告。事業委員会経過。主婦の経過24時間展°これからの住宅展経過。教育委員会文化講座開く。「建築と社会」8月号より1日発行に切替へる。

9月 細則1部変更の件（会費、入会金1部改正）更生予算の件。定款改正案懇談の件。事務局係長任命の件。会員名簿調表の件。

10月 定款1部変更の件。建材審査委員会の件。「新しい家具工芸展」審査委員推薦の件。代願人講習会状況報告。定款改正案決定の件。評議員会開催の件。会員名簿調整の件。支部発展策に就て。新会員募集方策の件。入札制度問題の件。学会長と会合の件。建設業審議委員再推薦の件。建築技術者の資格制度調査に付、4会連合委員会建議報告。請負規定委員会経過報告。

12月 木村理事逝去の件。通常総会開催の件。建築基準並同法案回答の件。事務室煖房の件。4会連合工事請負規定の件。職員昇給賞与の件。建材審査経過報告。

昭和25年度

1月 定款字句決定の件。3月30日創立記念日開催の件。大丸展準備の件。入札制度の件（特設委員会は設置せず）創立35年記念事業の件。

2月 展覧会並行政委員委嘱の件（附経費の件）10日会申越の件（会長を顧問に願度）朝日ビル事務室の件。ビニロンフイルム座談会後援の件。25年度収支予算編成の件。

3月 朝日ビル事務室の件。25年度収支予算編成の件。役員中重任の件報告。定款変更認可の件。住宅展経過創立記念日行事。雑誌取引高税の件。4会連合請負規定委員会経過。各支部動向。

4月 旧理事会……事務所問題、決算、申継事項。新理事会……申継事項検討、理事分掌、理事会定員、委員会構成、申継事項中の決算后の処理に就て。

5月 部会構成の件。元理事大西幸七氏逝去補選の件。和歌山支部設立申出の件。評議員会開催の件。名誉会員池田実氏逝去の件。兵庫県施工業組合30年記念及事務員慶事に付祝意。「伸びる家」パンフレット発売の件。各支部提出の予算決算、事業報告。

6月 日本学術会議事務局申出の件（学士院会員推薦の件）和歌山支部規程承認の件。近畿工業高校連盟より申越の件。顧問推薦の件（籔中一良）名簿経過。公庫、基準、工法案6月号掲載の件。24年度決算会計検査終了、以上報告。

7月 理事辞任申出の件(鈴木一幸、長尾清一氏)近畿建築法規委員会特設の件。財産目録承認の件。決算の件

8月 中央建築士審議会委員推薦の件（東畑謙三氏）災害委員長申出の件（不燃住宅建設促進会懇談会開催の件）教育委員長申出の件（簡易耐火構造講習会開催の件）学会近畿支部長申越の件（鉄筋コンクリート造学校建築講習会後援依頼。決定処置方の件。中央建築士審議会経過。併室料値上問題の件。

9月 日本学術会議員候補推薦の件（学会と共同、吉田享二、坂静雄両氏を全国区候補に申合はせ）風水害に関する講演会開催の件（学会、土木学会支部と本会3者主催、大毎後援の下に開催）大林、鴻池両役員渡米歓送会の件（18日会催）風水害対策共同講演会開催計画の件。不燃都市促進に関する建議の件。

10月 建築士無考査問題の件。朝日ビル事務所運営の件。セメント懇談会開催の件。評議員会開催の件。大阪府家具協同組合より新興家具工芸展に審査員推薦方申越の件。竹腰会長追放解除の件。大阪商工会議所議員に市村、松村両氏当選挨拶の件。関西建材会結成式挙行の件。建築新法令講演会開催の件。25年度会員名簿発行の件。本年度上半期に於ける収支状態の件。地震常識パンフレット刊行経過の件。桂、修学院両離宮見学の件。

12月 建築講習会開催の件。朝日ビル対策問題。ジェーン台風記録会誌に掲載の件。創立35年記念事業の件。臨時評議員会開催の件。「建築と社会」誌定価改正の件（60円を80円に）大林副会長、鴻池理事帰朝歓迎の件報告。研究成果刊行費補助金申請書提出の件。神戸市より建築部設置挨拶。

昭和26年度

1月 創立35年記念事業の件（基金募集、会館建設問題は別に委員会を設ける事、事業内容は委員会で検討、本案は3月の定時評議員会に附議の件）通常総会開催の件。井上副会長逝去に付香料の件。大和常務理事病気見舞金の件。

2月 建築講習会経過。天理教東京会館建築設計懸賞競技の件。

3月 定時評議員会開催の件。25年度決算の件。26年度収支予算編成方針の件。創立記念日催事の件。創立35年事業発足の事。大阪市内路面敷使用問題の件。請負規定委員会解散の件。建築講習会終了の件報告。大阪市長宛路面上仮設跨橋設置許可要請の件。26年度収支予算案の件（附記念事業予算案）広告部事務嘱託員並に外交事務嘱託解雇及不議事件の件。

4月 25年度決算、同年度事業報告。新理事会へ申継事項。請負規定連合委員会経費負担並解散の件。

役員及び職員

歴代会長、副会長の面影や、役職名、歴代評議員名等は紙面の都合上割愛した。

役　員

創立委員　片岡安、池田寅、武田五一、波江悌夫、設楽貞雄。

大正6年度　理事長片岡安、理事主計池田寅、理事編集葛野壮一郎、武田五一、宗兵蔵、理事編集主記波江悌夫、設楽貞雄、編集補佐藤四郎、本野精吾、須藤真全。

大正7年度　理事長片岡安、理事主計池田寅、理事編集野村一郎、武田五一、日高胖、瀬戸文吾、理事書記波江悌夫、松本禹象、編集補伊藤正文、佐藤四郎本田登、書記岡部顕則。

大正8年度　理事長片岡安、理事主記宗兵蔵、理事編集野村一郎、設楽貞雄、日高胖、理事主計舟橋喜一松本禹象、編集補波江悌夫、佐藤四郎、伊藤正文。

大正9年度　理事長片岡安、理事主記宗兵蔵、理事編集池田寅、葛野壮一郎、吉井長七、理事主計舟橋喜一、設楽貞雄、編集補波江悌夫、佐藤四郎。

大正10年度　理事長葛野壮一郎、理事主記波江悌夫、理事主計瀬戸文吾、理事編集横浜勉、小笠原鈞、吉井長七、池田寅、吉木久吉、松本禹象、平井三郎、編集補佐藤四郎、副会頭片岡安　(28年2月就任)。

大正11年度　副会頭片岡安、理事長横浜勉、理事主記内藤太郎、理事主計瀬戸文吾、理事編集竹腰健造、中西甚作、野呂長四郎、小笠原鈞、吉木久吉、松本禹象、舟橋喜一、編集佐藤四郎。

大正12年度　副会頭片岡安、理事長池田寅、理事主記内藤太郎、理事主計舟橋喜一、理事編集竹腰健造、中西甚作、野呂長四郎、本田登、佐藤彰介、宮本金七、設楽貞雄、園部文雄、宮本長治。

大正13年度　副会頭片岡安、理事長池田寅、理事主記設楽貞雄、中沢誠一郎、今林彦太郎、理事主計中村琢治郎、松本禹象、理事編集本田登、佐藤彰美、本田二郎、伊藤正文、田中綱、谷口廉児。

大正14年度　会頭片岡安、副会頭宗兵蔵、理事長松本禹象、理事主記園部文雄、和田貞次郎、理事主計吉井長七、渋谷五郎、理事編集伊藤正文、田中綱、古塚正治、光安悌之助、中沢誠一郎、松本儀八。

大正15年度　会頭片岡安、副会頭宗兵蔵、理事長園部文雄、理事主記和田貞治郎、小川安一郎、理事主計渋谷五郎、須川廉太郎、理事編集古塚正治、光安悌之助、池田谷久吉、八木幸次郎、酒井勇三郎。

昭和2年度　理事会長片岡安、理事副会長宗兵蔵、日高胖、監事横浜勉、松本禹象、常務主記坪井誠一、松室重光、阪口芳三郎、常務主計徳政金吾、吉井長七、谷民蔵、常務編集池田谷久吉、波江悌夫、野呂長四郎、八木幸次郎。

昭和3年度　理事会長片岡安、理事副会長宗兵蔵、野村一郎、監事池田寅、松本禹象、常務主記横浜勉、坪井誠一、和田貞次郎、常務主計吉井長七、浦英之助、岡部顕則、常務編集波江悌夫、八木幸次郎、本間乙彦、木村寛一。

昭和4年度　理事会長片岡安、理事副会長宗兵蔵、日高胖、監事池田寅、横浜勉、常務主記徳政金吾、常務主記坪井誠一、波江悌夫、常務主計岡部顕則、吉井長七、酒井勇三郎、山脇友三郎、常務編集池田谷久吉、本間乙彦、松本儀八、古宇田実。

昭和5年度　理事会長片岡安、理事副会長古宇田実、宗兵蔵、監事池田寅、横浜勉、常務主記小川陽吉、木村寛一、坪井誠一、常務主計岡部顕則、山脇友三郎、吉井長七、常務編集高橋栄治、本間乙彦、松本儀八、篠原太郎、徳政金吾。

昭和6年度　理事会長片岡安、理事副会長古宇田実、日高胖、監事波江悌夫、光安悌之助、常務主記小川陽吉、小川安一郎、阪井米吉、松本儀八、森本藤吉常務主計太原芳知、岡部顕則、徳政金吾、常務編集小西一良、高橋栄治、本間乙彦、村野藤吾。

昭和7年度　理事会長片岡安、理事副会長池田寅、武

田五一、監事小笠原鈞、津田故雄、常務主記伊藤宗太郎、小川陽吉、大原芳知、鳥井信、富士岡重一、常務主計岡部顕則、松井清之助、呼子正、常務編輯高橋栄治、中山栄太郎、増田清、森本藤吉。

昭和8年度　理事副会長片岡安、理事副会長池田寅、竹腰健造、監事薄政金吾、松室重光、常務主記阪口芳三郎、鳥井信、内藤良雄、併野貞三、富士岡重一常務主計浦英之助、清水栄二、八木盛二、常務編集今林彦太郎、高橋栄治、中村義雄、堀田猷次郎。

昭和9年度　理事会長片岡安、理事副会長葛野壮一郎松室重光、常務古記今林彦太郎、井上福蔵、浦英之助、中沢誠一郎、渡辺圭吾、常務主計清水栄二、鈴木末尾、平塚鎗吉、編集秋田喜代治、加藤善吉、新名種夫、高橋栄治、監事岡部顕則、富士岡重一。

昭和10年度　理事会長片岡安、理事副会長武田五一、松井貴太郎、監事岡部顕則、渋谷五郎、常務主記池田宮彦、伊藤和夫、北垣熊之介、中沢誠一郎、保田虎太郎、常務主計伊東宗太郎、清水栄二、谷隆夫、常務編集岡田孝男、新名種夫、島田良馨、三浦谷史

昭和11年度　理事会長片岡安、理事副会長設楽貞雄、安井武雄、監事津田故雄、松本禹象、常務主記北垣熊之介、阪口芳三郎、中沢誠一郎、中西六郎、内藤自一、常務主計加田安彦、作間日出生、清水栄二、常務編集新名種夫、島田良馨、本多正道、三浦谷史堀口甚吉。

昭和12年度　理事会長片岡安、理事副会長竹腰健造、松本禹象、監事富士岡重一、渡辺圭吾、常務主記井上福蔵、小川陽吉、中沢誠一郎、中西六郎、樋口辰太郎、常務古計加田安彦、清水栄二、中村義雄、常務編集伊藤正文、新名種夫、堀口甚吉、吉田信武。

昭和13年度　理事会長片岡安、理事副会長竹腰健造、中沢誠一郎、監事清水栄二、古塚正治、常務主記井上福蔵、伊藤和夫、中西六郎、樋口辰雄、山手研吾常務主計鈴木一幸、松井清之助、三浦茂、常務編輯伊藤正文、堀口甚吉、八木憲一、吉田信武。

昭和14年度　理事会長片岡安、理事副会長竹腰健造、中沢誠一郎、監事松本儀八、山脇友三郎、常務主記桐本楠雄、黒田茂、併野貞三、三浦茂、藪中一良、常務主計石川寛三、久保田種吉、松井清之助、常務編集亀井幸次郎、常務編集新名種夫、棚橋諒、堀口甚吉。

昭和15年度　理事会長片岡安、理事副会長今林彦太郎坂静雄、常務主記伊藤正文、北垣熊之助、玉置豊次郎、三浦茂、藪中一郎、常務主計岩尾保衛、桐本楠雄、米倉威夫、監事井上福蔵、鈴木一幸、常務編集亀井幸次郎、北川正弥、棚橋諒、政岡基次。

昭和16年度　理事会長片岡安、理事副会長井上新二、今林彦太郎、監事鈴木一幸、松井清之助、常務主記池田宮彦、北垣熊之介、玉置豊次郎、中西六郎、藪中一良、常務主計桐本楠雄、芝田知重、松久保敬三常務編集大下順三郎、岡田孝男、小林清、政岡基次

昭和17年度　理事会長片岡安、理事副会長井上新二、竹腰健造、監事池田宮彦、鈴木一幸、常務主記桐本楠雄、佐藤正次郎、中西六郎、西沢藤吉、常務主計松久保敬三、藪中一良、小林三造、和田真治郎、常務編集伊藤和夫、大下順三郎、小林清、錦田直一。

昭和18年度　理事長片岡安、副会長竹腰健造、松本儀八、監事鈴木一幸、池田宮彦、常務主記藪中一良中西六郎、堀井啓治、桐本楠雄、佐藤正次郎、常務主計松久保敬三、小林三造、西沢藤吉、常務編集小林清、大下順三郎、錦田直一、伊藤和夫。

昭和19年度　理事会長片岡安、理事副会長竹腰健造、松本儀八、監事池田宮彦、松井清之助、常務主記景山正明、佐藤正次郎、中西六郎、堀井啓治、藪中一郎、常務主計藤坂捨次郎、松久保敬三、三浦茂、常務編集浅野新一、伊藤和夫、中野順次郎、矢田鉄蔵

昭和20年度　理事会長片岡安、理事副会長竹腰健造、松本儀八、監事池田宮彦、松井清之助、常務主記藪中一良、中西六郎、岩尾保衛、佐藤正次郎、常務主計三浦茂、松久保敬三、藤坂捨次郎、常務編集伊藤和夫、中野順次郎、大下順三郎、矢田鉄蔵。

昭和21年度　片岡安（5月逝去）理事会長竹腰健造、副会長松本儀八、池田宮彦、監事宮脇晴美、鈴木末尾、常務主記藪中一良、中西六郎、増井敏克、長尾清一、尾崎久助、常務主計三浦茂、藤坂捨次郎、矢田鉄蔵、常務編集中野順次郎、生田五郎、中島喜平松久保敬三、

昭和22年度　理事会長竹腰健造、理事副会長銭高輝之中西六郎、監事大村巳代治、妹尾一夫、理事主記浅海治平、尾崎久助、木村寛一、鴻池藤一、志垣正次順賀豊治郎、東畑謙三、中島喜平、長尾清一、松村雄吉、元吉勇太郎、藤木正一、藪中一良、理事主計岩尾保衛、大林芳郎、樺田藤郎、佐竹則蓁、菅谷三郎、藤坂捨次郎、増井敏克、理事編集生田五郎、石川純一郎、栗原信虎、城口亀吉、竹中錬一、中野順次郎、野沢幸三郎、西山卯三、常務理事西川。

昭和23年度　理事会長竹腰健造、理事副会長井上新二銭高輝之、監事宮脇晴美、妹尾一夫、理事主記浅海治平、岩尾保衛、尾崎久助、木村寛一、志垣正次、須賀豊次郎、恒岡俊行、野中駒市、羽原徳衛、藤木正一、松久保敬三、松村雄吉、藪中一良、理事主計佐竹則蓁、菅谷三郎、鈴木一幸、辻徳三郎、東畑謙三、理事編集青木友一、池田宮彦、大林芳郎、栗原信虎、鴻池藤一、城口亀吉、竹中錬一、中野順次郎西山卯三、森忠一。

昭和24年度　会長竹腰健造、副会長井上新二、大林芳

郎、(理事主記)青木友一、池田達雄、尾崎久助、大下順三郎、木村寛一、佐竹則蓁、銭高輝之、堤耕作西山卯三、羽原徳衛、藤木正一、松浦勇太郎、松村雄吉、浅海治平、菅谷三郎、鈴木一幸、辻徳三郎、東畑謙三、(理事編集)小川正、大西幸七、栗原信虎、鴻池藤一、竹中錬一、中野順次郎、長尾清一、併秀雄、星広文、森忠一、妹尾一夫、吉田安三郎。

昭和25年度　会長竹腰健造、副会長井上新二、大林芳郎、(理事主記)浅沼猪之吉、尾崎久助、桐本楠雄、佐竹則蓁、銭高輝之、高橋慶夫、滝沢真弓、団野由太郎、藤木正一、星広文、松村雄吉、山田文次、吉田安三郎、(理事主計)大下順三郎、栗原信虎、堤耕作日垣太市郎、(理事編集)小川正、海崎喜美春、小林清、鴻池藤一、白石博三、竹中錬一、伴秀雄、松浦勇太郎、山本竜太郎、監事妹尾一夫、松久保敬三。

昭和26年度　会長竹腰健造、副会長大林芳郎、東畑謙三、(理事主記)浅沼猪之吉、池田達雄、桐本楠雄、小林清、佐竹則蓁、銭高輝之、中野順次郎、伴潔、藤木正一、松村雄吉、山田文次、(理事主計)浅海治平、鴻池藤一、斉藤光夫、鈴木一幸、高橋慶夫、岡野由太郎、日野勝好、吉田安三郎、(理事編集)岡田孝男、白石博三、滝沢真弓、竹中錬一、谷口尚武、日垣市太郎、南長吉、山本竜太郎、(監事)松久保敬三、山邑励二。

昭和27年度　会長竹腰健造、副会長大林芳郎、東畑謙三、(理事主記)青木友一、浅沼猪之吉、伊東五郎、池田達雄、尾崎久助、佐藤太、須賀豊治郎、銭高輝之竹内孝、中野順次郎、伴潔、藤木正一、松村雄吉(理事主計)浅海治平、鴻池藤一、斉藤光夫、鈴木一幸、日野勝好、政岡基次、村田経政、(理事編集)大倉三郎岡田孝男、栗原信虎、竹中錬一、谷口尚武、中村綱、南長吉、山本武雄、(監事)山邑励二、吉田安三郎。

以　上

事務局職員

大正6年度　山本辰次郎。

大正7年度　小谷信蔵、岡部顕則(嘱託)。

大正8年度　江村郊啣(編集)、越山達(会計)(嘱託)武波泰、山崎万寿夫。

大正10年度　江村郊啣、西谷節、山崎万寿夫、清川伊佐、武波泰(会計嘱託)。

大正11年度　江村郊啣、西谷節、大谷政蔵、三谷良造山崎万寿夫、山田静吾。

大正12年度　江村郊啣、西谷節、清川伊佐、山田静吾伊藤二世子、田村春松(嘱託)、大和栄衛。

大正13年度　江村郊啣、西谷節、清川伊佐、大和栄衛伊藤二世子(嘱託)、田村春松(嘱託)、鷹取陽、鷹田夏次郎。

大正14年度　江村郊啣、鷹田夏次郎、西谷節、鷹取陽大和栄衛、田村春松、山口スエ。

大正15年度　江村郊啣、鷹田夏次郎、西谷節、鷹取陽大和栄衛、山口スエ。

昭和2年度　鷹田夏次郎、西谷節、鷹取陽、大和栄衛山口スエ。

昭和3年度　鷹田夏次郎、西谷節、鷹取陽、大和栄衛川崎虎之助、山口スエ、高谷まさ、深町俊子。

昭和4年度　西谷節、三宅保男、鷹取陽、高橋靖、大和栄衛、山口スエ、高谷まさ、深町俊子。

昭和5年度　西谷節、三宅保男、鷹取陽、高橋靖、大和栄衛、深町俊子、土屋ふみ、家鋪文枝、曽我佳音。

昭和6年度　西谷節、三宅保男、鷹取陽、大和栄衛、土屋ふみ、家鋪文枝、曽我佳音、南田鶴。

昭和7年度　西谷節、三宅保男、鷹取陽、大和栄衛、家鋪文枝、曽我佳音、南田鶴。

昭和8年度　西谷節、三宅保男、鷹取陽、大和栄衛、家鋪文枝、曽我佳音、南田鶴。

昭和9年度　西谷節、三保深男、大和栄衛、南田鶴、戸川弘、吉田仲子、小坂常男、山北保郎、長沢発太郎、栗本利代、平本花子。

昭和10年度　西谷節、大和栄衛、南田鶴、戸川弘、吉田仲子、小坂常男、山北保郎、長沢発太郎、栗本利代、平木花子、植田志津子、井上常、中村サワ子、井上喜美。

昭和11年度　西谷節、大和栄衛、戸川弘、吉田仲子、小坂常男、山北保郎、長沢発太郎、栗本利代、平木花子、植田志津子、井上常、中村サワ子、井上喜美。

昭和12年度　西谷節、大和栄衛、戸川弘、小坂常男、山北保郎、長沢発太郎、栗本利代、平木花子、植田志津子、井上常、近藤寿賀子、渡辺繁子、大西拡子

小田みゆき、山本房江。

昭和13年度　西谷節、大和栄衛、戸川弘、小坂常男、植田志津子、大西拡子、小田みゆき、山本房江、山内潔水、水野まさを、白江ミネコ、渡部文子、西村貴代恵、

昭和14年度　大和栄衛（書記長）、戸川弘（編集）、小坂常男、植田志津子、山内潔水、小野まさを、石田雅美、林カク子、小川好江、石原房子、三島マスエ。

昭和15年度　大和栄衛、戸川弘、近藤スガ、小坂常男石田雅美、山内潔水、田畑辰五郎、代田静枝、藤井精二、豊島悦子、松浦久子、阿部香、寺浦北奈子。

昭和16年度　大和栄衛、近藤スガ、戸川弘、石田雅美山内潔水、片木宇佐男、田畑辰五郎、代田静枝、藤井精二、松浦久子、竹内美代子、綱島敏枝、豊岡種子、福島貞子、山形憲一。

昭和17年度　大和栄衛、近藤スガ、戸川弘、松井芳藤高林芳、小野正夫、浅倉、、奥弘綱、成宮九一、阿部香、永田チヨ子、杉本セン、田スミエ、加藤、福島貞子。

昭和18年度　大和栄衛、近藤スガ、戸川弘、板井泰一田中清子、福地和子、東本、　柳谷久栄。

昭和19年度　大和栄衛、近藤スガ、戸川弘、柳谷久栄山下。

昭和20年度　大和栄衛、戸川弘、柳谷久栄、勝田貞子。

昭和21年度　大和栄衛、戸川弘、柳谷久栄、勝田貞子新田英夫、祖川重文、徳光。

昭和22年度　大和栄衛、戸川弘、西川理事、祖川重文、新田英夫、徳光、柳谷久栄、九西。

昭和23年度　大和栄衛、戸川弘、新田英夫、祖川重文柳谷久栄、石本博、高原、黒木、東出清光、福永喜一。

昭和24年度　大和栄衛（常務理事となる）、戸川弘、新田英夫、福永喜一、石本博、下河原、川口美代子岡野幸子、森本、祖川重文、東出清光、籠谷、（臨時）中村千恵子、板井。

昭和25年度　大和栄衛（常務理事）、戸川弘（庶務係長）、新田英夫（会計係長）、沖田誠一（編集係長）、石本博、川口美代子、岡野幸子、東出清光、中村千恵子、西田亀次、児島育子。

昭和26年度　大和栄衛（常務理事）、戸川弘、沖田誠一、安達英男、岡野幸子、山田唯美、平木郁子、朝倉純子、児島育子、（広告）東出、西田、吉田。

昭和27年度　（常務理事）大和栄衛、戸川弘、山田唯美、岩下明正、鹿内武三、（会計）安達英男、平木郁子、（編集）沖田誠一、朝倉純子、児島育子、（広告）東出、吉田、（集金）宇都宮、安原。





会　員　動　勢

年　度	正会員	地方会員	名誉（賛助員）	終身（賛助員）	特別（賛助員）	（准）普通（賛助員）	合計(名)
大正 6年	74						74
〃 7年	126	28	17	35	10	232	448
〃 8〃	170	49	64	39	9	243	574
〃 9〃	187	62	60	43	12	287	651
〃 10〃	205	78	71	51	17	344	766
〃 11〃	249	81	67	57	25	415	894
〃 12〃	271	104	71	55	29	477	1007
〃 13〃	357	152	78	56	31	513	1197
〃 14〃	378	175	70	54	26	513	1216
〃 15〃	411	193	69	53	31	459	1216
昭和 2年	409	199	80	52	30	354	1124
〃 3〃	394	204	79	53	33	345	1018
〃 4〃	377	223	44	52	38	366	1103
〃 5〃	423	218	43	52	54	341	1131
〃 6〃	450	224	40	52	68	363	1197
〃 7〃	511	226	39	51	94	495	1416
〃 8〃	476	232	38	49	125	494	1414
〃 9〃	501	230	35	48	134	513	1461
〃 10〃	534	287	33	45	132	501	1532
〃 11〃	822	308	27	42	158	463	1820
〃 12〃	932	335	23	38	176	480	1985
〃 13〃	不明						
〃 14〃	892	361	23	37	175	532	2020
〃 15〃	1423	666	22	38	279	439	2871
〃 16〃	1429	690	26	39	324	481	2989
〃 17〃	1502	745	26	39	365	496	3173
〃 18〃	1495	721	26	38	329	485	3094
〃 19〃	不明						
〃 20〃							
〃 21〃							

年　度	名誉（正会員）	顧問	正会員	地方会員	准会員	団体会員	合計(名)
昭和22年	16	—	2728	848	—	1524 (250)	5116
〃 23〃	15	—	2255	251	—	2038 (500)	4559
〃 24〃	18	11	2078	236	—	1573 (811)	3916
〃 25〃	15	10	2344	262	199	1417 (501)	4262
〃 26〃	15	11	2363	248	199	1380 (547)	4216
〃 27〃	15	11	2258	229	197	1488 (615)	4198
〃 28年 4月現在	17	11	2174	214	167	1476 (611)	4069

（連絡不詳のものは含まず）

東海支部　22.12.13 支部長玉置豊治郎
兵庫支部　22.11.14　〃　吉田信武
和歌山支部　23. 4.17　〃　栗林一馬
京都支部　22.4.13 支部長大倉三郎
中国支部　22.4.17　〃　藤田定市
九州支部　22.12.4　〃　宮脇晴美

財　政　状　況

創立当時は1ヶ年1千円内外の収支であつたのが法人後、年5万円程度となり、27年度に於て、経常 600万円、特別会計を含めば1千万円を突破している。創歴年詳細記録や、グラフ、係数も記載の予定であつたが資料不詳のものあり、紙面の都合で簡略し中間を省略した。

大正6年度

収入の部

会費 ¥523.50　寄附金 ¥149.53

雑誌収入 ¥596.36　収入合計 ¥1,269.39

支出の部

事務費 ¥215.19　手当 ¥25.00

事業費 ¥356.17　雑誌費 ¥1,076.65

支出合計 ¥1,673.01　不足金 ¥403.62

大正7年度

収入の部

会費 ¥1,704.73　寄附金 ¥50.00

雑誌収入 ¥3,867.66　収入合計 ¥5,622.39

支出の部

事務費 ¥380.09　事業費 ¥1,255.84

手当 ¥175.00　雑誌費 ¥6,948.19

支出合計 ¥8,659.12　不足金 ¥3,036.73

前年度不足額繰越金 ¥403.62　計 ¥3,440.35

大正8年12月末現在

基金総額（収入） ¥11,334.62　支出不詳

内訳　既収寄附金額 ¥11,125.00

利子 ¥209.62　合計 ¥11,334.62

大正9年度決算12月末現在

負債の部（貸方） 基本金 ¥16,900.00

利子勘定 ¥2,700.44　¥31,037.95

事務所設備費寄附金 ¥2,584.00

雑収入 ¥128.50　合計 ¥254,167.35

資産の部（借方） 雑誌保証金 ¥935.00

王子製紙会社口債 ¥4,500.00

事務所設備費 ¥1,217.88　江村郊邦 ¥50.00

仮払金 ¥383.60　振替貯金 ¥76.89

銀行預金 ¥15,558.58

前年度繰越不足金 ¥2,441.92

本年度不足金 ¥252.85　合計 ¥25,416.73

大正10年度

負債の部（貸方） 基本金¥ 21,800.00

寄附金 ¥3,218.50　仮受金 ¥12.00

剰余金後期へ繰越 ¥2,406.42

合計 ¥27,436.92

資産の部（借方） 有価証券 ¥4,500.00

雑誌保証金 ¥935.00　振替貯金 ¥716.16

銀行預金 ¥16,713.50　仮払金 ¥1,712.63

事務所設備費 ¥2,604.63　未収入金 ¥255.00

合計 ¥27,436.92

博覧会勘定貸方

寄附金 ¥32,500.00　合計 ¥33,500.00

博覧会勘定借方　総支出金 ¥7,462.57

銀行預金 ¥26,037.43　合計 ¥33,500.00

昭和元年度

負債の部（貸方） 基本金 ¥45,929.95

未経過収入金 ¥463.09

備品償却準備金 ¥159.31

未収入補塡準備金 ¥8.09

職員退職積立金 ¥200.00　繰越金 ¥2,958.07

仮受金 ¥59.39　合計 ¥49,777.90

資産の部（借方） 備品 ¥3,803.44

有価証券 ¥13,100.00　保証金 ¥1,490.00

銀行預金 ¥25,725.82　振替貯金 ¥516,94

現金 ¥1,022.83　未収入金 ¥2,845.60

経常費 ¥1,272.87　仮払金 ¥40

合計 ¥49,777.90

繰越金処分　15年度経常費不足額 1,272,87 を補塡 ¥889.07とす。

残高 ¥796.13を次年度繰越金とす。

昭和5年度12月末日現在

負債の部（貸方）

基本会 ¥47,000.00

職員退職手当準備金 ¥900.00

事業準備金 ¥1,106.62

前年度繰越金 ¥2,717.44

備品償却準備金 ¥1,449.31

未経過収入金 ¥368.02

経常費 ¥167.32　未払金 ¥110.20

合計 ¥53,818.91

資産の部（借方）

備品 ¥4,068.54　未収入金 ¥3,872.54

仮払金 ¥1,353.35　有価証券 ¥13,039.21

保証金 ¥1,435.00　銀行預金 ¥28,598.03

振替貯金 ¥850.08　現金 ¥602.16

合計 ¥53,818.91

昭和10年度12月末現在

負債の部（貸方）

基本金 ¥44,500.00

事業準備金 ¥2,054.25
前年度繰越金 ¥2,120.32
備品償却準備金 ¥32.24
収入欠損補塡準備金 ¥1.03　仮受金 ¥1.14
映画寄附金 ¥2,130.00
未経過収入金 ¥3,196.02
未払金 ¥202.00　収支勘定 ¥1,891.26
合計 ¥56,128.26

資産の部（借方）

備品 ¥1,901.53
未収入金 ¥3,557.37　仮払金 ¥812.60
有価証券 ¥13,039.21
保証金 ¥935.00
銀行預金¥ 30,310.76
振替貯金 ¥1,635.37
現金 ¥777.94
建築法規発行勘定 ¥161.15
武装勘定 ¥2,553.67
近畿風水害費 ¥443.66
合計 ¥56,128.26

昭和15年度

負債の部（貸方）

基本金 ¥46,620.50
職員退職手当準備金 ¥2,450.00
事業準備金 ¥1,427.32
前年度繰越金 ¥187.25
備品償却準備金 ¥1,495.56
収入見積補塡準備金 ¥112.48
仮受金 ¥10.96　朝日クラブ勘定 ¥12.00
平岡会長事業資金 ¥2,000.00
合計¥ 55,369.35

資産の部（借方）

備品 ¥3,428.13　未収入金 ¥2,952.86
仮払金 ¥980.11
有価証券 ¥13,650.00
保証金 ¥935.00
銀行預金勘定 ¥28,400.88
振替貯金 ¥2,752.24
現金 ¥388.91
図書発行勘定 ¥126.17
収支勘定 ¥1,755.05
合計 ¥55,369.35

貸借対照表　自昭和22年度—至昭和27年度

昭和二十二年決算報告

昭和二十三年三月三十一日現在

借方	勘定科目	貸方
	基本金	47,672.65
	職員退職手当準備金	10,530.00
	事業準備金	1,427.32
3,963.63	備品	
	備品償却準備金	2,546.16
12,717.10	未収入金	
	収入欠損補塡準備金	12,454.17
10,240.00	仮払金	
21,951.00	有価証券	
32,762.81	信託預金	
2,662.85	振替貯金	
2,356.27	当座預金	
4,637.37	現金	
14,763.21	特別当座預金	
216,365.19	便覧発行勘定	
	創立二五年紀念勘定	79,580.38
249.12	郵便貯金	
42,501.01	前年度不足金	
8,880.00	敷金	
	事業資金	200,000.00
	借入金	10,000.00
	収支勘定	10,018.88
274,229.56	合計	274,229.56

収支内訳

借方	科目	貸方
	収入之部	
	会費	570,190.75
	雑誌収入	90,800.00
	雑収入	4,884.78
	別途収入	280,400.00
	支出之部	
22,487.68	事務所費	
63,760.00	会議費	
303,947.70	雑誌費	
181,517.98	事業費	
151,134.40	事務費	
187,194.50	諸給費	
13,000.00	準備金	
13,214.39	予備費	
10,018.88	差引収支	
946,275.53	合計	946,275.53

昭和二十三年決算報告

昭和二十四年三月三十一日現在

借方	勘定科目	貸方
	基本金	47,672 65
	職員退職手当準備金	19,530 00
	事業準備金	1,427 32
22,913 63	備品	
	備品償却準備金	3,546 16
	収入欠損補塡準備金	908 77
7,210 00	仮払金	
21,951 00	有価証券	
5,260 30	振替貯金	
2,356 27	当座預金	
2,773 02	現金	
21,855 95	特別当座預金	
	創立二五年記念勘定	58,422 94
514 72	郵便貯金	
38,436 00	敷金	
	事業資金	200,000 00
32,482 13	前年度不足金	
175,754 82	収支勘定	
331,507 84	合計	331,507 84

収支内訳

借方	科目	貸方
	収入之部	
	会費	1,248,872 93
	雑誌収入	609,366 00
	雑収入	11,023 63
	後援会費	22,800 00
	支出之部	
81,454 34	事務所費	
114,049 95	会合費	
826.414 55	雑誌費	
91.468 50	事業費	
411,001 95	事務費	
395,918 00	諸給費	
11,000 00	準備金	
41,689 00	予備費	
94,821 09	支部経費	
	差引収支	175,754 82
2,067,817 38	合計	2,067,817 38

昭和二十四年決算報告

昭和二十五年三月三十一日現在

借方	勘定科目	貸方
	基本金	48,672 65
	職員退職手当準備金	56,030 00
47,558 63	備品	
	備品償却準備金	6,546 16
	未払金	27,550 00
47,058 13	仮払金	
	仮受金	120 00
20,351 00	有価証券	
14,000 00	定期預金	
8,280 77	振替貯金	
27,086 50	当座預金	
1,633 53	現金	
19,746 60	特別当座預金	
	名簿発行勘定	106,900 00
	創立二五年記念勘定	58,422 94
1,970 90	郵便貯金	
8,236 95	前年度不足金	
79,112 50	敷金	
22,097 00	支部預ケ金	
	伸びる家パンフレット発行費	2,800 00
8,909 74	収支勘定	
306,041 75	合計	306,041 75

収支内訳

借方	科目	貸方
	収入之部	
	会費	2,481,350 07
	雑誌収入	1,522,881 00
	雑収入	44,905 69
	後援会費	62,000 00
	支出之部	
228,867 52	事務所費	
136,363 17	会合費	
1,814,410 10	雑誌費	
191,209 18	事業費	
638,252 23	事務費	
755,960 00	諸給費	
53,000 00	準備金	
26,900 00	予備費	
275,084 30	支部経費	
	差引収支	8,909 74
4,120,046 50	合計	4,120,046 50

昭和二十五年決算報告

昭和二十六年三月三十一日現在

借方	勘定科目	貸方
	基本金	47,672 65
	職員退職手当準備金	94,180 00
	事業準備金	41,276 25
56,289 33	備品	
	備品償却準備金	8,066 86
	収入欠損補塡準備金	40,000 00
19,000 00	仮払金	
	仮受金	8,000 00
70,000 00	諸準備引当預金	
51,732 62	振替貯金	
474,990 09	当座預金	
13,178 03	現金	
	未経過収入金	367,139 00
1,801 31	特別当座預金	
	未払金	198,123 60
2,578 00	創立三五年記念勘定	
3,332 93	郵便貯金	
109,604 00	敷金	
1,952 05	本年度収支勘定	
804,458 36	合計	804,458 36

収支内訳

借方	科目	貸方
	収入之部	
	会費	3,057,441 36
	雑誌収入	1,746,098 00
	雑収入	103,105 29
	後援会費	138,000 00
	図書収入	26,648 00
	支出之部	
348,933 80	事務所費	
52,866 00	会議費	
2,915,695 40	事業費	
630,734 50	事務費	
983,270 00	諸給費	
92,000 00	準備費	
49,745 00	予備費	
	差引収支	1,952 05
5,073,244 70	合計	5,073,244 70

昭和二十六年決算報告

昭和二十七年三月三十一日現在

借方	勘定科目	貸方
	基本金	47,672 65
	職員退職手当準備金	99,536 80
	事業準備金	41,276 25
60,939 33	備品	
	備品償却準備金	10,066 86
	収入欠損補塡準備金	40,000 00
62,858 00	仮払金	
	仮受金	3,860 00
147,000 00	諸準備引当預金	
227,998 29	振替貯金	
38,945 19	当座預金	
17,216 93	現金	
	未払金	159,033 00
231,192 00	敷金	
1,952 05	前年度収支勘定	
	請負規程頒布勘定	25,041 00
	未経過収入金	295,891 00
	本年度収支勘定	65,724 23
788,101 79	合計	788,101 79

収支内訳

借方	科目	貸方
	収入之部	
	会費	3,175,741 00
	雑誌収入	2,374,260 00
	雑収入	158,162 67
	後援会費	107,000 00
	支出之部	
527,657 74	事務所費	
58,302 00	会議費	
3,162,098 00	事業費	
651,441 70	事務費	
1,227,900 00	諸給費	
52,000 00	準備費	
70,040 00	予備費	
65,724 23	差引収支	
5,815,163 67	合計	5,815,163 67

昭和二十七年決算報告

昭和二十八年三月三十一日現在

借方	勘定科目	貸方
	基本金	47,672.65
	職員退職手当準備金	204,517.40
	事業準備金	41,276.25
67,369.33	備品	
	備品償却準備金	23,839.04
	収入欠損補填準備金	40,000.00
2,400.00	仮払金	
	仮受金	28,532.00
14,066.08	振替貯金	
56,745.79	当座預金	
13,830.93	現金	
	未払金	140,016.00
231,192.00	敷金	
112,000.00	定期預金	
335,000.00	投資信託預金	
26,612.00	普通預金	
	故日高胖氏事業資金	200,000.00
	未経過収入金	186,768.00
150,000.00	未収入金	
	本年度収支勘定	96,594.79
1,009,216.13	合計	1,009,216.13

収支内訳

借方	科目	貸方
	収入之部	
	会費	2,870,745.00
	雑誌収入	2,732,550.00
	雑収入	551,342.29
	後援会費	132,000.00
	支出之部	
611,087.00	事務所費	
54,444.00	会議費	
3,369,225.50	事業費	
555,264.00	事務費	
1,409,200.00	諸給費	
50,000.00	準備金	
62,580.00	予備費	
78,242.00	諸賦課金	
96,594.79	差引収支	
6,286,637.29	合計	6,286,637.29

昭和27年度特別会計　創立35年記念事業勘定

貸借対照表　昭和28年3月31日現在

借方		貸方	
銀行預金	1,661,115.00	仮受金	202,209.00
現金有高	91,686.00	出版勘定	30,800.00
		収支差引残高	1,519,792.00
合計	1,752,801.00	合計	1,752,801.00

収支明細表

収入		支出	
後援会費	3,343,100.00	総務部	320,993.00
雑収入	44,644.00	資金部	53,762.00
		表彰部	109,365.00
		祝賀部	79,840.00
		講演部	282,250.00
		見学部	119,235.00
		出版部	100,225.00
		住宅部	257,470.00
		慰霊祭部	133,740.00
		予備費	411,072.00
合計	3,387,744.00	合計	1,867,952.00

収支差引残高　1,519,792.00

強くて優雅な
リグノイド床
テックス
フローリング
閃光式通風器
責任施工
田辺工業有限會社
大阪市西区江戸堀上通一丁目五　電話土佐堀㊹2677・4471

寄附金受領調

創立当時は片岡会長外、寄附行為に依つて賄われたものが多いが、それ以後も機に臨み、時に応じ、各種事業や経常費突破に援助されその事業や催事等の収支計算でバランスされたものが多分にあり、之等は寄附金としての一貫した記録がない。

茲に掲載したものは主として雑誌記事から拾つたものが主で此外に多くの方々の芳名が洩れている事を御詫び申上げる。

大正6年度分　¥149.53　各所より受領　内容調査資料不詳

大正8年度分　本会終身賛助員寄附金

（¥100.00）井上国助。糸永文吉（巣鴨製作所）日本石綿盤株式会社。東松工作所。豊島停雲。滝山源三郎。辰己吉之助。多田孝（浅野スレートＫＫ）。野沢幸三郎。山本辰五郎。小西兼吉。須賀藤五郎。

（¥125.00）桜セメントＫＫ。（¥200.00～¥300.00）石井定七。飯田忠三郎。原田金次郎。川島甚兵衛。中川辰蔵。熊取谷熊次郎。駒井嘉平衛。有山福重郎。管谷元治（大阪煖房商会）。須賀豊次郎（須賀商会。（¥500.00）池田勘蔵（池田組）。橋本科左衛門、浜垣次郎。徳政金吾（清水組）。大原忠隆（大倉組）。大阪窯業株式会社。竹中藤左衛門（竹中工務店）。松尾和助。松村雄吉（松村組）。鴻池忠三郎（鴻池組）。安藤組大阪出張所。木村篤三（木村組）。白杉亀造（大林組）。銭高善造（銭高組）。（¥1,000.00）大高庄右衛門。合計¥11,125.00

大正9年度　新事務所設置設備費寄附者

（¥1.00～¥5.00宛）泉谷千秋、内藤栞、毛利泰三、大村大道、中川弥八、中村昌三、秋吉鉄五郎、岡村徳一郎、八尾徳太郎、森篤次郎、倉崎太三郎、吉岡与平次高柳宗一、佐藤清八、小川久太郎、西岡道臣、鴻上佐蔵、井上与左衛門、深尾義昌、松浦基二、内藤多仲、中村角之介、伊藤宗太郎。（¥10.00～¥30.00宛）能村知二、矢島一雄、岡部顕則、斉藤又吉、前田武正、山脇友三郎、平塚鎗吉、宮崎三之介、木村梅次郎、金剌森太郎、山本潔、荒木義夫、荒木賢治、黒瀬事務所、千秋正人、衛藤官。（¥50.00～100.00宛）野沢幸三郎、熊取谷熊次郎、葛野壮一郎、舟橋喜一、山本辰五郎、有山福重郎、田中良補、管谷元吉、池田実、辰巳吉之助、中川辰次郎、村井工業所、松尾和介、島田良馨、片岡安、設楽貞雄、宗兵蔵、吉井長七。合計¥1,816.00

電話（北4291）使用権1個。

池田勘造、合名会社橋本科左衛門商店、株式会社大倉土木組、株式会社大林組、合名会社　竹中工務店、株式会社　松村組、株式会社　鴻池組、株式会社　安藤組、株式会社　木村組、合資会社　清水組、合資会社　銭高組。

第2回　事務所設備費寄附者

¥1.00宛　小林安太郎、山崎孝麿。¥3.00～¥5.00宛河合清、山本藤次郎、島熊平、呼子正、渡辺憲、田辺滴一、藤野松九郎。¥10.00宛　武田五一、渋川彦衛田中勇。

事務所設備費其他の寄附収納（第3回）

¥5.00宛　土村寿吉、鹿村万吉。¥10.00宛　花田孝二郎、谷本多喜御、山添繁蔵、須川康太郎、光安梶之助、井上国助、阪井原吉、清水栄二、原科準平、西原衛生工業所、山本辰五郎、池谷仙太郎、佐藤彰美、久保田敏売、吉田直三郎、岡本新次郎、谷民蔵、坪井誠一、機械員及株式会社大阪営業所。¥100.00宛　須賀豊次郎～須賀藤五郎。累計¥2,188.00　¥1,000.000無条件にて松村雄吉。

事務所設備費寄附者（第三回）

¥1.00～¥5.00宛　中村重寿、鈴木支五郎、大倉直三久米平蔵、清水隼人、植竹春重、岩田丈一、足立弥一郎、赤松忠隆、田中覚太郎。¥10.00～¥30.00宛　萩原貞、小笠原銅、中村庸一、徳政金吾、野呂長四郎、小川安一郎、福永佐和吉、瀬戸文吾、小林悉、瀬戸強三郎、新海正綱、大原忠隆、滝山源三郎。¥100.00野久山政吉。累計¥2,431.00　小計¥243.00

事務所設備費その他（第四回）

¥2.00～¥5.00宛　桑名庸太郎、熊沢栄太郎、西太儀太。¥10.00～¥20.00宛　松本禹象、糸永文吉、渡辺節、長谷川玉一、矢田部喜平。¥50.00宛　木子七郎。累計¥2,583.00　小計¥152.00

大正10年度　事務所設備費寄附金（第5回）

¥100 00　河合浩蔵。¥50.00　野村玄三郎。¥10.00～¥30.00宛　渡江悌夫、中静重、置塩章、大隈貞喜、吉木久吉、一井九平、長田炭次郎、森上浩郎、丹羽三郎他7名。永瀬狂三、藤木正一、宮本金七、岸平、斉藤久孝、丹下敏行、宮崎加平、木原駒作、西尾寛治、東松孝時、松本米太郎。¥1.00～¥5 00宛　中川広、

末広平作、藪中一良、木下守造、田代鶴吉、流石信夫地福勇吉、上谷利夫、小谷豊吉、田中定次郎、雙田万次、郡富太郎、辰巳常彦、青田忠時、長谷川正義、能勢丑三、押鴨六郎、根岸元治、塚本隆造、天津英次、森本藤吉、渡実華、徳永義治、小松勇、千草謙、高岡与三吉、武田吉太郎、内田孝之、高崎斉蔵、楠田実、高村経恭。累計¥3,036.50

大正11年　住宅改造博覧会寄附者（第一回）

¥5,000.00宛　阪神急行電鉄、日本土木、大林義雄、片岡安、竹中藤右衛門、KK松村組、KK鴻池組、合資会社　清水組。¥3,000.00宛　池田勘蔵、合名会社橋本組、東京建築KK、合資会社　銭高組。

¥2,000.00宛　KK中島組、長瀬兵馬、浅野セメントKK、KK安藤組大阪出張所、佐伯与之吉、木村音右衛門。¥1,000.00宛　日本ペイント製造KK、日本エレベーター製造KK、日本石綿盤製造KK、日本水道衛生工事KK、豊国セメントKK、細野浜吉、米国貿易会社、大阪窯業KK、大阪煖房商会　管谷元吉、大阪電気商会　管谷元吉、片岡建築事務所、横河工務店KK大丸呉服店、合資会社　高田商会大阪支店、高島屋呉服店大阪支店、合資会社　内外木工所、内海鶴松久保田種吉、山本組　山本辰五郎、松尾和助、有山福重郎、浅野スレートKK、作山鉄工所、KK三越呉服店大阪支店、須賀豊次郎。¥500.00宛　東洋リノリユームKK、岡町住宅経営KK、葛野壮一郎、高砂工業KK大阪出張所、合名会社　田中タイリング商会、熊取谷熊次郎、合資会社　矢橋大理石商店、浅海治平、由多加織KK、森下新造、鈴木製作者。¥300.00宛　石川屋岡本工務店、日本電気KK大阪支店、東亜ペイント製造KK、大野　正、葛城理三郎、淡陶KK支店中川辰蔵、宇野沢組ステインド硝子製作者、八尾竹治郎、山谷洋家具合資会社、KK中松組　松本泰輔、小西兼吉、KKサクラ工業所、商工信託KK、品川白煉瓦製造KK大阪支店、清水福太郎。¥250.00宛　尾張屋商店　中井栄三郎、合資会社　河瀬商店大阪支店、亀井商店、吉田鹿之助。¥200.00宛　畑中秀次郎、KK原安商会大阪支店、布袋惣平、豊田清三郎、東洋電業KK大阪支店、千葉喜代治、沖電気KK、辰己吉之助、野村玄之助、中島辰造、久保田国太郎、山県常吉山田組　山田元二、前田芳太郎、KKあめりか屋大阪出張所、木村松太郎。¥150.00宛　小笠原銅、山本窯業商店　山本潔。¥100.00宛　伊藤与三郎。伊藤源治郎、泉吉次郎、石渡清太郎、浜本勘三郎、日本建築紙KK工業大阪出張所、日本鉛管製造KK大阪支店、東洋陶器KK、KK高島組、小川吉次、大阪硅藻土商会喜多川孝経、KK奥田畑中石材共同販売所、岡本義隆岡本吉造、渡辺建築事務所、和井田商事KK、瓦KK亀谷開作、関西ペイントKK、吉本伊兵衛、横浜勉、吉木久吉、高松菊治郎、男野安治郎、内藤太郎、梅野為吉、KK野口組、矢野松太郎、八木清蔵、前田徳松桝谷重吉、前島電気商会、福田捨松、藤原栄吉、小坂井嘉八、合資会社　栄進社、寺田久吉、赤田亀吉、青木柴太郎、斉本義之助、佐村木勝吉、北端兵吉、北木島石材KK大阪出張所、三木一二、宮和一郎、道下房吉、森川　琴、森上浩行、瀬戸文吾。¥60.00宛　長谷部鎖吉、竹腰健造、中西甚作、野呂長四郎。

¥50.00宛　河野助市、久保田繁亮、栗田種松、前坂勝三、松本政治郎、柴田四郎。¥30.00宛　中島工作所。¥10.00宛　伊藤宗太郎、小川安一郎、和田貞次郎、長沢柴作、小林悉、小松静、荒川義夫。¥7.50　大須賀巌。¥5.00以下宛植竹春重、前内文二郎、藤沢安太郎、田辺満一、石川寛三　¥100.00　森上浩行合計¥109,367.50

住宅改造博覧会寄附者（第2回）

¥1,000.00宛　大分セメントKK大阪出張所。竹内金庫店。¥300.00～¥600.00宛　桜セメントKK、日本トラスコン鋼鉄KK。真水三橋建築事務所。¥100.00～¥200.00宛　萩原暖房工務所、上滝弁吉、設楽建築工務所、丹橋建築事務所、萩原貞一、波江悌夫、松本禹象、木子建築事務所、木子七郎、新海建築事務所。¥30.00～¥50.00宛　日高胖、河村青写真調整所。¥15.00以下宛　福島緑寿、木村喜代松、大原芳知、金子　巴、前田武正、小西一良、小寺弥一、光安梶之助、森正蔵、生野弥三郎、河盛益太郎、竹平弥一、中川弥八、古川　豊、小山源次郎。小計4,960.00　累計¥114,327.50

昭和7年　建築倶楽部室新設備品寄附金

¥500.00宛　合名会社　竹中組、KK大林組。¥200.00～¥300.00宛　KK名古屋製陶所、東洋陶器KK、KK銭高組、KK鴻池組、合名会社　清水組、大倉土木KK、東洋リノリユームKK、淡陶KK、大阪窯業KK、大阪陶業KK、伊奈製陶KK、旭硝子KK、久保田鉄工所。¥150.00宛　日本ペイントKK、国産放熱器KK。¥100.00宛　西原衛生工業所、大阪暖房商会、建材社、浅野物産KK、日本アスペルトKK、松尾鉄骨橋梁KK、新田ベニヤ製造所、KK須賀商会、奥村電気商会。

昭和9年　都市武装促進事業資金第1回寄附者

¥2,000,00宛　大林組、合名会社　竹中工務店。¥1,000.00　片岡　安。¥100.00～¥200.00宛　中山太一、大阪陶業KK、田中豊輔、無名代、安井武雄、住友伸銅鋼管KK。¥30.00～¥50.00宛　汎建製作所須賀藤五郎、葛野荘一郎、井上福蔵、徳政金吾、橋本勉、全国購買組合連合会、東洋陶器KK、岡本新次郎野沢幸三郎、関西ペイントKK、岡部頴則、富七岡重一、浦英之助、渡辺圭吾、清水栄二、鈴木末尾、中沢

誠一郎、秋田喜代治、平塚鎗吉、新名種夫、今林彦太郎、加藤善吉、高橋栄治。¥20.00宛　ユニオントレーデイングコンパニー　¥10.0以下宛　建築協会職員一同、柳原義平、内藤多仲、米倉盛夫、新田　明、岩田勝己、能村知二、鹿島彦三郎、佐々木源之助、泉谷千秋、久保正吉、守随二作、荒川義夫、柿本清治、村田俊郎、野田義雄。¥100.00　森下博。¥30.00　松浦丹平。¥20.00　守谷商会大阪支店　¥10.00　有田製陶所出張所。合計¥6,889.00

都市武装促進事業資金

¥2,000.00　大阪府補助会　¥1,000.00　宛大阪市補助金、合資会社　清水組。¥500.00宛　住友合資会社大阪瓦斯KK。¥300.00宛　KK鴻池組、浪花電鉄協会内。¥50.00宛　阪神電鉄KK、阪神急行電鉄KK南海鉄道KK、大軌電鉄KK、京阪電鉄KK。¥25.00宛　阪和電鉄KK、大阪鉄道KK。¥300.00宛　大倉土木大阪出張所。KK銭高組。¥200.00宛　大阪窯業KK。長谷部、竹腰建築事務所、KK大阪ビルデイング、KK松村組、KK大阪株式取引所。¥100.00宛　池田勘蔵、KK三和銀行、東洋リノリユームKK、山脇支三郎、KK都ホテル、奥村重兵衛、合資会社　西本組、KK鹿島組、安藤組大阪支店、日本ペイントKK、KK須賀商会、KK間組、松室重光、KK堂島ビルデイング。¥30.00～¥50.00宛　小林林之助、富士建築工業KK、関西土地KK、三機工業KK、ライトラバー工業KK、武智政次郎、緒方祐将、日本エレベーターKK、三菱商事KK、日本楽器製造KK、波江悌夫、武田五一、小笠原鈞、高松平太郎、平松鈎戸車製造所、マルエス工業KK、合資会社栄進社大阪支店、関城化学工業KK、西原衛生工業所、淡陶工業KK、鳥井　信、糟谷武節。¥20.00以下宛　淡江セールズKK、矢橋大理石商会、森上浩行、今里土地KK榎　商店、日本建築紙工大阪支店、山本窯業商店、オリエンタル製造所、日本ドアーチエツク製作所、東亜ペイントKK、能美商会、村上徹一、山口儀三郎、石川寛三、大阪伊丹商会、松久保敬三、大谷金庫店、籠田定憲。¥5.00以下宛　伊藤宗太郎、西林岩助、光安楫之助、本多正道、森本藤吉、山口成城、中西六郎、高岡与三吉、武田経一、古宇田実、三浦尚夫、正岡隆一、植竹春重、戸塚真人、出正雄、島田良馨、棚橋諒、曽部幸雄、山辺政吉。

大正10年2月より昭和13年12月迄在職18ヶ年、西谷書記慰労金

第1回寄附金　¥981.00　寄附者77名　昭和14年1月25日現在迄

第2回寄附金　¥603.00　寄附者97名　昭和14年2月末現在迄

第3回寄附金　¥487.00　寄附者48名　昭和14年3月分現在

総計　¥2,071.00

尚片岡会長が種々の事業や会合に際して行われた寄附は数多いが何れも其都度の催しで収支されているので此処には省略した。

昭和7年　片岡会長よりゼネヴア出張の際¥1,000 事業資金寄附受領

昭和26年　片岡会長より欧米出張の際¥2,000 事業資金寄附受領

日本建築協会創立25年記念事業寄附者芳名調（敬称略、順序不同）

¥25,000.00。大林組。¥15,000.00宛　竹中工務店清水組。¥10,000.00宛　鴻池組、銭高組、大倉KK土木大阪支店、佐伯組。¥5,000.00　松村組。¥3,000.00宛　鹿島組大阪支店、藤木工務店、中島組、間組大阪支店、西本組。¥2,500.00　浅沼組　¥2,000.00宛　大阪橋本組、木村組、松尾橋梁。三機KK工業大阪支店　¥1,500.00宛　野沢幸三郎商店、マルケイ建築材料KK、西田儀太郎　¥1,000.00宛　KK西松組、東洋リノリユームKK、左雲勘治郎、長谷部、竹腰建築事務所一同、安藤組大阪支店、池田組、井上福蔵、須賀商会、中村工務店大阪田島応用化工KK、駒井鉄工所、大阪窯業セメントKK、国産放熱器KK、大阪窯業KK、高砂煖房工事KK　¥700.00　岡本工務店　¥500.00宛　戸田組大阪支店　島藤大阪支店、中松組鉄工部、桐田商会、新工務店西原衛生工業所、広島藤田組大阪営業所、大阪城口研究所各　¥300.00宛　不動建築株式会社、西林岩助、KK小坂井組、岡本芳雄、村野建築事務所、山田工務店、朝日工業所、東亜鉄工所、岩城ガラス、阪神築港KK、セメント防水工業組合　¥250.00　勝呂組大阪支店　¥200.00宛　熊取谷商店　第一工業KK、杉岡織江、斉藤久孝、須賀藤五郎、東畑謙三建築事務所一同、森本組、芝田工務店、柴田組、日本橋梁KK、関城化学工業KK大阪支店、福島合名会社大阪支店、池田組大阪支店、飯田組、朝日乾電池KK、島田硝子製造所　¥150.00　日産土木大阪支店　各¥1100.00宛　市村兵次郎、林金房、白石基礎工事大阪支店、日本セメント防水剤製造所、日本電建、藤田商会、リーダー建材部、河津商店、山脇友三郎、海野浩太郎、村井毅、谷民蔵、奥村重兵衛、石川寛三、清水釘吉、鈴木末尾、田中豊輔、小笹徳蔵、鈴木一幸、秋田喜代治　。¥50.00宛　河村茂、今林彦太郎、山内津磨、井上新二、池田宮彦、津村芳三、清水栄二。¥25.00　岩尾保衛。¥30.00宛　和田貞治郎殿外7名。

¥35.00　桐本楠雅。各¥20.00宛　飯田賢次外27名　各¥10.00宛　小林久男外72名。¥14.00　伴野貞三。各¥7.00宛　浅野新一外3名　各¥6.00宛　荒木久義外4名。各¥5.00宛　栗本豊夫外23名。各¥4.00宛　松本秀雄外7名。各¥3.00宛　吉本壽渡、浜岡荒吉。各¥2.00宛　竹内さく外74名。

創立35年記念事業寄附者芳名　（敬称略順序不同）

各¥100,000宛　大林組、竹中工務店。各¥80,000宛 近畿電気事業、須賀工業。各¥60,000宛　鴻池組、銭高組松村組、清水建設。各¥50,000宛大成建設、鹿島建設。栗原工業、浅海電気、工藤電気、三機工業、大阪電気暖房、建材社、田島応用化工、徳永硝子、野沢石綿セメント、日本板硝子、日新工業、東洋リノリユーム、日建設計工務。各¥40,000宛　西松建設、浅沼組、間組。各¥30,000宛　戸田組、鉄道建設、奥村組、藤木工務店中央電気、ヤマト電気、東海電気、三菱電気、三晃商会第一工業、機工業、大阪電気暖房、桐田商会、朝日工業西原衛生、大和工業、斉久工業、東洋陶器、旭硝子支店、淡陶支店、関西ペイント、大阪建築事務所、東畑建築事務所、村野事務所。各¥20,000宛　大日本土木、島藤建設、大鉄工業、安藤組、藤田組、栄興商会、東洋洋瓦、井上工材、久保商店、皆部和夫。各¥15,000宛　大島応用化学、浅野スレート、朝日石綿スレート、盤城コンクリート、石川事務所、渡辺圭吾事務所。各¥10,000宛　佐藤工業、新工務店、郷組、神崎組、森本組、三建工業、長建組、中島組、熊谷組、近畿建設、不二建設、あめりか屋、栗本建設、井上組、勝呂組、立花商会、清水工業所、城口研究所、新晃工業、山田工業、やよひスレート、村田硝子、山本建材、内外土木、平田タイル、室谷商店、奥村重兵衛、ケントク、亀井、井上浄夫、宇部厚型、池田建材、山本窯業、玉置産業、原田商店、ナニワスレート、大同鋳造、浪速建材、広瀬清三郎、小野田セメント、青木照平、伊藤久治、織部道三郎、横河工務店、渡辺事務所、置塩事務所、安井建築、ミラノ工務店竹腰健造　各¥9,000宛 東洋スレート、万年スレート、宇部スレート、産業スレート。各¥5,000宛 青盛建材、ナニワ瓦、石井建材、大和工業、桑田ガラス、安田レール、丸尾建材、赤坂建材、中央商会、岩本工業、佐村木商店、立工産業、西林石材、大阪セメント工業、日本セメント、大仏組、中村多喜蔵、内田商会、日本油脂、神治屋、内外工業、豊中建材、川島織物、福島産建、小島工業、　各¥4,000宛、極東スレート、木下謹三、各¥3,000 宛　河野組、高岡建設、大阪防水建設、高野アスファルト、大阪吉川商店、東京興業貿易、山東商会旭化工板製造、新興建材、二葉屋、日垣本社、松本金物大阪耐酸、ライト製作所、田辺工業有限、三高製作所、和泉産業、中央建材、サンエス石膏、保園源三、島村佐治郎、藤岡正一、松田平田事務所、明和工務店、竹中九州支店、鹿島九州支店、熊谷福井出張所、加藤建設、酒井工務店、東畑謙三。　各¥2,000宛　中道組、東洋建設大末組、赤松修、ＴＹ防水、黒川化学、大日特殊建材、中西瀝青、明正社、東建商会、のこよし金物、石田建材、大和商会、金剛商会、米谷セメント、三徳鋳工、大仏建材、谷本商店、前沢商行、矢橋大理石、三舟窯業、関西石材、ヨネダ建材、大和工業有限、日本セメント防水、各¥1,600～1,000宛　和田木材工芸、平山木工、浅井美装加工、大阪コンベス、上谷製作所、油脂化工、東亜製作所、依田商店、三好板硝子、関西砂利、桜物産、小林建設、大阪土木工業、藤本工務店、東和組、松岡組大下順三郎、川村周蔵、吉崎源三郎、伴潔、尾崎教一、桐本楠雅、小笠原祥光、鷲尾九郎、中沢誠一郎、元吉勇太郎、滝邦一、佐藤太、堀口甚吉、伊藤正文、山口久五郎、清水一雄、吉嶺誠丸、喜多村義雄、鈴木広好、岩佐直則、内藤多仲、飯塚源吉、赤江久寿彦、中村収次郎、武田経一、今林彦太郎、宮地米蔵、落藤藤吉、貴志満二、瀬村禎二、布袋匡雄、児島正積、栗林一馬、椙野正春、山崎正一、島田正己、大橋武雄、藪本芳一、吉田信武、吉川正一、錦田直一、谷民蔵、後藤和太郎、小笹徳蔵、小崎修、宮崎三之助、高村勝、鈴木一幸、岩田勝己浜田理一、神谷新一、元木貞治、中野順次郎、福田万亀雄、野中駒市、竹内孝、吉田安三郎、伊藤五郎、岩本博行、岩崎甚太郎、栗本栄一、伊丹久吉、谷口尚武、藤坂捨次郎、池田達雄、大林芳郎、山邑励二、岡田孝男、岡本全勇、日野勝好、滝沢真弓、弥屋毅一、真口愃夫、星広文、政岡基次、伴秀雄、松本儀八、竹内成夫、川勝源兵衛、中村潤、小林清、熊沢六郎。　各¥1,000以下宛は昭和27年度雑誌記載の通り。

昭和22年8月11日　¥200,000.00
日本建設工業会より事業資金として受領
昭和28年月　日　¥200,000.00
故日高胖氏遺族より事業資会として受領

此外五日会より朝日ビル事務所後援会費として現在毎月¥6,000受領中。

建議·陳情·意見書

卅五年間に建議陳情申請した事項は相当数に上るが記録不詳のものが多い。此処に掲げたものは頁の都合上尤も簡略化し、発送先、建議、陳情、並申請するについての理由、主旨等簡略した。

△　大正7年2月

内閣総理大臣　伯爵　寺内正毅　殿

日本建築学会長、工学博士　辰野金吾。日本建築士会々長　工学博士　長野宇平治。関西建築協会理事長　片岡　安。都市協会幹事　藤原俊雄。

△　都市建築法令調査会に関する建議

意見書（概略）　我国重要都市に対し速かに建築法令制定を希ひ其制度に関する調査会を設置するの要なるを認め上記各会連合の決議を齎らし、茲に建議す、願わくば清鑑を垂れさせられ御採納あらん事を切望の至りに勝えず。

理由（概略）　今后当然被る可き都市大火、震災、戦争等に依る大破壊を思い、我国重要都市の建築物の改良、制限、統一を以て都市の健全なる発達を計る事の急務を痛感するものである。故速かに我国の重要都市建築条令公布を希ひ、其制定備準の為調査会設置の急要なるを唱えるの所以なり。

△　大正8年2月

内閣総理大臣　原　敬　殿

日本建築学会々長　工学博士　曾弥、日本建築士会々　工学博士　長野宇平治、日本建築協会理事長　片岡　安、都市協会幹事　藤原俊雄

△　都市計画法並に建築法案と陳情書

陳情書（省略）都市計画法並に建築法の制定に依り我国の重要都市の改善せられん事の急要なるを認め、上記各会連合の決議を齎し茲に之を陳情す。

理由、都市発展は国力増進の重要なる基礎をなす、その発展の為に之が対策を講ずるは経国の要務にして都市利福の問題たるに止まらず、故に都市計画法並建築法の速かなる制定、実施を願ふものである。

△　大正10年1月17日

大阪府知事　池松時和　殿

日本建築協会理事長　葛野壮一郎

建築物法施行細則に関する建議

建議書　日本建築協会は市街地建築物法施行令第拾四条に依る建築物の高さの最低限度を規定せられ、速かに実施せられん事を切望す。

理由（省略）欧米諸都市建築物の発達に鑑み、耐火耐震、耐久建築物が要望される今日、土地利用を画策す可き機運到来し、地区整理　街路整屯と相俟ち高層建築物を必要とする時代となれり、茲に於て重要通路に面する建築物の高さの最低限度を規定する事の必要は勿論にして、之に於て速かなる実施を要望す。

△　大正10年8月

大阪府知事　池松時和　殿

日本建築協会副会頭　工学博士　片岡　安

市街地建築施行に関し仮設物建築許可の儀に付建議

建議書　市街地建築物の建築工事に関し其の建築線に接したる道路敷地上の空間に当該建築作業用仮設物（露台）の建設を許可せられん事は最も必要なる事と認む。以上本協会の決議に基き茲に仮建議候也。

理由（省略）　従来に於ける御取扱は建築工事に関する板囲及通路敷地使用の範囲は僅かに三尺以内に限定せられし為作業上の動作に極めて不便と不統一を感じ、之が為屢々事故等有り。然て大阪府下市街地建築施行に関し仮設物建築許可の御取扱を得度、茲に建議書提出す。

△　大正12年12月28日

当路各大臣

復興院総裁　　宛

日本建築協会副会頭　工学博士　　片岡　安

帝都復興に関する建議

建議書（省略）　日本建築協会は帝都復興に関し、下記事項を顧慮せられ速に適当の処置を採られん事を希望す。

理由（省略）　帝都復興に関しては国都百年の計を樹て之を理想となすの必要あると共に其実施せんとするには絶好の機会なりと確信す、故に茲に之を強張す。

△　大正14年12年23日

大阪府知事　　中川　望　殿

日本建築協会々頭　工学博士　　片岡　安

建築物構造強度計算の標準風圧力に就て建議

建議書。別記理由に依り下記風圧力を以て建築物構造強度計算の標準風圧力とせられん事を希望す。

（風圧力数字は省略す）

（理由省略。大正拾五年1月号　会務　参照）

△　昭和5年7月11日

大阪府知事　柴田善三郎　殿

日本建築協会々長　工学博士　　片岡　安

大阪府劇場、寄席、観物場各取締規則改正に付建議

当協会に於て大阪府劇場、寄席、観物場各取締規則に関し調査研究の結果下記の通改正の必要之有と存じ茲に改正意見を具し及建議候也。

下記（省略）現在大阪府劇場其他興行場に対する取

締規則は其構造設備等に於て木造建築物を主眼として制定せられたるものなる事は明かなる処にして、耐震耐火構造の進歩せる今日に於ては世の進運に伴ひ、根本的改正を加へ時代に適応したる取締方法を講ぜられん事を切望する次第なり。

（理由省略。昭和5年7月号参照）

△　昭和5年11月20日

内務大臣　　安達謙蔵　閣下

日本建築協会々長　工学博士　　片岡　安

大阪都市計画第二次防火地区指定の件建議

大阪都市計画第二次防火地区の指定は大阪市の現状に鑑み之が急務たるを認め当協会に於て調査研究の結果その指定区域に関し別紙図面表示の成案を得たるを以て上及建議候也。

理由（省略）現行防火地区は其の範囲狭少なる為、防火の目的を達成せんには不徹底なるを免れず、速かに第二次防火地区を指定し、都市防火の目的を達成する事は最も重要且つ緊要なりと確信し、以上強張す。（図面建議書中）

△　昭和6年2月3日

大阪府知事　　柴田善三郎　殿

日本建築協会々長　工学博士　　片岡　安

病院、産院取締規則改正の件建議

現行私立病院規則は数十年前の制定に係り、現行世態に沿わざるを認め之が改正は最も急務なりとし、当協会に於て研究審議の結果　同取締規則にして建議の構造並に設備に関する部分に対する改正の成案のものを得たるを以て上及建議候也。

理由省略（昭和6年3月号参照）

△　昭和6年3月30日

内務大臣　　安達謙蔵　閣下

日本建築協会々長　工学博士　片岡　安

市街地建築物法令及規則改正の付に付建議

市街地建築物法令施行規則の改正の案成り、近くその発令せらるるやに聞く、関西に於ける建築関係者を以て組織せる我協会は曩に昭和2年2月及4月当局に対し該法規改正に関する意見希望を述べ其改正を促したり、今やその気運に際会し調査研究の結果別記の通改正意見及希望に開陳し、併せて当局の改正案を提示し当協会に諮問せられん事を懇請致候条、可然御詮儀有之度此段及建議候也。

理由（省略）

近年建築物の構造設備は自ら著しき進境を伴い従来の法令及規則に付ても種々不便を生ずるを免れず。茲に当局に於て同法規則改正の要を認められたるは最も時宜を得たるものと信ず、此の機に当り従来の警視庁、学会偏重を排し、意見を広く天下に求め、且つ関西建築界発展に長年尽力し、唯一の民間建築家の代表機関たる当協会へ諮問を発せられん事を懇請するものなり。

（意見及希望　省略）（昭和6年5月号参照）

△　昭和6年11月

内閣総理大臣　男爵　　若槻礼二郎　殿

内務大臣　　安達謙蔵　殿

大蔵大臣　　井上準之助　殿

日本建築協会々長　工学博士　　片岡　安

建築職工夫失業救済に関する意見書

失業救済は我国目下緊急の社会事情たるは言を俟たず。然るに救済事業の多くは日雇労働者の救済に限られ、熟練工を主体として施行せらる可き建築工事は全く閑却せらるるの実情にある事は憂慮に堪えず、建築工事関係熟練工には其種類数百に分れ、多年の日子と多大の努力に依り養成されたるものにして、彼等全般を通して失業者続出する時には社会不安、思想悪化を醸成するのみか、国家産業上一大損失たるを失わず、政府に於て斯かる窮状打開の為方途を講ぜられん事を要望す。

上総会決議に依り意見具陳候也。

△　昭和6年11月17日

大阪市長　法学博士　　関　一　殿

日本建築協会々長　工学博士　　片岡　安

大阪市下水道計画施設に関する建議

大都市衛生施設の改善進歩に従い、特に高層建築部の使用水量は予想せざる驚く可き多量に上りつゝあり。然るに大阪市に於ける下水道は従来雨水及諸用水の如きものの排水を基準とし計画施設せらるたるもの残存し、驟雨到る毎に市の中心地例へば梅田曾根崎警察前の如きに在りては想像に余りある状態なり。加ふるに高層建築物よりの多量の排水を合流する場合は推して知るべきのみ。斯くの如きは市民負担の増大、交通の阻害、道路の堀鑿等への支障を生ずべし。先般都市計画として決定せる下水道実施に対しては従来の施設の改良と、支流と雖も相当多量の排水に支障なき様万全を期せられん事を切望するものなり。上及建議候也。

△　昭和6年5月20日

大阪市長　　関　一　殿

日本建築学協会々長　　片岡　安

土地区画整理地区に於ける公園留保地に公園実施の件建議

大阪都市計画として既に公園計画決定し、当局に於ては着々その施行に努力せられ、之が実施の暁には市民の保健衛生及教化に寄与する処大なるものある可く実現の一日も早からん事を期して待ち居る次第に候、然し公園留保地は必ずしも公園計画計にあらずして単なる指定に止り公園を設ける何等の強制力もあるものにあらず、又将来に於ける其土地の維持管理に関しては何等の規定又は指示なく之が処分は組合の権限に属するを以て土地区画整理組合の解散に当り打算的立場より不当の処分をなさ

んと計画中のものあるやに聞く、依つて公園留保地を公園計画地として確実性を有せしめるの緊要なると同時にその土地を完全に公園として実現せしむるの方策を講ずるは急務中の急務と確信す。事情御賢察の上適当なる措置を講ぜられん事を切望する次第に御座候

△　昭和7年10月19日

内閣総理大臣　子爵　斎藤　実　閣下。　大蔵大臣　高橋是清　閣下　男爵　山本達男　閣下。　外務大臣　伯爵　内田康哉。　鉄道大臣　三土忠造。　陸軍大臣　荒木貞夫　閣下。　海軍大臣　岡田啓介　閣下。　文部大臣　鳩山一郎　閣下。　司法大臣　小山松吉　閣下。　逓信大臣　南　弘　閣下。　商工大臣　男爵　中島久万吉　閣下。　農林大臣　後藤文夫　閣下。　拓務大臣　永井竜太郎　閣下。

日本建築学会々長　工学博士　大熊喜邦

日本建築協会々長　工学博士　片岡　安

各官庁司掌営繕事業促進に関する陳情書

要旨。　建築関係失業者救済上焦眉の急を要する方策として各官庁司掌新規営繕事業の企画並に既定継続営繕事業施行年度繰上等に依り全国に亘り建築を促進せられん事を望む。

△　昭和7年10月21日

内閣総理大臣　子爵　斎藤　実　閣下。　内務大臣　男爵　山本達雄　閣下。　大蔵大臣　高橋是清　閣下。逓信大臣　南　弘　閣下。

日本建築学会々長　工学博士　大熊喜邦

住宅建築助成並不良住宅改良促進に関する陳情書

要旨。時局匡救並建築関係の失業者救済に焦眉の急を要する方策として住宅資金の融通、都市の不良住宅地区改善事業及農漁村の不良住宅改善事業を促進せられん事を望む。

△　昭和7年12月19日

内務大臣　男爵　山本達雄　閣下

日本建築協会々長　工学博士　片岡　安

百貨店建築に関する建議

最近都市に於ける百貨店は急速に発展し、其の建築は漸次規模の大なるを競い、日夜数万の顧客を包容し都市大衆に最も密接なる関係に在る大機関たるに至れり、然るに本年16日帝都白木屋に於ける災害の報一度至るや全国民を恐怖せしめたる事多大なるものあり。思うに此の種建築物に対しては取締に関し、特殊の考慮を要するものなるを痛感す。須らく市街地建築物法令第14条に基き速かに百貨店建築の構造設備其他に関する特別規定の制定あらん事を切望して止まず。上及建議候也。

△　昭和8年1月9日

内務大臣　男爵　山本達雄　閣下。　大阪府知事　県　忍　閣下。　大阪市長　法学博士　関　一　殿。

（各通）

建築協会々長　工学博士　片岡　安

大阪駅前整理事業に関する建議

大阪駅は大大阪の玄関として都市の相貌を印象する最も重要なる位置に拘らず附近一帯は実に名状すべからざる醜状を現出して交通繁激にして道路之に伴はず。建築物は矮小醜悪にして都市の美観を損し、1日も現状の儘に放任するを許さざるものあり。故に速かに之等の醜状を矯正し交通の緩和を図り建築物の整理を行う可き改善施設を為すの要を痛感す。上及建議候也。

△　昭和9年4月12日

北海道長官　佐山信一　殿

日本建築協会々長　片岡　安

函館市復興に関する建議

過去の災害の状況に鑑み防火地区等に相当厚みを有する集団式防火地区の必要なる事極めて明瞭なり。と存じ、之が復興計画に当りてはシビックセンター及中央商業地区に対して数ヶ所の集団式防火地区を設定する事を以て災害防備の骨子とせざる可からずと存じ候。此段建議候也。

△　昭和9年9月18日

内閣総理大臣　岡田啓介　閣下。　内務大臣後藤文雄　閣下。　大蔵大臣　藤井真信　閣下。　大阪府知事　県　忍　閣下。　大阪市長　関　一　殿。　東京府知事　香坂昌康　閣下。　東京市長　牛塚虎造　殿。　京都府知事　斎藤宗宣　閣下。　神奈川県知事　横山助成　閣下。　兵庫県知事　白根竹介　閣下。　愛知県知事　篠原英太郎　閣下。　京都市長　大森吉五郎　殿。　横浜市長　大西一郎　殿。　神戸市長　勝田銀次郎　殿。　名古屋市長　大岩勇夫　殿。　（各通）

都市武装に関し防火防空建築物の普及促進に付建議

建議書　現下の非常時に鑑み本協会に於ては慎重研究の結果都市の武装に関し防火防空建築物の普及促進の上下記具体的項目を実施せらるる事極めて緊要なりと確信するものにして速かに機宜の方策を樹立せられん事を切望す、上及建議候也。

。1、現行防火地区を拡大する事。　1、防火地区に於ける耐火建築促進の為、下記方法を実現する事。

イ、耐火建築物に対する補助金の交附　ロ、耐火建築物に対する低利資金の融通　ハ、耐火建築物に対する家屋税の減額　ニ、耐火建築物に対する不動産、収得税の減免。　ホ、防火地区完成を都市計画事業に依り促進する事。

理由省略（昭和9年10月号参照）

尚上記の方々の他、総計2200通の本建議書を添え夫々実現に関し援助方依頼したり。

△　昭和9年9月

大阪府知事　県　忍　閣下。　京都府知事　斎藤宣宗　閣下。　兵庫県知事　白根竹介　閣下。　（各通）

日本建築協会々長　片岡　安

今回の近畿地方に於ける大風水害・建築倒壊の惨禍に徹し特殊建築物に付下記の通り建議書を提出せり

建議書、　近畿地方に於ける風水害の建築物倒壊の惨禍に徹し、少くとも特殊建築物に就ては斯かる被害を根絶せしむるが為、下記方策を至急実施せらるるは極めて緊要なりと信ず、上及建議候也。

記、及理由省略（昭和９年10月号　参照）

△　**昭和9年10月20日**

内閣総理大臣　岡田啓介　閣下　（外26各通）

日本建築協会々長　　片岡　安

大阪土木建築業組合長　大林義雄

副組合長　銭高久吉　有山福重郎

近畿風水害被害に付陳情書

今次近畿未曾有の大風水害に因る惨害は京阪地方に於て特に甚大なるもの有之強風に加ふるに海嘯に襲はれ大阪府に在りても其産業中枢たる工業地一帯に亘る各種物資生産機構に大打撃を蒙りたるのみならず土木建築工作物又倒壊浸水の災禍に遭いたるもの数うるに遑なく為に多数の人命を犠牲とし巨額の貨材を損失するに至り候事は洵に遺憾至極に有之痛嘆に堪えざる所に御座候。

刻下緊急事態に臨み罹災地域の我国産業上に占位する重要性に鑑みその復興救済の促進に付別紙陳情仕候事項は又土木建築請負業者として焦眉緊要、復興助成に資せられる可く格別の御詮議を以て願意御採納賜り度偏に奉懇願候、上、本組合理事会決議に依り茲に謹みて陳情仕候也。

△　　年　月　日

議会へ提出

奥村要太郎、森下亀太郎、山本藤助、上田弥兵衛の四代議士他多数の議員の賛助を得る。

「六大市制特別市制速施に関する建議」

東京、大阪、京都、横浜、名古屋、神戸各市は帝国の所謂大都市として近時商工業の発達と共に諸般の施設著しき膨張を来して居るに拘らず市政は依然として諸都市と同一制度下に置きたる為行政上、其他諸般面に於て煩雑なるのみならず市政運用に多大の障害を来たすものと認む。先に第43回議会に於て六大都市に対する特別市制に関する建議案の大多数を以て通過したるに鑑み政府は速に以上六大都市に対し特別市制を制定し市民の繁栄発達の実を挙げられん事を望む。

△　**昭和10年10月10日**

内閣総理大臣　岡田啓介　閣下。　内務大臣　後藤文夫　閣下。　大蔵大臣　高橋是清　閣下。

日本建築協会々長　片岡　安

阪神防空演習に際し、防火防空建築物の普及促進に関する建議

建議書

現下の時局に鑑み都市防備に関し防火防空建築物の普及促進方に就き慎重研究の結果下記具体的項目を実施せらるる事極めて緊要なりと確信するものにして速かに機宜の方策を樹立せられん事を切望す、上記建議候也。

記以下　昭和10年11月号参照

△　**昭和12年10月16日**

政府並地方長官　184名に親展（速達便で発送）

日本建築協会々長　片岡　安

鉄鋼工作物築造許可規則運用に関する意見書

（昭和12年11月号参照）

陳情書　（昭和12年12月号　参照）

△　**昭和12年11月4日**

大蔵大臣　賀屋興宣　閣下。　商工大臣　青野信次　閣下。　（その他関係当路に送附す）

日本建築協会々長　片岡　安

拝啓　愈々御清適の段奉賀候。陳者今般臨時資金調整法並鉄鋼工作物建造許可規則運用に関し意見書を提出致候に就ては何卒御高覧の上何分の御高配を賜度此段得貴意候　　敬具

意見書　（昭和12年12月号　参照）

△　**昭和15年10月1日**

内閣総理大臣以下、内務、商工、大蔵、陸軍、海軍各大臣閣下、並、企画院総裁、東部軍司令官、及西部軍司令官閣下。他、六大都市所在地府県知事及六大都市市長

主要都市に於ける建築物の防火方策急施に関する建議

刻下の急迫せる国際情勢に鑑み、防空上の見地より我国重要都市に於ける建築物の防火方策就中下記事項は焦眉の急務なりと確信す、依て速かに之が実施に関する方途を講ぜられん事を切望す。上及建議候也。

記。重要都市に於ける既存木造家屋の防火改修事業は都市重要部の全般に亘り急速に之を完成せしむるの必要あるも尚特に防火地区内に於ては木造建築物を撤去又は改築せしめ諸統制法令の取扱に特例を設け所要物資を優先的に配給し、以て積局的に建築物の耐火構造化を促進する事。

昭和15年度以後

△　**昭和16年2月5日**

農林大臣　石黒忠篤　閣下。　大阪府知事　三辺長治　閣下　（各通）

日本建築協会々長　工学博士　片岡　安

用材規格規程改正に関する建議

昭和14年10月13日付農林省告示第367号を以て御制定相成候用材規格規程は種別複雑にして業者側並需要者側共に不便不utter之が改正方に付速に適当なる方策を講ぜられん事を切望す。以上建議候也。

△　**昭和16年2月5日**

大阪府農林産物検査所長　兵藤時次郎　殿

農林省山林局木材統制課長　毛利葛一　殿

内務省計画局第二技術課長　中沢誠一郎　殿
大阪材木商同業組合　　日本農林新聞社　（各通）
日本建築協会々長　工学博士　片岡　安
粛啓　愈々御清穆奉賀上候
陳者現事適用中の用材規格改正方に関し今般農林大臣並大阪府知事に対し別紙の通り建議書提出仕候に就ては1日も速かに上目的達成の為め何分の御高配相煩し度此段御依願申上候　　敬具

△　昭和17年5月14日
海軍大臣　嶋田繁太郎　閣下
日本建築協会々長　工学博士　片岡　安
建築技術者採用に関する建議
今次南方建設其他の為建築技術者多数要望せらるるに当り本会は主務官庁よりの希望に応じ欣然之が目的達成に協力し、本会員及一般に檄を飛ばし、日々相当数の応募を受け夫々進達致しつつ有之候処、既往に於ける徴用の結果並現在御採用の条件等に鑑み当局の要求を充たすには尚遺憾の点不少と被存候条下記意見書の通り此際速かに法令の改廃等を断行し、以て将来の募集に供へ進んで超非常時国策に順応する方途を講ぜられん事を謹而建議仕候也
意見書　　官等俸給に関する事項。勅任者採用に関する事項。技術者の能率増進を図り人的資源の節約の事。

△　昭和17年6月15日
文部大臣　法制局　企画院　技術院
学会長　内藤多仲。　協会長　片岡　安。　士会長　中村伝治。
建築施行組織の再編成に関する建議
下記三会に於ては昨年来建築連合協議委員会を設け、時局下建築界の体制問題に付研究中の処、建築工業新体制要旨の成案を得、邦家の為一日も速かに之が実現を痛感致候に就ては事情御賢察の上、何分の御高配を賜度右御調を建議仕候。　　要旨略

△　昭和17年11月26日
各省大臣　法制局　企画院　技術院
内藤学会長　片岡協会長　中村士会長　横河業会長
建築新体制に関する建議

△　昭昭18年5月　日
日本建築協会々長　工学博士　片岡　安
拝啓　愈々御清穆奉賀上候
陳者木材の要給調整に関し今般内閣　農林　商工　陸軍　海軍各大臣並企画院総裁に対し別紙の通意見書提出仕候に就ては何卒右目的達成の為何分の御高配相賜度此段御依頼申上候　　敬具

△　昭和18年5月　日
内閣総理大臣以下農林、商工、陸軍、海軍各大臣、企画院総裁
社団法人　日本建築協会々長　工学博士　片岡　安
木材の需給調整に関する意見書
大東亜戦争完遂の為め必要なる軍関係産業生産拡充物資たる木材の増産に当りては当局の御懇心なる御指導の下に適切なる方途を講ぜられつつあるは誠に慶す可き事なり。

△　昭和20年12月
復興院　内務省　其他関係方面宛
日本建築協会々長　片岡　安
時局対策に付下記要項建議　（建議写不詳）
住宅並復興建築。都市計画と法規。建築資材。建築の迅速施行。技術家の取扱。

△　昭和21年7月23日
内務大臣　復興院総裁　其他
社団法人　日本建築協会副会長　松本儀八
戦災都市復興並に重要建設事業に関する建設行政に付建議
戦後最も重要且緊急を要する都市復興は先づ建築の復興に在る。本会に於ては予て建築事業を総覧せられる行政面の在り方に付慎重考案して来たが茲に結論を得たのでその要点を披瀝し閣下の清鑑に供する。幸に御採択を賜り適切迅速な方途を講ぜられん事を切に冀ふ次第である。
以上謹而建議す。
復興院設行政界に対する要望。　1、中央及地方庁に於ける復興建設事業担当織組の明確化と強化。　1、復興建築促進。　以上-

△　昭和21年7月25日
社団法人　日本建築協会副会長　松本儀八
拝啓　愈々御清穆奉賀上候
陳者戦争都市復興並に重要建設事業に関する建設行政に付今般内務大臣　復興院総裁其他に対し別紙の通り建議書提出仕候に就ては何卒上目的達成の為何分の御高配を賜度此段御依頼申上候　　敬具。

△　昭和23年2月　日
社団法人　日本建築協会々長　　竹腰建造
主要都道府県建築部設置に関する建議
政府は地方自治法改正にい府県に於ける部制を限し実施せんとしている。之依ると府県には建築部が設けられぬ事となる。本協会は本措置を経済復興促進上、遺憾とし茲に協会員の総意に基き記の通り建議する。
記。　政府に於ては地方自治法を速急に再改正し、主要府県に建築部を設置し得る如き措置執る事。府県に於ては次の措置を講ずる事。愛知県に於ける既設建築部は之を存置すると共に、北海道、京都府、大阪府、神奈川県、兵庫県、広島県、福岡県に建築部設置す事。

△　昭和23年7月26日
大阪府知事　赤間文三　殿。　副知事　大塚兼紀　山村庄之　殿。　総務部長　大森通考　殿。　土木部長

鈴木健二　殿。　議事課長　大島　清　殿。

社団法人　日本建築協会々長　竹腰建造。　社団法人　日本建築士会近畿支部長　松井貴太郎　大阪土木建築業協会々長　鴻池藤一

建築部設置建議

都市復興の重要性に鑑み、先に重要府県に建築部を設置し得る様地方自治法の改正を要望していました所、去る国会に於て希望達せられ　9月1日より改正地方自治法が実施せられ建築部設置可能となりました事は御同慶に堪えぬと同時に之に付、格別の御尽力を賜りました事に対しては厚く感謝し、敬意を表する次第であります。就ては8月末日を以つて建築省地方建築出張所が廃止せられますので9月1日より建築部が発足する様重ねて要望するものであります。即ち下記事項を急速に実施せられ此の目的達成の為有終の美を為されん事を望みます。

記、　速かに府県に於て建築部設置に関する条令を制定せられん事を望みます。　以上建議します。

△　**昭和23年9月20日**

社団法人　日本建築協会々長　竹腰健造

同　日本建築士会近畿支部長　渡辺　節

日本建築設計監理協会関西支部長　松井貴太郎

大阪土木建築学協会々長　鴻池藤一

礼状

拝啓　愈々御清祥此段慶賀に存じます。陳者下各等曩に大阪府に建築部設置されん事に建議いたしました所今般その実施を見るに至り都市復興の為誠に快に堪えません。

事此処に至りたるに就ては貴下格別の御尽力の程を深く感謝と敬意を表する次第であります。茲に乍略儀書中を以て御厚礼旁御挨拶申上げます。

敬具

△　**昭和27年2月20日**

日本建築学会々長　伊藤　滋。　日本建築協会々長　竹腰健造。　日本建築設計管理協会理事長　中村博治。

全国建築業協会々長　安藤清太郎。　都市不燃化同盟会長　高橋竜太郎。

防火建築帯造成促進に関する陳情書

政府に於かれては都市の不燃化促進を図らんが為　助成策として首題の法案を準備せらるるやに見聞しますがその速かなる実現と今後の増進を期待して止みません。

記、　防火建築帯の造成促進の為、同地帯内の被助成建築物及補補しない耐火建築物は既存新築を問はず之等に対して地方自治体は固定資産税を木造並又はそれ以下に軽減する措置を講ぜられる事。住宅金融公庫融資に依る同地帯内の耐火建築物に対しても補助の対象とする事防火建築帯造成促進の為、土地所有権並建築物の所有を目的とする地上権者及賃借権者が公益に資する為　助成を受けて共同の耐火建築物を建築し様とする場合、それに支障を与えるものに対しては土地収用を行える措置を講ぜられる事。防火地域外に於ける学校、病院、公衛等の公共建築物を不燃化する為、之に対し適切な助成方途を速かに確立する事。　以上陳情致します。

△　**昭和27年4月15日**

社団法人　日本建築協会々長　竹腰健造

主要都道府県建築部設置に関する陳情書

拝啓　益々御清栄の事と御慶び申上げます。扨て最近当局は行政機構改正の一環として地方自治法第158条規定の改正を行う様準備中の趣でありますが、その案文に依りますと都を除く道府県の標準部中に「建築部」が揚げられないで僅かに同条第2及第3項規定に依つて予め内閣総理大臣に協議の上、条例を以て局部数を増加する事が出来る様になつて居ります。（中略）　当協会は多年建築諸政策の立案実施に微力を致してきましたが貴下に陳情して「主要道府県（人口250万以上）」には建築物を標準部として設置せられる様何分の御高配を御願ひ申上げる次第であります。　敬具

△　**昭和27年5月1日**

社団法人　日本建築協会々長　竹腰健造

主要都道府県建築部設置に関する陳情の件

拝啓　陳者4月15日附を以て御願い致しました標記の件に関しましては格別の御配慮を煩して居ります事を厚く御礼申上げます。何卒邦家の為一層の御高配を賜り主要都道府県に建築部設置されます様重ねて御願い申上げます。　敬具　（追て前回提出陳情書中23年以来建築部の設置されている現行の10都道府県とは「北海道、東京、神奈川、愛知、京都、大阪、兵庫、広島、山口、福岡、以上）

△　**昭和27年8月14日**

地方自治庁長官　岡野清豪　殿

衆議院議長　林　譲治　殿

社団法人　日本建築協会々長　竹腰健造

礼　状

拝啓　愈々御隆盛の段御悦び申上げます。陳者予而御審議されて居りました地方自治法一部改正法案に就きまして先般御拝眉の上御高配を煩しました主要都道府県に建築部を設置されます様陳情致しました件。御蔭を持ちまして此度衆議院並参議院に於て夫々設置の事に可決されました事は邦家の為誠に慶賀に堪えない処であります。此の結果を得ました事は偏に貴職の格別な御尽力と御高配の賜と衷心より感謝申上げます。今後とも建築行政に就きまして一層御支援賜ります様御願い致します。茲に乍略儀書中を以つて御厚礼旁々御挨拶申上げます。

「建築と社会」変遷

表紙図案の変遷を写真にする構想であつたが実現に至らなかつた。

大正6年9月15日　「関西建築協会雑誌」として　第1巻第1号の創刊を見たり。菊判縦組、1部30銭也。

大正8年2月　「日本建築協会雑誌」として第2巻第1号を以て改題す。

大正9年1月　「建築と社会」として第3巻第1号を以て誌名を更新。1部50銭に改正。

大正12年6月　定価75銭に改正、内容充実を計る。

大正14年1月　紙面の拡張を断行菊倍判となす（四六倍判）。

昭和4年2月　定価を50銭に価下げ。

昭和7年7月　左横組を実施（15年記念）。

昭和19年3月　政府に於ては此の時局に鑑み物資の戦力えの集結、国民最低限生活の保持に一切を挙げて凝集方策の下に我が「建築と社会」も出版事業整備要綱に基いて一時発行の停止を命ぜられ建築学会機関雑誌「建築雑誌」に統合を慫慂されるに至つたので3月号を以て終刊とした。本協会としては「建築と社会」に代つて随時「会報」を発行し会員諸氏との連絡に万遺憾なきようした。終刊時定価55銭。

第3種郵便の件。（不詳）

昭和22年1月　再刊第1号として再出発。　定価10円。

昭和23年1月　定価20円値上。

昭和23年7月　〃　40円。

昭和24年3月　第三種郵便認可。

昭和24年10月　定価60円。（会費改正と同時に）

同　26年1月　〃　80円。（定価会費と同額とする）

表紙の変遷（各図案真凸版にしたいが乍遺憾割愛した）

大正6年9月15日本誌創立以来今日迄の変遷を表紙に求むれば最も興味深い美と活躍の歴史を展開す。

大正6年9月～7年12月「花鳥を模様化」せるも毎号に原色による効果を挙げた。

大正8年1月～12月「女神の立像」の表紙を用う。

大正9年1月～12月　「バンガロのある風景」の図案風のもので毎号色調の変化を見せたり。

大正10年1月～11年12月「門」の図案の上に中央にコロタイプ美術印刷による各カット絵を張付けしたもの。

大正12年1月～12月　表紙に色版風景画（2月号　模様風防火宣伝号の文字あり　10月号関東大震災の文字白抜）。

大正13年1月～12月　窓より見たるビルの風景。

大正14年1月～6月　懸賞当選作、ビルのメカニズム。

大正14年7月～12月　「A」の構成図、中央に印刷。

大正15年1月　ニューヨーク市街高層ビルの一部フオート。

大正15年2月～6月　黒、白、黄によるモンタージュ

昭和2年1月～12月　建物入口構成図

同　3年1月～6月　赤原色に黒枠3線

同　3年7月～12月　俯瞰写真、ホール写真、ビルの写真　。（10月号建築知識普及博覧会特輯号白抜）

昭和4年1月～12月　（鳳凰の模様、安政震災図、カッフエの写真、都市美観、林泉と庭園、照明と暖房と衛生、其他各種建築物）。

以上表紙の中央に内容を紹介す。

昭和5年1月　グレーンより見た大都市

同　2月～12月　黒、白、金線による構成図。

昭和6年1月　二色刷建築図

同　2月～12月　佳作図案取入れる。

昭和7年1月～12月　黄原色刷。

昭和8年1月～12月　線の交錯図案。

昭和9年1月～6月　橙と黒二色刷。

同　7月～12月　「空襲と火災」構成図。群青に水色二色刷。

昭和10年1月～12月　懸賞1等当選作図案。

昭和11年1月～12月　懸賞2等当選作図案

昭和12年1月～12月　懸賞1等当選作青と白の配色による図案。

昭和13年1月～12月　1等当選作図案

昭和14年1月～12月　白と青との配色にする。図案。

昭和15年1月～12月　震災写真、四天王寺五重塔写真、其他白とオレンヂ配色図案。

昭和16年1月～12月　白と緑配色。

昭和17年1月～12月　白一色。

昭和18年1月～12月　白一色。

昭和19年1月～12月　白一色。

昭和22年1号～3号　白、黒、緑三色。

昭和23年1号～3号　四色刷中央に住宅、ビルの玄関等の写真等配入。

昭和24年1月～12月　三色刷（各月毎に適応せる色彩を応用）

昭和25年1月～12月　二色刷中央に家具構想図、写真、室内風景、展覧会風景、風景スケッチ、九州地図、ブロックの図、金閣寺の図、子供の図、スポーツの構想図、港風景等、

昭和26年1月～12月　二色刷（各月毎に適応せる色刷配色）　入選図。

昭和27年1月～6月　同上（三色刷）

委　員　会

内　訳

法制委員会	災害委員会
住宅委員会	材料委員会
教化委員会	見学会
都市計画委員会	建材審査委員会
設備委員会	構造計算調査委員会

各委員氏名を歴年毎に詳記し、内容も詳述する予定であつたが、頁の都合で省略した。

法制委員会

大正10年度　7回開催。

委員長　大林賢四郎。　幹事　吉井長七、吉木久吉、波江悌夫。　委員　花田孝二郎他19名。

歩道使用に関する件。市街地建築施行の為、道路一部使用許可建議の件。

大正11年度　4回開催。

委員長　大林賢四郎。　幹事　吉井長七、吉木久吉、波江悌夫。　委員　橋本勉、他18名。

建築工事請負契約及規定に関する件。建築工事請負契約統一草案協議。

大正12年度　1回開催。

委員長　大林賢四郎。　幹事　吉井長七、吉木久吉、波江悌夫。　委員　花田孝二郎、以下22名。

請負契約案連合調査会報告審議。

大正13年度

委員長　大林賢四郎。　幹事　吉井長七、吉木久吉、波江悌夫。　委員20名。　研究事項不詳。

大正年14度

委員長　大林賢四郎。　幹事　吉井長七、吉木久吉、波江悌夫　委員17名。　研究事項不詳。

大正15年度

員長　大林賢四郎。　幹事　吉井長七、波江委夫。委員15名。

昭和2年度　2回開催。

委員長　池田　実。幹事　野呂長四郎、横浜　勉。委員12名。　研究事項、委員会規定一部改正。

昭和3年度　9回開催。

委員長　池田　実。　幹事　野呂長四郎、今林彦太郎委員7名。

都市計画実施方法並計画に就いて。建築士法案に就て美観地区、風致地区指定促進研究。建築工事請負規程都市計画諸問題に就て。労働者扶助法案に就て。

昭和4年度　9回開催。

委員長　池田　実。幹事　今林彦太郎、小川安一郎。四つの分科を設けた。　第1分科　主査　小川安一郎　委員　加藤善吉他5名。第2分科　主査　高木真太郎　委員　竹中景一他6名。第3分科　主査　今林彦太郎　委員　村野藤吾他5名。第4分科　主査　高田利一郎　委員　伊藤幸太郎他5名。

劇場取締規則取纏検討。労働者扶助法案作成の件。労働者災害扶助法建議の件。4月東京に於て開催の建築監督官会議に建議の諸問題協議。実費精算式施行に関する連合調査委員会の件（横浜、安井、島田）。美観地区、風致地区指定促進建議の件。実費精算式工事施行契約案決定の件、大阪府令劇場取締規則1部改正で意見建議の件。

昭和5年度　5回開催。

委員長　今林彦太郎　幹事　竹中景一　和田貞治郎　分科前年通り　委員22名

6大都市病院規則研究。建築物の高さ最低限度に関する道路指定促進。第2次防火地区の指定促進の件。病院及病院取締規則研究。

昭和6年度

委員長　鳥井　信。幹事　今井彦太郎　和田貞二郎

古塚正治。　分科前年通り　委員27名。
分科外委員　池田唯一他８名。
土地区画整理組合公園存置の件。工業地域内特別地区設置の件。建築の合理化問題検討。市街地建築物法再建議の件。アパート建築取締規則制度の件。実地検分昇降機取締規則研究。定款改正討議。建築会館建設案研究。建築請負業者取締規則制定の件。建築代願人取締規則制定の件。

昭和7年度　11回開催。
委員長　今林彦太郎　幹事　加藤善吉　坪井誠一　玉置豊次郎　委員　伊藤和夫他16名
全国都市問題会議提出問題研究　耐火構造家屋税率に関する意見書の件　都市防火建築振興奨励に関する陳情の件　全国都市問題会議に２名上京の件　建築競技執行規準草案研究　会長附記　大阪駅前整理に関し、大阪市長建議案検討。

昭和8年度　10回開催。
委員長　津田敏雄　幹事　玉置豊次郎　坪井誠一
委員　秋田喜代治他10名
市街地建築物法令改正で建議の件　市街地建築物法施行細則発布促進建議の件　特別地区指定促進建議の件

昭和9年度　11回開催。
委員長　津田敏雄　幹事　玉置豊次郎　坪井誠一
委員　荒木正己他13名
建築代願人取締規則研究　第４回都市問題会議（京都）提出の意見　今年度風水害に鑑み屋根瓦に付材料委員会と協議

昭和10年度　11回開催。
委員長　津田敏雄　幹事　玉置豊次郎　坪井誠一
委員　石川寛三他６名　鉄筋コンクリート柱に対する有効断面積の研究　市街地建築物法令一部改訂編纂の件。

昭和11年度　5回開催。
委員長　池田　実　幹事　今林彦太郎　松井清之助
委員　松井公威他２名
市街地建築物法令第６版発刊の件　防火地区完成促進建議案の件　防火防空建築物普及促進の件

昭和12年度　2回開催。
委員長　津田敏雄　幹事　松井清之助　山口儀三郎
委員　板井公威他３名　本年度新企画なし　不詳

昭和13年度　8回開催。
委員長　玉置豊次郎　幹事　松井清之助　山口儀三郎
委員　板井公威他２名
市街地建築物法第８版発刊の件　学校法規教案決定の件　建築関係法規集録発刊の件

昭和14年度　1回開催。
委員長　玉置豊次郎　幹事　武田経一　山口儀三郎
委員　板井公威他５名
中等学校に於ける建築法規教授細則作表

昭和15年度　8回開催。
委員長　池田　実　幹事　池田谷久吉　玉置豊次郎
津田敏雄　委員　黒田　茂他12名
15年度版建築法規発刊の件　建築関係訴訟、特許中建築関係条項で建議の件　新体制に関する座談会

昭和16年度　3回開催。
委員長　玉置豊次郎　幹事　竹中景一　横見　幹
委員　浅野　弘、他４名
第11版市街地建築物法発刊の件
第２版建築関係法規抄纂発刊の件

昭和17年度　3回開催　記事不詳。

昭和18年度。
幹事　景山正明、他３名
第13版市街地建築物法令発刊の件
（昭和19年～22年迄　戦時中　空白）

昭和23年度　5回開催。
工事請負規定改正委員　委員長　尾崎久助　委員　管谷三郎他８名　建築制限規則説明会（宮脇府指導課長）

昭和24年度　4回開催。
建設行政委員会　委員長　稗田　治　幹事　恒岡俊行
山口文五郎　委員　大下順三郎他４名
工事請負規定改正委員会　委員長　尾崎久助　委員
管谷三郎他８名
４会連合工事請負規程改正案審議
（学会、士会、業会、協会）。工事請負規程改正連合会開催　簸中一良委員上京す　四会連合案再検討

昭和25年度　11回改催。
建築行政委員会　委員長　稗田　治　幹事　越田正勝
山口文五郎　委員　大下順三郎、他９名
請負規程改正委員会　委員長　尾崎久助　幹事　簸中一良　委員　管谷三郎、他７名　請負規程最終案検討　尾崎委員長上京す　建設省審議案と連携方法研究　建築規準法　建築士法に付学会支部と協同　近畿建築法規委員会設置　中沢誠一郎委員長の下に審議検討　学会支部及建設省関係方面に提案
11月15日～16日　都高工講堂
〃　17日～18日　神戸産婆会館
〃　21日～22日　京都労働会館
規準法　防火関係法規説明講習会開催

昭和26年度　委員不詳。　1回開催。
４会連合請負規定改正最終委員会開催　簸中委員長上京。

昭和27年度　4回開催。
建築規準法再検討。建築士法、消防法、紡績協会陳情書に就て。

住宅委員会

昭和4年度 委員長 日高胖 幹事 佐藤彰美 大原芳知 委員 西村辰次郎以下9名 9月4日初回委員会開催 於ライオン食堂 住友クラブ。5回30名 研究方針に就て意見交換

昭和5年度 委員長及幹事は昨年と同じ 委員 小林三造以下19名 於 住友クラブ 14回 111名。本委員会分掌を次の4分科に分つ 第1分科 平面 外観 構造 材料 第2分科 採光 通風 煖房 衛生 第3分科 設備 装飾 第4分科 実行の促進 住宅の本質 外観 構造 材料等に就いて。メートル法の尺法かに就いて協議の結果 尺法に決す。座敷と椅子式との限界の件に就いて。便所に就いて原図提出に付青写真とし第2分科委員に送付する事。台所設備の平面図を作成の件（第3分科会）

昭和6年度 委員長 葛野壮一郎 幹事 浅野金蔵 南信 委員 富士岡重一以下24名 於 ライオン食堂 住友クラブ 協会事務室 19回 160名
第1分科会主査選挙 富士岡重一氏当選 第2分科会 酒井勇三郎氏当選 第3分科会 末沢周次氏当選
委員総会 インターナショナル住宅協会より問合せの1931年国際住宅会議審議事項に提出材料作成に付協議の結果に定め委員長迄提出に決定。外部仕上材料に就て協議煖房の諸型録に付意見交換の結果 重ねて放熱曲線図表 一時間の消費燃料 燃料熱料の名称及種類に付 各会社に問合す事に決す。会員 佐藤彰美氏逝去さる。模範住宅の平面図に当てはめる可き台所設備のプランを作成する事申合せ。気象年報に関し調査。第1分科に於て作成の間取図に対しての台所設備図に付研究結果成案を得る。全国気象年表を購入し調査事項を列記の上研究する。設計概要書を逐条的に審議し一通り完了。

昭和7年度 委員長 葛野壮一郎 幹事 浅野金蔵 増山新平 委員 赤松 修、以下15名 第1分科主査 小川安一郎 第2分科主査 南 信 於 ライオン食堂 朝日倶楽部 6回 43名
「実用小住宅」発行。建築に関する座談会開催。見学会開催。住宅建築の将来に対する希望等論ず。

昭和8年度 委員長及幹事昨年と同じ 委員 赤松 修以下7名。担当常務 中村義雄 於 建築クラブ 4回 39名。防凩に就てその構造 設備 器材等を研究。防湿防腐の問題に付研究。

昭和9年度 委員長 武田五一 幹事 小川陽吉 松本儀八 増山新平 委員 赤松 修以下6名 記録なし

昭和10年度 委員長 葛野壮一郎 幹事 小川陽吉 小川安一郎 委員 赤松修以下12名
於 陳列場 建築クラブ 8回・66回
私室及特殊住宅街に就て。床（和洋） 床下 畳及材料に就て。通風、湯殿、便所（和風） 床 敷物（洋風）に就て検討研究す。

昭和11年度 委員長 石川純一郎 幹事 伊藤和夫 矢田鉄蔵 委員 荒木正己以下7名
於 協会クラブ 陳列場 7回 43名 家相に関する研究をなし、其文献を蒐集す。家相研究に対する参考目録作成し方鑑大全、楽地準則、三才精義、住宅の設計（家相の点から）。伊家住宅の研究。住宅内部の設備調査及伊家住宅の平面型式の統計的分類に関する件 住居読本刊行に関する件。

昭和12年度 委員長 石川純一郎 幹事 岡田孝男、矢田鉄蔵以下9名 於 協会倶楽部 陳列場 8回 42名 園田住宅地見学。住宅読本に関する件。

昭和13年度 委員長及幹事昨年と同じ 委員 伊藤和夫以下6名 於 協会倶楽部 陳列場 7回 住宅防護室研究に関する件 住宅読本の完成

昭和14年度 委員長 石川純一郎 幹事 小川陽吉 中野須次郎 委員 岡田孝男以下6名 記録なし

昭和15年度 委員長 石川純一郎 幹事 岡田孝雄 矢田鉄蔵 委員 伊藤和夫他7名
於 協会クラブ 陳列場 6回 32回
満洲移民住宅の研究に関する件 住宅2600年史編纂の件

昭和16年度 委員長 岡田孝男 幹事 小林 清 横山尊雄 委員 小川正他7名 於 陳列場 2回 13名 住宅問題に関し委員会設置。応急住居研究の件。

昭和17年度 委員長 伊藤和夫 幹事 岡本忠行 委員 石井利雄他6名 於 協会クラブ室 6回 30名 集合住宅案基本条件検討。

昭和18年度 役員不明 集会室 6回 30名 都市共同住宅仮装敷地案に依る見学の件。戦時組立住宅試作。

昭和19年度 記録なし

昭和24年度 委員長 元吉勇太郎 委員 桐本楠雅、他12名 於 朝日ビル協会事務所 4回
市内堂島大橋南結に建築中の佐々木式ブロック構造施行現場見学す。住宅金庫設置運動の件。新工法の育成 住宅改善。住居の水準向上等研究。農村住宅改善問題

昭和25年度 委員長 元吉勇太郎 幹事 小林 清 塚本喜八郎 委員 岩本博行他9名
於 朝日ビル協会事務所 3回。 農村住居合所指導の件。住宅公庫にある標準プラン作成の件。

昭和26年度 委員長 桐本楠雅 幹事 津村重一 渡辺禎三 委員 岩本博行、他6名
於 朝日ビル協会事務所 2回 12名 家具建築心得に付新聞記事に掲載の案を協議。事業企画協議。

昭和27年度 委員長 赤松 修 幹事 津村重一 委員 池田達雄、他10名 於 朝日ビル協会事務所
防火に関する映画会開催。住宅譲渡等誌上斡旋。住宅に関するパンフレット発行。

(以上)

教化委員会

大正12年11月28日 本協会々議室 7名
於 臨時理事会 教化委員会設置に関する件

大正13年度 委員長 古宇田 実 幹事 園部文雄 委員 井上新二他9名。各事業担当者(講習会 野呂長四郎)(職工教化 野呂長四郎 小笠原 鈅)(出張講演 園部文雄)(調査 姫野 武)。
協会々議室 6回開催 延38名 委員長及幹事互選 事業担当者決定。第4回 講習会計画の件(可決)。建築職工教化事業に関する件。現任建築職工、幼年職工の教化法の件。講演事業に関する件。建築職工教化事業に付協議。鉄筋コンクリート職工教化実施 可決。

大正14年度 委員長 古宇田 実
委員 波江悌夫、他8名 本協会々議室 中央公会堂大洋軒別室。建築業協会関西支部 本協会事務所等、5回開催 延32名
大阪市、建築業協会、本協会三者連合職工教化講習会開催に付協議(本件受託と決す)。同講習会は塗装工講習会と決定(科目 内容 時間 講師等に付協議)。大阪市に報告す可き講習会委員 小笠原 鈅他、8名。

大正15年度 委員長 古宇田 実
委員 波江悌夫他7名 大湖食堂 協会々議室 2回開催 延12名 委員長及幹事互選 大阪市より三者主催に関し申越したる本講習会に関する原案次の通り可決す(鉄筋コンクリート工事に関する諸問題、期間講師、経費の原案協議)。

昭和2年度 委員長 古宇田 実 幹事 池田谷久吉 小笠原 鈅 委員 松本儀八他5名 江商ビル集会室 本協会々議室 大湖食堂 10回開催 延64名
委員長及幹事互選。高等女学校々長会開催。建築の普及意見交換す。本委員会を2分科会に大別す(建築教育に関する事項、延築史料に関する事項)。
建築学会講習会の件協議。職工講習会開催に付打合協議。来年度委員会費用約460円を要求する事。建築史料に関する調査事項決定の件。見学会一府下泉南郡熊取村中辰三助邸(目的 室町時代の遺物 庫内の調査研究)。

昭和3年度 委員長及幹事昨年に同じ 委員 松本儀八他11名 大同ビル ライオン食堂外7回開催 延40名 中辰三助邸見学報告書作成。大念仏寺の焼失本堂写真復製の件。見学会一南河内郡高鷲村北島泉、吉村彦次郎邸。青年技術者に対する講習会開催の件、

昭和4年度 委員長 武田吾一 幹事 小笠原 鈅 増山新平 委員 池田谷久吉、他13名 灘万 住友クラブ 大同ビル ライオン食堂 11回開催 延84名
講習会の件(春季青年技術者 秋季職工) 見学会の件(東洋リノリューム他4社)見学会 大麻工代所。

昭和5年度 委員長武田吾一 幹事 小笠原 鈅 池田谷久吉 委員 小西一良他7名 協会々議室 ライオン食堂 8回 延64名 見学会の件(住友製鋼所 日本ペイント 桃山病院現場 中央市場 甲子園ホテル 大阪陶業KK)。春季講習会(近代建築様式概論建築法規に就て、強度計算に就て)。職工講習会(秋季)(鉄筋混擬土施行法)(建築附帯設備)。

昭和6年度 委員長 小笠原 鈅 幹事 池田谷久吉 姫野 武 委員 岡本新次郎、他7名 本協会々議室 7回 延70名 春季講習会の件

昭和7年度 委員長 安井武雄 幹事 芝田知重 酒井勇三郎 委員 小島淳吉他7名 本協会々議室 ライオン食堂 建築倶楽部 6回 延36名
移動講習会春季講演会(京都 神戸商工会議所) 古建築実地調査見学会(南海沿線助松 田中正治氏邸)田中氏邸調査表作成完。

昭和8年度 委員長 古宇田 実 幹事 酒井勇三郎 坪井誠一 委員 伊藤恒治他7名 担当事務 富士岡

岡重一　場所不詳　5回　延26名　京阪神各女学校の家事科中、住居に関する教材教授時間数、教化書を聞合す。建築相談所設置に決定常務会に上程。

昭和9年度　委員長　古宇田　実　幹事　本間乙彦　委員　伊藤恒治他7名　建材陳列場外5回　延26名　女学校家事教材中「住居」に関する問題座談会開催。田原正照氏所有の古文書鑑定に関する件。
全国工業学校の各教科目の時間調査の件。

昭和10年度　委員長　古宇田　実　幹事　篠原大郎　委員　伊藤恒治他8名　建材陳列場外7回　延43名　建築通俗講演会開催。本年度教化委員会事業計画（高等学校工業科指導の件）。各町村長の学校計画に関し相談指導する件。各校建築科卒業計画。協会主催の設計募集図の展覧会開催の件。各校建築科の住宅設計図を募集し各女学校家庭科の巡覧展覧会開催の件。小学校建築相談所の規定起算の件。同原案報告。小学校建築相談所設置に関し、大阪府建築相談所の内容を調査し成果を得る事。実業教育振興に関する意見開陳答申書取纏草案決定の件。

昭和11年度　委員長　永沢毅一　幹事　篠原太郎　委員　伊藤恒治他4名　本協会々議室　2回　延8名　建築電気熔接講座開設

昭和12年度　委員長及幹事昨年に同じ　委員　伊藤恒治他4名　協会クラブ室外7回　延45名。本年度研究事項(郷土建築の調査研究)協議決定　郷土古建築の研究調査（大原八瀬の住宅　兵庫県庁）。工業学校の教授内容を検討その改善案を考研の件。建築教員座談会開催（製図に就て）。大工徒弟の教育及資格に付調査研究の件。大工業組合代表者と意見交換座談会開催。

昭和13年度　委員長及幹事昨年と同じ。委員　伊藤恒治他5名　本協会々議室　6回　延39名　メートル法一元制実施に関する協会案立案の件　大工徒弟養成に関する件。大工資格検定試験制度に関する件協議。大工徒弟資格試験制度成立方上申の件。高校制度研究の件建築教育者に関する具体的研究の件。社会教化

昭和14年度　委員長　永沢毅一　幹事　中野順次郎　委員　鈴木忠五郎、他5名　協会々議室　1回　延7名　建築新部門研究の件。建築以外の専門家と連絡の上　相互的研究の件。

昭和15年度　委員長　堀口甚吉　幹事　中野順次郎　大下順三郎　委員　小川陽吉他8名　協会々議室　建築クラブ　2回　延12名　天王寺五重塔に関する講演会の件。建築製図に関する研究の件。

都市計画委員会

大正12年度　委員長　横浜　勉　主査　園部文雄　池田谷久吉　委員　伊藤正文、以下17名
12月5日設置　初回委員会開催以来協会々議室、外にて6回開催　延57名
帝都復興に関する分科会　四大都市計画促進に関する分科会を設置
都市復興に関する建議案の件　四大都市都市計画促進に関する建議案の件

大正13年度　委員長　中村琢治郎　主査　池田谷久吉　園部文雄　委員　伊藤正文以下16名
京都都市計画参考資料図書に付研究の件

大正14年度　委員長　池田谷久吉　主査　伊藤正文　小笠原　鋤　委員　置塩　章、以下12名
記載なし　協会々議室

大正15年度　委員長　園部文雄　主査　池田谷久吉　安井武雄　委員　石丸喜久治、他17名　協会々議室　防火地区内に於ける壁面の位置指定に関する件
記載中絶

昭和8年度　委員長　松室重光　幹事　加藤善吉　北垣熊之介　委員　伊藤和夫他7名　担当常務　鳥井信　朝日ビル協会倶楽部本部室外11回　70名　大阪駅前整理事業に関する具体的審議を為す　駅前一ブロック如何に区画するかに付輿論喚起の為め懸賞募集をする事に意見一致せり
都市計画執筆名士人選に就て協議　都市計画主任会議指示事項に付意見交換

昭和9年度　委員長　鳥井　信　幹事　伊藤和夫　北垣熊之介　委員　喜多村義雄他7名　場所不詳　8回　50名　本委員会　教化委員会　災害強度委員会　各委員長及幹事　理事常務の連合協議会開催に関する件　函館大火復興に関し道庁に建議の件　都市武装促進委事会を特設する事

昭和10年度　委員長　鳥井　信　幹事　加藤善吉　吉田信武　委員　喜多村義雄他6名　場所不詳　9回　35名　阿倍野橋附近の改造懸賞募集の件　大阪都市計画防火地区大拡張に関し建議の事（徹回）

〝都市美を語る〟座談会開催の件

昭和11年度 委員長 鳥井 信 幹事 加藤善吉 福知秀夫 委員 亀井幸次郎以下3名
朝日ビル協会倶楽部 6回 35名
全国都市問題会議第5会総会に提出す可き研究問題の件 1 都市の公益事業 2 都市防空法

昭和12年度 委員長 鳥井 信 幹事 村井 進 元吉勇太郎 委員 加藤善吉以下4名
於 朝日ビル協会 4回 21名
住宅経営の具体案に付協議 住宅建築促進具体案 都市美観問題に就いて 住宅経営と都市計画との関係に付協議 建築社会法案並住宅法案研究の件

昭和13年度 委員長 鳥井 信 幹事 岡本茂樹 亀井幸次郎 委員 勾枝弘美以下4名 於 朝日ビル協会 9回 48名 1 都市工業地発展と専用地の件 2、市街地に於ける空地の件 3 地方計画及国土計画の根本に関する件

昭和14年度 委員長 鳥井 信 幹事 中村新一郎 伊藤 甫 委員 岡本茂樹以下8名
於 朝日ビル 1回 6名
1 工業 住宅専用地の研究 2 工場の規模と職工数職工の通勤距離 3 商店の分量 4 爆発物と建築物との距離 5 工業 住宅専用地区の位置指定資料に関する件

昭和15年度 委員長 井上新二 幹事 亀井幸次郎 錦田直一 委員 伊藤恵造他9名
場所不詳 8回 59名
1 全国都市問題会議 総会議題研究の件 2 大阪東郊部の発達調査の件（主として今福労働者住宅の実情）3 都市人口増加に関する件 4 全国都市美協議会よりの招請に関する件 5 全国都市問題会議提出論文の要約に関する件

設備委員会

昭和8年に設置 8年度役員 委員長 小笠原 鋧 幹事 岡部顕則 松井清之助 委員 伊藤宗太郎外9名
8年度事業 地下室を設ける場合の堀方其他工事設備のリベッチングミキサー其他工事上騒音防止に関する設備に就いて

昭和9年度 委員長 小笠原 鋧 幹事 伊藤宗太郎 松井清之助 委員 西村安彦外7名 於 協会事務所 材料陳列場外 5回 延44名
潜函工事に就て 工事上の騒音防止設備に就て 設備工事設計上の注意に就て 機械室面積 配管法等 衛生工事に就て

昭和10年度 委員長 小笠原 鋧 幹事 末沢周次 増井敏克 委員 神谷光彦他7名
於 建築クラブ 4回 延27名
一般建築施行上に必要なる設備の研究 デレツキ其他機械に就いて 一般附帯設備施行上に関す件に就て 設備工事に於て施行監督上特に留意すべき点に就て 衛生設備工事 煖房 換気 電気設備工事 消火設備工事 機械設備工事 ガス設備 建築工事 仮設備に要する器具 機械に就て

昭和11年度委員 委員長 小笠原祥光 幹事 増井敏克 村田小一 委員 西村安彦 6回開催
昇降機に付大阪府の取締方針に関する件 煖房設備に関する件 煖房業者招待座談会開催

昭和12年度 委員長 小笠原祥光 幹事 伊藤宗太郎 酒井勇三郎 委員 岡本新太郎、他4名 材料陳列場 大阪市大下水の講演会に就いて

昭和13年度 委員長 酒井勇三郎 幹事 伊藤宗太郎 増井敏克 委員 岩尾保衛他4名 於 材料陳列場外9名 延36人
土木建築工事場安全規則に就て 土木建築工事場安全規則及衛生規則に就て 工事場安全規則中 建築に関係ある条項 会誌に発表の件 消火設備に就て 工事場安全規則に就て 洪水 高潮等に対する設備に就て 防空用カーテン取扱方法 防空用落込堰板に就て 工事場安全規則中 会誌発表に関する件 防災設備に就て防毒室用の換気装置に就いて 都市防空課研究公表の件

昭和14年度 委員長 岩尾保衛 幹事 篠原太郎 増井敏克 委員 石井春雄他5名
建築クラブ外 5回 延25名
防毒設備に関する講演会開催の件 換気 煖房設備に就て 中防の講師派遣方要請の件 講演会々催の件 防護室問題の資料整理の件 衛生工業協会時局調査委員会の研究事項内容の件新設附帯設備概要紹介を施工者に依頼の件 防空避難実験に関する件 防空用濾函に関する件

昭和15年度 委員長 新名種夫 幹事 石井春雄 前

原大二郎　委員　伊藤鉱一他８名
於　建築クラブ　陳列場外　８回　延40人
防空施設に関する件　工場防空施設研究部会設置の件　防護室設備に関する座談会開催（出席者岩尾以下13名）工場建築越屋根の諸型式に就て資料蒐集の件　防空建築の具体的研究　建築諸設備工事用代用品　住宅の防空設備の研究に就て、建築設備に用うる代用品に就て　大阪市汚水処理場及下水系統に関する参考事項調査設備工事に於ける代用品　工場の換気及遮蔽
大阪市水道部　私設下水道　水洗便所施設に関する件　工場遮蔽方法に就いて

災害委員会

大正６年度　主査　池田　実　委員　木子七郎、他12名
於　大林組講堂
天満青果市場災害調査報告に就て

昭和２年度　委員長　波江悌夫　幹事　池田宮彦、八木幸次郎　委員　中島智喜、他10名
於　協会々議室　江商ビル地下室　５回　延41名
丹後地方大震災勃発に就いて　震源地附近実地調査委員４名派遣　京阪神及堺の震災調査　丹後及大阪市内外各方面に渉る調査報告　震災調査書蒐集に関する件　火災時の風位　其他に就いて　木造家屋耐震構造範例作成に就いて　木造耐震構造の細部に就いて　木造学校建築　和風住宅建築

昭和３年度　委員長　光安梶之助　幹事　中島智喜　池田宮彦　委員　石井　勇、他７名
於　大同ビル地下室　住友クラブ　３回　延17名
建築展覧会出品の件　地質と地耐力の研究　ボーリング地質調査の件　市内各地のＯＰ高低図の件　大阪市地質実測図の件

昭和４年度　委員長　下浦光衛　幹事　岩佐信也　岡織吉　委員　大島重義他４名
於　住友クラブ　２回　延13名
高さに風速の変化　其他風圧に関し大阪測候所　中央気象台　海洋気象台に付審議調査　大阪市内地質ボーリング図　耐火耐震構造図　大阪市内防火地区増設建築活動に就いて

昭和５年度　委員長　光安梶之助　幹事　池田宮彦　林豪蔵　第１分科　池田宮彦他11名　第２分科　林豪蔵他10名
鉄材の溶接に関する文献　実物により実験研究討議す　電気溶接に関する研究の件　鉄筋試験方法―強度に関し内藤博士に照会の件　土木試験報告集収の件
於　住友クラブ　江商ビル　２回　延16名
電気溶接試験法決定　大阪市防火地区の完成促進に就て都市計画の防火地区に関する説明　実験中の丸鉄捧溶接強度の成績並供試材示さる

昭和６年度　委員長　増田　清　幹事　大野直平　古川豊　第１分科　落藤藤吉以下12名　第２分科　秋田喜代治、他11名　於　住友クラブ　１回　延８名　建築規則改正の件　溶接に関し意見交換

昭和７年度　委員長　渡辺圭吾　第１分科　幹事　落藤藤吉　主査　黒田　茂　委員　小野茂雄他７名　第２分科　幹事　青柳貞世　主査　矢田鉄蔵　委員　井出正雄他８名
於　大同ビル地下室　建築クラブ他２回　延20名　コンクリート調合合理化の一般普及化に就いて　生コン配給会社企画案　コンクリート調合々理化普及宣伝の為め講習会開催　溶接手検定試験法　溶接規格　独乙熔接示方書プリントの件

昭和８年度　委員長　中沢誠一郎　幹事　落藤藤吉　委員　青柳貞世、他12名　８年度記事なし

昭和９年度　委員長　波江悌夫　幹事　黒田　茂　委員　佐野俊三他　９年度記事不詳

昭和10年度　委員長　波江悌夫　第１分科　幹事　松井清之助　委員　青柳貞世他５名　第２分科　幹事　黒田　茂　委員　浅野新一他７名
建築材料陳列場　クラブ室　２回　延14名
石崖に付研究　地盤沈下に関する研究　型枠に関する研究　混凝土用材料に関する研究　講演「台湾過去の地震記録に就いて」谷口博士

昭和11年度　委員長　波江悌夫　幹事　黒田　茂　委員　青柳貞世、他11名　於　建築クラブ　５名
振動コンクリート　地盤沈下　型枠　石崖　コンクリート材料等に関する研究

昭和12年度　委員長　渡辺圭吾　幹事　黒田　茂　中井新一郎　委員　浅野新一他８名
於　建材陳列場外　２回　延23名
ボーリングに関する資料蒐集方法　熔接工技術試験　連続鋸屋根に対する分布状況調査　地質調査等に就いて　地質調査図作成の件　風圧実験見学の件
型枠に関する件に就いて

昭和13年度 委員長 渡辺圭吾 幹事 黒田 茂 山田 誠 委員 浅野新一他6名
於 建築材料陳列場外 6回 延48名
ボーリング 風圧に関して セメント規格改正案に関連せる新試験用機械器具標準型研究に就いて 熔接工試験法研究に就いて 阪神地方水害調査の件 ボーリング表増補原稿の件 神戸市大水害調査の件 兵庫県より寄贈の阪神水害調査に付研究結果を雑誌に掲載の件 土留支保工の内矢板に関する件 熔接手技術検定試験法比較実験の件 浸水地域地図雑誌掲載方に関する件 無筋混凝土の実測に依る調査研究促進の件

昭和14年度 委員長 渡辺圭吾 幹事 益尾辰雄 浅野新一 委員 青柳貞世他8名 記 不詳

昭和15年度 委員長 渡辺圭吾 幹事 浅野新一 黒田茂 委員 浅井郁爾他15名
於 建築クラブ 3回 延36名
強度計算標準資料作製の件 無筋コンクリート造建物設計例作製の件 電孤熔接手技術検定方法に関する件 風圧パンフレット 釘接手に関する件 釘の強度に関する件を研究

昭和16年度～同24年度迄は記載事項なし

（災害調査委員会）

昭和24年度 委員長 堀口甚吉 副委員長 杉本清範 幹事 奥島正一他3名 委員 池上勝郎他12名 於 朝日ビル協会 2回 20名
地震 風水害 其他4分科設置 耐震問題に付意見交換。

昭和25年度 委員長 池田宮彦、副委員長 堀口甚吉、幹事 津村重一他3名。委員五百蔵芳明他26名。 於 朝日ビル協会 分室外 12回 101名。
事業計画協試。地質調査表整備の件。建築物課税の低減を図る件。ジェーン台風風水害に付緊急協議開催。大毎講堂にて学会、土木学会、協会合同災害対策講演会開催。（講師 坂 静雄、石原藤次郎 200名）
都島高工講堂にて地震常識に関する講演会開催。講師横尾博士 72名。

昭和26年度 委員長 池田宮彦、幹事津村重一。委員五百蔵芳明、他8名。於 朝日ビル協会 7回 45名。地質調査表資料採集の件。地震風水害と其対策等予防対策常識の普及の件。記念事業計画中に地質表出版提案の件。

昭和27年度 委員長池田宮彦、委員五百蔵芳明、他8名 於 朝日ビル協会 1回 5名
専ら地質表資料の整備に着手 20年前初版改訂再出版原稿作成

材料委員会

大正10年度 本協会々議室 2回開催 延 20名
委員長 片岡 安 幹事 小笠原 銅 松本禹象 瀬戸文吾 委員 伊藤幸太郎、他22名

大正12年度 本協会々議室 1回開催 延6名
委員前年と同じ
建築材料連合調査会より送付の木材規格統一案に付案中一部改定し提出す
（大正13 14 15年度記録なし、不詳）

昭和2年度 本協会外 7回開催 延47名
委員長 松室重光 幹事 谷 民蔵 下浦光衛 委員 渡辺珍久他8名
石材規格案に関する件 コンクリート骨材 砂利の規格統一を計る件 セメントの規格制定の件 関東地方産出石材及関西地方石材の統一規格制定に就て
種々の防水材料は規格試験に合格せし物を市場に販売を許す様取締法規設定の件 メートルネヂ及ウイットウオースネヂの6角ボルト規格統一に関する件

昭和3年度 ライオン食堂外23回開催 延129名
委員長 松室重光 外12名
実際現場に用いるコンクリート試験方法研究の件 現場に於けるコンクリートの分解について 現場コンクリートブロック作製試験成績報告 工業試験所にて「セメントモルタル」の強度を調査 南洋材「ラワン」虫害に就て 材料施行手間代に就て塗布順序等につき白色ペイント規格調査の件及其他塗料に関し施行順序及調合割合表作成の件 塗装標準規格の件 木材 鉄材 壁地に付 1 2 3等級の工事に分け 手間材料の標準単価調査の件 硝子に就て 日米板硝子に関する各般の事項調査 旭硝子及島田硝子に付製品の規格調査の上回示の件 衛生陶器類に就て 洗面器に就て 名古屋陶器の型録に付調査をし研究す

昭和4年度 於 ライオン食堂 34回開催 延118名
委員長 松室重光 幹事 森本藤吉 順川廉太郎
委員 大沢幸平、他38名
「ポートランドセメント」及「高炉セメント」規格改正案の件 某現場コンクリート試験体作製の件 鉄筋

コンクリート梁に於ける鉄筋の応滑力試験方法研究
洋瓦に就て　スレート及洋石に就て　防火布の規格に付調査の件　内地産出市場品規格を調査　外壁セメントコーデレグの手間及材料　坪当り表作成の件　鋼製戸障子の資料蒐集研究の件　「ステールサッシュ」及「ドアー」に就て　手洗器の規格に付研究結果サイズ大、中、小3種と決定　喫吐等の寸法其他に就て　電気的　機械的に通分し　権威ある専門家より研究資料蒐集局部に就て研究調査　居室　家具標準寸法及図面調査整理の件

（昭和5・6年度記録なし）

昭和7年度　ライオン食堂　17回開催　延127名
委員長　松室重光他18名
メートル法　度量衡実行に関する件　量に就て　量工作法及標準品質に付　奈良朝　平安　鎌倉　足利　元録　徳川　明治時代の改革に渉り　業者林氏より詳細説明あり　衛生陶器の各寸法に就て

昭和8年度　於　ライオン食堂　6回開催　延37名
委員長　須川廉太郎　幹事　小西一良　委員9名
ステールサッシュ　規格案及之に伴う硝子の大きさ等に就いて　大阪模様塗工業所の実験

昭和9年度　4回開催　延19名
委員長　池田宮彦　幹事　松久保敬三　委員7名
木材市場寸法調査の件　セロテックス代用品コルゲットテッドボードに関する質問事項に付研究の件　風水害の惨情に鑑み屋根瓦に関し座談会開催の件

昭和10年度　クラブ室　陳列場　7回開催　延53名
委員長　高橋栄治　幹事　浦　英之助　委員7名
アスファルト防水施行に関する研究会の件　小倉石油大道技師より「アスファルト」製造に付講話あり　アスファルト防水工事仕様書に付研究

昭和11年度　協会クラブ室　陳列場　朝日ビルクラブ　7回開催　延34名
木材市場寸法規格案の実施促進建議の件　小田化学小田正夫氏より防水剤に就て説明あり　セメント防水剤試験に関する具体案を協議　床板規格に付研究

昭和12年度　陳列場　朝日クラブ室　8回　延44名
委員長　高橋栄治　幹事　松久保敬三　委員5名
プラスターに付研究　近時の建材暴騰に関し、先づ鉄材に対し、その原因並対策に付調査研究　鉄材研究に関し　尚、製造業者側の意見聴取　床板規格案の件報告案作成　建材暴騰に関する対策研究報告書作成着手　床板規格統一に関する研究は明年に引継

昭和13年度　本協会　9回開催　延61名
委員長　高橋栄治　幹事　楠瀬　徹、他7名
銅使用制限に付当局に建議の件　銅使用制限規則に関する件　銅及銅合金の代用金属に関する件　木材規格統一の件　木材寸法規格実行促進の件　建材代用品考案奨励の件　石綿スレート規格案の件　建築材料の代用品発明考案展覧会開催の件

昭和14年度　本協会　5回開催　延30名
委員長　松久保敬三　幹事　道田泰治郎　委員5名
日本瓦に就て　スレート工場見学の件

昭和15年度　クラブ室　陳列場　7回開催　延43名
委員長　松久保敬三　幹事　木野山照雄他11名
木材規格研究資料調査の件　辻製材協会理事長より用材生産統制規則に付意見開陳　品等規格に付協議決定　農林省木材規格を土台として検討の上単純化す　西島実業学校新築工事現場の釘打組立梁荷重試験を見学　木材市場品寸法規格決定に付会議発表の件

昭和16年度　陳列場　クラブ室等　15回　延87名
委員長　松久保敬三　幹事　楠瀬　徹他6名
用材品等規格に就て　建具材規格に付農林省案を検討　挽角に就て　木材品等規格中板類に付研究　建築学会案木材寸法規格に就て　木材寸法並品質等規格の再検討をなし修正の上建議案作製

昭和17年度　陳列場　クラブ室　8回開催　延54名
委員長　楠瀬　徹　幹事　榊弘美他7名
基礎の問題に就て　木材数量表の件　基礎、木材工事に付資料　数量に就て　屋根、蒐工事の資料蒐集検討

昭和18年度　集会室　9回開催　延72名
委員長　楠瀬　徹　幹事　後川卯三郎　道田泰次郎
委員　竹内千代松　他6名
木材の寸法並品質等規格検討
木材寸法規格改正案の件

見　学　会

（創立当時より大正10年迄省略）

大正10年度　北木島工場　6時笠岡着　北木島豊浦岩石工場を視察後鯛網見学　笠岡中利にて宴を催す

大阪新市庁舎　現主任（会員）永野氏先導で庁内見学

昭和4年度　大阪中央電話局新庁舎　210名　市外電話交換状況及「アドソール」利用冷房装置見学　「冷房装

置」に就て大河内正敏氏の講演あり

昭和5年度 大阪市電気局新庁舎 109名 電車 電気普及館に於ける（商店 家庭 街路 工場 広間 電気科講堂 劇場 暗室の照明等）を見学

昭和7年度 大阪市営住宅 大阪織物ＫＫ 南日東町桃ノ木 下寺町と順次見学 大阪織物ＫＫ 男女寄宿舎 社宅等を見学 高島屋にて晩餐散会す
株式会社 工英社 取締役横田氏よりアスファルトルーフィング其他に関する原料の変遷生産工程等を聴取の後工場内見学 夫々意見交換し散会
大阪石綿工業株式会社 工場見学 製品見本等を見る 東洋リノリユーム伊丹工場

昭和8年度 8月 4会連合建築大会及満洲見学 7名 10日神戸港上船 11日門司 下関上陸一見の上正后出航 13日午前9時大連埠頭到着 港内見学後 三泰油房 満鉄大連医院 南山荘を見て満洲土木建築協会の午餐宴に招れる 午后中央公園 老虎灘等を経て博覧会を見る 満洲建築協会の晩餐招宴 遼東ホテルに一泊 14日午前牧城駅に行き漢時代の古墳を一見 水師営会見所 白玉山爾霊山等 旅順の戦蹟事歴を見物 黄金台ヤマトホテルにて関東庁局長の招宴に列す 午后竜王塘貯水池を見て大連に帰着 5時連合大会開催 15日午前9時大連発 午后1時鞍山着 昭和製鋼所を見学後奉天に入り遼陽館に一泊 16日忠霊塔 南満医学堂清真寺 同善堂 東北大学 北塔等を見 北陸見学午後北大営 宮城 市内等を見学 11時同地発北行す 17日朝新京着 国務院を訪門 鄭総理と会見 各所見学午後建都の工事見学 「列車ホテル」に一泊 18日 午前出発 午後3時哈爾賓着 烈士記念碑 孔子廟 極東寺 日本人小学校 公園其他一見 名古屋ホテル一泊 19日松花江を下り拉哈線終点の鉄橋工事を一見市内見物 再泊 20日南下 奉天大丸旅館一泊 21日 撫順炭坑 「オウルセル工場」を一見 22日朝鴨緑江を渡り平壌着 市内一見 午后11時京城着 備前屋に一泊 23日朝より朝鮮神宮 博文寺 博物館 秘花 総督府を一巡 5時朝鮮ホテルにて片岡会長の講演懇談会あり 24日午前釜山着 市内一見 午后6時下関着 25日朝帰阪す

昭和12年度 田村駒商店 82名
同商店講演場にて講演聴講後暖房設備見学

昭和13年度 武川ゴム株式会社工場 株式会社 理研鋼材尼崎工場 300名 武川ゴム工場長の講演 工場内見学 理研鋼材工場に到り同工場見学す
日鉄広畑工場並区画整理見学会 86名
広畑30万坪の大観と建設途上にある1000屯溶鋼炉其他の基礎並建設部及埋立港湾設備の1端を見学す

昭和14年度 大阪市水道部浄水所 65名
同所技師 岡崎氏より浄水所に関する説明聴取後、見学

会勢幹事会各年度別役員名 （幹事各位の努力を謝する為め委員氏名を記したいと思いますが頁数の都合で省略した事御許し下さい）

昭和15年度 幹事長 松本儀八 常任幹事 大下順三郎他3名 幹事 伊丹久吉、他15名

昭和16年度 幹事長 谷 民蔵 常任 大下順三郎他3名 幹事 石井春雄他4名

昭和17年度 幹事長 山脇友三郎 常任幹事 伊藤宗太郎、他5名 幹事 伊藤武夫他17名

昭和18年度 不詳

昭和19年度 幹事長 藪中一良 常任幹事 景山正明、佐藤正五郎他2名 大阪幹事 井上一雄他11名 兵庫幹事 岩尾保衛他3名 京都幹事 小崎 修他3名
（昭和20～23年度 不詳）

昭和24年度 会勢委員会委員長 銭高善之 副委員長 稗田 治 山本美樹 委員 岩佐信也他7名

昭和25年度 委員長 松村雄吉 副委員長 高橋宴夫 政岡基次 委員 石井一信他8名

昭和26年度 委員長 松村雄吉 副委員長 政岡基次 委員 石井一信他10名

昭和27年度 委員長 浅沼猪之吉 委員 青木友一、他9名

（昭和15年以後見学会は会勢幹事会の事業となる）

昭和15年度 四天王寺五重塔 226名
伽藍復興工事々務所技師 吉村氏より五重塔の建設に関し設計図面等に依り説明 五重並金堂を見学

○ 川島織物工場 大徳寺 孤蓬庵65名
同工場の織物実況を見学 午后 大徳寺 法野寺見学（岡田孝男氏の大徳寺に関する講演あり）

○ 日本郵船株式会社新造船 新田丸を見学 204名

○ 東洋製罐草開工場を見学 30名

○ グリコ株式会社 44名 同社青年学校々舎 諸設備次でグリコ製菓工場を見学

○ 高島屋天下茶屋工場 52名 各製品工場（製菓 食料品 アイスクリーム 製氷等）を見学、次いで設計者たる竹中工務店 岩本氏より概況に付説明あり

○ 吉田家（通称五軒茶屋）30名 珍らしき古建築 文豪近松に由緒深き吉田家を見学

○ 吹田操車場及朝日ビール工場 43名 吹田操車場及操車実況 朝日ビール吹田工場を見学
報国丸15,000屯 50名 築港、住友岸壁随意見学

○ 大洞窟院展（於 天主閣） 奈良飛鳥園主 小川晴揚氏説明 見学後「北支と満洲の在建築に就て」 京大村田治郎氏の講演あり

○ タイガー計算機十三工場 244名

○ 神戸日産マッチ及菊水楼 32名

○ 京都 島津マネキン工場及東宝 日活 新興 各ス

タヂオ見学　62名
○　大日本紡績貝塚工場　40名
○　一心寺境内　頼泉寺　十万堂茶室　35名
○　千年家阪田氏邸　36名　神工高野地氏より同家建築の年代　様式其他に亘り研究の結果講演
○　中河内郡孔舎衛村一帯に於ける神武天皇聖蹟　生駒神社　25名　八木　博氏の講演
○　京都　稲畑邸庭園　市田邸庭園　55名

昭和16年度

○　水無瀬神宮　加賀邸洋蘭妙喜庵茶席　49名
○　奈良佐保路廻り　13名　井川定慶氏の実地説明あり
○　神戸トキワ合板株式会社工場　能福寺　永福寺（維新烈士の墓）28名　合板製造工程に従い見学、第二の見学先の永福寺本堂に参拝　住職より維新の先士　滝善三郎正信の屠腹せる経緯を詳細に歴史的講演あり　当時使用の実槍　辞世の歌等を見聞す
○　円福寺　八幡宮　松花堂　20名　八幡宮神宮の案内に依り貴賓室其他の建築物見学　円福寺にて宝物殿　庭園等を見学　松花堂に到り主人の案内説明に依り茶室　庭園等を見学
○　大阪刑務所　妙国寺　南宗寺44名　大阪刑務所長の講演後見学　妙国寺で岡氏より土佐烈士の切腹情況を聴き　大蘇鉄外宝物拝観　南宗寺にて庭室庭園及徳川家康の墓所等見学
○　大日本養豚株式会社河内農場　23名　設計者　阪急電鉄河西技師より養豚舎其他諸設備の説明後、見学
○　池田　大阪府立園芸学校　北野劇場観劇

昭和17年度

○　大和三山附近　室生寺　赤坂古墳　石井寺　忍阪等の史蹟　約200名　東道、説明講師、田村吉永　末永雅雄　猪熊兼繁　小岳貞三等各氏の説明を聴き順次見学

（創立15年記念第1回見学会）

○　京都市内の庭園　茶室　50名　枳殻邸拝観　無隣庵拝観　金地院拝観　南禅寺庭園方丈拝観散会　（重森三玲氏が各現地説明的並無隣庵に於て講演）

（第2回　見学会）

○　東北　関東方面　32名　8日午前10時大阪発　9日早朝大館着　花輪行乗替　花輪着　バスにて尾去沢鉱山に向う　同鉱山採鉱及坑外作業並工場建築等見学　同夜湯瀬ホテル一泊　10日午前7時湯瀬発　盛岡着市内見学　平泉着　金色堂　衣川旧蹟等見学　同夜松島の観光ホテルに一泊　11日市内及瑞巌寺見学　渡船にて松島遊覧　塩釜に到り神社参拝　後仙台市着市内見物　飯坂着温泉場花水館本店に一泊　12日午前中休養午後零時福島発　5時上野着　学会招待晩餐会（上野精養軒）に向う　解散後自由行動
○　大和路万葉史蹟見学会　関西学院大学　北島華江氏の東道と説明に依り各史蹟を親しく見学す
○　生駒山上　航空道場　滑空場　青年道場　京大天文台

（第3回　見学会）

○　赤穂見学　34名　23日赤穂着　バスにて御崎対鶴館着　6時より大石神社々司より大石神社の由来並赤穂義士に関する講話後一泊す　24日午前庭園、海岸等散策す　社司より赤穂城跡に関する講話　宝物拝観の上一同華山寺に向い宝物拝観　住職より赤穂義士に関する講話の後　赤穂東浜製塩見学　主任技師より工場設備　製塩工程の説明を聴取　同日帰阪す

（第4回　見学会）

○　南九州方面　27名　8日10時大阪発　9日下関着　関門トンネル見学　11時45分博多着　官幣大社　香椎宮箱崎八幡宮見学（此間地方会員と西公園にて昼食交換会開催）15時半二日市発　熊本着司旅館一泊　10日熊本城水前寺加藤神社二本木等見学　9時同駅発　16時霧島神宮駅着バスにて霧島温泉郷着　林田旅館一泊　11時半鹿児島駅着南洲翁終焉地　南洲翁墓　照国神社　磯島津邸等市内見学　14時48分鹿児島発　18時宮崎着　神田橋旅館一泊　12日早朝　宮崎神宮　八紘台　青島鵜戸神宮見学　13時宮崎発　18時別府着　松屋本館一泊13日朝食後解散随意見学

昭和18年度

○　二条城神泉苑　小川邸見学　54名　二条城案内者に依り二ノ丸、本丸、城門、台所等見学　神泉苑を見学　国宝上小川邸に至り、主人の説明後順次同邸の見学を了す
　大山寺見学　18名　バスにて山門に着　同寺庭園　本堂　塔等を見学、後明石海岸　〝浜の家〟にて晩餐会後解散
○　奈良西部国民勤労訓練所　慈光院　33名　訓練所長陸軍中将　志岐　豊　閣下より同所の説明の後　寮　大講堂　作業所　浴室　炊事場　広間及訓練状況見学次で慈光院に到り院主より当院の起源　由来、及建築物並今回国宝指定の書院茶室に就て説明　持仏堂外見学
○　西宮　辰馬悦蔵商店酒倉見学
○　明野飛行学校見学　39名　同校施設課　丸山建技中尉より各格納庫及収容中の新鋭機並建築物を見学
○　文楽座　29名　桐竹紋十郎氏より人形を応用して文楽座起源　人形使変遷　動行　人形の使方、其他に関し説明あり、後、夜の部観劇
○　奈良市内仏閣及奈良ホテル　18名　木辻　元興寺　十輪院　極楽院等各寺院国宝拝観後奈良ホテルで晩餐

昭和22年度　浜寺地区進駐軍住宅　200名

昭和23年度　大毎主催復興博（天王寺）　50名

○　市内南新橋野外劇場（票山商事経営）

堂島　大相撲関西本場所仮設建物

昭和24年度　神戸市湊川千代田銀行ビル移転工事（竹中工務店）現場見学

○　心斎橋　サロン　シスコ　110名
設計者　画家　中村氏　施行者　安部建設より見学

○　日本板硝子仁川寮　三和銀行逆瀬川寮　108名
日本板硝子　伊藤専務より硝子界の近況と本寮に付いて説明見学　三和寮にて独身室　家族室　大集合室　浴室　炊事場等見学

○　修学院　万珠院　詩仙堂　60名　京都支部と共催
洛北詩仙堂見学後万珠院で中食　書院にて正員　藤原博士より建築に就き京都工芸大学土井教授より絵画に就き講演　国宝の八窓庵茶室襖絵見学　修学院拝観す

○　日立造船所桜島工場見学　32名　同工場営繕中村技師　大林組現場　北村主任より同工場大要説明あり　工場見学后　新造船　アヂヤ丸の見学

○　神戸見学（大建支店建築現場　高砂商行　日本毛織本社）　50名　見学

昭和25年度

○　神戸博覧会場見学　35名　野田市建築課長　竹中工務店所員案内で建築中の諸建物を見学

○　大阪窯業セメント工場　20名

○　アメリカ博（西宮球場）建築物並展示物見学　60名

○　道頓堀　キャバレー、ドミノ　80名

○　椎寺町府営アパート見学会　15名

○　アサヒビール工場見学会　37名

○　鴻池新田　近畿地方建設局公務員住宅見学会　53名
アッシュ建築　浅間建材社　佐々木セメント等　ブロック建築の実地見学　鴻池会所に見学

○　大阪スタヂアム見学会　48名

○　大阪造幣庁見学　70名

○　京都洛西見学会　30名　神護者　多宝塔　大覚寺　広沢池　嵐山にて中食　夢想国師の廻遊式庭園　国宝湘南亭の茶室等見学

○　四天王寺　旧講堂跡発堀物見学会

○　大阪プール見学会　（扇町）　100余名

○　阪神パーク見学会

○　高野山見学会（一泊）30名　和歌山支部共催　金剛峯寺　金堂　大塔　霊宝館　大門寺見学　竜泉院にて夕食後講演及座談会後一泊　奥の院見学中食後解散

○　市内城北公園府営住宅　80名　バスキン式　徳祥式　酒見式　佐々木式等ブロック建築現場見学

○　大日本紡績社員寮見学　80名

○　花王石鹸建具工場　30名　各種製品の製作現場を一巡　一貫作業工場として著名な同工場見学

○　桂　修学院離宮見学会　60名
桂離宮　修学院　洛北寂光院外見学

○　大阪高等裁判所見学　32名　菅原弁護士東道　法廷及所内を見学

昭和26年度　○高島屋とメトロ見学会　60名
高島屋新館見学後　設計者板倉準三氏より詳細説明　次でメトロに至り施行者　鴻池組　鈴木専務の詳細なる説明を聴き見学

○　高田アルミ製作所見学　21名　不詳

○　大阪女学院　10名　ヴオーリーズ氏設計の同学院コンクリート建築学校を見学

○　旭硝子尼崎工場見学　60名　同工場にて製造部長山崎茂樹氏より製造工程説明　特殊硝子破壊実験等あり　工場見学

○　日本経済新聞社　国際見本市会館　80名

○　キヤバレー　ハリウッド見学会　70名

○　産経ビル新築基礎工事現場見学　70名

○　新光ランプ螢光燈工場見学　40名　工場見学後　大倉学園講堂にて阪大　浅田博士の螢光燈に就て、及人工降雨に付講演あり

○　桂離宮　二条城　川島工場　修学院見学会　60名
京都支部主催　不詳

○　第1生命ビル潜函工法見学　150名

昭和27年度

○　菊正宗醸造所見学　30名　鉄筋コンクリート造嘉宝蔵（大林組施工）建物並一貫作業に依る酒造状況見学

○　日本油脂三国工場見学会　40名　製造工程と色彩調節された工場見学後　同社技師より主として色彩調節に関する説明　質疑等あり、後解散

○　淀川製鋼ビル外　50名　レーモンド建築事務所設計に依る地下1階　地上3階の同建物を見学　次いで螺理ビル新築工事完成建物　大和ビル新築工事完成建物（何れも御堂筋）を見学

○　名古屋方面見学会　30名　（記念事業）　8時上六発　四日市　日本硝子四日市工場、及ゴム会社見学　同夜常滑着一泊　24日伊奈製陶工場見学　午後名古屋着市内徳川美術館　日本陶器　トヨタ自動車工場　ベニヤ工場等見学　此間東海支部会員と交換　乾盃后解散

○　クラブ関西新築見学　48名

○　岐阜県白川方面見学会　21名　午前9時大阪発　岐阜梅川寮に到る　尾関商店提燈製作工場見学　鵜飼実況見学の為め長良川に到る　次で公園内の名和昆虫研究所に到り見学　同夜料亭徳広にて懇親会開催　12日大日開拓村に到り同村会館にて副団長副手氏から開拓の現況を承る　次いで白川村大家族民家遠山家を白川観光係員を通じて見学　13日遠山家に次ぐ代表民家和田家を見学　北濃駅にて散会

○　産経会館ビル　200名　同ビル竣工建物を竹中工務店設計次長　小川氏　現場主任　石川氏等の説明案内で屋上迄見学

○ 紀の川製紡工場　高野山　50名　和歌山支部主催見学と納涼会
○ 大阪銀行　備後町支店ビル見学　70名
○ 法隆寺と住江織物工場見学　44名　住江織物工場の製品陳列場観覧　同住吉工場に至りモケット絞羽　緞通製作工程を見学　同工場意匠部吉岡氏より講話あり河内工場に至る　同工場の機械化された人絹織物の工程を見学後法隆寺に到る　復元の容姿並修理中の金堂等夫々見学
○ 今橋千代田ビル　80名　学会支部と共催
○ 第1生命ビル　200名　学会支部と共催
○ 小豆島見学会（記念事業）25名　11月1日天保山出航　神戸港にて竹腰会長外数名乗船　2日3時坂出港着　寒霞渓に向い大頂望を極め風光佳絶を満喫す丸金工場にて中食の接待を受け製造工程施設見学北岸名所古跡一巡　旅館雅竜園に入り懇親晩餐後一泊　3日午前南海岸観光後2時坂出港出航9時天保山帰着
○ 京都スタヂオと大徳寺茶室見学会　30名　東映にては市川右太衛門、左藤マネジヤーの案内、松竹にては清水建設西川氏の案内で夫々見学後　大徳寺に到り懇親晩餐会　7日　方丈に着席座禅静座暫し　管長より大徳寺に就ての講話あり　後刻　庭園及境内建物見学　真珠庵　聚光院　孤蓬庵　国宝茶席や庭園　利休の墓所等訪れた後、意光院にて中食後、同院茶席見学　解散
○ 京都三和銀行新築見学　100名　学会支部　協会京都支部共催
○ 大阪アイススケート場　府立体育館見学

昭和28年度

○ 東洋リノリューム工場見学　82名（往復伊切バス）
○ 住友電気工業株式会社　大阪製作所見学会　80名

建材審査委員会

建材審査委員会規程

1　本委員会は一般建築資材の調査、研究、試験等をなし審査の結果良否を認定し以て斯界の向上発達を図ることを目的とする
2　本審査を受けようとする者は一件毎に所定の申込書に別に定める審査会費を添え現品其他本会が指定する資料を提出する
3　審査の方法は依頼者より説明を聴取し調査、研究又は必要に応じた試験分析等をする。
4　本委員会の意見は全委員三分の二以上を以て決する
5　審査の結果、優良品に対しては別に定める調査費用を申受け優良証明書を発行する。其他のものに対しては意見を附けて申込者に通知する
6　優良証明をした場合は建築と社会に掲載する外諸官庁、設計関係者に周知につとめ尚適当の方法で宣伝する
7　優良証明に対する責任は審査委員会に提出された現品に就いて負うものである
8　優良証明は発行日より一ヶ年有効とする
9　本証明書を不正に利用された実状判明した時は直に取消の通知を発すると共に一般に公表する
10　既納の会費其他は如何なる場合でも返戻しない
11　本規定の改廃は理事会で定める
12　本規定は昭和二十四年十月一日より実施する

社団法人　日本建築協会

戦前総合建材陳列場開設中、展示品に付資材の等差を定める希望意見が有つたが何分にも営業に関係する事が多いので断行するに至らなかつた、偶々戦争に依り之等建設資材の復興を機会に昭和24年度より建材審査委員会を設け、優良品に対し、証明を発行し斯界の向上発展に努める事とした。昭和24年開設以来今日迄優良並品等証明を発行したものは次の通りである。尚審査規定の概要は別記の通りであるが審査方法は第1回出願者より現物に付製造行程、特徴その他詳細説明を聴取し委員が質問した后、分科委員に託す分科は製造状況を検分試験或は施行現場を視察する等検討を加へ分科委員として結論を出し総委員会に報告再検討を加へた后に良否を決定する順序である。尚　特徴事項及経過内容と毎年の委員名は紙面の都合上省略した。

優良並品等証明発行

1.　24—11—17　鋼板大信瓦　大信金属工業所
2.　25— 4—17　水性塗料エマコート　日本塗料化学株式会社
3.　26—10— 5　（品等証明）セメント防水剤　ウオータイト1B号　日本セメント防水剤製造所

4. 27— 1—11 新型実用新案平安瓦
合資会社 佐村木商店
5. 27— 1—11 ナニワS瓦株式会社
6. 27— 1—11 横架材銅付金物サポート
オ ー ケ ー 商 会
7. 27— 2—17 特製朝日波型スレート
朝日石綿工業株式会社
8. 27— 2—17 三星印アスファルトタイル
田島応用化工株式会社
9. 27— 3—11 波型石綿スレート
盤城コンクリート工業株式会社
10. 27— 6— 9 三星印石綿ルーフイング
田島応用化工株式会社
11. 27— 6— 9 防火塗料タイネン2号
関 西 ペ イ ン ト K K
12. 27— 9—18 厚型スレート
和歌山スレート株式会社
13. 27—11—24 サンウオール（化粧板）
サンエナメル工業株式会社
14. 27—11—24 セラストン（陶磁器質入テラゾー）
日 本 陶 盤 工 業 所
15. 27—12—25 ウオルトン（レヂン、エマルジョン塗）
東亜ペイント株式会社
16. 28— 2—20 証明を発する運びとなつたが申出人の都合で発行しないもの 人造大理石 三光マーブリック商会
17. 28— 2—27 螺釘 株式会社 片山鉄工所
18. 28— 4—15 デコラ（メラミンプラスチック板）
住友化工材工業株式会社

以上

建材審査委員会 委員

昭和24年度 委員長 置塩 章 委員 桐本楠雄 竹内 孝 中野順次郎 古塚正治 村野藤吾 奥島正一 阪本秀雄 西村 勝 平田義雄 山田正一 岡田孝夫 竹内成夫 称屋毅一 増井勇太郎 神田省三 高山 馨 日野勝好 真口恒夫
於 朝日ビル 3回開催 延30名

昭和26年度 24年度と大差なし
於 朝日ビル等6回 延90名
於 朝日ビル 7回開催 延60名

昭和27年度 於 朝日ビル 建設会館 17回開催 延100名

構造計算調査委員会

大正14年度

6月9日本協会事務所外6回 延50名
委員長 増田清 主査 大野直平 八木幸次郎
委員 今林彦太郎 池田宮彦 渡辺圭吾 田辺平学 谷田実 黒田茂 青柳貞世 塩路惣吉 永沢毅一 酒井勇三郎 理事 光安梶之助
構造強度計算に関し研究
7月9日 風力其他に関し討議研究
9月9日 地震水平年度震力計算に関する動荷に付
10月9日 大阪の風力に就て研究
11月10日 垂直荷重曲能率 鉄筋コンクリート壁の応圧強度に就て
12月1日 特殊柱の支点距離。小屋組構材の長さ、鉄柱等に就いて

大正15年度

1月9日 本協会試室外5回 延28名
セメントに就て試験成績及試験規定等材料蒐集
2月9日 架構物の風圧に対する図式解法に就て
4月9日 セメント試験方法比較表其他に就て研究
5月10日 セメントに関し調査資料蒐集
7月9日 ポートランドセメント高炉セメント規格統一に関する件



幹　事　会

内　　訳

陳列場幹事会　　都市武装促進委員会　　建築クラブ幹事会

当初委員会は、調査、研究機関とし、事業を実行するものを幹事会としていたが、後年委員会にても実行出来る事となつた。

陳　列　場　幹　事　会

沿革　大正6年本会事務所が不動ビルにあつた頃、建材業者から色々の建材サンプルを持ち込まれる様になり整理に困り戸棚の一部に陳列したのが陳列場の始まりである。其後事務所移転の都度材料を寄せられたが昭和7年朝日ビルに移つてからもクラブ室の書棚に何時かしら雑然として持込まれるという状態であつたので時の副会長、池田実氏がクラブの一隅に陳列棚設置を計画、片岡会長（欧米旅行中）帰朝を待ち、役員会に諮りし所、片岡会長はやるならそんなちつぽけな考えは駄目、本格的に開設せよとて昭和8年9月、北浜野田屋に材料業者を招き本協会の企画を発表し多数賛成を得て予定の小間数、忽ち満了したので朝日ビル4階クラブ室の隣りに約80小間を設備、昭和10年更に廊下を取入れ、南側一室を借入約40小間増設、大小130の陳列小間及小さな棚を設けた結果建材陳列場とした。当時東京の陳列場と共に本邦に於ける有数の陳列場として内地は勿論、朝鮮、満洲、上海辺りからも視察され、世に益する所が多かつた。其後大東亜戦争となり空襲を受けるに至り利用度も減じ、一面ビル内の防空体制等の関係もあり昭和18年閉設。展示物には参考となる資料が多かつたので大部分、西野田、都島工業学校等に寄贈した。以下当時の幹事並事業の主たる項目を列記し、他日再開設の参考に供したい。但し、残念な事には当時のプランや規程、出品者名簿、前後2回発行したカタログ等の資料が殆ど散逸している。

開設　昭和8年12月～10年迄。
幹事長　徳政金吾、幹事石田信夫、岡部顕則、阪口芳三郎、須川廉太郎、中西六郎、伊藤宗太郎、渡辺圭吾

昭和11年　徳政金吾氏逝去、幹事長岡部顕則となる。

昭和12年　幹事長　今林彦太郎

昭和14年　幹事長　中西六郎、幹事伊藤宗太郎、小川陽吉、黒田茂、小林清、池田宮彦
時局と建築材料展示会開催。

昭和15年　幹事長　池田宮彦、幹事小林清、滝邦一、亀井幸次郎、北垣熊之介、桐本楠雄、鈴木金太郎、保園源三、松久保敬三、矢田鉄蔵
満洲、中華事情研究会開催、製造工場見学、材料知識普及講座開設、同業者座談会

昭和16年　防空壕展覧会　第二会場とした。資材統制、新興材料座談会並展示会

昭和17年　幹事長松久保敬三、幹事野中駒市、道田泰治郎、楠瀬徹、伊藤宗太郎、大下順二郎、柳弘美、中西六郎、西沢藤生、吉田呉助、矢田鉄蔵、藪中一良。

昭和18年　井上新二内務省建築課長、玉置愛知、堀井大阪、松井京都、山内兵庫、各課長と協会役員、並出品者、空襲国然、防火改修、偽装防弾、材料問題に付検討。

同年11月　事変後の状勢に鑑み南側陳列場閉設事務室とした。

昭和19年7月　非常体制に備える為、陳列場全廃を決議一切を役員会に移し、ビル側と協議の結果、ボツクス解体閉鎖、此間1936、菊倍版、綜合型録並建築材料集成（綴込み式）を発行した外出品者2日会を設け、協会側と接衝、向上発展に努力、出品者の親睦の為め、屢々見学懇親会を催し、各地工業学校と連絡、見学実修に資した。

都市武装促進委員会

昭和9年度委員　委員長池田実、副委員長波江悌夫、委員秋田喜代治、古宇田実、井上福蔵、伊藤和夫、今林彦太郎、浦英之助、落藤藤吉、加藤善吉、北垣熊之助黒田茂、内藤亮一、中沢誠一郎、波江悌夫、姫野武、平塚鎗吉、清水栄二、篠原太郎、新名種夫、鈴木末尾高橋栄治、徳故金吾、鳥井信、鳥井捨蔵、本間乙彦、三橋国太郎、宮本長治、山崎英二、吉田信武、藤嶋哲三郎、本多正道、和田甲一、渡辺圭吾。

3月12日　建築クラブ

予算編成並資金調達に関する件。目的、防火防空建築の促進助成。避難設備、道路の設置、航空港設置「都市防空と建築に於て」陸軍工兵　木原大尉。

7月　防空大講演会　7月13日　於　中央公会堂。聴衆1,000名。1. 極東に集中されたるソ連空軍。法学士、池崎氏。2. 満洲事変に於いて行われた空襲、航空大佐、辻氏。3. 映画「守れ大空」「空襲」。

7月15日　於　朝日会館（朝日新聞社と共催）

防空大講演会　聴衆2,000名。1.「近畿防空演習梗概」　陸軍中佐　大江氏。2.「空襲と現状都市」本協会、松室氏。3.「吾等の空は吾等で護れ」　陸軍中将　四主天閣下。4. 映画「空軍の覇者」

7月18日　於　京都日出会館

防空大講演会　聴衆1,000名「建築の武装」本協会中尾氏。「爆撃戦に依り受けたる体験談」航空大佐辻氏。「非常時の都市」本協会　波江氏。

映画「撃滅」「空襲」

7月23日　兵庫県会議事堂、防空大講演会 聴衆1,000名「建築の武装」本協会中尾氏、「国民防空の本義」海軍大佐武富氏「非常時の都市」波江氏。映画「輝く陸戦隊」「海軍大演習」「軍港防空」「銀嶺の勇士」「松花江の護り」

昭和10年度委員。　委員長　池田実、副委員長　波江悌夫、委員中沢誠一郎外32名。本年度の事業大項。防火防空建築の普及促進。避難施設の完備、環状放射道路及公園広場の設置、都市航空港の建設。

3月　映画脚本懸賞募集の件。

4月　都市武装に関する建議書改訂の件。

5月　映画作成の件(経費、映画製作特別委員会設置)

6月　映画製作委員　委員長　池田実、副委員長波江悌夫、委員亀井幸次郎、新名種夫、鳥井信。

9月12日　朝日ビル　映画脚本審査員

京都松竹下加茂監督　衣笠貞之助氏。

大朝出版部長　大道弘雄氏、京都松竹下賀茂職員　長江道太郎氏　片岡　安、池田実、亀井幸次郎。

以上7氏に依り当選者決定。

昭和11年度委員　委員長　池田　実、幹事　鳥井　信、中沢誠一郎、　委員　小笠原祥光　外6名。

昭和11年度事業大項　防火地区の完成を促進及其対策重要都市巡回講演、共同建築の調査及奨励、法令の改正。

昭和12年度委員　委員長　竹腰健造、幹事　鳥井信、中沢誠一郎、委員　小笠原祥光外5名。

5月　防空法案に付研究の上建議の件。

7月　阪神防空演習に関する件協議。

11月　12年度京阪神防空演習に付調査せる事項取纏の完了したるを以つて会長に報告。

昭和13年度委員　委員長　竹腰健造、幹事　鳥井　信、中沢誠一郎、委員　小笠原祥光　外12名。

2月　市街地建築法令改正の意見提出の件。

6月　調査部設置並調査事項決定の件、防空実験すべき事項調査の件、防空訓練参加方に関する件。

昭和14年度委員　委員長　竹腰健造、幹事　吉田信武、中沢誠一郎、委員　今林彦太郎　外13名。

9月　防空法施行経過概要報告の件、防火改修促進運動の件、工場防空施設に就ての件。

12月　燈火管制困難の工場の設備に就て。

昭和15年度委員　委員長　池田　実、幹事　井上新二、宮田秀穂、吉田信武。委員　浅野繁外15名。

3月　静岡大火の報告。5月　防火改修に関する件。

7月　講演会「空襲の実相と防空建築の着眼に就て」

柴田航空大佐

9月　「重要都市に於ける建築物の防火方策急施に関する建議」総理、内務、商工、大蔵、陸軍、海軍、企画各大臣宛。

10月　都市武装に要する資材必要を商工省に具申。婦女子避難所、防空壕の実例パンフレット発刊に就て

11月　新聞の学芸欄を利用して防空対策を普及せしむる事。

昭和16年度委員　委員長　池田　実、幹事　井上新二

委員　大野勝三郎　外11名

2月　木造家瓦防火改修促進の件。防火問題に関する座談会、講演会開催の件。3月防空壕展覧会開催、三越。

9月　有事の際に於ける協会員動員計画。防空壕築造指導の件。

昭和17年度　講演会、講習会、展覧会開催。

6月25日～7月16日

阪大改修展覧会　入場　1215名

於　建築資料綜合陳列場。改修考案図及実物見本の懸賞募集をなし、入選作を会場に発表。

9月20日～9月26日。建築と防空展覧会。於、京都大丸。

9月29日～10月4日。建築と防空展覧会。於　大阪大丸。

内容　都市防空、偽装、燈火管制、防火改修、防弾建築、防空壕、懸賞募集入選図案等。

両会場共毎日数万の参観者あり。大衆に防空知識を普及せしめ得て盛会を呈す。

都市防空講演会（各地巡回す）

9月21日　広島商工会議所講堂

〃　22日　小倉朝日新聞社講堂

〃　23日　福岡西日本新聞社講堂

〃　28日　京都朝日会館

〃　29日　名古屋朝日会館

10月6日　神戸海員会館

〃　7日　大阪朝日会館

講師　軍人数氏、新聞記者。協会側井上新二、池崎忠孝、中沢誠一郎、片岡安、各府県地元関係部課長。映画幻燈。

11月12～14日

防火改修技術講習会　於　久宝国民学校講堂

聴講者　300名。

3日間講習　其間改修現場見学を行う。

建築倶楽部幹事会

協会事務所が大同ビル時代、会勢漸く発展の機となり会員相互の会合に物足りなさを感じていたので有志相計りクラブ設置の議題賑かとなつた。記録が判然しないが昭和7年暮某日有志約90名が美津濃7階の食堂に会し、建築協会クラブ設置促進を申合せ役員会に伝達された。時の副会長池田実氏は片岡会長渡欧中なりしも主記常務鳥井信氏、大和書記に命じ朝日ビル小早川支配人と交渉の結果、朝日ビル4階に事務所を移転することとし同時に倶楽部室を開設した。開設当時は会員組織とし、会費を徴し、別途会計としたが設備其他経済的に困り翌年故人となられし設楽貞雄、須賀藤五郎御両人が奔走、寄附金を集め其年にはスペースを拡張し事務室を別に移し、小さい乍らバーも設けられ、ダンスの講習会を別途行うやら、一応形体が整い各種の催も盛となり、夏の天神祭には家族の人も冷房中で参観され、冬は暖房と屋上のスケート等で殷賑を極め、随分利用された。一面業界の新聞記者など毎日の如く入り浸り、中には甚だ芳しからぬデモ記者や協会の品位を云々される様な人も出入する様になると共に反面苦悩の点も多かつた。が結局経済的に行詰り協会に合併、漸次縮少、戦争と同時に自然消滅の運命に落ちた。当初から協会に併合される迄努力を続けられた幹事各位の活動大要を抜萃すれば下記の通りである。

建　築　倶　楽　部

昭和7年5月2日常務会に於て設立発起人会開催。

同5月7日事務所が朝日ビルに移転と同時に設立す（同ビル4階北東角約24坪）。

当初会員約400名、会費制度発足した内容（碁、将棋、麻雀　書棚を設け新聞寄贈図書雑誌等取揃える）備品（卓子、安楽長椅子・協議用長椅子・四人用セット・帽子掛）等。

八月碁会開催、賞品贈呈。

十月東洋リノリューム見学と宝塚観劇会。

設楽貞雄、須賀藤五郎両幹事主唱者となり寄附金集め着手。

諸研究会　囲碁、南画、俳句、謡曲、長唄等。

小集会室　Bar 完備、ラヂオ設置、就職斡旋、
会員家族の名簿調製。

昭和８年５月16日家族会中座観劇会　100名。

同７月21日浜子園に於けるハーゲンベツクサーカス見学、270名。

各研究会紹介

囲碁研究会　師範　木本二段。

謡曲研究会　先生　観世流　松下粂造師

南画研究会　先生　太田湘蘭女史

俳句研究会　先生　青木月斗師

骨椎研究会　先生　砂川哲人師

12月９日囲碁競技会　　会費50銭

昭和９年１月谷民蔵氏邸に於て新年謡曲会開催。

９年１月倶楽部拡張、隣接事務所を合併、間仕切撤去大カーテン新調した書棚に面した、一方は事務室に転じBar設備、電話ボツクス設置し、雑誌棚、帽子棚等設備す。

９年１月20日倶楽部拡張披露　220名 出席、余興より始まり５階Ｂａｒ及別室を開き有明及北陽美人のサービス。

同２月17日将棋競技会開催、会費50銭。

同３月７日宝塚会館に於てダンスパーテイー開催、会費400円。

昭和10年９月協会に合併の案起る。

同10年９月７日合併委員決定す。

クラブ側委員

池田実、岡部顕則、中西六郎、浦英之助、小川陽吉、中沢誠一郎、櫂田、藤村

協会側委員

片岡安、北垣熊之介、清水栄二、新名種夫

同11月25日両委員側より９名出席建築倶楽部室面積は現状より縮少せられざる事、室内施設其他は現状より低下せざる事、建築倶楽部の名称は之を保存する事、以上条件を協会側より提出、談話室として協会側に引継ぐ事に決定。

昭和11年度より倶楽部室幹事会設置。

幹事長中西六郎、幹事伊藤和夫、浦英之助、伊間日出生須賀藤五郎、三島円四郎。

昭和12年度幹事長須賀藤五郎、幹事今林彦太郎、浦英之助、北垣熊之介、中西六郎、三浦茂　三島円四郎。

昭和13年度幹事長須賀藤五郎、常任幹事瀬川庄三、加田安彦、三島円四郎、幹事今林彦太郎、鈴木一幸。

昭和14年度幹事長鈴木金太郎、幹事河合貞一郎、木下昌次、高坂信次郎、高松平太郎、三浦茂、村井毅。

５月21日春季大会　61名参加、長野方面。

11月12日秋季大会　90名参加　京都府葛野郡北山九太技打実況其他見学、加茂川畔漁清楼にて懇親会開催。

昭和15年度、幹事長鈴木金太郎、常任幹事高坂信次郎三浦茂、幹事木下昌次、高松平太郎、西沢藤生、村井毅

上方郷土研究会　南本芳太郎氏。

上方噺　笑福亭松鶴師。

10月20日秋季大会、37名参加、千年家坂田氏邸見学並有馬兵衛旅館懇親会。

昭和16年度幹事長三浦茂、常任幹事高坂信次郎、高松平大郎、幹事来山源蔵、佐村木実、西沢藤生、藪中一良吉本政次郎。

２月７日　倶楽部室　４名　　倶楽部室一部模様替の件。

５月24日春季大会26名参　加和歌山方面（和歌山城、紀三井寺、和歌浦玉津神社、塩竈神社、東照宮、新和歌浦望海楼にて晩餐会開催）。

昭和17年度幹事長三浦茂、常任幹事吾妻義一、高坂信次郎、高松平太郎、幹事内田成之、西沢藤生、服部圭佑藪中一郎、吉本政次郎。

以後記載なし。

× × ×

× × ×

杭

特許
武智式鉄筋混凝土杭基礎工
日信三角型鉄筋混凝土杭基礎工
コンポジツト、パイル（長尺継杭）基礎工
測量・地質調査・地耐力測定施工

特長　砂利充填による特殊施工法
支持力強大。工事迅速。工費低廉

株式会社　武智工務所

取締役社長　福留並喜

大阪市西区西長堀北通四丁目壱〇　細野ビル三六号
電話新町㊺九九五～九九八番

説明書及ビ防潮嵩上、盛土地帯に於ける実蹟表進呈

講　演　会

各催の趣旨、梗概、講師担当項目等の詳細を略した。

第1回大会通俗講演会

大正7年12月5日　　大阪中央公会堂

開会の辞、宗兵蔵。都市住宅問題、関一。家相論、葛野壮一郎。大阪市区改正に就て、片岡安。デモクラシーと建築、佐野利器。大阪港の将来、直木倫太郎。閉会の辞、野村一郎。

聴衆　　2,000人

市街地建築物法に関する講演会

大正9年12月22日　　大阪天王寺公会堂

講師、池田、中西、井尻、置塩各建築監察官。

聴　衆　　430人

建築材料規格統一宣伝　　講演会

大正10年7月9日　　大阪中央公会堂

開会の辞　葛野壮一郎。度量衡規格統一に就て、佐藤功一。煉瓦に就て、大熊喜邦。木材に就て、松井清足。文化生活と規格統一、片岡安。閉会の辞、横河民輔。

聴衆　700人

春季大会 通俗建築大講演会

大正12年6月3日　　大阪中央公会堂

司会者、宗兵蔵。　開会の辞　池田実。和風住宅と洋風住宅の長短、中村琢次郎。満鮮視察土産、波江悌夫。忘れられたる住宅の平面、大屋霊城。超過渡期、横浜勉照明の話、大島弘義。家相に対する疑問、葛野壮一郎のアパートメントハウスに就て、武田五一。建築界の大勢片岡安。閉会の辞、宗兵蔵。　聴衆　700人

春季大会通俗建築大講演会

大正13年4月12日　　大阪中央公会堂

司会者　宗兵蔵。閉会の辞、池田実。趣味の建築、古宇田実。日本に於ける住宅の変遷と其将来、武田五一。建築家の社会的地位、片岡安。欧米旅行談、中西甚伴。婦人に必要な住宅の智識、葛野壮一郎。　聴衆　1000人

聯合通俗講演会

大正13年10月19日　　県立神戸高等女学校講堂

貯蔵と建築、松井清足。古社寺建築に就て、天沼俊一主として婦人の立場より観たる住宅、葛野壮一郎。住、佐藤功一。　聴衆　1000人

震災通俗講演会

大正14年6月4日　　大阪中央公会堂

開会の辞　片岡安。北但地方の震災視察談、世川憲太郎。豊岡地方震災状況幻燈、説明者、篠原太郎。飛行機で但馬地方震災地え、新宮寿天丸。城崎地方震災状況幻燈、説明者、斉藤立実。毀れぬ先きの用意、古塚正治。

「地震と建築」通俗講演会

昭和2年3月18日　　大阪朝日会館

開会の辞　片岡安。丹後地方震火災実地踏査報告、増田清。救護班到着前の震災地、平井常次郎。地震と家、波江悌夫。丹後地方震火災活動写真、大阪朝日新聞社。

震火災と建築大講演会

昭和5年12月10日　　大阪中央公会堂

司会者　日高伴。伊豆地方地震に於ける地盤変動に就て、小川琢治。伊相地方震災視察報告、川口一二。架構耐震論の発達、坂静雄。現在京都市に於ける木造建築の不安、片岡安。宝永、安政両度の大震と大阪、波江悌夫耐震耐火の建築、片岡安。

宝生寺に関する講演会

昭和9年4月10日　　建築倶楽部

宝生寺に関する講演　天沼俊一。聴講　77人

函館市大火視察講演会

昭和9年4月14日　　日本建築博会倶楽部

函館市大火災実地視察談　鳥井信。同題、中沢誠一郎聴衆　46人

防空講演会

昭和10年10月9日　　大阪朝日会館

参謀本部附、小倉少佐。第4師団司令部附、松村少将本協会、波江悌夫。　聴衆　500人

大阪に於ける特殊建築場規則に関する講演会

昭和11年11月4日　大阪朝日新聞社五階講堂

特殊建築物規則に就て、内務技師、小林隆徳。

聴衆　200人

神戸に於ける特殊建築物規則に関する講演会

昭和11年11月5日　　神戸尋常小学校二階講堂

特殊建築物規則に関し、内務技師、小林隆徳。

聴衆300人

大阪市下水に関する講演会

昭和12年5月11日　　朝日倶楽部集会室

大阪市の下水処理施設に就て　　鈴木義一。

聴衆　43人

鉄材に関する講演会

昭和12年5月12日　朝日倶楽部集会室
鉄材に就て　栗本勇之助。　聴衆　49人

大阪に於ける市街地建築物法施行規則改正並木造二階建小学校の構造規準講演会

昭和12年7月20日　大阪朝日新聞社三階講堂
積載荷重に就いて及木材の許容応力度に就いて、伊東憲太郎。鉄骨及鉄筋の許容応力度及木造二階建小学校の構造規準に就いて、武藤清。　聴衆　350人

神戸に於ける市街地建築物法施行規則改正並木造二階建小学校の構造規準講演会

昭和12年7月21日　神戸尋常小学校二階講堂
積載荷重に就いて、木材の許容応力度に就いて、伊藤憲太郎。鉄骨及鉄筋の許容応力度に就いて、
木造二階建小学校の構造規準に就いて、　武藤清
聴衆　350人

都市防空防火講演会

昭和13年11月29日　京都朝日会館
本建築協会　建築学会共催
挨拶　山内継喜。軍防空に就て、中部防衛司令参謀、末藤知文大佐。京都市と防空、京大、坂静雄。都市防空上防火の重要性・学会、伊部貞吉。木造都市防火改修方法、商工省、伊藤憲太郎。閉会の辞、京大、森田慶一。映画上映　聴衆　800人

都市防空防火講演会

昭和13年12月1日　大阪軍人会館
軍防空に就て、中部防衛司令部参謀　末藤知文。防空と建築、協会、片岡安。都市防空上防火の重要性、協会中沢誠一郎。木造都市防火改修方法、東大、浜田稔。閉会の辞、学会、佐野利器。映画上映。　聴衆　800人

都市防空防火講演会

昭和13年12月2日　神戸海員会館
軍防空に就て、中部防衛司令部参謀、奥野一雄少佐。神戸市の防空と建築、神高工、古宇田実。都市防空上防火の重要性、東大、内田祥三。木造都市防火改修方法、東工大、田辺平学。閉会の辞、県建築課長　山崎英二。
映画上映　聴衆　600人

忠霊塔に関する講演会

昭和14年10月19日　大阪朝日新聞社三階講堂
本建築協会、建築学会共催
忠霊塔の建設に就て、島内松秀少佐。忠霊塔の設計と意匠に就て、東大、岸田日出刀。映画「日本刀」上映。
聴衆　350人

用材生産、統制規則に関する講演会

昭和14年11月8日　建築協会倶楽部室
用材生産統制規則に就て、大阪府　兵藤時次郎。
木造建築統制規則に就て　大阪府、宮脇晴美。
聴衆　250人

空襲に関する講演会

昭和15年8月9日　建築協会倶楽部室
空襲の実相と防空建築の着眼に就いて、陸軍航空大佐柴田真三郎。　聴衆　68人

満洲北支建材界の事情を聴く会

昭和15年5月7日　建築協会倶楽部室
満洲方面特に新京を中心に、竹中工務店、石川純一郎
北支方面特に北京を中心に、大林組、山田照。

防空講演会

昭和16年4月21日　清水組講堂
開会の辞　協会、今林彦太郎。防空に就て、中部軍司令部、桃井少佐。偽装に就て、内務省、新海悟郎。防護室構造に関する力学の問題、京大、坂静雄。防火に就て大阪府、井上新二。閉会の辞、協会、池田実。映画「ロンドン爆撃」他1巻上映。　聴衆　111人

防空建築施設に関する講演会

昭和16年5月20　日大林組講堂
本建築協会　建築学会共催
開会の辞　協会、井上新二。工場防空要綱、内務省、新海悟郎。工場の各設備防護法及暨火管制一般方針、内務省、小宮賢一。映画「ロンドン爆撃」他1巻上映。
聴衆　550人

防空建築施設に関する講演会

昭和16年5月21日　大林組講堂
偽装、東大、星野昌一。防空壕及待避所の築造要領、東京防衛課長、阿部知義。閉会の辞、協会、今林彦太郎
映画「防空の務」他上映。　聴衆　450人

「ヂベル工法並に大梁間建築に就いて」

昭和16年8月18日　建築協会倶楽部室
ヂベル工法並に大梁間建築に就て、織本道三郎

建築構造用釘に関する講演会

昭和16年8月28日　清水組講堂
司会　三浦幹事。開会の辞、王丸源次郎。建築構造用釘に就て、陸軍建技、高山少佐。　聴衆　120人

会勢幹事会主催講演会

昭和16年11月10日　大林組六階講堂
開会の辞　谷幹事。時事問題に就て、武藤講師。
聴衆　66人

都市防空大講演会

昭和17年9月28日　京都朝日会館
ドイツの防空に学ぶべきもの、東工大　田辺平学。防空と建築、内務省、井上新二。大東亜戦争と帝国海軍、
昭和17年10月6日　神戸海員会館

神戸大阪は演題講師共同一

海軍少佐　福元秀盛。
昭和17年10月7日　大阪朝日会館
昭和17年9月25日　名古屋朝日会館
開会の辞　大阪府　堀井啓治。
現代の都市　協会々長、片岡安。都市防空の要諦、内

務省、中沢誠一郎。史上無比の大東亜戦争、衆議院議員池崎忠孝。閉会の辞、協会、竹腰健造。聴衆1000人開会の辞、愛知県、玉置豊次郎。防空と建築、内務省、井上新二。史上無比の大東亜戦争、衆議院、池崎忠孝。最近のソ満国境、井口静波。閉会の辞、協会、松本義八。本講演会に於て、各府県、市、朝日新聞社、建築学会各支部、大日本防空協会各支部の後援を受く。

陳列場講演会

昭和18年3月16日　朝日ビル陳列場

土建築界現下の情勢と今後の方針に就て、商工省、伊藤憲太郎。

新釘打構法講演会

昭和18年8月28日　清水組四階講堂

新釘打構法、陸軍建技、高山馨大尉。　聴衆　120人

都市復興講演会

昭和22年4月2日　清水組四階講堂

都市復興に関する講演会　大阪市長　近藤博夫。

創立記念日行事講演会

昭和25年3月30日　大阪建設会館

時事問題、朝日新聞、田中務章、住宅金融公庫と基準法に就て　大阪府　吉田建築部長。

風水害対策講演会

本協会、建築学会、土木学会共催

昭和25年9月30日　大阪毎日新聞社講堂

今次風水害による対策に就て、坂静雄、石原藤次郎両博士。

建築新法令講演会（建築基準法、建築士法、防火関係規格の説明）

主催　建設省、工業技術庁、都道府県建築部課、関係市、日本建築学会、日本建築協会、日本建築士会、建設業協会、其他関係団体

昭和25年11月15日～16日　愛知県労働会館

趣旨説明　玉置愛知県建築部長。建築基準法、長沢、田中技官。同条令、水野建築課長。建築士法、田中技官規格、笠石課長、浜田、碓井委員。

昭和25年11月15～16日　京都労働会館

趣旨説明　松井京都府建築部長。建築基準法、内藤課長、堀江技官。同条令、森口建築課長。建築士法、内藤課長。規格、宮本課長、森、狩野委員。

昭和25年11月17日～18日　都島工業高校講堂

趣旨説明　吉田大阪府建築部長。建築基準法、内藤課長、堀江技官。同条令、稗田建築指導課長。建築士法、内藤課長。規格、笠石課長、浜田、碓井委員。

昭和25年11月20日～21日　産、看保婦協会講堂

趣旨説明　吉田兵庫県建築部長。建築基準法、内藤課長、堀江技官。同条令、森田建築課長。建築士法、内藤課長。規格、笠石課長、浜田、碓井委員。

昭和25年11月18日～19日　広島農協ビル講堂

趣旨説明　諫早広島県建築部長。建築基準法、小宮、太田技官。同条令、諫早部長。建築士法、小宮技官。規格、宮本課長、森、狩野委員。

昭和25年11月21日～22日　九州大学医学部講堂趣

旨説明　宮脇福岡県建築部長。建築基準法、小宮、太田技官。同条令、前岡建築課長。建築士法、小宮技官。規格、宮本課長、森、狩野委員。其の他、東京、横浜、仙台、札幌、金沢、新潟、高松の各地で開催。

講演会

昭和26年5月14日　大阪建設会館

元東大総長　内田祥三。東大、岸田日出刀。工大、小林政一。　聴衆　50人詳細不明

プラスチックスに就ての講演会

昭和26年9月20日　大阪建設会館

司会　大和常務理事。合成樹脂の建築に関連する資材に就て、新光レイヨン、稲垣製造部長。　聴講　50人

潜函工法に就て

昭和27年2月14日　大阪市警視庁クラブ

潜函工法に就て　竹中工務店設計部長　日野勝好。映画「潜函工法」上映。

防災塗料講演会

昭和27年2月22日　今橋クラブ大ホール

司会　滝沢真弓。ＪＩＳＫ5661と国産防火塗料に就て、建設省、森徹。発泡性耐燃に就て、東大、桜井高景防塗と発泡性原理に就て、東大、泉富雄。防火建築基準法と防火雨戸に就て、東大、浜田稔。関西ペイントの防火塗料実験あり、閉会の辞、滝沢真弓。聴講200人

沖縄事情講演と映画の会

昭和27年4月22日　大阪建設会館二階

沖縄の一般近況、浅沼組。施工法、松村組。衛生設備三晃商会。電気設備、栗原工業ＫＫ。映画（天然色）「沖縄の近況」浅沼組。35年記念事業として各地で建築講習をかねた講演会を開催（詳細は講習会記事参照）。

ノイトラ氏講演会

昭和27年5月9日　大阪朝日新聞三階講堂

日本建築協会　建築学会共催

自然に帰れ、リヒアル、ノイトラ。幻燈使用説明あり聴講者堂に溢れる。

兵庫支部講演会

昭和27年8月4日　神戸繊維会館

竹腰会長欧米建築視察談　聴講　70人

35年記念大講演会

昭和27年11月24日　大阪三越大劇場

余興　三越新人落語。

開会の辞　会長竹腰健造。不燃建築の促進、大阪市建築局長、伊東五郎。最近の欧米建築に就て、大阪府建築部長、吉田安三郎。原爆と建築物（スライド使用）、東大、武藤清。映画「特許竹中式潜函工法」上映。閉会の辞、副会長、東畑謙三。　聴講　600人

講　習　会

講師の担当科目、出張個所、会費その他は略記した。

第一回講習会

大正9年11月4日～11月20日　建築協会事務所

古代埃及の文化と建築（西洋建築史）、佐藤四郎。大倭時代の文化と建築（日本建築史）、置塩　章。住宅に就て、葛野壮一郎。鉄骨構造法、本多二郎。鉄筋コンクリート構造法、増田　清。鉄筋コンクリート施工法、波江悌夫。　聴講　85人

建築に関する講習会

大正12年3月20日～3月31日　大阪市立工業学校

鉄筋コンクリート強度計算法、伊藤正文。鉄筋コンクリート施工法、増田清。建築法規、池田実、中沢誠一郎

聴講　197人

建築に関する講習会

大正13年3月19日～3月31日　大阪市立工業学校

鉄筋コンクリート構造主要部の耐震的強度計算法、大阪府建築技師　八木幸次郎。鉄骨構造主要部の耐震的強度計算法、関場茂樹。　聴講　28人

建築職工教化講習会

大正13年11月4日～11月18日　桃園第一尋常小学校

挨拶、教化委員長、古宇田実。鉄筋コンクリート起原其他概論、波江悌夫。仮枠用材及器具、仮枠材仕上及接手、中島智喜。局部仮枠構造法、下浦光衛。仮枠取外期限並其取外方法、本多二郎。仮枠施工法のコンクリート建築に及ぼす影響、八木幸次郎。鉄筋用材及其種類と強度、井上新二。鉄筋用器具並取外方法、渡部圭吾。鉄筋の配置と接合方法、中島智喜。鉄筋施工法の建築に及ぼす影響、八木幸次郎。コンクリート用材及其調合と強度、下浦光衛。コンクリート器具並其取扱方法、渡部圭吾コンクリート施工法、谷口廉児。コンクリート施工法の建物に及ぼす影響、増田清。震災時に対する鉄筋コンクリート建築物の成績実例、波江悌夫。　聴講　146人

混凝土施工法講習会

大正15年11月8日～11月13日　久宝小学校

混凝土施工上の注意に就て、下浦光衛。コンクリート調合に就て、八木幸次郎。地震と建築、波江悌夫。

聴講　80人

建築職工講習会

昭和2年10月24日～10月29日　久宝小学校

技術者の責務に就て、下浦光衛。壁構造の種類、池田宮彦。壁の仕上、松本儀八。内外美的装飾工法、安井武雄。

地下室基礎工事及防火施工法講習会

昭和3年10月22日～10月27日　渥美小学校

工人と其責務、古宇田実。隣家養生に関する法規上の諸問題に就て、服部。ショベル及其他掘方器具の研究、土砂運搬器具機械及装置に就て、渡部圭吾。土留工及掘方、下浦光衛。地形及杭打工事　池田宮彦。防水材料の種類及其施工法、矢中。アスファルト防火施工法、松井。

第五回建築職工講習会

昭和4年5月10日～5月16日　大同ビル8階

鉄筋コンクリート構造法（基礎の設計）、落藤藤吉。最近木造建築、東畑謙三。積算法一般、芝田智重。家具の意匠構造様式の関係、松本儀八。　聴講　86人

第六回建築職工講習会

昭和4年10月21日～10月26日　久宝小学校

工人の責務、京大、武田五一。建築用機械に対する一般的注意　大原源次郎。最近仮枠の施工法、池田己之助塗工種及工法上の注意藤岡英太郎。杭打機械ミキサー、エレベーター、シユート、デレツキ等の種類及使用法大原源次郎。プラスター漆喰等の実際的工法、施工器具等亀井芳松。塗工仕上法に関する各種法、亀谷開作。

聴講　279人

第六回建築講習会

昭和5年5月19日～5月24日　大阪市都島工業学校

近代建築様式概論、岡田孝男。強度計算、落藤藤吉。建築法規、玉置豊次郎。　聴講　116人

第七回建築講習会

昭和5年5月19日～5月24日　大阪市都島工業学校

建築工事設計及施工上の注意に就て、葛野壮一郎、安井武雄、小笠原鈞。建築附帯工事、原田正逸、萩原貞、中島彦六、雅原兵市。建築工事実施の映画及幻燈、説明、協会教化委員。　聴講　78人

第八回建築職工講習会

昭和6年10月9日～10月14日　渥美小学校

規矩術の概要、小島淳吉。最新の防水工事、坂口芳三郎。プラスター工事、渡部圭吾。輸入木材、芝田知重。修養講座、佐藤義詮、　聴講　125人

建築に関する電気熔接講座

昭和11年10月5日～10月10日　大阪府工業奨励館

電気熔接概論、阪大、岡田実。電気熔接建築設計及法

規、大阪府、浅野新一。電気熔接施工法、関場茂樹。実演見学（松尾鉄骨橋梁株式会社）。　聴講　200人

防火改修技術講習会（25年記念）

昭和17年11月12日～11月14日　久宝国民学校講堂

開講の辞　大阪府、堀井技師。火災の話、大阪府川勝技師。関係法規(1)、大阪府、岡田技師。関係法規(2)、大阪府、中村(吉)技師。防火改修工事概要、大阪市、中村(収)技師。文化映画「防火科学」外。現場見学。防火改修設計の方法に就て、大阪市、小泉技師。工事監督に就ての注意、大阪市、栗本技師。閉講の辞、大阪市、桐本技師。

セメント新規格講習会

昭和23年12月16日　大林組講堂

開会の辞　坂静雄。セメント、雑用セメント、石灰スラブセメントに就て、笠井材料規格課長。セメント代用土施施標準工、コンクリートモルタル試験方法に就て、浜田稔。　聴講　200人

建築代理業者受験講習会

昭和24年10月3日～9日　市内中大江小学校

本協会、普及会共催。

聴講　200人

実際すぐ役立つ鋼構造の講習会（第一回）

昭和24年11月18日　大阪建設会館二階

部材力の算定に就て、竹中工務店、小泉昇。断面決定大阪建築事務所、高橋慶夫。細部の計算、日本建設産業小西岬。　聴講　150人

第二回講習会、24—12—7、建設会館にて開催参加 50人内容不詳。

簡易耐火構造施工法講習会

昭和25年8月21日～8月26日　大阪市都島工業高校　一般

概説、堀口甚吉。法規関係、五百蔵芳明。施工関係、酒見勇三郎、作間日出生、徳祥、佐々木俊明。プツシユバスキン各社。　聴講　280人

建　築　講　習　会

昭和26年10月17日～11月12日　大阪市都島工業高校

建築計画、阪大、足立孝。市大、田中良太郎。建築構造、阪大、馬場善雄、市大、布施忠司、神大、伴潔。設計製図、日建、岡橋作太郎、城武三郎。建築施工、大林組、菅田豊重、大阪建築事務所、作間日出生、竹中工務店、岡肇、松村組、政岡基次。建築関係法規、大阪府、越田正勝、五百蔵芳明。　聴講　213人

記念事業各地建築講習会。

松　江　建　築　講　習　会

昭和27年5月5日　松江産業高等学校

開会の辞並司会　鳥取県建築課長、近藤武男。住宅及新構法、竹中工務店、日野勝好、神大、伴潔。材料、大林組、谷口尚武。防火塗料の色彩と調節、関西ペイント児島、長久。最近のスレートに就き、朝日石綿　館。アスタイルに就き、田島応用、笠原。閉会の辞、松江産業高校校長鎌田武。　聴講　250人

下　関　建　築　講　習　会

昭和27年5月20日　下関警察会館

開講挨拶　山口県建築部長今津重蔵。新講法及材料、竹中工務店、日野勝好。神大伴潔。住宅、大阪市建築局長伊東五郎。アスタイル、藤森工業宮原。防火塗料と色彩調節、日本油脂近藤。閉会の辞、下関市建築課長鹿島武夫。聴講　290人

福　岡　建　築　講　習　会

昭和27年5月20日　日福岡市立記念会館

司会　本協会九州副支部長薄与荘。開講挨拶、福岡県建築部長宮脇晴美。新構法、京大横尾義貫。住宅、日本損害保険協会中村鋼。材料、阪大奥島正一。アクリライト、新光レイヨン稲垣。リノリユウム、東洋リノリユウム安田。アスタイル、田島応用松本。防塗と色彩調節、関西ペイント長久。　聴講　170人

長　崎　建　築　講　習　会

昭和27年5月22日　長崎町村会館

開講挨拶　長崎県建築課長小栗治平。終講挨拶、長崎県建築士会々長今泉佳三郎。講習内容福岡と同じ。

聴講　210人

熊　本　建　築　講　習　会

昭和27年5月22日　熊本県税務講習所

司会　熊本県建築士会本司貞介。開講挨拶、熊本県建築課長板井公威。住宅、大阪市建築局長伊東五郎。新構法、竹中工務店日野勝好、神大伴潔。材料、東洋リノリユウム安田、朝日石綿中村、藤森工業宮原　日本油脂近藤各氏。閉講挨拶、板井課長。　聴講　190人

和　歌　山　建　築　講　習　会

昭和27年6月21日　和歌山市労働会館

司会　本協会栗林支部長。開講挨拶、大和常務理事。材料谷口尚武。住宅、小林清、中村綱。新構法、日野勝好、伴潔。補講、朝日石綿野沢悦郎、東洋リノリユウム安田金吾。田島応用松本大平。新光レイヨン迫盛登。日本油脂近藤恒夫。和歌山スレート多田社長。閉講挨拶栗林支部長。　聴講　86人

神　戸　建　築　講　習　会

昭和27年6月28日　日本看護会兵庫支部

司会　早良副支部長　開講挨拶、吉田支部長。新構法、大阪建築事務所高橋慶夫。住宅問題に就て、兵庫県住宅課長錦田直一。新構法、京大横尾義貫。材料　阪大奥島正一。補講、磐城コンクリート併和光寿。関西ペイント山岸寛次同笠野公昭。藤森工業宮原郁雄。新光レイヨン迫盛登。東洋リノリユウム安田金吾。

終講挨拶　吉田支部長、　聴講　55人

（以下100頁へ続く）

座　談　会

博覧会座談会

大正　年　月　日　　レストラン、カツフエーについて

波江悌夫、八木幸次郎、本間乙彦、木村寛一

大正　年　月　日

池田谷久吉、本間乙彦、徳政金吾、波江悌夫、松本儀八、酒井勇三郎

郷土建築について

昭和6年4月13日　　アミダ池「二葉亭」

小林利昌、南木芳太郎、江崎政忠、鶴丸梅太郎、今井貫一郎、高橋栄治、小西一良、本間乙彦

新興建築について

昭和　年　月　日

石川純一郎、高橋栄治、中西六郎、本間乙彦、小川安一郎、永沢毅一、長谷部鋭吉、村野藤吾

「建築より見たる都市の諸問題」

昭和　年　月　日

内山新之助、小川市太郎、片岡安、葛野壮一郎、古宇田実、津田敏雄、鳥井信、藤井厚二、高橋栄治、本間乙彦、村野藤吾、鷹取陽

朝日ビルと阪急ビルとを語る

昭和　年　月　日

片岡安、武田五一、竹腰健造、藤井厚二、村野藤吾

最近新建築を主題として片岡氏を中心とする座談会

昭和7年6月11日　　日本綿業会館

池田実、武田五一、波江悌夫、南信、椎原兵市、滝沢真弓、富士岡重一、高橋栄治、渋谷五郎、徳政金吾、古塚正治

昭和　年　月　日

片岡安、池田実、葛野壮一郎、中沢誠一郎、古塚正治村野藤吾、高橋栄治、森本藤吉。

その頃を語る（創立当時の懐旧）

昭和7年9月13日　　堂島「魚岩」

池田実、今林彦太郎、大林賢四郎、片岡安、葛野壮一郎、木子七郎、小林悉、武田五一、高橋栄治、波江悌夫野村一郎、藤井厚二、鷹取陽。

最近15年間に於ける関西建築界の変遷を語る会

昭和　年　月　日

池田実、片岡安、武田五一、森本藤吉、清水栄二、波江悌夫、池田谷久吉、葛野壮一郎、須川廉太郎、古塚正治、小川安一郎、古宇田実、大原芳知、酒井勇三郎、高橋栄治、安井武雄、鷹取陽。

東京白木屋百貨店火災について

（府庁）岸本熙、中沢誠一郎（百貨店）木庭俊一、木水栄太郎、鈴木祥六郎、藤崎正太郎、大谷友之進、里見純吉、竹内兼次、松岡正礼（協会）池田実、落藤藤吉、坪井誠一、今林彦太郎、黒田茂、村野藤吾、岡部顕則、玉置豊次郎、安井武雄。

住宅及土地経営に関する問題

昭和8年3月16日　　天満橋野田屋

安部親雄、今井英雄、篠崎兼二、清水栄二、西村辰次郎、福田坦夫、松本儀八、森本喜太郎、池田実、高橋栄治、中村義雄、堀田献次郎、鷹取陽。

住宅に於ける防暑に対する座談会

昭和　年　月　日

武田五一、小川陽吉、松本儀八、赤松修、岡本新次郎岡本孝男、三木来三。

防盗について

昭和9年3月14日　　本協会建築クラブ

武田五一、小川陽吉、松本儀八、増山新平、赤松修、小川安一郎、岡本新太郎、岡田孝男、小川三造、三木来三、池田実、伊藤和夫

防盗方法に就ての座談会

昭和9年4月18日　　本協会建築クラブ

武田五一、小川陽吉、増山新平、赤松修、小川安一郎岡本新次郎、岡田孝男、小川三造、三木来三。

住宅と防湿防腐に関する問題

昭和9年5月9日　　本協会建築クラブ

武田五一、小川陽吉、増山新平、松本儀八、岡本新次郎、三木来三、赤松修、小川安一郎、藤原義一、宮飼克二。

便所の改良に就て

昭和9年6月6日　　本協会建築クラブ

武田五一、小川陽吉、松本儀八、赤松修、岡本新次郎岡田孝男、三木来三。

防虫に対する件

昭和9年9月5日　　本協会建築クラブ

武田五一、松本儀八、増山新平、赤松修、小川安一郎三木来三。

住宅に於ける防風、防水について

昭和9年10月3　　日本協会建築クラブ別室

武田五一、小川陽吉、松本儀八、増山新平、赤松修、

小川安一郎、岡本新次郎、岡田孝男。

新大阪ホテルの建築を語る

昭和10年2月17日　新大阪ホテル

飯高達夫、甲斐原四郎、古宇田実、竹腰健造、三好貫一、川口一二、加藤誠二、武田五一、波江悌夫、吉本政治郎、岡田孝男、三浦尚史、島田良馨、桐本楠雅、新名種夫。

大阪株式取引所の建築を語る

昭和10年5月9日　朝日ビル本みやけ

石田信夫、岡野衛士、河合貞一郎、東畑謙三、波江悌夫、今林彦太郎、葛野壮一郎、作間田出生、竹腰健造、中沢誠一郎、岡田孝男、新名種夫、島田良馨。

京都朝日会館の建築を語る

昭和10年5月10日　京都朝日会館

石川純一郎、鹿子木孟郎、芹生幹二、林重義、本野精吾、川口軌外、小早川彦一、武田五一、古塚正治、山脇友三郎、岡田孝男、島田良馨、新名種夫。

建築と照明座談会

昭和10年9月20日　市電局5階普及館講堂

電気局側25名、協会側26名

住宅構造座談会（昭和10年12月号所載）

大阪の都市美について

昭和10年15月　朝日ビルA、B、Cクラブ。中沢誠一郎

稲葉竹治、木津谷栄三郎、藤原伊勢松、椎原兵市、新野百三郎、八木常三郎、生田花朝、恩田和子、広江恭造片岡安、武田五一、池田実、葛野壮一郎、松室重光、鳥井信、加藤善吉、吉田信武、亀井幸次郎、福知秀夫、原清。

建築と社会とを語る

昭和12年1月29日　本協会建築クラブ

荒木正已、川勝健二、田中弥一、塚本猛次、中井新一郎、堀武雄、松森修太、村井進、森島輝夫、横田道夫、大石忠夫、小池鍋三、棚橋諒、内藤亮一、森忠一、西山卯三、増山敏克、宮田秀穂、薬師神貫一、和田登、吉田信武、堀口甚吉。

大工徒弟問題並に資格検定制度に関して

昭和12年11月25日　本協会建築クラブ

（大工側）岸本信治、上田辰造、吉田弥三郎、佐藤忠治、長谷川九平、八木田次郎、古谷寅市、沖平吉、長谷川角次郎、藤本欣三（協会側）井上福蔵、永沢毅一、篠原太郎、鈴木忠三郎、坂本啓一、横田道夫、本多正道、久保田種吉、左谷陽光、矢野藤一、小川陽吉、松久保敬三、道田泰治郎、秋田喜代治、高松壮太郎。

阪神地方水害について

昭和13年7月15日　本協会建築倶楽部

堀口甚吉、小林清、宮田秀穂、亀井幸次郎、岡田孝男加藤善吉、玉置豊次郎、桐本楠雄、大石忠夫。

市街地建築物法改正に関して

昭和14年2月13日　本協会建築クラブ

伊藤甫、岩尾保衛、岡田孝男、岡本松太郎、楠瀬澈、小林俊三、鈴木一幸、玉置豊次郎、竹内政治、津田敏雄内藤亮一、本多正道、松井清之助、安田秀穂、村野藤吾森忠一、森口清、安井武雄、山口儀三郎、吉田信武、亀井幸次郎、棚橋諒。

満洲の建築事情を訊く

昭和14年2月20日　軍人会館別室

敏原敏、郎桑原英治、石川寛三、松井公威、伊藤為吉伊藤正文、伊藤宗太郎、置塩章、加藤善吉、川口一二、桐本楠雅久、保田種吉、柴田四郎、須賀藤五郎、谷民蔵、玉置豊次郎、中沢誠一郎、真壁博、永田鼎三、伴野貞三本多長次、松井清之助、松久保敬三、松本儀八、三浦茂宮本長次、山崎英二、吉村寛二、亀井幸次郎、新名種夫

「建築材料代用品及新材料」問題

昭和14年4月14日　朝日ビルＡＢＣ倶楽部

雨宮泰亮、栗根久市、海江田信兼、川勝隆一、河之口清三、佐内清一、橋本太郎、松田定秋、池田宮彦、伊東宗太郎、本野山照雄、小林清、中西六郎、松久保敬三、道田泰次郎、矢田鉄蔵、新名種夫。

婦人より見たる建築について

昭和14年5月11日　朝日ビルＡＢＣクラブ

石原初子、岡田指月、岡田栄子、越智キヨ、川島貞子竹内さく、谷口種子、西脇リカ、橋本ヨシ子、広瀬勝代古沢ラク、祐源トク、鷲井清子。

災害に関する座談会

昭和14年6月2日　朝日ビルＡＢＣ倶楽部

浅井少佐、浅野新一、黒田茂、鮫島手吉、橋本捧泰、坂清雄、本多正道、吉田圭吾、亀井幸次郎、棚橋諒、堀口甚吉。

「あるぜんちん丸」を語る

昭和14年7月6日　朝日ビルＡＢＣ倶楽部

池田実、伊藤正文、河合貞一郎、小林清、清水栄弐、玉置豊次郎、津山達夫、鶴丸梅太郎、中西六郎、松本儀八、村野藤吾、吉村寛造、和辻春樹、新名種夫。

技術者の養成並に補充に関して

昭和14年10月6日　建築協会別室

今林彦太郎、川口一二、鈴木忠五郎、中野順次郎、永沢毅一、西村安彦、松田徳太郎、三浦茂、亀井幸次郎、堀口甚吉、新名種夫、岩尾保衛。

大阪を中心とした郷土建築について

昭和　年　月　日

池田谷久吉、江崎政忠、滝沢真弓、高安六郎、南木芳太郎、松本儀八、井上新二、高橋栄治、玉置豊次郎、鶴丸梅太郎、藤原義一、岡田孝男、亀井幸次郎、政岡基次

防空に関する座談会

昭和16年3月20日　朝日ビルＡＢＣ倶楽部

池田谷貞、岡田太郎、岡崎忠三郎、金沢利助、佐竹庄

七、田中藤太郎、種谷喜兵衛、竹内新次郎、竹内さく、中田隆造、野田耕造、羽生隆、松田邦三郎、松本高二郎森田伊兵衛、吉田末知一、鷲井清子、池田実、奥島正一竹内佐平治、寺岡真、的場浩、宮田秀穂。

これからの住宅問題

昭和16年8月15日　朝日ビルABC建築倶楽部

有川純一郎、石川利雄、伊藤和夫、井上新二、田上孝豊田克平、三宅美代治、深山果、山崎英二、矢田鉄蔵、小林清、大下順三郎、岡田孝男、増井敏克。

「菖蒲池厚生住宅懸賞設計入選住作図案の批評座談会」

昭和16年9月4日　建築協会別室

中西六郎、岡田孝男、岩佐信也、岡部顕則、小林清、小林三造、増山新平、河澄一次。

実爆演習関係技術者座談会

昭和16年9月26日　建築協会陳列所

伊藤和夫、錦田直一、外山中尉、大崎祐弘、岡田達弥小合中佐、川勝健二、玉置豊次郎、藤田令二、福知秀夫浅野新一、島享、平松太郎、菅隆二（協会側）松久保敬三、藪中一良、北垣熊之介。

南方事情を語る

昭和17年1月30日

岩倉要吉、坪野秀一、山本三郎、近藤泰夫、古久保立次、斉藤安弘、宮武正道、深山果、森田慶一（協会側）小林清、伊藤和夫、大下順三郎、錦田直一。

大東亜建築界の動きに就て

昭和17年2月21日　風月堂

松久保敬三、浅野スレートKK外26名

25年回顧と変遷を語る（25年記念）

昭和17年3月14日

池田実、今林彦太郎、池田谷久吉、岡部顕則、片岡安葛野壮一郎、谷民蔵、永瀬狂三、酒井勇三郎、鈴木一幸（編集倶）伊藤和夫、大下順三郎、錦田直一。

建築界の将来を語る

昭和17年3月23日

石川純一郎、堀口甚吉、滝沢真弓、玉置豊次郎、中西六郎、安井武雄、藪中一良、松本儀八、篠原太郎（編集側）小林清、大下順三郎、錦田直一。

防空建築と耐火木材に関する懇談会

昭和17年6月20日　新大阪ホテル

佐田昌夫、佐々木秀郎、小林信太郎、井上新二、玉置豊次郎、中村吉太郎、長尾清一、竹間佐平治、小泉喜四郎、加藤善吉、松井浪之助、森口清、山口正、武居高四郎、山内喜兵衛、平野八十次、椎原弁一、守山廉蔵、和田専三、小林、片岡安、置塩章、松久保敬三、馬野七登岡本松太郎、鍵富要蔵、寛正太郎、雨宮泰亮、湯野保兵衛、田村床太郎、大藪二郎、岩井得之助、壱岐敏夫、西川、安達竜作、霜取清。

北加賀屋住宅を訪ねて

昭和18年2月25日　大阪市営北加賀屋住宅事務所

（住宅居住者）芝田迪兵、渋谷周次、野口弘羽、大山正徳、奥田信久、前田夫人、大山夫人、橋本夫人、飯田夫人、奥田夫人（市役所側）岡本精（編集側）星広文、小川正、吉田信武、増井敏克、中野順次郎、錦田直一、小林清、大下順三郎。

鉄骨アパート住宅居住者の体験について

昭和24年8月7日　篠ヶ崎府営共同住宅青柳旅館

（府住宅課）松山技師（協会側）中野順次郎、星広文大和栄衛（居住者）小林清、森下弥太郎、小森五郎、池田由紀子。

懐旧談及将来の事業等について

昭和25年3月25日　朝日ビル協会事務所

竹腰健造、池田実、池田宮彦、今林彦太郎、松本儀八置塩章、谷民蔵。

建築士資格に関する懇談会

昭和25年8月25日　朝日ビル協会事務所

東畑中央建築士審議会委員を中心に評議員有志会合、本問題に付き意見交換

顧問懇談会（協会今後の事につき）

昭年26年6月15日　朝日ビル協会事務所

中西六郎、中沢誠一郎、藪中一良、竹腰健造、東畑謙三、中野順次郎、藤木正一。

特殊構造規格に関する懇談会

昭和26年12月5日　朝日ビル協会事務所

（学会側）竹山謙一郎、浅野新一（協会並関西側）京大坂博士、阪大奥島博士、大阪府元吉住宅課長外、防災係嘗技師、大阪市桐本住宅局次長、大鉄肥後営繕主管、地建小島営繕部長、安井建築事務所、松村組社員、ブロック関係業者、ワクタ建築工芸岡田工務店、芦田建工社中野順次郎、大和栄衛。

評議員有志懇談会（役員問題につき）

昭和27年1月12日　朝日ビル協会事務所

（技術部評議員）五百蔵芳明、池上勝郎、尾亀清四郎岡橋作太郎、栗本栄一、小林清、近藤保、竹内佐平治、竹内孝、馬場善雄、星広文、松久保敬三、山本利雄。

技術部門評議員有志懇談会（役員問題につき）

昭和27年3月26日　朝日ビル協会事務所

松久保敬三、尾亀清四郎、岡橋作太郎、日野勝好。

「羽衣住宅展」について

昭和27年11月15日　南海高島屋地下特別食堂

中村綱、谷口尚武、山本武雄、飯田精次郎、今西茂雄増田幸次郎、林野全孝。

これからの住宅展モデルルーム出品者座談会

昭和27年11月14日　南海高島屋7階会議室

今西茂雄、北風鉄雄、駒田眞一、和田正節、橋本得助

（以下25頁へ続く）

博　覧　会

開催の趣旨、内容、収支計算等、紙面の都合上簡略化した。

△生活改造博覧会　大正9年5月
於　大阪商品陳列場
大阪住宅経営株式会社委嘱懸賞募集当選4案14点出品

△梅ケ丘住宅博覧会。大正11年9月21日～11月26日。本協会主催　阪急沿線梅ケ丘住宅地。
実物住宅　出品者、竹中組、大林組、清水組、鴻池組あめかり屋、横田組、ヤマトブロツク建材、田村真策大阪住宅経営、横河工務店、片岡建築事務所、宗建築事務所、葛野建築事務所、真水、三橋建築事務所計29戸、家具出品者、高島屋呉服店、大丸呉服店、吉田鹿之助、山谷商店、内外木工所、旭家具装飾会社、暖房出品者、作山鉄工所温気装置、阪急電鉄電気ストーブ高田商会アルユラスチーム、萩原工務所温水装置、高砂工業会社萩原工務所宮崎式ペチカ、大阪暖房商会温水装置、其の他、資料参考品、図面及模型、美術工芸品、一般建材及器具、機械類。

△第二回家庭博覧会　大正12年3月京都市主催、
於　京都岡崎公園、住宅模型及懸賞当選図案出陳す。

△大阪記念博覧会　大正14年3月15日――大阪毎日新聞社主催　於　市内　天王寺公園
本協会委員　委員長　伊藤正文、委員　小川安一郎谷民蔵、中尾保、長田岩次郎、増山新平、渋谷五郎、協会出陳参考品及出陳者、住友合資会社総本店模型（住友合資会社工作部建築課）、コンベアー模型（日本エレベーター製造株式会社）、鉄筋コンクリート模型（神戸高等工業学校）、写真（大林組、竹中工務店、松村組、鴻池組、橋本組、銭高組、清水組）

△神戸納涼博覧会　大正14年8月1日――9月5日神戸新聞社主催、改良住宅模型及図案出陳す。（9月5日感謝状及記念杯一個を受く）。

△香里園改善住宅博覧会　京阪沿線香里園住宅。
昭和6年10月1日――11月10日、大阪時事新聞社、京都日々新聞社、神戸新聞社主催、京阪電鉄株式会社、本協会後援、　実物住宅　25戸。

△上野芝住宅博覧会　昭和8年5月15日～6月15日、本協会主催、阪和沿線上野芝住宅地、
実物住宅　21戸。

△瑞光住宅博覧会　昭和8年9月15日～10月1日、京阪上新庄瑞光住宅地　実物住宅　20余戸。

△大美野田園住宅博覧会　南海高野線大美野住宅地、昭和7年10月15日～11月25日、本協会主催、夕刊大阪新聞社、南海電鉄KK、関西土地建物KK、実物住宅出品物、今西組、大野組、鹿島組、大林組、竹中工務店、森本建築社、関西土地建物KK、清水組。

△緑ケ丘保健住宅博覧会　阪急沿線伊丹緑ケ丘住宅地、昭和7年10月10日～11月28日、本協会主催、大阪時事新聞社、緑ケ丘土地後援府急電鉄後援、実物住宅出品社、あめりか屋、浅野弥三郎、大倉土木、梶山組、竹中工務店、中井組、日本相互住宅、橋本万次郎、八尾組、緑ケ丘住宅建物、新組、大林組、鹿島組、竹中秀雄、日本建築協会、間組、矢島組、吉川組。

△千里山住宅博覧会　昭和8年　月　日本協会主催。
新京阪　千里山住宅地、新京阪電鉄KK後援、実物住宅。

△菖蒲池厚生住宅展覧会　関西急行沿線菖蒲池住宅地昭和17年4月1日～4月30日、本協会主催、関西急行電鉄KK、財団法人　帝塚山学園後援会後援、
実物住宅出品者、大林組（4）、清水組（2）、竹中工務店（3）、木村組（4）、双星社（3）、藤木工務店（2）、岡本安達工務店（2）、上田工務店（4）8社計24戸。

△復興住宅展覧会　市内天王寺動物園。
昭和21年2月20日～3月20日、大阪府、市、戦災援護会府支部主催、朝日新聞大阪支社、日本建築協会後援実物住宅出品者、住宅営団大阪支所（3）、水野組(2)関西建築工業KK（2）、中部土木建築KK（1）、近畿興復建築工業会社（2）、日本木材工業（2）、日本建設産業KK（1）吉野木工KK（2）、朝日建築社（1）、仲川木工所（2）、上田木工所（1）、昭和産業KK（2）、金幸林材工業KK（1）、桝谷木工業（1）、山村木工KK（1）、大和木工KK（1）、大合木工業KK（1）、吉田工業所（1）、松下造船KK（1）、中和木材工業KK（1）、鐘淵工業KK（1）。
住宅（15坪以内）17戸、店舗兼住宅（20坪以内）15戸、計32戸。

△羽衣住宅展示会　（35年記念）南海本線羽衣駅東南、昭和27年11月7日～16日、本協会、大阪府主催、住宅金融公庫大阪支所、毎日新聞社、南海電気鉄道株式会社後援、実物住宅出品者、藤木工務店、安藤組、あめりか屋、鹿島建設、竹中工務店、中村組、大末組、大阪土木工業、大成建設、中道組、銭高組、鴻池組、松村組、大洋建設、田中組、藤本工務所、大林組、戸田組、清水建設、浅沼組、鍵仲建設、東組、井上組、新工務店、大西建設、今西組（2）吉村組計28戸。

展　覧　会

博覧会と同様、要点のみを記した。

改良住宅設計展覧会　大正9年3月24日
於　大阪中央公会堂二階　　懸賞入選図案出品。

能率展覧会　大正12年10月日。　　詳細不明

建築知識普及展覧会　昭和3年9月11日～9月16日
於　大阪大丸5～6階本協会主催　大阪大丸後援
図面　写真、模型、各種設備、災害と其予防、住宅と庭園　建築材料、観覧者162,500人

生活改善展覧会　昭和4年3月3日～3月9日
於　滋賀県公安堂、滋賀県社会科主催
本協会関係出品者、当協会、協会小川氏、小笠原氏、城口氏、大阪市、日本トラスコン、田中タイリング、政岡合資会社、建築金物商会、高松商店、川崎工場、東洋コンベス、日本洋瓦KK、熊取谷熊次郎、田村商会、汎建製作所、大丸、西原、日本鋼鉄、家具店、浅野スレート、浅野物産、スタンレーウオークス。
須賀商会、三機工業、みよし組、観覧者8,000人。

貸家建築展覧会　昭和4年8月18日、
於　大阪大丸5階　本協会主催
計画部（普通貸家、ビルデイング、アパートメントの概念及計画に関する材料）構造部（耐火、準耐火、耐震、木造等構造に関する材料）、室内設備部、（室内設備防盗設備、庭園、門、塀等の附帯設備に関する材料。保健衛生部（給水、排水、浄化、換気、採光、空地、衛生装置等の保健衛生設備に関する材料）
観覧者154,400人

名古屋市庁舎設計図案展　昭和5年5月22日～23日
於　都島工業、名古屋市主催　本協会後援
懸賞入選図案陳列

産業合理化展覧会　昭和5年4月15日～5月15日。
於　朝日会館朝日新聞社主催、（有料）本協会後援本協会出品者、竹中工務店、大林組、橋本組、浅野物産KK、辰巳硝子部、東亜ペイントKK、佳住屋、東洋工業KK、大林組工作部、住宅部、日本建築協会三機工業KK

婦人と住宅に関する展覧会　於　大阪大丸5階
昭和5年8月26日～8月31日、本協会主催、
大丸後援、模範的和洋住宅模型、設図計、各種材料、写真　各室模範的設備図面及実面模型、
参観者　187,100人

神戸鈴蘭台生活改善住宅展　神戸鈴蘭台　本協会後援
昭和6年9月10日～10月11日
緑ヶ丘　大美野住宅博覧会懸賞入選図案展
昭和7年9月26日～9月29日　於　長堀高島屋
本協会主催　開催に先立ち各出品住宅の図案一般公開

住みよい家の展覧会　昭和7年11月1日～13日。
於　南海高島屋、本協会主催、（15年記念事業）
参考、建材、実物の3部に分れて出陳。

大空えの武装展覧会　昭和9年7月11日～29日。
於　大阪三越3階、第4師団、大阪府、大阪市、大阪商工会議所、日本建築協会主催、陸、海、軍省後援、出品目録　、ロンドン市街爆弾投下模型、巴里空中防響模型等、60種に亙り陳列。

時局と建築材料展　昭和14年4月20日～5月17日。
於　協会内材料陳列所、出品会社、商社108社、
参観者　4882人。

建築文化展覧会　昭和15年11月23日～28日。
於　大阪松坂屋、本建築協会、建築学会共催、
記念展示「日本建築文化」紀元2,600年奉祝式典場写真、橿原綜合駅写真（平面図共）、橿原神宮外苑道場写真　（平面図共）、等多数、其の他、「家族向アパートメントハウス」当選図案、住宅改良会懸賞設計入選図案　等出陳

市民防空壕展覧会　昭和16年3月　　於　大阪三越。
本協会主催　（25年記念事業）、大阪府、大阪市、師団司令部後援、　各種防空壕、写真、統計

戦時体制下の建築展覧会　本協会主催　於　材料陳列場
昭和16年10月25日～11月15日
耐火木材　耐火壁床材、硬化竹筋、代用桶、マグネシヤ製品、チベル各種、防爆ガラス用セロフアン等、其の他。

建築と防空展覧会　昭和17年9月29日～10日4日。
於　大阪大丸、本協会主催、中部軍、大阪師団各司令部、大阪府、大阪市、朝日新聞大阪支社後援、
住宅防空　（家庭防空施設、待避施設、地下室、防空的利用）、都市防空（防空都市計画、都市分散、空地の利用、近隣地の防空的措置、隣組防空計画、建築的防空（偽装、燈下管制、待避所、防弾施設、防火建築防護室、防空壕）、防空資料（各種図表、写真、模型パンフレット）、協会25年の建築防空、都市武装、其の他事業の経過資料、会員余技等）

南方建築展覧会　昭和18年2月16日～21日。
於　大阪高島屋、日本建築協会、建築学会共催、情報局大政翼賛会大阪府支部、朝日新聞大阪支社後援、
一般統計　気象統計、大東亜建設記念営造計画競技設

計当選図案、宗教建築、民家建築、現代建築。

女性と住生活展覧会 昭和18年3月16日～21日。

於 大阪大丸、 建築工芸技術研究所、本協会主催、大政翼賛会大阪支部協賛、大阪市、商工省工芸指導所朝日新聞大阪支社後援、炊事法、育児法、浴場、協力菜園

大阪市公館懸賞入選図案展示会 昭和22年4月2日。

清水建設大阪支店講堂、本協会並大阪市共催募集、大大阪市公館設計図案入選作品を展示、

これからの住宅展 昭和24年8月9日～14日。 於 大阪大丸5階、本協会主催、大阪府、大阪市後援、

これからの住宅（図解、模型）、都市住宅の不燃化（図解、模型）、住宅を建てる手続き（図解）設計図案15坪の実物住宅

伸びる住宅展覧会 昭和25年4月25日～30日。

大阪大丸5階 本協会主催 大丸家具部後援、ハウス懸賞入選図案12坪のモデルハウス展示、模型、パンフレット発行、内容、（綜合的に新しい住宅の在り方を解説）

伸びる住宅展第二会場 昭和25年。

於 上六近鉄百貨店、本協会、大阪新聞社共催、我が家の設計家と庭の図案1等当選作実物作成展示す。

これからの住宅展 昭和27年11月11日～19日。

於 高島屋7階、本協会、大阪住宅復興促進会共催、大阪府、毎日新聞社、南海電鉄KK後援、

最近の海外並びに日本住宅紹介、大阪の住宅事情と住宅政策、住生活の向上（実物大台所外設備、図面等）羽衣展示住宅出品住宅図案並びに本会懸賞募集の設計図案その他。

燃えない都市建築展 昭和28年2月10日～15日。

於 高島屋7階、建設省、大阪府、大阪市、日本建築協会、日本損害保険協会、近畿不燃建築協会、都市不燃化促進連合会協催。

プロツク展示、耐火構造、防火材料、パスキン、特に補助の受け方に就て相談所を設く。

講習会続き （94頁より）

鳥取建築講習会

昭和27年10月7日 鳥取県立図書館講堂

開講挨拶 鳥取県建築協会長山家一太郎。耐火建築促進法、市大中沢誠一郎。材料、阪大奥島正一。新構法、京大横尾義貫、大阪建築事務所高橋慶夫。補講、建築用プラスチツクス全般、プラスチツクス協会中山清胤。硬質塩化ビニールに就て、三井化学河本於兎彦。厚型スレート、和歌山スレート多田大典。色彩調節及防火塗料、関西ペイント山岸寛次。 終講挨拶、鳥取県建築課長小川一益。 聴講 300人

岡山建築講習会

昭和27年10月7日 岡山商工会議所

開講挨拶 高原土会長。材料、大林組谷口尚武。アクリライトに就て、新光レイヨン迫盛登、スレートに就て、朝日石綿古川武彦。映画「潜函工法」竹中工務店提供。耐火建築促進法に就て、岡山県建築課大林武。住宅問題に就て、佐々木嘉武。（岡山県建築課）。新構法、竹中工務店日野勝好、神大伴潔。リノリユウムに就て、東洋リノリユウム安田金吾。防火塗料及色彩調節、日本油脂KK。アスタイル、田島応用KK。

聴講 150人

広島建築講習会

昭和27年10月8日 広島市中央公民館

材料、大林組谷口尚武。スレートに就て、朝日石綿工業古川武彦。 建築行政に就て、 広島県建築部長諫早信夫。新構法、竹中工務店日野勝好。神大伴潔。防火塗料及色彩調節、日本油脂KK。アクリライト、新光レイヨン稲垣英吉。アスタイル、田島応用KK。 聴講 250人

名古屋建築講習会

昭和27年10月11日 名古屋商工会議所大広間

開会の辞 東海副支部長佐藤四郎。材料、阪大奥島正一。アクリライト、新光レイヨン迫盛登。防火塗料及色彩調節、関西ペイント堀口、吉崎。プラスチツクス、プラスチツクス協会宮本条伍 °アスタイル、ルーフクング田島応用笠原梯治郎。リノリユウム、リノタイル、東洋リノリユウム安田金吾。住宅問題、愛知県建築部長浜島敏雄。欧米建築事情、会長竹腰健造。アメリカ新建築の動向、竹中工務店小川正。終講挨拶、県建築士会石原巌

聴講 150人

大阪建築講習会

昭和27年10月27日～11月11日 都島工業高等学校

本協会 建築学会、建築士会共催（一般青年技術者並建築士試験準備のため）。

開講挨拶 渡辺士会長。一般計画 阪大足立孝。

設備計画 市大田中良太郎。建築力学、阪大馬場善雄。鉄骨、木造、市大布施忠司。鉄筋コンクリートラーメン神大併潔。設計製図、村野、森建築事務所、森忠一。仕様書、契約、積算、日建設計工務榊弘美。

施工法 大阪建築事務所作間日出生。施工計画、大林組飯田俊之。建築基準法、建築士法、大阪府、越田正勝。

閉会の辞、中野理事、 聴講 120人

創立15年記念事業

創立15年記念事業計画案

(1) 住宅博覧会開催　実施
(2) 建築展覧会の開催　〃
(3) 住宅設計図案の懸賞募集　〃
(4) 建築通俗大講演会の開催　〃
(5) 建築巡回講演会の開催(企画せるもの実施に至らず)
(6) 各地並海外視察旅行　〃
(7) 「建築と社会」記念特輯号の発行　〃
(8) 記念図書の出版　〃
(9) 建設会館建設の企画　〃
(10) 記念祝賀大会の開催　〃

社団法人　日本建築協会創立満15年記念事業委員会委員（昭和7年10月現在）

創立15年記念事業局

局長　片岡　安

総務部	部長	池田　実
庶務係	係長	富士岡重一
委員		伊藤宗太郎
〃		小笠原　錙
〃		小川陽吉
〃		大原芳知
〃		岡部顕則
〃		高橋栄次
〃		津田敏雄
〃		鳥井　信
〃		中山栄太郎
〃		松井清之助
〃		増田　清
〃		森本藤吉
〃		呼子　正
宣伝係	係長	高橋栄次
委員		岡田孝男
〃		河合貞一郎
〃		片岡長参
〃		増田　清
〃		横浜　勉
財務係	係長	岡部顕則
委員		大林賢四郎
〃		籠田定憲
〃		設楽貞雄
〃		清水栄二
〃		竹腰健造
〃		波江悌夫
〃		中沢誠一郎
〃		松井清之助
〃		山胸友三郎
〃		八木盛二
〃		呼子　正
会計係	係長	松井清之助
〃		小笠原　錙
〃		岡部顕則
〃		徳政金吾
〃		光安梶之助

住宅博覧会部

緑ヶ丘住宅博

委員長	武田五一
副委員長	葛野壮一郎
幹事	小川安一郎
〃	芝田知重
〃	徳政金吾
〃	古城正治
委員	有山福重郎
〃	岡本新次郎
〃	籠田定憲
〃	加藤誠二
〃	加藤善吉
〃	鈴木末尾
〃	波江悌夫
〃	中島智喜
〃	西田儀太郎
〃	西村辰次郎
〃	伴野貞三
〃	藤井厚二
〃	南　保
〃	保田虎太郎
担当常務	小川陽吉
〃　〃	鳥井　信
〃　〃	森本藤吉

大美野田園都市住宅博

委員長	武田五一
副委員長	安井武雄
幹事	今林彦太郎
〃	坪井誠一
〃	増山新平

〃	中村義雄
〃	中野順次郎
〃	丹藤良雄
〃	日高胖
〃	平野弥助
〃	藤井厚二
〃	村上武
〃	山中茂一
〃	八木盛二
〃	渡辺金蔵
担当常務	大原芳知
〃 〃	岡部顕則
講演部会	
委員	河盛益太郎
〃	古宇田実
〃	津田敏雄
〃	増田清
〃	吉田信武
〃	渡辺圭吾
担当常務	中山栄太郎
〃 〃	富士岡重一
見学部委員長	松室重光
幹事	久保田廉
〃	小西一良
〃	伴野貞三
委員	樋口辰太郎
〃	設楽貞雄
担当常務	竹腰健造
〃 〃	呼子正
会館部	松井清之助
委員長	波江悌夫
幹事	中沢誠一郎
〃	山脇友三郎
〃	今枡蓊太郎
〃	阪井米吉
〃	野村一郎
担当常務	松井貴太郎
出版部	森本藤吉
委員長	藤井厚二
委員	石川純一郎
〃	落藤藤吉
〃	篠原太郎
委員	新名種夫
〃	滝沢真弓
〃	古塚正治
〃	村野藤吾
〃	
委員	村野藤吾
〃	芦田政一
〃	飯高達夫
〃	木村寛一
〃	久保田廉
〃	久保田葦雄
〃	小西一良
〃	渋谷五郎
〃	須藤隼人
〃	中村義雄
〃	藤本正一
〃	松本儀八
〃	松丸盛一郎
〃	山脇友三郎
〃	八木盛二
担当常務	小川陽吉
〃 〃	鳥井信
〃 〃	森本藤吉
展覧会部	
委員長	宗兵蔵
副委員長	坪井誠一
〃 〃	安井武夫
幹事	浅野金蔵
〃	浦英之助
〃	加藤善吉
〃	酒井勇三郎
〃	篠原太郎
幹事	須川廉太郎
〃	滝沢真弓
〃	中西六郎
〃	永山美樹
〃	姫野武
〃	山田函平
委員	池谷久吉
〃	石川純一郎
〃	飯田賢次
〃	伊藤恒治
〃	折居満寿介
〃	岡本新二郎
〃	古宇田実
〃	阪井米吉
〃	白石登美雄
〃	推原兵市
〃	末沢周次
〃	高林幸太郎
〃	高岡与三吉
〃	永沢毅一

担当常務	高橋栄治
祝賀会部	
委員長	小笠原銅
幹事	岩尾保衛
〃	児玉広太郎
〃	佐藤正次郎
委員	荒川義夫
〃	大倉三郎
〃	河村新
〃	小寺弥一
〃	阪口芳三郎
〃	谷民蔵
〃	高広平太郎
〃	堀田献次郎
〃	牧野忠
担当常務	伊東宗太郎

住宅博覧会

1. **緑ケ丘博覧会**　会場　阪急沿線伊丹緑ケ丘住宅
昭和7年10月10日～11月10日
（詳細は博覧会の部に記載せし為省略す）
2. **大美野田園都市住宅博覧会**　昭和7年10月
（詳細は博覧会の部に記載せし為省略す）
3. **上野芝住宅博覧会**　昭和8年5月15日
4. **瑞光住宅博覧会**　昭和8年9月15日～10月1日
（上野芝、瑞光の両村の詳細は博覧会の部に記載す）

建築展覧会

住み良い家の展覧会　昭和7年11月1日
（詳細は展覧会の部に記載せしため省略す）

住宅設計図案懸賞募集当選者

緑ケ丘保健住宅設計図案、大美野田園都市住宅設計図案実際に建つる住宅設計図案、阪和上野芝住宅設計図案（詳細は懸賞及賞金調の部に設載せし為め省略す）

建築通俗大講演会

会場　於　大阪中央公会堂
日時　昭和7年11月2日午後1時

開会の辞	古宇田実君
都市建築改造の急務	波江・悌夫君
建築と社会	片岡安君
住居問題の将来	葛野壮一郎君
社寺建築の過去と将来	天沼俊一君
世界の建築方向	武田五一君
閉会の辞	池田実君

映画、上海市街戦と建築被害状況、大震火災に依る建築被害実況、満洲都市文化施設

各地並海外視察旅行

1. **大阪を中心とした近畿地方**　昭和7年11月3日
大阪歌舞伎座、（観劇、最新劇場の諸施設を見学研究）
本会主催の各博覧会（住宅博）見学、　11月4日、
11月6日、　京都…本派本願寺（唐内、飛雲閣等）
枳殻邸（林泉　）
皇居（紫辰殿、清涼殿、仙洞の清庭等）　113名参加、
11月7日　阪神…日本ペイント工場、辰馬醸造会社の2工場の内容施設を見学　参加者65名。
2. **九州方面見学旅行**　昭和8年4月28日～5月1日
4月28日～午後5時大阪駅に集合（6時30分発）
〃　29日…八幡製鉄所、東洋陶器株式会社
小倉（勝山城見学）
30日…別府温泉地帯見学。
5月1日午前8時大阪着　参加者　徳政金吾他18名。
3. **東京方面見学旅行**　昭和8年10月15～17日。
10月15日…靖国神社遊就館、明治神宮外苑及絵画館　日本青年会館（昼食）、市中央卸売市場築地本場、築地本願寺建築物、清澄庭園、震災記念堂及復興記念館。（隅田公園、東京帝国大学、懇親会場、東京会館）
16日…希国議会議事堂建築場、建築資料協会陳列場（学会にて昼食）後、散会自由行動。6時より熱海に集合、懇親会開宴一泊。
17日…伊東方面及箱根方面
参加者　55名
4. **四会連合建築大会及満洲見学旅行**（見学会の部に記載せし為省略す）（朝鮮、満洲、台湾）
5. **台湾見学旅行**　記録　不詳

「建築と社会」記念特輯号の発行

昭和7年10月発行

目次

1. 各住宅設計当選図案及審査評
2. 創立15周年を顧みて（片岡　安）
3. 我協会15周年記念の日に際して（武田五一）
4. その頃を語る座談会（出席者名、座談会記録掲載）
第1回、片岡安、池田実、その他11名。
5. 第2回最近15年間に於ける関西建築界の変遷を語る会。片岡安、武田五一、池田実、葛野壮一郎、他13名
6. 第3回、協会の将来を語る座談会
片岡安、竹腰健造、落藤藤吉、今林彦太郎他13名。
7. 本会の既往を顧みて（創立当時の実情と事業の概記）
8. 雑誌の変遷
9. 緑ケ丘保健住宅博覧会開会式……徳政金吾
10. 大美野田園都市住宅博覧会開場式に参列して……
坪井誠一。　以下略

記念図書の出版

1. 住宅図案集　（定価1部1円也）

緑ヶ丘保健住宅、大美野田園都市住宅、実際に建つる住宅…（京阪電車経営住宅地）、生活改善健康住宅…（神戸鈴蘭台）。上記５種の住宅設計図36種を図版100頁に収める。（費用2,500円以下、延坪30坪以下の住宅）。

2. 大阪市地質調査図表

本会常設の災害強度委員会が数年に亙り苦心調査蒐集した資料を輯録して一本に纏めたもの。

大阪市内500ヶ所に亙り調査、イ、46倍版、ロ、図版150個、クロース装幀、上製函入、大阪市附図１部定価金３円50銭也

3. 昭和大建築図集

昭和５年～７年迄に蒐集された４大建築懸賞当選図案集及募集規定を網羅編纂したものである。

東京帝室博物館。京都美術館　日本生命館、軍人会館建築設計懸賞募集規定、同当選者名、同当選図案

46倍版　60頁　定価　金70銭也。

建築会館建設企画（実現に到らず）

建築会館委員会　建築倶楽部　陳列場　３回開催、延20名、ビル経営者の問題、資金の問題、記録なし。

記念祝賀大会　会場　中央公会堂３階大ホール。

日時　昭和７年11月２日。

出席者　本会関係者200名　来賓50名

委員長　小笠原氏の開会の挨拶　開宴　余興

会長　片岡氏、　15年の回顧と今後の抱負に覇気述べられる。

名誉賛助員、貴族院議員、森本兵衛氏祝辞、再び余興北陽大西連の舞踊

来賓　大阪市助役池川氏の主唱に依り日本建築協会の万才三唱せられ閉会。

創立25年記念事業

記念事業幹事会

幹事長　井上新二、幹事岡田考男、須賀藤五郎、鈴木一幸、中西六郎、松久保敬三、松本儀八、藪中一良、山胸友三郎。（各部委員名省略）

厚生住宅展　本会主催、帝塚山学園後援、あやめ池厚生住宅展　昭和17年11月27日～12月６日。

出品社各　大林組、竹中工務店、清水組、木村組、双星社、藤木、岡本、上田各工務店、８社24戸建設。

防火改修展　昭和17年６月25日～７月８日

於　朝日ビル陳列場図案、資材、参考品展示。

建築と防空展　昭和17年９月～18年２月迄間、

本会主催、中軍、海軍、府市、朝日本社後援

於　大阪大丸京都大丸、金沢宮一大丸。

家庭防空施設懸賞図、都市防空、偽装、燈管、防空壕外模型、写真等々展示。

南方建築展　昭和18年２月16日～21日　於　市内高島屋

学会共催　大阪朝日本社、情報局後援。

写真　図案外160点展示

女性と住生活展　昭和18年３月16日～21日。於市内大丸

市工芸指導所　朝日本社後援。

隣組共同施設　其他図案模型等展示。

防空講演会

広島商工会議所	17年９月	21日	講師、滝沢真弓、
小倉朝日新聞支社	〃	22日	田辺平学、井上新二。
福岡朝日講堂	〃	23日	福元海軍中佐。
京都朝日会館	〃	28日	池崎忠孝、片岡安
名古屋朝日会館	10月	６日	中沢誠一郎、井口静。
神戸海員会館	〃	〃	波、石井、桂
大阪朝日会館	〃	７日	堀井啓治外数氏。

地元関係部課長新聞記者等

防火改修講習会　昭和17年11月12日～14日

於　久宝小学校、防火改修必携に付て、府技師外講師

戦乱の欧洲より帰りて（防空講演会）16年11月24日

於　大林組本社講堂、建築学会と共催。

講師　伊藤五郎、田辺平学、浜田稔。三氏

見学会（京都）昭和17年５月10日　無隣庵、南禅寺、本願寺、金地院

（北陸関東）昭和17年６月８日～12日　尾去沢鉱山、盛岡、平泉、松島、仙台、飯塚温泉、東京上野精養軒にて解散。

（赤穂）　昭和17年９月23日、24日。　大石神社、泉岳寺、大石邸、製塩工場、御崎。

（九州）　昭和17年11月８日～13日　関門トンネル福岡東西公園、八幡宮、熊本市内、霧島、鹿児島、宮崎、別府、解散。

記念式典　昭和17年３月30日（本会創立日）中央公会堂

伊勢大麻を奉じ国民儀礼、式辞祝詞、表彰式後３階大食堂にて祝賀会、230名出席。

献金　師団並海軍人事部に￥1,000—献金。

慰霊祭　昭和17年６月28日　於　公会堂３階広間、

天満宮神官に依り挙式

防空研究事業参加（煉瓦造協会引受）昭和16年９月20日

於　逆瀬川ゴルフ場、実弾投下演習、重、軽爆機20機参加、投下量1,000K実験、木造家屋５戸、防空壕２

基、防護枠四基、煉瓦造一戸、動物、扉、塀ガラス等を設置。

焼夷弾投下演習　昭和16年10月17日　於　鳴尾競馬場　参加

自衛消防演習　参加、旭区大宮町小学校。

建設論文募集　新に構想されている新線、大阪駅前計画図案、懸賞募集。

時局対策会勢拡大　南方建設建築技術者募集に付、海軍に協力した。並大臣建議、行政簡素化問題、翼賛会の諮問に答う。

出征慰問　出征会員並留守宅書面、印刷物を贈る。

会勢拡大　中国、九洲、東海、神戸、京都支部設置促進

資金募集　大阪府知事に約18万円寄附募集認可を得て計¥176,244.00を得た。（寄附者名は寄附金調参照）

記念出版　25年記念号資料調査したが膨大な為め、時を要し発刊に至らず、建築必携資料の原稿作成したが出版に至らず。

昭和20年5月15～6月15日迄阪急前防空壕　横範防空壕懸賞募集をなし（半地下横穴式応急住宅）佳作小川安一郎外二名案に依り阪急電鉄とタイアップして阪急所有地、曽根崎警察署前御堂筋に沿う個所に半地下防空壕住宅を2戸十三坪建設公開（大阪府施設課指導、後援京阪神急行ＫＫ**21年度時局対策に関する件**　都市復興に付検討、戦災都市復興並に重要建設事業に関する建設行政に付、関係大臣、政党、主要都府県知事宛建議す。

復興住宅展　21年2月　於　天王寺公園内、府市主催、朝日新聞、本会後援。

復興建築に付検討。　復興院企画局建築部長、伊藤五郎氏を中心として検討。

昭和22年度　明日の都市復興論文と大阪市区公館地区復興設立図案懸賞募集、大阪府、市、朝日新聞社後援、小林一三氏他、府市関係局部長、朝日新聞社が審査、論文入選　伊藤甫　¥1,500円、　外省略
図案入選　西山卯三、石原正雄、外省略

特別会計、創立25年記念事業収支予算表
昭和17年2月、　社団法人　日本建築協会

収　入　の　部

科　目	金　額	摘　要
寄　附　金	176,500.00	
利　息　収　入	3,500.00	
合　計	180,000.00	

支　出　の　部

科　目			摘　要
第1部会（展覧会費）	2,500.00	厚生住宅展覧会 防　空　〃 廿五年記念〃
第2部会（出版費）	6,500.00	記念史出版 社会特輯号発行 爆弾記録号発行
第3部会（講演及講習会費）	8,000.00	防空講演会 防空講習会 技術者講習会
第4部会（記念行事費）	9,500.00	見学会費 自祝会費 表彰会費、慰労会費 献金費。其他。
第5部会（防空研究費）	15,000.00	実弾及焼夷弾演習 防空研究指導 建議、論文、設計募集等
第6部会（時局対策研究費）	3,000.00	
第7部会（総務部費）	15,500.00	財務、資金募集宣伝 諸給、会合、庶務、 諸係其他
予　備　金	20,000.00	
廿五年記念事業基金	100,000.00	
合　計	¥180,000.00	

新体制と時局対策委員会

時局対策委員会

昭和20年9月～11日

委員長長　堀井啓治　幹事長　中西六郎、長尾清一、藪中一良　委員　伊藤和夫外30名　五分科設置研究
(1)住宅並復興建築　(2)都市計画建築法規　(3)建築資材
(4)建築施工特に迅速施工につき　(5)技術家の取扱につき
以上結論を得会長報告同年12月復興院、内務省其他関係方面建議。

新体制委員会

昭和16年1月24日　建築学会長内田祥三氏より建築界の新体制問題研究のため建築学会、建築協会、建築士会建築業協会、の四会連合で協議会設置の申出があつたので本会に於ても下記の通委員会を特設して調査研究した。

四会連合委員

学　会　北沢五郎、佐野利器、内藤多仲、中沢誠

一郎

協　会　片岡安、井上新二、竹腰健三、鈴木一幸

土　会　黒沢幹男、中村伝治、松田軍平、山下寿郎

業　会　鈴木甫、武富英一、島田藤、富永長治

16.3.20日於 学会第1回連合委員会開催、爾来協議を重ね研究する事下の如し

下の通り五部門の専門委員特設

第1部　(建築行政機構事項)
伊藤憲太郎外9名

第2部　(官庁営繕其他営繕事項)
太田和夫外

第3部　(建築設計監督業務事項)
鈴木和夫外10名

第4部　(建築施工組織事項)
石井桂外11名

第5部　(建築技術団体事項)
井上新二、伊藤和夫、伊藤滋、神浦健、熊谷兼雄、小林政一、新名種夫、中西六郎、坂静雄、二見秀雄、武藤清

日本建築協会に於ては之に即応し下記八部門の委員を特設し連合委員と連携した。

第1部　(行政)
井上新二、板井公威、竹内佐平治、玉置豊治郎、松井清之助、吉田信武、村野藤吾、森口清、山内嘉兵衛

第2部　(営繕)
井上統一、伊藤和夫、川口一二、楠瀬徹、辛木貞夫、桐本楠雅、増井敏克、三橋国太郎、道田泰治郎

第3部　(設計)
秋田喜代治、池田実、池田谷久吉、竹腰健造津田敏雄、東畑謙三、中西六郎、宮嶋克巳、矢木英夫、村野藤吾、籔中一良

第4部　(施工)
伊東宗太郎、井上福蔵、岩尾保松、岡本新次郎、木村寛一、小西一良、清水栄二、鈴木一幸、鈴木末尾、西沢藤生、渡部圭吾、松久保敬三

第5部　(建築技術団体)
井上新二、伊藤和夫、大下順三郎、岡田孝男岡部顕則、北垣熊之介、谷民蔵、中西六郎野中駒市、坂静雄、古塚正治、堀内四知丸、松本儀八、三浦茂

第6部　(学校関係事項)
浅野新一、篠原太郎、滝沢真弓、竹内さく、棚橋諒、中尾保、永清狂三、野地修左、堀口甚吉、山口藤三郎、鷲尾清子。

第7部　(建築材料)
大西幸七、奥村重兵衛、河津喜之助、樺田藤郎、合田勝一、佐藤正次郎、島村佐治郎、長井杏四郎、山本潔

第8部　(建築設備)
浅海治平、内田成之、堀口亀吉、永田鼎三、伴秀雄、藤田重太郎、山内洋麿、山口次一郎

斯くて17年4月5に東京連合委員会共大体の成案を得夫等の結果建議した事項下の通り

16年11月　四会連各、関係大臣、法制局長、技術院、並企画院総裁宛建築企画中枢機構設置に関する建議

17年6月15日、連合宛先同上
建築施工組織再編成に関する建議

17年11月26日連合宛先同上
建築新体制に関する建議

昭和18年1月9日　正午　東京帝国ホテル

技術院第一部長、次長、第一部第一課長等を招待し、四会関係者出席、建議した新係制要綱について懇談し一応本事業を完了した。

追而

第5部会建築技術団体の項は学会協会が我国建築団体の二大勢力であり重要部門を占めているが之が統合が派生的にクローズアップし両会の合併に関する検討が行われた。其経過の大要は下の通りである。

昭和17年7月22日　日本建築協会々長片岡安より学会協会側の役員有志に対し招待が発せられ当日日本工業クラブに集合されたのは、学会側、内藤会長、北沢五郎、佐野利器、中沢誠一郎、小林政一、伊藤滋、田辺泰（佐藤主事）

協会側　片岡安、竹腰健三、井上新二、中西六郎。

懇談の結果両会共略其目的を一にする時局の推移に連れ合同に進む事とし両会にて具体案研究する事を申合せ同年9月2日　於　大阪クラブ

東京第五部会主事小林政一、幹事　伊藤滋氏西下

協会側　片岡、竹腰、松本正副会長、池田宮彦監事中西外現常務五名　谷民蔵、野中駒市、三浦茂、堀内四知丸五部委員会合、東京五部会中2案検討し至急に合併促進を申合せた。

17年10月28日於朝日ビル事務所

竹腰、松本副会長外、籔中一良外4常務並既往副会長監事たりし池田実、古宇田実、設楽貞雄、井上福蔵、岡部顕則、波江悌夫、古塚正治、松井清之助、渡部圭吾等

会合合併賛成其後特別委員設置両会にて検討協議が進められていたが大東亜戦激烈となり中座。

（学会との合併問題の項評記）

学会・協会合併問題

「日本建築協会と建築学会との合併問題に関する記録」

⊙昭和17年1月より建築界の新体制問題につき東京に於て四会連合協議会（学会、協会、土会、建設業協会）が開催され、それに関連して第五部会にて両会合併問題起る本協会内にも同様新体制委員特設し第5部会分科に於て新体制に関し検討を重ねた結果協会は学会と同様、建築技術者の団体であるが多年本会主張に基いて建築の社会問題、建築家の団体としての社会奉仕に重点を置き、新団体の形態を改組し之を利用するのが最も便宜であるとの意見に達した。

⊙昭和17年6月22日、東京、日本工業倶楽部にて「建築協会対学会の将来を語る会」を開催。

学会側　内藤多仲、北沢五郎、佐野利器、中沢誠一郎
小林政一、伊藤滋、田辺泰。

協会側、片岡安、井上新二、中西六郎

世話係　佐藤弓嘉

此際何等かの方法にて合同する様に進むべきことと意見一致を見た。

⊙昭和17年9月2日、大阪倶楽部にて東京より小林政一伊藤滋両氏協会側片岡安氏外13名出席

合併問題の案に付協議す。

合併に関する折衝委員

（学会側）　田辺泰、武富英一、浜田稔、松井清足、吉田安三郎。

（協会側）　谷民蔵、竹腰健造、滝沢真弓、藪中一良松久保敬三

（建築連合協議委員会選出斡旋委員）
伊藤滋、井上新二、小林政一、中沢誠一郎、中西六郎

合併問題に関する両会協議経過大要

⊙昭和18年2月13日、東京、大東亜会館に於て第一回協議会が開催され、同19年3月28日迄前後八回に亘つて新大阪ホテル、日本建築協会、丸ノ内会館等で開催された。

協　議　内　容

（協会側意見）資産問題法的研究要望、会名日本建築界主張、関東支部設置要求（関西と同格）。本部は支部より維持する案。事業は会費主義。一方的解散考慮。支部基金、寄附単独行為主張。全国支部設置要望。学を入れる事反対。学が絶対なれば進行不可。会名第三案日本建築技術会提案。会名回答なくば中止主張。役員選挙、評議会員制度。地方無視とならざること主張、大阪・京都・兵庫の如き独立性ある地区の運営につき希望。会名、所管、新団体の結成の順序、方法の二項を一括して斡旋委員に於て善処されん事を希望。

（学会側意見）　資産一応本部集中主義但し関西特別扱諒承。所管文部省主張。一方的解散希望。会員学会主張。関東支部設立努力。無任所理事設置案。事業は会費に重きを置かず寄附による案。学会定款を新団体機構に改め尚協会の面目を保ち得る様声明其他方法を講ずる故一方的解散を望要。本部重点主義、学を入れる事不可なら取纏め回答。役員選挙総会主義。

（申合事項）　主務官庁文部省又は技術院。建築会館処置問題論議。双方より定款起草案提出すること。会費額研究のこと。資産、本部支部関係、主務省は学会並中沢氏調査研究すること。定款要綱案中目的及事業項目決定。会名は会長一任とす。会員、役員決定。会長、副会長は正会員中より投票すること其他。両会より本部及関東及関西支部の採構と財政計画を立案の斡旋委員に提出し同委員にて適当取纏ること。

（協議したるうち決定事項）

（会名）保留（会費）正員年額18円、賛助員年額30円、准員年額9円。（名誉員）正員にして総会の推薦に依り名誉員を称することとする。（役員）理事10名の内8名は役付2名は無任所。（支部）九支部を予想、支部会計は特別会計とす。其他一部字句修正。

（以上8回にて一応協議打切、以後書面を以て両会委員宛回答或は照会を発することを約し解散す。）

⊙昭和19年4月　両会協議委員及斡旋委員出席のもとに「両会合併に関する基礎要綱」を決定。

両会合併に関する基礎要綱。

主　旨

皇国の重大時局に際し建築技術報国の実を挙ぐるため両会は合併し真に現下の要請に即応し得る新団体を結成すべきものと認む。

新団体の組織

別紙「定款要綱」に依る。

新団体の財政

別紙「予算要綱」に依る。

新団体の所管官庁

新団体の如き団体は技術院の所管たるべきを理想と認めらるるを以て将来右気運致来の節は其措置を講ずべきも差当りは新団体結成の結果自ら決定せらるべきものと認む。

新団体結成の順序、方法

新団体結成の順序、方法は両会合併の精神に即し両会が共に解散し同時に新団体を結成すべきものなるも法律上の手続に関し最も容易なる方法として一方が解散し一方が改組して新団体を結成するの止むを得ざるものとす、但し此の場合には両会に於て内外に対し其の理由を詳し、両会合併の精神を明かにすべく最善の処置を採るものとす。

新団体の設置際に於ける建築学会正員及日本建築協会員並地方会員の取扱。

新団体の正員は其定款に依り更めて詮衡せらるべきものたる所、新団体設立の際に於ては建築学会正会員及日本建築協会会員並に地方会員は之れを正員として認むるものとす。

両会の資産処分

両会の資産は全部新団体に移譲するものとす。

但し日本建築協会の特殊基金に就ては其性質の特殊なるに鑑み所有権は新団体に移すも関西支部基金として其管理乃至運営は同支部に委任すべきものと認む。

⊙昭和19年7月27日　斡旋委員より会名決定資料を添え白紙委任方申来る。

同19年8月4日　協会側委員斡旋員案に関し協議延期（不賛成）することに決定。

同19年8月12日　斡旋委員宛財局の定る迄協議保留方通達。

同19年9月6日　佐野利器氏より片岡会長宛両会長と会見懇願あり。

同19年10月7日　両会協議すること通達。

⊙同20年1月16日　正午北浜つるやにて、小林学会長西下、片岡会長と会見懇談、中西斡旋委員、大和書記長列席（内容）日本建築学会とすること。合併方法は法律上手続に関し尤も容易なる方法を執ること。既往申合決議事項及要綱は別に特設する実行委員に於て再審議を重ねること、等々。

昭和20年2月3日　斡旋委員宛公文発送、両会長会見内容に従て進行するも協会側より今後の進行方法につき希望附記す。

両会合併問題につき両会より実行委員二名を挙ぐ。

（学会側）　伊藤滋、鳥井捨蔵。

（協会側）　中西六郎、藪中一良。

昭和20年　常務会に於て

建築学会との合併は戦時中、両会実行委員にて進捗を計りつつあつたが、終戦後に於ける社会状勢は万般に亘り著しき変化を来たし居り従来研究されたるのは根本的に再検討を要するものと認められる、就ては両会の合併の儀は当分延期することが妥当なりとの意見に到達したるを以て実行委員より此の旨20年11月29日附にて佐野委員長宛文書を以つて通牒を発す。

内外木材工業株式会社

本社及本社工場：大阪市大正区千島町六番地　電話泉尾㊻2434～2438
東京出張所：東京都千代田区丸ノ内一ノ二　三菱仲28号館　電話丸ノ内㉙3421～3427
営業科目：1. 建築物・船舶の造作工事及室内装飾工事
2. 建具・家具その他木工品
3. 車輛・船舶用その他の特殊合板

懸賞及び賞金調

懸賞募集調

創立以来本会が懸賞募集したものは多種多様に亘つているが、記録が纒められていないのと、数度の転居で夫等の経過書類も一貫したものがない。今次調査に当り雑誌やいろいろの手許残置書類から抜萃したものが下の通りである。記録洩れ不正確の点、読者の諒承を乞う次第である。（カッコ内の数字は賞金、単位円）

日本建築協会懸賞及び賞金調

大正7年12月　「建築と社会」表紙図案
特選（30）浅井新一、入選（20）内藤太郎、古賀郷実松本儀八

大正9年2月　桜ヶ丘改良住宅設計図案
一等（300）油谷精次　二等（200）中村膚二、藤原東　三等（100）荊木由太郎、渋谷唯男

大正10年9月　市街地に於ける一戸建住宅設計図案
一等　谷本甲子三、二等　永井考直、三等　確井秀隆　近藤兵四郎

大正10月11日　市街地に於ける長屋住宅設計図案
一等　中村一秀、二等　山本辰次郎、三等　須藤員雄　小川安一郎

大正11年2月　郊外に於ける一戸建住宅設計図案
一等（500）大原芳知　二等（400）早良俊夫　三等（300）松岡誠一

大正12年12月　「建築と社会」表紙図案
一等（50）権藤要吉　二等（30）村上文郎　三等(20)岩本真人

大正13年12月　「建築と社会」表紙図案
一等（100）山口芳春　二等（50）　早良俊夫　三等（20）高橋種雄

大正15年12月　「建築と社会」表紙図案
一等（100）　岩永竜太郎　二等(50)今村亮　三等（20）高橋栄治

昭和2年10月　論文「将来の日本の住宅」
一等(100)加藤善吉　二等(50)　岸田不元　三等(30)田中進

昭和4年4月　サンマー・ハウス設計図案
一等（30）久保田彦雄　二等（20）前野寛太郎、三上卓一　三等（10）石川禎一郎、岸本登、中村義貫

昭和4年7月　貸家住宅設計図案
一等（50）（堀井三郎、古谷梅治、弘永輝雄）合作
二等（30）（柳本、鈴木久）合作　三等（15）道田泰三、浜田又吉

昭和4年12月　「建築と社会」表紙図案
入選（30）土屋昌三　佳作（10）宇賀一郎、中村勇、楚口芳雄

昭和5年7月　住宅室内設備設計図案
一等（50）　二等（30）

昭和5年12月　「建築と社会」表紙図案
入選（50）星広文　佳作（10）荒川利一外5名

昭和6年6月　小住宅設計図案（神戸鈴蘭台住宅）
一等（100）堀武雄　二等（50）　桜間大丈夫　佳作（15）金子春夫外10名

昭和6年7月　香里園改善住宅設計図案
一等（100）長野三二　二等（50）　桜間大丈夫、角田政一　三等（30）福富昭児、梅田善重、仁木謙治

昭和6年12月　「建築と社会」表紙図案
入選（50）宇賀一郎　佳作（10）伊東和雄外5名

昭和7年2月　日本建築協会紋章図案
入選（30）小清水仙之助　佳作（5)元本徳松外2名

昭和7年5月　メートル法に依る実用小住宅設計図案
一等(50)堀武雄　二等（20）久保田信夫、久保田健禄　三等（10）川部吉勘外10名

昭和7年7月　創立15年記念事業住宅博住宅設計図案

1. 緑ヶ丘保健住宅設計図案
一等（1名）山口正雄　二等（1名）佃十俊　三等（2名）筑紫太郎、堀武雄　佳作3名
2. 大美野田園市住宅設計図案
一等（1名）川部吉勘　二等（21名）楠田忠男　三等（2名）金子春夫、田辺由次　佳作2名
3. 実際に建てる住宅設計図案
一等（1名）角田政一　二等（1名）堀武雄　三等（2名）久保田健禄、筑紫太郎　佳作3名
4. 阪和上野芝住宅設計図案
一等（1名）村瀬鉱一　二等（1名）久保田健禄　三等（2名）西田哲郎、金子春夫、佳作10名
5. 千里山瑞光寺住宅設計図案
一等(氏名不詳)二等(氏名不詳)三等（氏名不祥）

昭和8年9月　大阪市「シビックセンター」計画理想案、
一等（300）（山口薫、小島初三、奥村敦）合作，
二等（100）(井上雅男、小野武雄）合作　三等（50）羽古渡

昭和8年12月　「建築と社会」表紙図案
一等（30）荒川利一　二等（20）木野寅雄　三等（10）藤原肇

昭和9年3月　夏の家設計図案
入賞（100）堀武雄、三戸谷久和、宮地米三

昭和9年6月 都市武装促進に関する論文
一等（200）山口儀三郎　二等（100）吉村辰夫、田中進、三等（50）横田実、平野一男、四方靖部、大井弘治郎

昭和9年6月 ポスター「都市武装促進」図案
一等（100）商業美術社　二等（50）武田十子男
三等（30）浅井洋

昭和9年12月 「建築と社会」表紙図案
一等（50）福井満　二等（20）　荒川利一　三等(10)尾亀万太郎

昭和10年9月 都市防空建築トーキー脚本
一等（建設せよ、300）野原善一郎　二等（不燃都市、100）注江英二　三等（鉄筋礼讃　50）蔦井英地（建築の秋）沼田賢治

昭和10年12月 「建築と社会」表紙図案
一等（30）新井満　佳作（10）紺谷昌亮外2名

昭和11年12月 「建築と社会」表紙図案
一等（30）福井満

昭和16年3月 市民防空壕展出品図案

昭和16年8月 菖蒲池厚生住宅設計図案
入賞（200）大木千鶴子、音納喜久治、西浦重夫

昭和17年6月 防火改修実物見本及考案図
入賞（50）竹原辰雄、友田義一、渡部節男

昭和17年9月 日本建築協会会旗図案
入選（30）安孫子三雄、石田定次、宇賀神行、平尾敏也、星広文

昭和17年10月 家庭防空施設図案
入賞（100）今西茂雄　佳作（30）井沢善吉外2名

昭和20年4月 半地下横穴式応急住宅（防空壕）設計図案　空襲烈しきため応募少く入選なし　佳作小川安郎　西谷叔久、山根豊子3名を選して¥50謝礼

昭和22年2月 「建築と社会」表紙図案
入選　氏名不詳、符号（吉）佳作　星広文外2名

昭和22年2月 「明日の都市復興」論文と「区公館地区」復興設計案
論文準入選（1500）伊藤甫、新田伸三　佳作（500）小橋亮作　設計案入選（3000）　石原正雄、西山卯三　佳作（1000）田村郁夫外5名

昭和25年3月 「建築と社会」表紙図案
入選（不詳）

昭和25年3月 我が家の「家と庭」設計図案
一等（30000）清水千栄子　二等（10000）今西茂雄、野中駒吉　佳作（2000）岩本博行外9名

昭和25年3月 「伸びる家」設計図案
入選（不詳）清水千栄子、今西茂雄、岩本博行佳作（不詳）池田光夫外4名

昭和25年11月 「建築と社会」表紙図案
入選（5000）田村郁夫　佳作（1000）山本道生外2名

昭和26年11月 「建築と社会」表紙図案
入選（5000）田村郁夫　佳作（1000）林健太郎外2名

昭和26年11月 関西建材会会章図案
一等（5000）山本武雄　佳作（500）石井一信外5名

昭和27年4月 新時代の小住宅設計図案
一等（30000）小林盛太　二等（10000）岩本博行、尾亀暢雄　佳作（5000）今西茂雄

出版図書調

創立当時より12年迄の分は記録不詳、12年後に於いて判明せるものを掲げた。創立後本会の出版図書は相当ある。

大正12年　桜ヶ丘改良住宅博覧会懸賞図案並博覧会記録
〃14年10　関東震災視察記　500部　¥3.50
昭和4年8月　サンマー・ハウス図案集　1,170部¥1.00
〃5年8月　婦人住宅知識　1,000　¥1.00
〃6年7月　世界最新建築図集　1,000　¥.50
〃6年　学校図集　2,0000　¥1.00
〃6年9月　懸賞図集　1,000　¥.70
〃7年10月　住宅図集　3,000　¥10.00
〃8年6月　地質調査表　330　¥3.50
〃　〃　〃　市衝地法規 1,500　¥.50
〃7年6月　〃　〃
法規は以下数年連続発行
〃8年12月　続　住宅図集　¥1.00
続　学校図集　¥1.00
昭和10年6月　都市武装記録　非売品
〃11年　建築材料綜合型録（陳列場関係）
建材資料集成
昭和23年3月1日　建築便覧　四六版　2000部
〃　24年11月　鋼構造テキスト　1,200部　¥1.50
〃　25年4月25日　伸びる家と住い方　2,000部　¥2.00
〃　〃5月1日　地震知識パンフレット

〃　26年11月5日　基準法規特殊建築物パンフレット索引1,000部　¥150

〃　27年6月20日　プラスチックとビニロンパンフレット　1,000部　¥70〒08

〃　10月1日　アスファルト防水工事とセメント防水工事　1,000部　¥60〒08

〃　9月30日　建築衛生設備　1,000部　¥100

〃　11月15日　之からの住宅図集　1,000部　¥200　〒32

昭和　27年5月　建築講座（各地講習会用）1,500部　¥200

〃　11月2日　之からの住宅図集（羽衣住宅懸賞を含む）　1,000部　¥200

〃　28年4月25日　第2回地質図表（京阪神、大阪を中心とした）　500部　¥1,200

〃　28年12月発行　建設資料便覧（編集中）

会員海外渡航者調

会員中海外出張されたものは相当数に上ると思われるが、本会の記録で判明しているものは概ね下の通りである。参考のため附録。

日高　睦	大正7年10月	渡米
光安梶之助	同　7年10月	〃
久保田繁亮	同　8年8月	欧米
本田　登	同　8年10月	渡米
須賀藤五郎	同　8年11月8日	〃
藤井厚二	同　8年11月16日	〃
波江悌夫	同　8年11月16日	〃
長谷部鋭吉	同　8年12月	渡欧
大林義雄	同　9年4月28日	渡米
松本禹象	同　9年4月28日	〃
渡辺　節	同　9年9月4日	〃
片岡　安	同　9年10月11日	〃
安井武雄	同　9年10月11日	〃
竹中藤右ェ門	同　9年12月	不明
橋本政雄	同　9年12月	渡欧
斎藤久孝	大正	渡米
木子七郎	同　10年2月	欧米
天沼俊一	同　10年4月13日	渡欧
置塩　章	同　10年6月14日	渡欧
大林賢四郎	同　10年8月16日	渡米
村野藤吾	同　10年8月27日	〃
大屋霊城	同　10年11月15日	渡欧
竹腰健造	同　11年8月5日	欧米
池田宮彦	同　同上	〃
中西甚作	同　12年4月9日	〃
芝田知重	同　13年3月	渡米
植実宗三郎	同　14年7月9日	欧米
下浦光衛	同　14年9月27日	〃
福永佐和吉	同　14年	欧米
徳政金吾	同　14年9月	〃
角尾籌彦	同　15年10月16日	〃
鈴木　甫	同　15年10月28日	〃
中西六郎	同　15年10月28日	〃
友田　薫	同　15年11月28日	渡米
園部文雄	昭和2年10月	欧米
井原国三	同　2年10月	〃
和田　信	同　3年3月29日	〃
永沢毅一	同　3年4月27日	渡欧
有山福重郎	同　3年6月	〃
設楽貞三	同　3年7月	〃
中尾　保	同	〃
小川安一郎	同　4年9月26日	渡欧
小田島兵吉	同　15年10月28日	〃
片岡　安	同　7年2月	
	（ゼネウア）にて開催の国際労働総会資本家代表として出席、欧米を視察。	
武田五一	昭和5年5月28日	欧州
高橋栄治		
竹腰健造		
片岡　安	（小林一三氏等と伊太利、独逸、ソ聯）	
（戦後）		
大林芳郎	昭和25年10月	欧米
鴻池藤一	同　25年10月	〃
吉川清一	同　25年6月17日	米国
竹腰健造	同　27年5月27日	〃
尾崎久助	同　27年9月11日	リスボンに於ける21回住宅及都市計画会議に出席
岡橋作太郎	同　27年9月11日	〃
吉田安三郎	同　27年9月3日	〃
白石登喜男	同　27年10月12日	米国
村野藤吾	同　28年2月14日	〃

索　　引

☆☆☆☆　ま　え　が　き　☆☆☆☆

会員諸子の参考に資するため、ここに「建築と社会」誌の35年間の記事内容の索引を付することにした。年別、50音別等作成方法について色々と意見あるが、今回は10年前調査されたものに従つて、つぎの5部門にわけた。なお、月別、頁数は紙数の都合上やむなく割愛した。したがつて、下記の例にしめすように、題名、筆者、輯、号、のみをかかげたものである。たとえば、題名は「シンケルよりニーマイヤーまで」を引くときは、第33輯の9号をみればよい。すなわち、昭和27年9月号をひけば所期の題目の記事がのつてある。

第1部門	No. 1	歴　史
	No. 2	意匠および装飾
	No. 3	計画基本事項
	No. 4	設計計画
第2部門	No. 5	各種建築
第3部門	No. 6	材　料
	No. 7	構　造
	No. 8	施　工
	No. 9	設　備
第4部門	No. 10	法　規
	No. 11	都市計画
	No. 12	災　害
	No. 13	座談会
	No. 14	特　輯
第5部門	No. 15	雑

なお、参考まで輯号、年月を記すと下記のとおりである。たとえば、第10輯1号は昭和2年1月号であり、第30輯11号とは昭和24年11月に発行されたものである。

輯	年	輯	年	輯	年
1	大正6～7	13	昭和 5	25	昭和17
2	〃 7～8	14	〃 6	26	〃 18
3	〃 9	15	〃 7	27	〃 19
4	〃 10	16	〃 8	28	〃 22
5	〃 11	17	〃 9	29	〃 23
6	〃 12	18	〃 10	30	〃 24
7	〃 13	19	〃 11	31	〃 25
8	〃 14	20	〃 12	32	〃 26
9	〃 15	21	〃 13	33	〃 27
10	昭和 2	22	〃 14	34	〃 28
11	〃 3	23	〃 15		
12	〃 4	24	〃 16		

題名	筆者	輯	号	題名	筆者	輯	号
シンケルよりニーマイヤーまで	浦辺鎮太郎	33	9	都市の衛生に就て	天児 民恵	2	2

建築と社会総目録目次

自大正6年　至昭和27年　35年間

第1部門

No. 1 歴　史 …… 114
a 総　論 …… 114
b 日　本 …… 114
c 東　洋 …… 115
d 西　洋 …… 115

No. 2 意匠及装飾 …… 115
a 総　論 …… 115
b 建築意匠 …… 115
c 室内装飾及家具 …… 116
d 色　彩 …… 116
e 美術工芸 …… 116
f 其の他 …… 116

No. 3 計画基本事項 …… 116
a 総　論 …… 116
b 気　象 …… 117
c 光 …… 117
d 熱及湿気 …… 117
e 音 …… 117
f 空　気 …… 117
g 塵埃汚染物 …… 117
h 生理衛生及能率 …… 117
i 偽　装 …… 118

No. 4 設計計画 …… 118
a 総　論 …… 118
b 平面計画 …… 119
c 設計基準 …… 119
d 家　相 …… 119
e 建築経営 …… 119

第2部門

No. 5 各種建築 …… 120
a 商業建築物 …… 120
b 住居 〃 …… 121
c 工業 〃 …… 127
d 農業 〃 …… 128
e 公共建築物 …… 128
f 宗教 〃 …… 129
g 其の他 …… 130

第3部門

No. 6 材　料 …… 131
a 総　論 …… 131
b 各種材料 …… 131
c 各部材料 …… 132
d 寸法及規格 …… 133
e 需給及統制 …… 133

No. 7 構　造 …… 133
a 総　論 …… 133
b 外　力 …… 133
c 基本理論 …… 134
d 構造力学 …… 134
e 各種構造 …… 134
f 各部構造 …… 135
g 防災構造 …… 135
h 特殊構造 …… 135

No. 8 施　工 …… 136
a 総　論 …… 136
b 仕　様 …… 136
c 積　算 …… 136
d 契　約 …… 136
e 経　営 …… 136
f 施　工 …… 137
g 工事報告 …… 138

No. 9 設　備 …… 138
a 総　論 …… 138
b 煖房、冷房、換気、及空気調整 …… 139
c 給水、排水及衛生設備 …… 139
d 照明設備 …… 139
e 機械及電気設備 …… 140
f 防音設備 …… 140
g 保安設備 …… 140
h 雑 …… 140

第4部門

No.10 法　規 …… 141
a 法規論 …… 141
b 都市計画関係法令 …… 141
c 市街地建築物法関係法令 … 141
d 各種建築物関係法令 …… 142
e 其の他 …… 143

No.11 都市計画 …… 143
a 総　論 …… 143
b 計画各論 …… 145
c 実　例 …… 147
d 其の他 …… 147

No.12 災　害 …… 149
a 総　論 …… 149
b 火　災 …… 149
c 風水害 …… 150
d 地　震 …… 151
e 其の他 …… 152

No.13 座談会 …… 152

No.14 特　輯 …… 153

第5部門

No.15 雑 …… 157
a 評　論 …… 157
b 資料統計 …… 158
c 随　想 …… 159
d 紀　行 …… 160
e 記　事 …… 160
f 消　息 …… 161
g 懸　賞 …… 161
h 実　例 …… 162
i 紹　介 …… 162

第 1 部 門

No. 1 歴　　史

a 総　　論

シンケルよりニーマイヤーまで	浦辺鎮太郎	33	9

b 日　　本

神殿建築と高天原 (一)(二)	波江　悌夫	1	1. 2
仏寺建築の将来 (一)(二)(三)(四)	〃	〃	6. 8. 9. 10
東大寺建築史 (一)～(五)	須藤　真金	2	6～11
(六)(七)	〃	2	1. 3
法隆寺の古建築物に就て (一)(二)(三)補遺	天沼　俊一	4	1～4
江戸城の殿閣と大奥	大熊　喜邦	5	9
当　麻　寺	池田谷久吉	6	3
古寺巡礼　一、二、三	池田谷久吉	6	9. 11. 12
大阪府の誇り「無釘堂」	〃	7	1
聾眼院堂塔建築	〃	〃	2
弘仁期の美術「室生寺」の研究	〃	〃	10
古寺巡り	宮飼　克二	〃	11
比　叡　山	黒田　鵬心	〃	12
古建築行脚　大原三千院	池田谷久吉	8	1
〃　万徳寺と明通寺	宮飼　克二	〃	〃
加茂遺跡雲雀ケ丘の石槨と其の追憶	沢野実之介	〃	2
栄　山　寺	池田谷久吉	〃	3
古社寺建築に就て	天沼　俊一	〃	〃
鳳凰堂の晩秋	渋谷　五郎	7	1
根来の大塔	〃	〃	8
兵庫県下の古建築に就て「円教寺」	菅田登美雄	8	6
〃　「浄土寺」	〃	〃	8
〃　「鶴林寺」	〃	〃	9
〃　「太山寺」	〃	〃	10
〃　「一乗寺」	〃	〃	11
明治大正に於ける建築観　一	増山　新平	8	10
〃　二	〃	〃	11
〃　三	〃	〃	12
法隆寺雑感	菅田登美雄	〃	〃
奈良朝の文化	佐藤　小吉	〃	11
京都古建築観 (一)～(四)	伊藤　清造	1	11～14
〃　(五)～(十)	〃	2	1～11
〃　補遺一、二、畢	〃	3	2～4
日本古城址抄	S・U閑人	4	1
日本庭園考 (一)～(九)	大屋　霊城	3	4～12
〃　(十)(十一)	〃	4	1. 2
飛鳥時代の寺院建築　(一)	岸　熊吉	9	2
大正前期の建築、明治大正に於ける建築観　(四)	増山　新平	〃	〃
飛鳥時代の寺院建築　(二)	岸　熊吉	〃	3
法隆寺五重塔と空洞の調査研究	池田谷久吉	9	4
石造九輪の発見	生田比左夫	〃	10
石山城に就いて	堀居左五郎	10	3
南紀の古建築長保寺と浄妙寺	池田谷久吉	〃	〃
擬宝珠と建築	〃	〃	9
近畿古金燈籠に就いて	〃	〃	12
久安寺楼門に就いて	原田　長治	12	5
醍醐寺三宝院及五重塔に就いて (上)	天沼　俊一	〃	10
〃 (下)	〃	〃	11
最勝院五重塔	〃	13	2
洋風模倣建築六十年記	堀越　三郎	〃	6
名古屋の郷土建築	城戸　久	〃	〃
桜井神社拝殿	天沼　俊一	〃	〃
鳥坂寺址発堀鴟尾に就て	池田谷久吉	〃	〃
史蹟崇広堂	城戸　久	〃	11
宇治上神社本殿と上代住宅	前田　松韻	14	1
山口市に於ける国宝建築(上)	天沼　俊一	〃	4
旧府聴舎の建築	葛野壮一郎	〃	5
与力屋敷を捜す	鶴丸　呆二	14	5
山口市に於ける国宝建築(下)	天沼　俊一	〃	〃
信貴山と生駒山	池田谷久吉	〃	〃
吉祥山正伝寺　(上)	天沼　俊一	〃	9
〃　(下)	〃	〃	10
岐阜、愛知両県下に於ける古建築解説　(上)	〃	15	5
〃　(下)	〃	〃	6
天守閣の由来	波江　悌夫	〃	7
泉　布　観		〃	8
住友旧本邸洋館		〃	〃
神戸元居留地の一洋館(岡崎ビル)		〃	〃
鴻池板屋橋別邸		〃	〃
助松本陣		〃	〃
比叡山延暦寺	藤原　義一	〃	〃
桃山時代の城郭について	大類　伸	〃	〃
大黒屋菓子舗		〃	〃
傍　花　閣	天沼　俊一	16	3
近代美術館に就いて	波江　悌夫	17	8
法隆寺問題の今昔	伊東　忠太	18	4
法隆寺の建築—其の焼失論争に就て	浜田　青陵	〃	〃
法隆寺式伽藍配置に就て	藤島亥治郎	〃	〃
飛鳥建築の特色	藤原　義一	〃	〃
上代住宅建築雑考—万葉集を一読みて	葛野壮一郎	18	5
郎商家店構えの懐古	佐古　慶三	18	7
桃山時代の茶室遺構	沢島英太郎	18	10
日本式建築の反省	大倉　三郎	19	4

〃石工符牒〃の話	森　忠一	20	2
我国に於ける都市的伝統	川勝　健二	27	7
我国都市計画の変遷	武居高四郎	〃	〃
神社建築様式の変遷	藤原　義一	24	6
日本城郭の種類及ぶ構造	鳥羽　正雄	24	7
民家胡同	山口　正	26	2
飛鳥より天平へ	猪熊　兼繁	〃	3
法隆寺修理の実際	浅野　清	〃	〃
法隆寺と桂離宮と	谷口　久吉	〃	〃
史蹟養寿庵址　元伏屋邸	池田谷久吉 宮崎　秀正	〃	4
方言と民家	滝沢　真弓	〃	11
古典に表われた建築の解訳	藤田徳太郎	〃	〃
正倉院のことども	池田谷久吉	28	6〜8
古民家随筆	藤原　義一	29	1
桂　離　宮	藤原　義一	30	8
不動院梵鐘楼に就て	橋本　秀夫	〃	10
和歌浦東照宮の建築に就いて	今津　吉兼	〃	11
紀州古建築古談	栗林かすま	〃	〃
兵庫県下の古建築概観	野地　修正	31	12
和歌山城の記	増田国之助	32	5
紀州古建築めぐり	日比野道男	〃	〃
大和棟の民家	伊藤　正文	〃	10
大阪古建築追憶誌	池田谷久吉	32	10
広島城及福山城石垣と落書石紋様	橋本　秀夫	33	6
法隆寺五重塔修理史	林野　全孝	〃	10
私たちの建築史　(1)	〃	34	1
〃　(2)	〃	34	2
〃　(3)	〃	〃	3

c 東　洋

雲崗石仏寺	大屋　徳城	〃	10
満洲古建築の展望	村田　治郎	16	11
満洲著名建築物グラフ（解説）	〃	〃	〃
仏印建築物瞥見	武藤　彪	24	8
北印度の建築に就いて	谷　一東	24	〃

d 西　洋

欧洲西部戦線に於ける歴史的建築の破壊	谷本多喜治訳	1	4
古代希臘城邑計画	Z・Y 生	5	12
近代建築の様式に就いて	本野　精吾	12	9
新興建築への常識	中尾　保	13	7
近代建築形態への趨勢	武田　吾一	15	1
欧洲の新興建築概説	岡田　孝男	16	6
近代美術館に就いて	波江　悌夫	17	8
運動場建築の発達と新傾向	小林　政一	17	9
欧米家具略史	角尾　篤彦	18	2
過ぐる三世紀間の工芸品	伴野三千良	18	2
最近に現われたファッシズムの傾向	新名　種夫	20	1
〃石工符牒〃の話	森　忠一	20	2
ロンドン塔	藤島亥治郎	24	7

No. 2　意匠及装飾

a 総　論

建築美と自然美の調和に就て	大屋　霊城	2	5
美的対象としての建築一〜四	伊藤　正文	5	1〜4
建築芸術に於ける歴史の問題	山崎万寿夫	7	2〜4
建築の真実と虚偽其の他	桜木　生	8	3
新らしき建築美	山崎万寿夫	〃	6
統一原理と建築批評	江村　郊邨	5	1
新日本文化運動と日本工芸	上野伊三郎	20	6
建築に於ける日本的性格	長谷川如是閑	20	7
建築の日本的性格	森口　多里	〃	〃
建築に於ける日本的性格に対する基礎的観念	伊藤　正文	〃	〃
芸術、特に建築の日本的なものについての若干の考察	棚橋　諒	〃	〃
建築に於ける「日本的性格」	香野　雄吉	〃	〃
問題の所在	城戸　久	〃	〃
戦争と建築芸術	木村　素衛	26	6
和紙と建築	寿岳　文章	〃	8

b 建築意匠

建築様式論	伊藤　清造	2	1
建築様式の意義を論ず (一)(二)	波江　悌夫	〃	3,4
様式の上にあれ (上)(中)(下)(結)	村野　藤吾	〃	5〜8
社会思想の象徴と建築様式	江村　郊邨	〃	11
「光は東方より」震災の所産たる建築様式	武田　五一	7	9
テラコッタの建築に及ぼす美的価値	沢部実之介	11	4
新建築様式の完成と堕落—最近の新建築に現われたる傾向	新名　種夫	17	3
新しい建築は空へと伸び行く	棚橋　諒	〃	〃
新大阪ホテルの装飾意匠について	笹川　慎一	18	3
建築と絵画について	豊藤　勇	21	1
神社建築の性格	田辺　泰	24	6
芸術の尺度的効果と建築様式	寺門四志猪	26	6
南方建築様式の確立	谷口　正久	〃	〃
装飾膠胶の文様的意義	鼓　常良	〃	10
京都の街頭建築		31	9
デザイン50〜51年	小川　正	32	1
街の顔を美しく	星　広文	〃	3
デザイン随想	石川純一郎	〃	8

第 1 部 門

c 室内装飾及家具

趣味化された室内装飾	吉村美代子	4	4
〃	〃	〃	5
ブランギン氏の壁画に就て	修 生 訳	〃	6
カルフォルニアの南欧風住宅の内部装飾	川村種三郎	7	3
〃	〃	〃	6
住宅内部の線に就て	三島 没虚	〃	7
西班牙の室内装飾と家具	山崎万寿夫	8	8
洋家具の見分け方	宮沢 節一	10	1
洋風小住宅の室内装飾	永山 美樹	〃	〃
建築の室内装飾に就いて	Y O 生	〃	〃
室内装飾としての植物材料	方 米治郎	11	4
住宅の装飾に就いて	本野 精吾	12	5
室内装飾へ色彩の応用	古塚 正治	〃	〃
住宅の室内装飾と家具	植実宗三郎	〃	〃
住宅と家具	遠藤 演	〃	6
欧洲最近の住宅と家具装飾品に就て	小川安一郎	13	5
室内装飾に就いて	梶原緋佐子	14	9
阪急ビルの内部装飾に就いて	伊東 忠太	15	2
照明器具とグリル	吉田 信武	17	3
近代家具展望	モトノ・セイゴ	18	2
欧米家具略史	角尾 篤彦	〃	〃
基準家具の問題	モトノ・セイゴ	〃	〃
家具施工に就いて	小川安一郎	〃	〃
カーペット	永山 美樹	〃	〃
窓 掛	角尾 篤彦	〃	〃
室内照明器具	武田十子男	〃	〃
新大阪ホテルの家具装飾に就て	長谷部鋭吉	18	3
商店建築の家具に就て	小川安一郎	18	9
家具標準仕様書	建築装飾協会	19	6
金属代用木材並に竹材建築材料及家具類に就て	加藤政之助	22	5
船内装飾私見	向井寛三郎	22	8
洋家具の話（第一）～（第六）	平尾 敏也	24	7～12
戦時の家具の問題	剣持 勇	26	11
家具は如何に標準化されるか	豊口 克平	27	1
デペンデント・ハウスの家具	角尾 篤彦	30	3
大丸フルーツパーラー		〃	〃
食堂セット		31	2
学童用家具について	福田 朝生	〃	10
新興家具展覧会評	小林 清	32	1
住宅の室内装備について	吉岡 吉雄	〃	3
日本上代裂の見方	佐々木信三郎	33	5

d 色 彩

建築の色彩	本野 精吾	11	5
古典建築の色彩に就て	滝沢 真弓	22	3
建築と色彩	太田喜二郎	〃	〃
建築と色彩	富士岡重一	〃	〃
建築と色彩	モトノ・セイゴ	〃	〃
日本建築の彩色	藤原 義一	〃	〃
「色彩構成」について	伊藤 正文	30	3
漆と建築	雑賀 紀光	32	5
漆工芸	冷水 清一	〃	〃

e 美術工芸

美術工業の諸問題	川村種三郎	5	7.8
フランスに於ける美術工学の新運動	〃	〃	11
第四次元より装飾へ 一、二	伊藤 正文	6	3.4
希臘時代の彫刻論 一～四	古塚 正治	8	1～4
黒田屏風絵図に就いて	千原 隆三	15	7
工芸の概念	向井寛三郎	18	2
過ぐる三世紀間の工芸品	伴野三千良	〃	〃
現代日本工芸の諸問題	上野伊三郎	19	6
非常時下に於ける宣伝力としての美術工芸	宮田 秀穂	21	10
仏像彫刻に就て	源 豊宗	29	2
正倉院御物天覚書	池田谷久吉	〃	3
全国郷土玩具巡り（続）	松島藤太郎	30	〃
〃	〃	〃	4
造型と陶器	富本 憲吉	31	9
京の漆	稲垣孫一郎	〃	〃
鋳金について	大国 寿郎	〃	〃
SANO BLAST ETCHING GLASS	池田金之助	〃	12
全国郷土玩具巡り	松島藤太郎	32	5

f 其 ノ 他

生活の墓標	本多 正道	17	3
木とファンタジー	村野 藤吾	〃	〃
広告術に現われたネオンサイン	亀井幸次郎	19	2
建築と広告との接触面	山口 正城	〃	9
船内造作の艤装に就て	松本 儀八	22	8
工業デザインの問題	石川純一郎	33	7
新日本工業デザイン展示会		〃	〃

No. 3 計画基本事項

a 総 論

労働の家	佐藤 四郎	19	7
建築科学の吟味	高井 末吉	20	7
建築批判の問題	田中 弥一	〃	〃
健康住宅の根本原則	深山 杲	21	10
阪神間に家を建てる人の為に	浅野 新一	23	3

住宅改善問題	菱田 厚介	23	6
強力なる住宅政策を翹望す	小林 隆徳	〃	〃
住宅建築と都市構築	池口 凌	〃	〃
住宅問題展望	新名 種夫	24	1
日本に建てる住宅	山田 醇	25	1

b 気 象

神戸地方に於ける風向の特別変化	南 信	14	9
南方共栄圏内の建築設計に就いて	東畑 謙三	24	8
南洋方面の建築事情	島 之夫	〃	〃
内南洋方面の建築事情	近藤 泰夫	25	2
風 通 し	蔵田 周忠	25	9

c 光

都市と日光	牛村喜勇演	1	7
青葉の山日常生活に関係ある窓の研究	佐々木秀一談	〃	〃
建築物の内外に於ける日射関係並「サナトリウム」建築上の応用に就て 一～六	富永 孟	5	6～12
顧みられざる都市夜間照明問題	加藤 善吉	6	11
照明に就て	大島 弘義	7	1
フートライトと家具	葛野壮一郎	〃	〃
スカイライト	郊 郁	〃	5
光りの窓	泉 緑郎	〃	9
患者からの註文（サナアトリアムの構造）	岡戸 武平	8	3
舞台照明に就て	池田谷久吉	〃	11
日射図表に就て	南 信	14	4
建物に対する日光決定の捷法	ホワード・ライ・フィッシャー	15	〃
美術館計画の新傾向所感	小林 政一	17	8
美術館の採光に関する一二の研究	下元 連	〃	〃
帝室博物館復興計画に伴う陳列室採光実験に就きて	井上鴻太郎	〃	〃
美術館の採光法に就いて	渡辺 久雄	〃	〃
室内の日照と人口密度	田中 弥一	19	4
光と視感	津田 鑿	25	12
建築家のメモ No. 1(材料の反射率に就て)		33	11
〃 No. 2 (〃)		34	2

d 熱及湿気

住宅の室内温度の関係に就て	村上 庸吉	5	10
古宝物の格納庫に就いて	大江新太郎	17	8
簡易断熱建築試作	モトノ・セイゴ	21	〃
南方共栄圏内の建築設計に就いて	東畑 謙三	24	〃
内南洋方面の建築事情	近藤 泰夫	25	2
住居の防熱に関する二、三の問題	西藤 一郎	26	9
熱地住居論	鈴木 博高	〃	〃
温環境の測定について	梶原 三郎	29	1

e 音

都市・建築・音響 (一)～(六)	佐藤 武夫 中野 勉	13	7～12
〃 (七)～(十二)	〃	14	3～9
発声映画館内の音響	山本 和夫	〃	11
劇場及映画劇場の音響	佐藤 武夫	〃	12
都市と騒音	〃	16	9
NJB新日本放送スタジオ綜合音響測定報告	小川 正	33	4

f 空 気

室内換気の理論と実験	チャーレ・ハバート	1	4
室内空気と人体の疲労との関係	畔柳 正豊	5	10
Hopper 窓の機構	伊藤 正文	20	4
AAJ資料（キャリア空気状態図表）		33	9

g 塵埃及汚染物

大阪市の屎尿処分問題(上)(下)	野田 泰男	1	6. 7
都市の下水道に就て	大井 清一	2	3
大阪市接続町村下水道調査綱要 (一)～(五)	大阪府発表	〃	7～11
〃 (六)	〃	3	3
都市保健問題としての塵芥処理に就て (上)	黄 玄 子	4	2
〃 (下)	〃	〃	3
都市建築物内空気汚染状態及び其の措置に関する制度に就きて	日本建築協会	15	6

h 生理衛生及能率

衛生時論	東城 生	1	3
国民保健に関する輿論		〃	5
衛生上より見たる住宅建築	吉岡 弥生	〃	10
巴里市衛生警察令		〃	12
巴里市衛生規則 (一)		〃	13
〃 (二)(三)		2	7. 8
都市の衛生に就て	天児 民恵	〃	2
家屋に対する衛生上の要求	遠山 椿吉	〃	5
都市政策と防疫 (上)(下)	向井 章	〃	10. 11
市民の健康に及ぼす住宅難の影響 (上)(下)	戸田 正三	3	8. 9
都市改造と民衆保健	横浜 勉	4	1
都市の衛生に就て	宮島幹之助	〃	8
大阪市の細民住宅の現状と保健状態 (一)(二)	三 太 郎	5	5. 6
結核治療上より見たる建築観	遠藤 繁清	11	11

第 1 部 門

病院建築と其の機械的設備、特に其の設計上の二三の問題に就いて	大沢 一郎	17	10

i 偽 裝

飛行機より見たる大阪市に於ける偽裝遮蔽に就ての感想 (1)(2)		17	8. 9
最近の独逸に於ける防空偽裝	熊井 安義	20	6
工場及倉庫の防空偽裝に就て	生田 五郎	25	2
偽裝に就て	古塚 正治	25	7
偽裝及偽裝塗料	木下 武昌	〃	〃

No. 4 設計計画

a 総 論

恵まれぬ我が高層建築	横浜 勉	9	1
庭の設計に対する一考察	大屋 霊城	10	1
建築殊に住宅と造園の関係	椎原 兵市	〃	〃
近代庭園の一例	橋本八重三	〃	7
水に恵まれた伊太利の庭園と噴水	古宇田 実	〃	9
子供の喜ぶ徒渉池	方 米治郎	〃	〃
庭園の実用化と芸術	古宇田 実	〃	10
庭の建物に就いて	椎原 兵市	〃	〃
衛生上より観たる庭園	大屋 霊城	〃	〃
庭園に於け建築的る施設	加藤 善吉	〃	〃
我国庭園の位置	上原 敬二	12	10
日本庭園の将来	田村 剛	〃	〃
建築に対する庭園と日本庭園の特色	古宇田 実	〃	〃
日本庭園の植栽材料	竜居松之助	〃	〃
最近欧米に於ける庭園の傾向	関口鉄太郎	〃	〃
公園より私庭を見る	井下 清	〃	〃
庭園と花壇	野間 守人	〃	〃
大阪の庭園に就いて	椎原 兵市	〃	〃
庭園の行進曲	方 米治郎	〃	〃
石燈籠の美	田津 鑿	〃	〃
よき庭はよき建築家によつて	岡本 彰一	〃	〃
建築と庭園 (1)	白川 泰	26	2
〃 (2)	〃	〃	4
庭木の美的本質とその選び方	方 米治郎	13	4
摩天閣には必す利用性を構成せしむべし	レイモンド・フッド	15	〃
ビルディングに於ける損失防止法	ダブルユー・アール・エム・キースト エー・ピー・ランドール	〃	〃
低建築か高建築か	ヴァルテル・グロピウス	〃	〃
窓	ローレンス・コーチャア アルバート・フレ		
エステイディアムの設計要義	中尾 保	17	9
運動競技場の計画 (1)	吉田 信武	〃	〃
自然療法を中心とする結核療養所の計画	新名 種夫	〃	10
建築の重要性を認識せよ	池田 実	18	1
新大阪ホテル計画案に就て	富士岡重一	〃	3
新大阪ホテル計画概要	新名 種夫	〃	〃
大阪株式取引所の設計計画に就て	竹腰 健造	〃	6
住宅施工の合理化	矢田 鉄造	20	7
我国住宅様式の進展	大石 忠夫	21	9
国民住居の標準	高山 英華	23	6
共同住宅計劃の技術的基礎概念	山口 吾郎	24	2
決戦態制、工場管理、工場施設	川喜田煉太郎	27	3
ある喫茶店の試案	今西 茂雄	30	4
京都府に於ける観光施設整備計画	長沢 忠郎	〃	8
日本平和郷宝池公園の建設に就て	高橋 正典	〃	〃
江戸時代の庭園を見直したい	竜居松之助	26	10
観光喜代門旅館案計画に就て	布袋 国雄	30	11
新制中学校舎の設計々画について	富田 清	31	8
アメリカの新しい学校建築について	Merrell. Uories. Hitotsuyangi		10
大阪スタディアム設計に関する覚書	岩本 博行	〃	11
神戸市民スポーツセンターの計画について	三田 一男	〃	12
建築設計はどうすれば良くなるか	白石 博三	32	1
寒地と建築	久米権九郎	〃	2
寒地建築について	津村 重一	〃	〃
寒地住宅雑考	田中良太郎	〃	〃
今昔・是非	滝沢 真弓	〃	3
平凡・異常	石川純一郎	〃	〃
志摩観光ホテルの企画と設備	竹内 孝	32	7
設計について	村野 藤吾	〃	〃
設計業務への私見	日野 勝好	〃	11
此頃思うこと	竹内 成夫	〃	〃
建築事務所のあり方	小西 岬	〃	〃
建築設計業界に於ける昨年度の諸問題及今後の見透し	香取 礼三	33	1
N板硝子株式会社舞鶴工場に就て	榊 弘美	〃	3
朝日放送演奏所に就て	松室 重真	〃	4
ラジオ京都演奏室設計覚書	増田 友也	〃	〃
建築若人の座談会（設計者の立場より）		〃	5
産業会館ビルの設計々画	小川 正	〃	11

b 平面計画

建築敷地に就て	設楽 貞雄	1	5
住宅問題と住宅敷地に関する考察	村上 庸吉	5	8
小商店建築の平面	川喜田煉七郎	18	9
小住宅のプランニングの教授法	鷲井 清子	20	8
労務者住宅計画に就て	政岡 基次	23	6
アパートメント設計覚書	酒井 清一	24	2
記念事業中・アパート建設に関する件の報告書	藪中 一良	〃	〃
庶民住居の一試案	大下順三郎	〃	4
神社建築雑考	井上 一雄	〃	6
極小住宅に於ける平面基準の問題	西山 卯三	〃	10
設計雑感		30	9
新制中学の教育計画と平面計画	池田 伝蔵	31	10

c 設計基準

計画と設計	波江 悌夫	1	14
設計数量の指示に就て	小笠原 銅	3	10
小笠原君の「設計数量の指示に就て」を読みて	設楽 貞雄	〃	11
建築設計と希臘建築に於ける対称及均勢の「ハンビッチ氏法則」	伊藤 正文	7	10
〃	〃	〃	11
建築設計に於ける強度計算報酬規定に就て	増田 清	〃	〃
友人木水君の住宅設計に就て	小川安一郎	8	2
部屋の大さを決定する定規としての人体	野地修左(訳) フランツ・クラウゼ	12	11
気食動の関係に就いて	宮飼 克二	〃	〃
大阪放送会館の設計計画に就て	中山 克己	19	7
「国民住居」の提案	旗 咲平	23	12
家族の生長と住宅基準	諫早 信夫	24	4
住宅基本空間に対する一考察	西山 卯三	〃	〃
極小住宅に於ける平面基準の問題	西山 卯三	〃	10
鉄筋石造構法による設計	栖橋 諒	29	2
学校建築の主題	伊藤 正文	31	10
学校教室のありかた	堀口 捨吉	〃	〃

d 家 相

家相問答 (上)(下)	葛野壮一郎	1	1.2
家相論	〃	〃	14
訪問記「家相見」君と僕	K・S 生	3	1
家相に対する疑問	葛野壮一郎	6	7
家相流布の原因と其本質原理	葛野壮一郎	10	1
住宅と家相の問題 (1)(2)	〃	12	5.6

e 建築経営

組織的に計画し野生的ならざる郊外住宅経営	小林 一三	1	2
米国に於ける職工住宅経営法 (一)(二)	葛野壮一郎抄訳	〃	9.10
〃 (三)	〃	〃	12
米国に於ける住居経営(一)〜(三)	M・T生訳	2	8〜10
〃 (四)	〃	3	2
住宅会社の経営者に望む	大屋 霊城	4	10
〃	〃	〃	11
大阪北港会社経営の住宅に就て	小笠原 銅	5	1
建築の経済的環境	村野 藤吾	9	1
オフィス・ビルディング経営に就いての経験二三	栗山 寛一	〃	〃
小貸事務所の経営	葛野壮一郎	13	11
一目で判る営業費の記録	ジョン・ダブルュー・ボーリー	15	4
ビルディング管理人用諸図表		〃	〃
何故家賃は物価に追随出来ぬか		〃	〃
住宅地経営に就て	松本 儀八	16	〃
住宅経営の種々相	矢田 鉄蔵	〃	〃
土地経営者の観たる住宅	篠原 正雄	〃	〃
土地経営に於ける分譲住宅地の一現勢	令井 英雄	16	〃
都市に於ける公益企業としての住宅経営	日本建築協会	19	11
大阪府下に於ける住宅経営地調査	都市計画大阪地方委員会	20	7
都市に於ける貸住宅経営の実際	政岡 基次	21	1
家賃より観たる不動産価格構成の二法則	小村 勝	23	6
景気変動の住宅企業に及ぼす影響に就いて	小宮 賢一	〃	〃
最近の住宅政策	大村已代治	24	4
最低限生活の要請と建設住宅の基準	西山 卯三	25	1

間には仕切・天井
を・輕量鉄骨
は日進式を御
採用下さい・

耐震・耐火・軽量・堅牢
防錆完全・中空防音
合理的工法・責任施工

株式会社 奥村重兵衛商店
大阪市北区木幡町三一番地
電話堀川㉝四一六四番
一〇一七番

第 2 部 門

No. 5 各種建築

a 商業建築物

デパートメント・ストアーに就て	津田 鑿	4	12
中央市場に就て	X・Y 生	7	8
巴里に於ける商店の新傾向	ルイ・シュロンネ	12	9
小商店の店頭	宮飼 克二	〃	〃
商店と広告	新名 種夫	〃	〃
我国百貨店建築の特異性	中村 伝治	14	10
百貨店建築の外観と内部	黒田 鵬心	〃	〃
百貨店カアルシュタットの新建築	石川純一郎	〃	〃
ドイツの百貨店 二 三	蔵田 周忠	〃	〃
百貨店建築に就いて	毛利 泰三	〃	〃
百貨店の建築	里見 純吉	〃	〃
百貨店の平面計画に就て	絹川 豊重	〃	〃
百貨店の設計	木水栄太郎	〃	〃
商店街と百貨店建築	吉田 享二	〃	〃
欧米の店小観	津田 鑿	〃	〃
陳列窓の反映現象に就て	ブトノキイ	〃	〃
商店と広告	星 広文	〃	〃
改築でモダーンとなつた商店の例	宮飼 克二	〃	〃
商家店構えの懐古	佐古 慶三	18	9
小売商店の店頭	角尾 篤彦	〃	〃
小商店建築の平面	川喜田煉七郎	〃	〃
商店建築の家具に就て	小川安一郎	〃	〃
地下商店街	伊藤 和夫	〃	〃
商店照明の話	内田 幸夫	〃	〃
停車場と百貨店	佐竹 三吾	18	11
百貨店に対するスプリクラーと自動火災警報装置	永野 貞次	21	4
店相十二支	川喜多煉七郎	22	6
近代都市の発展と事務所建築の勃興	片岡 安	9	1
事務所建築の経済的考察	竹腰 健造	〃	〃
ビルディング両面観	池田 宮彦	〃	〃
ビルディングの構造とプランニングに就いて	増田 清	〃	〃
米国現代のビルディング	福永佐和吉	〃	〃
構造上より見たる高層建築の変遷	田辺 平学	〃	〃
阪神地方に於ける所謂ビルディングの概評	古塚 正治	〃	〃
かくあるべき明日の建築殊にオフィスビルディングのそれ	矢尻徳三郎	〃	〃
欧米の保護金庫に就て(1)	竹腰 健造	13	11
米国の銀行建築	増田 清	〃	〃
ウールウォースの凋落前後	村野 藤吾	〃	〃
最新のオフィスビル三信	松井貴太郎	13	11
事務所建築とその構造	黒田 茂	〃	〃
東京に於ける貸事務所建築の近況	木村幸一郎	〃	〃
構造上から、事務所建築のプランを樹る人々に望む	青柳 貞世	〃	〃
欧米の保護金庫に就て(2)	竹腰 健造	〃	12
米国に於ける建築事務所 一、二	高橋栄治	14	6

(ロ)銀行、会社、事務所等

大阪株式取引所新市場の建物に就て	高橋 栄治	18	6
大阪株式取引所（写真）		〃	〃
組立式移動現場事務所について	海村 統之	30	5
帝国ホテルの建築に就ての考察	本野 精吾	6	8
帝国ホテルに就て	伊藤 正文	〃	〃
所謂大谷石の屁に対する私の見た帝国ホテル	村野 藤吾	〃	9
市営長屋及共同宿泊所	江村 郊郎	2	6
ホテル建築の一考察	古塚 正治	13	1
ホテル・プランニングに就て	〃	〃	3
コンマーシャル・ホテル計画の下準備	高橋 栄治	〃	〃
ホテルの附帯設備基本事項	桜井 省吾	〃	〃
（ホテル）業者から建築家に望む	南 喜三郎	〃	〃
〃	岸田 勉	〃	〃
旅宿の思い出	八洋生	〃	〃
ホテル瑣談	角尾 篤彦	〃	〃
パーク・ホテル「ハウス・レッヘン」		〃	〃
小ホテル「ホワイト・スター」		〃	〃
静岡の東本陣跡	松本 儀八	14	5

(ハ)ホテル、旅館、宿泊所等

新大阪ホテルの建築工事が社会に与えた教訓	竹腰 健造	18	3
新大阪ホテル計画案に就て	富士岡重一	〃	〃
新大阪ホテル計画概要	新名 種夫	〃	〃
都大阪ホテルの家具装飾に就て	長谷部鋭吉	〃	〃
吉新大阪ホテルの装飾意匠について	笹川 慎一	〃	〃
新大阪ホテルの構造及強度計算	竹内 政治	〃	〃
新大阪ホテルの厨房に就て	上田 清一	〃	〃
現代大都市ホテルへの基礎的要求	大石 忠夫	21	11
欧洲と日本のカッフェーの機能と設備	上野伊三郎	12	3
レストランとカフエー漫語	本野 精吾	〃	〃
レストランのキユツヘー	古塚 正治	〃	〃
レストランの厨房	松村 次郎	〃	〃

カフェーの照明雑感	石川 安太	12	13
カフェーとレストラントの設計及設備上の注意点	宮飼 克二	〃	〃
最も現代型の欧米のカッフェー其他		〃	〃
建築家から見たレストラントとカッフェー観		〃	〃

(ニ)料理店、飲食店、カフェー等

菊水の綜合的装飾に就いて	武田 五一	19	1
ある喫茶店の試案	今西 茂雄	30	4
演芸と建築 (上)(中)(下)	波江 悌夫	1	11〜13
活動写真劇場の改良(上)(下)	葛野壮一郎	〃	2.3
市民劇場の建設を望む(上)(下)	〃	〃	6.7
大阪劇場の変遷 A. B	池田 実	3	1.2
公立大音楽堂の創設を望む	葛野壮一郎	4	1
活動写真館の照明と観客の眼の衛生	石川芳次郎	〃	〃
イーストマン劇場及音楽学校	葛野壮一郎	6	5
建築家と活動写真館	池田谷久吉	7	6
戯場漫筆	足立円次郎	〃	10
舞台の変遷と其の周期	池田谷久吉	8	8
舞台照明に就て	〃	〃	11
木造最後の大劇場	池田谷久吉	9	3
劇場はエールへと趨く(訳文)	〃	〃	6
近世劇場構造 (一)〜(三)(訳文)	〃	〃	8〜10
うき世絵と其時代の劇場	〃	〃	11
新シェクスピア記念劇場に就いて	木村 寛一	11	5
道頓堀の劇場小史	池田谷久吉	12	4
四つの劇場と舞台の提案	川喜田煉七郎	14	11
映画館及劇場建築の様式	黒田 鵬心	〃	〃
最近映画劇場建築の動向に就て	城戸 久	〃	〃
映画館建築へ	酒井 清一	〃	〃
映画劇場に於ける映写室の設計に就いて	ウヰリアム・ダブリュー・ウイルスン	〃	〃
ぱ場建築と法規	池田 実	〃	12
経営者の見たる映画館並に劇場建築	僊石政太郎	〃	〃
劇場について漫筆	木村得三郎	〃	〃
大阪歌舞伎座新築設計について	小田島兵吉	15	11

(ホ)劇場、映画館、演芸場、観物場、舞踏場、遊技場等

京都朝日会館	石川純一郎	18	6
京都朝日会館(写真)		〃	〃
宝塚大劇場復興工事	鷲尾 九郎	18	8
日本万博	福田 重義	20	11
日本万国博覧会に於ける二・三の問題に就いて	本多 次郎	〃	〃
京都競馬場馬見所の設計経過と概要	安井 武雄	21	11
室内及野外スポーツ建築	坂本 啓一	22	4
新東亜建設と競馬場計画	島田 良馨	22	5
会員劇場設計の規準	堀口 甚吉	23	1
劇場余録	小泉嘉四郎	25	8
〃	〃	〃	12
能舞台雑感	片山 博通	26	10
巷間演芸の仮設小屋に就て	図師 嘉彦	〃	12
火災保険率協定案と倉庫建築		1	2
貯蔵と建築	松井 清足	8	1
自動車々庫に就いて	菅野 久一	10	2
倉庫建築に就て	山本 五郎	13	10
倉庫建築計画	北村 勝成	〃	〃
格納庫建築 (1)(2)	高橋梅太郎	〃	10. 11
飛行機格納庫に就いて	柳井 平八	15	3
組立工場を兼ねた長径間飛行機格納庫2題	青柳 貞世	19	11
飛行機格納庫建設に要する鉄骨量の経済限度	高橋梅太郎	〃	〃
乗合自動車収容庫	大内秀一郎	20	3
灘の酒倉	阪下 圭弥	31	12

b 住居建築物

住宅建築の改造	本野 精吾	1	2
我邦の住宅改良第一策 (上)(中)(下)	片岡 安	〃	4〜6
大阪市の細民住宅に就て(一)〜(三)	K・U生	〃	4〜6
英国に於ける住居及都市計画法令 (一)〜(三)	伊藤 真雄	〃	5〜7
改良住宅	今林彦太郎訳	〃	〃
低廉なる職工住宅建築	牛村 喜勇	〃	8
アメリカの田園住宅 (一)〜(四)	谷本多喜治訳	〃	8〜11
結核病と住宅改良問題	片岡 安	〃	9
米国に於ける職工住宅経営法 (一)(二)	葛野壮一郎抄訳	〃	9〜10
〃 (三)	〃	〃	12
都市住宅問題	関 一	〃	14
戦後に於ける倫敦の住居問題 (上)(下)	M・I生訳	2	1〜2
倫敦に於ける住居問題委員会の報告書 (上)(下)	〃	〃	3〜4
都市と住居問題	阪西由蔵演	〃	3
東京市営住宅と其の一例	福田重義談	〃	4
都市の細民住宅	藤原俊雄〃	〃	〃
細民住宅に就て	片岡 安	〃	5
都市住宅政策	関 一談	〃	〃
住宅問題の前途	城 南生	〃	〃
住宅問題解決に提供されたる珍案	M・T生訳	〃	6
住宅問題と田園都市 A〜D	三宅 勘一	〃	7〜10
最も非衛生的な我邦の住宅	古瀬 安俊	〃	〃

第 2 部 門

住宅改造 上. 下	葛野壮一郎	2	10〜11
都市住宅の建設に就て(上)(下)	片岡 安	2	8〜9
米国に於ける住居経営(一)〜(三)	M・T生 訳	〃	8〜10
〃 (四)	〃	3	2
生活改善と我国の住宅	片岡 安	〃	1
英国に於ける住宅政策(一)〜(三)	大阪市発表	〃	3〜5
私の眼に映じた彼此住宅の批較	三宅 毅一	〃	6
我国に於ける寝室、便所及台所私見	青柳 真一	4	2
都市生活と住宅 上下	片岡 安	〃	3〜4
英国の住居法 (一)〜(四)	石原 憲治	〃	3〜6
先づこの傾向の匡正を要す	桐原 象一	4	6
欧米の住宅問題に就て (上)(中)(下)	直木倫太郎	〃	7〜9
住宅難の緩和政策に就て	柿崎 欽吾	〃	〃
生活改善としての住宅問題	大谷 順作	〃	10
住宅会社の経営者に望む	大屋 霊城	〃	〃
〃	〃	〃	11
住宅難と枇政	紫安新九郎	5	6
私は住宅問題を斯う考えます	伊藤 真雄	〃	8
米人の観たる欧洲組合住宅	一 記 者	〃	10
貧乏人と住宅問題 (上)	楠原祖一郎	〃	12
〃 (下)	〃	6	3
住宅問題発生の淵源	江村 郊村	〃	〃
独逸に於ける住宅組合としてのアパートとビル	一 記 者	〃	〃
住宅政策論 (上)(下)	楠原祖一郎	〃	6〜7
日本に於ける住宅の変遷と将来	武田 五一	7	〃
住居問題の統計的研究	楠原祖一郎	8	2
数字の物語る景気と住宅問題 (一)(二)	宇治伊之助	〃	11〜12
青葉の山住宅の話	新渡辺稲造	1	7
居構百選 (一)〜(十)	葛野壮一郎	3	1〜12
子供本位の住宅 上 下	向井 章	4	1〜2
デモクラチックな住宅	安部 磯雄	〃	2
吾が伝統の血潮と住宅観念	榎本春之助	〃	3
我慢、辛房、風流を徴象する日本の住居	窪田 文三	〃	5
住家は家庭趣味の容器	仲小路 廉	〃	〃
住宅研究 (一)〜(三)	葛野壮一郎	4	1〜3
〃 (四)	〃	〃	7
〃 (五)	〃	〃	9
〃 (六)	〃	〃	11
住み心地良き居宅	竹山 九郎	〃	5
〃	〃	〃	6
住宅建築家は如何なる態度を執るべき乎	武田 五一	〃	〃
藤井厚二氏の「住宅に就て」を読みて (上)(下)	園部 文雄	〃	7〜8
自分の家を建てて見て	設楽 貞雄	〃	7
木崎湖畔に建つべき小住宅の計画に就て	武田 五一	〃	10
私の頭に画かれつつある住宅	本野 精吾	〃	11
日本畳を利用する和洋折衷式住宅	日 高 胖	〃	〃
山科郷のバンガロー建築	郊 郁 生	〃	〃
和洋折衷か欧風直写か 上下	置塩 章	〃	11〜12
西洋住宅と日本住宅	山川 逸郎	5	1
住宅と色彩 (一)〜(四)	葛野壮一郎	5	1〜4
〃 (五)	〃	〃	7
大阪北港会社経営の住宅に就て	小笠原 鈐	〃	1
道路と住宅と建築家	木子 七郎	〃	2
新住宅を造る私の方針	西村 伊作	〃	〃
文化村住宅の記事に就て	津田 鑿	〃	8
「性」と「住宅」	横浜 勉	〃	11
和風住宅と洋風住宅の長短	中村豕次郎	6	7
家庭たるべき住宅に関聯して	田中 清志	〃	8
忘れられた住宅の半面	大屋 霊城	〃	9
文化住宅に就ての一考察	別所 悌一	7	1
新住宅に相応しい庭樹	方 米治郎	〃	3
住宅の雰囲気に就て	安野二位夢	〃	5
婦人に必要な住宅の智識	葛野壮一郎	7	8
住宅贅言	大庭草太郎	〃	10
「住」	佐藤 功一	〃	12
主として婦人の立場より観たる住宅	葛野壮一郎	〃	〃
住宅雑考	大庭草太郎	〃	〃
住の問題	津田 鑿	8	2
家族を含む自画像 (一)〜(三)	本野 精吾	〃	2〜4
住宅のよきといふこと	御牧 邦生	〃	3
冬の家	S・T 生	〃	4
都市から郊外へ・郊外から田園へ	大庭草太郎	〃	11
住宅特輯号		5	9
住宅と生活問題の根底	冠頭言	〃	〃
住宅改選の急要に就て	片岡 安	〃	〃
小住宅の改良に関する感想と希望	池田 実	〃	〃
住宅問題は交通問題	小川市太郎	〃	〃
住宅改造博覧会の主命	横浜 勉	〃	〃
住宅問題の発生に就て	伊藤 真雄	〃	〃
住宅建築に対する希望	武田 五一	〃	〃
住宅改造と媛房設備	小笠原 鈐	〃	〃
予の住宅観	紫安新九郎	〃	〃
換気と所要気積	藤原九十郎	〃	〃
住宅暖房に就て	作山 義爾	〃	〃
住宅改造に伴う衛生工事	池田 健六	〃	〃

子供室と其の家具類の一考察	松本 儀八	5	9
住宅改造博覧会出品住宅一般		〃	〃
住宅建築と大阪都市		〃	〃
家とウイリアム・モーリスの芸術観	郊 邨 生	〃	〃
只今私の考えて居りますままに	大須賀 巖	〃	〃
改善を試みた室々	前田 秋子	〃	〃
住宅博覧会記事		〃	〃
我邦現代の住宅を如何にすべき乎 上下	小笠原 鈞	2	5〜6
住宅改造 上下	葛野壮一郎	〃	10〜11
我邦現代住宅改良の施工法(一)〜(四)	小笠原 鈞	〃	7〜10
懸賞改良住宅設計案審査報告		〃	4
住宅改善の方針	一 記 者	3	9
住宅改良問題と新時代の婦人	横浜 勉	4	5
第一回改良住宅応募図案審査概評		〃	11
住宅改善の要諦	葛野壮一郎	〃	12
第二回改良住宅応募図案審査概評		5	1
所謂改良住宅案に就て	井原 百介	〃	2
第三回改良住宅応募図案審査概評		〃	4
社会として観たる住宅の改善	山田 信次	〃	7
名士の住宅観		1	2
自分は西洋風住宅を好む	広岡 恵三	〃	〃
和洋何れもその一方に偏するは不可	村山 竜平	〃	〃
組織的に計画し野生的ならざる郊外住宅	小林 一三	〃	〃
理想的の住宅	木下 東作	〃	〃
成功した豊中の合宿所	池田経三郎	〃	〃
名士の住宅観		〃	3
応接は洋風其の他は日本風	佐多 愛彦	〃	〃
書斉と応接は洋風他は一切和風を好む	本山 彦一	〃	〃
応接と書斉は洋風他は和風	平賀 敏	〃	〃
敷地の撰定が重大、書斉と応接は洋他は和	小倉 正恒	〃	〃
郊外住宅は考えもの、我国の生活の簡易化	麻生 二郎	〃	〃
女流の住宅観		〃	10
在来の住宅を改良して	西園寺新子	〃	〃
間取の註文	手塚かね子	〃	〃
衛生上より見たる住宅臭薬	吉岡 弥生	〃	〃
女流の住宅観		〃	11
お台所中心の私の家庭	入沢 常子	〃	〃
縁側の硝子障子は亡夫が創む	鳩山 春子	〃	〃
西洋風にしかけた住宅の失敗	左近まつ子	1	11
名流の住宅観		1	12
応接間だけを洋風に	楠瀬 幸彦	〃	〃
人手主義を廃して	小山 温	〃	〃
経済衛生実用の見地から	内田 嘉吉	〃	〃
名流の住宅観		〃	13
建てるまでと建ててから	中村歇右衛門	〃	〃
夫婦で住宅の新工夫	桜田節弥子	〃	〃
事務所と私宅とを同じ家にして	有沢さく子	〃	〃
女流の住宅観		〃	14
良いと感じたこと	松岡都奈子	〃	〃
肝要な室々の構造	井上 秀子	〃	〃
洋館に住んでよいと思うことは	木村 永子	〃	〃
女流の住宅観		2	2
家の中で一番大切な処は	足立 民子	〃	〃
御化粧室というものは	原 きく子	〃	〃
名士の住宅観		〃	3
二重生活と建築	川村 竹治	〃	〃
味あり色ある建築	林 市蔵	〃	〃
女流の住宅観		〃	4
家を建つべき場合と建てなくてよい場合	棚橋 絢子	〃	〃
理想的の家は住み心地のよい家	山脇 房子	〃	〃
名士の住宅観		2	5
長所を利用して	赤司鷹一郎	〃	〃
今日の生活状態に照して	山脇 玄	〃	〃
和洋折衷とする方が	柿沢 信義	〃	〃
住宅と生活		〃	6
旅館としての構造	大西光代子	〃	〃
体裁や趣味よりも衛生的で便利な家	佐多 静子	〃	〃
果して女の地位が進み思想が向上したか	X 夫 人	〃	〃
住宅と生活		〃	7
住宅観念の缺乏した婦人	大江寿美子	〃	〃
掃除の手数を省く新工夫	浅田みか子	〃	〃
凡てを自由に興味の動く儘動作の便利な家	増田きく子	〃	〃
便利な家としての三つの要素	山本久栄子	〃	〃
女流の住宅観		〃	8
何処かに温か味と柔い感じの家を	島成 園	〃	〃
子供と主婦の室と台所の科学的な設備	竹原みどり	〃	〃
女流の住宅観		〃	9
新しく住宅を建てる人に	加藤 常子	〃	〃

第 2 部 門

西洋かぶれの珍し物喰いは考えもの	中松 繁子	2	9
女流の生活観		2	10
四季折々の環境に調和する生活	吉崎季枝子	〃	〃
私はハツと思うて今更周囲を見廻す	足立 民子	〃	〃
女流の生活観		〃	11
今更新旧思想の相違がしみじみ感ず	石井八重子	〃	〃
住宅改良より先ず生活の改造	武藤千世子	〃	〃
名流の住宅観		〃	〃
住居に就て私は斯く理想を持つ	大木 遠吉	〃	〃
女流の生活観		3	1
今一入目醒ねばなりませぬ	平佐その子	〃	〃
女流の生活観		〃	2
日本家屋の長所と美点	下田 歌子	〃	〃
天分を充分に発揮する生活	高安やす子	〃	〃
女流の住居感		〃	3
私の研究した台所の構造	亀井まき子	〃	〃
女流の建築感		〃	4
或男の話	美代子	〃	〃
新式の斯ういう旅館を建てたらと思います	吉村美代子	〃	〃
女流の建築観		〃	5
気分から湧いた理想の住宅	美代子	〃	〃
女流の建築観		〃	6
広い家狭い家	林 千代子	〃	〃
婦人の仕事が簡単に行かないものでしようか	柳瀬 光子	3	7
生活の改造という事ども	川瀬ふみ子	〃	8
生活の改造として何よりもローマ字を	桜根たか子	〃	9
米国から帰つて心付いた事ども	鍋田喜久子	〃	11
料理と台所	的場 英子	〃	〃
外国人の見た大阪	今西 京子	〃	12
都市と音楽及び衣・住の改良	内藤 周子	4	1
私の経験した郊外生活と購買組合	高原 時子	〃	2
改造と生活の格定	関口 冬子	〃	6
台所と流しと衣服	小幡きみ子	〃	8
手軽にして文化的な生活	葛野しの子	〃	9
風呂場から観た生活	吉村美以子	〃	11
私共は如何に住いましよう	西崎 綾子	〃	12
〃	田村 松枝	〃	〃
〃	高桑 文子	〃	〃
住むくふう	吉村美代子	5	1
闇秀鎖談	M 記者	〃	〃
食堂の天井に自筆の洋画を描いて	北田 英子	5	2
お客様本位の接待と洗面所	山下千代子	〃	4
和洋両様の形式を試みた生活	鵜飼 浪江	〃	5
時代の伴いたた私の生活方針	竹原みどり	〃	6
個性的に工夫する家の趣味	芦田きみ子	5	10
新婚の娘に贈つた家	高安やす子	〃	12
女性より建築家へ	美好野つね子	6	1
ものでしよう？	伊藤二世子	〃	3
感じの良いと思う住宅	〃	〃	4
住宅を解放的に	石川しま子	〃	6
自然を背景として住宅	小百合	〃	7
新聞記者として見たる名士の邸 (一)〜(二)	梅谷 孫吉	3	2〜3
〃 (三)〜(九)	〃	〃	5〜11
(十)	〃	4	1
弁護士として欲しい家	高島 春雄	3	3
茶臼山と大長寺二男爵邸の隣地物語	吉村美代子	4	2
門行脚 一	梅谷 孫吉	5	3
〃 二	〃	〃	4
支那古代の民家に就いて	藤田 元春	9	2
統計の上から見た住宅建築の傾向	松本 儀八	〃	3
民家の研究	津田 鑿	〃	4
住宅の美学	小野田秀作	〃	7
住宅の三問題	広田 精一	〃	10
我国将来の住宅	片岡 安	10	1
現代文化住宅の煩悶	村野 藤吾	〃	〃
英国に見る住宅の大変化	小川市太郎	〃	〃
住宅進化の話	古塚 治正	〃	〃
二上山麓の民家	伊藤 正文	〃	〃
住宅設計上の考察	松本 儀八	〃	〃
住宅建築の敷地選定に就いて	池田 実	〃	〃
長屋建築に就いて	竹田 延朗	〃	3
育児上より観たる住宅	大坪 徳一	〃	5
庭園は住宅の延長	本間 乙彦	11	10
現代の住宅とは	津田 鑿	〃	11
コンクリート建築と住宅の問題	吉田徳次郎	11	1
住宅の工業的製造		11	3
追分の民家	津田 鑿	〃	11
京都及びその郊外の民家	藤田 元春	12	4
民家雑信	津田 鑿	〃	〃
大阪と郷土建築の一面	松本 儀八	〃	〃
をちこちの民家	中村 義雄	12	4
吉村邸宅調査概要	松本 儀八	〃	〃
我国の住宅は如何にして改造されるか	片岡 安	〃	5

米国公営小住宅に就いて並びに英国との比較	権藤 要吉	12	5
小住宅にも必要なる耐震構造の心得	増田 清	〃	〃
冲縄の民家 (上)	武田 五一	〃	7
貸家建築の計画に就いて	小笠原 鈅	〃	8
市営住宅をこころみて	大須賀 巖	〃	〃
冲縄の民家 (下)	武田 五一	〃	〃
我が住宅	同	〃	12
我 が 家	竹腰 健造	13	2
荒壁の家	石川禎一郎	〃	〃
最近住宅様式の傾向	上野伊三郎	〃	5
住宅と庭園の一問題	本野 精吾	〃	〃
住宅の能率化と台所の設備	増山 新平	〃	〃
住宅と地方色	松本 儀八	〃	6
衛生住宅の目標	山口 静夫	14	3
鉄筋混凝土造住宅に於ける一試案	伊東 恒治	〃	〃
小住宅の研究	葛野壮一郎	〃	4
京阪神地方住宅の調査概況	酒井勇三郎	〃	〃
小住宅と其の建築に就て	松本 儀八	〃	〃
小住宅二案	藤井 厚二	14	4
小住宅三品	中村 義雄	〃	〃
私の小住宅試案	中村 久栄	〃	〃
大阪市営月賦小住宅に就て	佐々木荘一	〃	〃
小貸住宅参考資料	岩尾 保衛	〃	〃
モダーン九尺二間	穂 沼 生	〃	〃
実物洋風小住宅 (一)(二)		〃	〃
小住宅設備片鱗	増山 新平	〃	〃
満洲の民家	村田 治郎	〃	5
濃尾平野の農家	城戸 久	〃	〃
床及び棚十種	藤井 厚二	〃	9
住宅の間取と構成に就て	川喜田煉七郎	〃	〃
住宅の間取に就て	柴谷 邦子	〃	〃
組み合せ式台所	岡田 孝男	〃	〃
台 所 数 種	松本 儀八	〃	〃
我が農耕的小住宅	堀田献次郎	〃	〃
小住宅図案五種	佃 十俟	〃	〃
メートル法による住宅の設計に就いて	藤井 厚二	15	6
住宅空地考	浅野 繁	〃	〃
週末安急の家の試作	松本 儀八	〃	〃
生活最小限度の住宅研究	中村 義雄	15	6
実用安価小住宅の研究	渡辺 鉄蔵	〃	〃
小住宅の台所に就いて	新名 種夫	〃	〃
小住宅のプランの研究 (1)	岡田 孝男	16	4
同 (2)	同	〃	6
住宅の門塀	住宅委員会	〃	12
妙奇庵と室寺	池田谷久吉	9	2
円 珠 庵		12	4
桂離宮記 (一)	服部 勝吉	〃	6
浜離宮に就いて	中島卯三郎	〃	10
芭蕉蓑虫庵の庭園に就いて	城戸 久	〃	〃
欧米住宅建築界の新傾向	岡田 孝男	17	3
海辺に建つ「夏の家」懸賞設計当選図案		17	5
盗賊と建築	青柳 憲五	〃	〃
住宅写真		17	6
住宅と防湿防腐に関する座談会	住宅委員会	〃	〃
神戸市改良住宅に就いて	奥田 譲	〃	〃
O氏邸 (京都)	藤井 厚二	18	5
米本氏邸 (南海高師浜)	大林組住宅部	〃	〃
中島氏邸 (阪急・東豊中)	阪急電鉄地所	〃	〃
課岡氏邸 (阪急・宝塚)	大林組住宅部	〃	〃
佐藤氏邸 (阪急・新伊丹)	阪急電鉄地所	〃	〃
課今村氏邸 (阪急・南郷山)	石川純一郎	〃	〃
黒正氏邸 (阪急・夙川)	石川純一郎	〃	〃
大森氏邸 (阪急・東豊中)	阪急電鉄地所課	〃	〃
岩倉氏邸 (阪急・東豊中)	小林 三造	〃	〃
K氏邸 (阪急・新伊丹)	阪急電鉄地所課	〃	〃
水島氏邸 (阪急・新伊丹)	阪急電鉄地所課	〃	〃
足立氏邸 (阪急・東豊中)	阪急野鉄地所課	〃	〃
小川氏邸 (阪急・桜井谷)	小川安一郎	18	5
都市発展に於ける交通機関の地位—住宅問題の準備的研究として—	和田 登 荒木 正已 西山 卯三	〃	〃
住宅の居室と間接の室との比較	松本 儀八	〃	〃
台所の紙上展覧会	増山 新平	〃	〃
庵、茶 室	藤原 義一	18	7
兵庫県下に於ける古住宅	野地 修左	〃	〃
大阪の古い型の村家二三	高橋 栄治	〃	〃
誤てる郷土建築の運用はやめたい	笹川 慎一	〃	〃
茶室建築と茶人	木津 宗一	18	10
織部好茶室の一考察	北尾 春道	〃	〃
桃山時代の茶室遺構	沢島英太郎	〃	〃
松向軒蓑庵	藤原 義一	〃	〃
近代数奇屋住宅と明朗性	吉田五十八	〃	〃
道慶作三畳大目数奇屋指図解説	佐古 慶三	〃	〃
住宅構造座談会記録	住宅委員会	18	12
満洲に於ける住宅の採援法に就いて	田中 進	19	1
乾構造小住居試作	モトノ・セイゴ	19	3
第十四回住宅問題の都市計画国際会議	吉田 信武 津田 文平	〃	〃

第 2 部 門

沖縄の聚落と民家に就いて	川勝 健二	19	4
都市計画と住居問題	武居高四郎	19	5
日本の都市計画と住居	高橋 寿男	〃	〃
我国最初の都市計画一囲地の住宅経営	加藤 善吉	19	5
今日都市一明日の住宅	南雲 義治	〃	〃
標準住居と我国の住居水準	西山 卯三	〃	〃
大阪長屋建築管見	松森 修太	19	9
茶室	沢島英太郎	20	4
本邦都市住宅の改善の根本問題	平野 真三	20	5
我国現存古住宅	藤原 義一	20	8
現下の住宅問題と住宅の質の問題	西山 卯三	〃	〃
小住宅のプランニングの教授法	鷲井 清子	20	8
朝鮮の住宅	鳥井 捨蔵	〃	〃
我等の生活に適する住宅様式	岡本新次郎	〃	〃
住宅放談	大倉 三郎	〃	〃
住宅片近	西村辰次郎	〃	〃
主婦の感想として	中村 愛子	〃	〃
小住宅への課題	伊藤 正文	21	1
住宅の防護室	住宅委員会	21	4
布施市に於ける長屋住宅	川勝 健二 松森 修太	21	6
時局に於ける大阪市の住宅施設	新名 種夫	21	8
住宅に関する提言二つ	北沢 五郎	〃	〃
「壁」から	村田 治郎	21	〃
輪中に於ける水屋に就て	城戸 久	21	11
本年度住宅建築界の回顧	小林 清	21	12
上海の住宅と今後の建築対策	吉村 辰夫	22	2
台湾住宅と建築行政	中村 綱	〃	〃
木造家改修方法試案	宮田 秀穂 石川 儀有 奈良幸欠郎	22	3
空地々区と貸家	伊藤 甫	22	5
建築の思想	藤原 義一	22	7
台湾に於ける住宅の質の問題	中村 綱	23	6
欽県の建築に就いて	木村 美雄	23	8
琉球の宅家	田辺 泰	23	10
古建築巡礼(1) 願泉寺の茶室	岡田 孝男	24	1
大阪の茶室(2) 豊公の席と淀屋の席	岡田 孝男	24	2
大阪の茶室(3) 今宮の十万堂	岡田 孝男	24	3
家族の生長と住宅規準	諫早 信夫	24	4
住宅基本空間に対する一考察	西山 卯三	〃	〃
庶民住居の一試案	大下順三郎	〃	〃
これからの住宅と生活用具	豊口 克平	〃	〃
大阪の茶室(4)一心寺八窓の席	岡田 孝男	〃	〃
大阪の茶室(5) 義心亭	岡田 孝男	24	5
住宅と空襲対策	中尾 保	24	6
大和路の茶室(1)…八窓庵	岡田 孝男	〃	〃
〃 (2)…長閑堂と竜松庵	岡田 孝男	24	7
南支の民家	太田伝太郎	24	8
大和路の茶室(3)…慈光院の不味宝と中の坊の茶席	岡田 孝男	〃	〃
茶室巡り第9回…京阪沿線の茶室(1)八幡の松花堂	岡田 孝男	24	9
菖蒲池・厚生住宅展・懸賞設計入選佳作図案の批評座談会		24	10
これからの住宅	市浦 健	〃	〃
極小住宅に於ける平面基準の問題	西山 卯三	〃	〃
これからの都市住宅	中野順次郎	〃	〃
住宅問題雑感	川勝 健二	〃	〃
「これからの住宅」を誇る座談会		〃	〃
茶室巡り第10回京阪沿線の茶室(2)…水無瀬神宮の燈心亭	岡田 孝男	〃	〃
茶室巡り第11回京阪沿線の茶室(3)…西芳寺の湘南亭	岡田 孝男	24	11
茶室巡り第12回京阪沿線の茶室(4)…妙喜庵の待庵	岡田 孝男	24	12
最低限生活の要請と建設住宅の基準	西山 卯三	25	1
仮設住宅に就て	和田 登	25	7
最近の住宅問題と市営住宅の概況	三宅三代治	〃	12
医学上より見たる最近の住宅問題	深山 杲	〃	〃
組立住宅の社会性	高木 直幹	〃	〃
住宅営団・労務者住		26	1
宅住宅問題の研究	矢田 鉄蔵	〃	〃
藤江住宅・初芝住宅	住宅営団大阪支所建設部	〃	〃
乗鞍の宅家（スケソチ）	広瀬 初夫	〃	4
菖蒲池厚生住宅図譜 (1)		〃	5
同上 (2)		〃	8
朝鮮の家（スケソチ）	小川 正	〃	〃
夏の住生活	本野 精吾	〃	9
熱地住居論	鈴木 博高	〃	〃
河内野の民家（スケソチ）	辰己 孝雄	〃	10
成長する制限内の小住宅	岩原 茂猪	28	3〜5
住宅復興とこれからの住生活	藤田金一郎	〃	6〜8
新しい住生活	羽仁 説子	〃	〃
小住宅の試み	祖川 尚彦	〃	9〜12
これからの住宅	藤岩 伝一	29	1
古民家随筆	藤原 義一	〃	〃
将来の住居	北条 秀一	〃	〃
旧K宮邸見学記	鞍馬 寒平	〃	〃
将来の住宅	西山 卯三	〃	〃

すまいの工夫	紫谷 邦	29	1
〃	竹内 さく	〃	〃
講座 第一講 住宅編	中野順次郎	〃	〃
上村氏邸		〃	2
A氏邸		〃	〃
講座 第二講 住宅編 続	中野順次郎	〃	〃
住宅難の一つの問題	野口 美雄	30	〃
府営住宅 ABC型	逆瀬 淑	〃	〃
アメリカの住宅設備	岸 浩三	〃	3
住宅設備	伊藤 正文	29	1
神戸市の住宅に就いて	森岡 武夫	30	5
大和三茶室の行方	上田 光雄	30	7
某氏邸		〃	8
大和三茶室の行方（挿入図面訂正の件）		〃	9
「これからの住宅展」について		〃	〃
福岡県に於ける住宅問題の実情に就いて	杉本 勝次	〃	〃
軽金属住宅の曙光	清家 清	31	2
赤川モデル住宅を載る	深沢 一彦	〃	4
「伸びる家」の審査評	中野順次郎	〃	5
量産住宅に関する二、三の問題	福田 朝生	〃	7
シルバーハウスに就いて	岡田 昇三	〃	〃
アザマ・ブロック造の我が家	塩川 旭	〃	8
京都市の住宅事情	扇田 信	〃	9
住宅金融公庫について	竹内佐平治	32	1
札幌の住家	福岡 五一	〃	2
貧しい国の貧しい住宅	遠藤 明久	〃	〃
「住居」の考え方―特にその内面的な考え方について	日木小三郎	〃	3
若し自分が家を建てるなら	松本 政雄	〃	〃
若し自分が家を建てるなら	清家 清	32	3
〃	岩本 博行	〃	〃
〃	増田 友也	〃	〃
〃	福田 朝生	〃	〃
〃	光藤 俊夫	〃	〃
住宅委員会研究報告	昭和25年度住宅委員会	〃	6
大和棟の宅家	伊藤 正文	〃	10
新しい炊事竈と風呂釜の考察	松崎 甫	〃	〃
住宅問題解策	伊東 五郎	33	1
住宅問題散見	山地 英雄	〃	2
不良住宅地区の基準	西山 卯三	〃	5
松江の観光と菅田庵	飯塚 源吉	〃	6
「羽衣住宅展」座談会		〃	12
「これからの住宅展」モデルルーム出品者座談会		〃	〃
「これからの住宅展」展示板より		〃	〃
現在の公営住宅の意味するもの	山地英雄	34	2

共同住宅の経営	葛野壮一郎	6	1
アパートメント・ハウスに就いて	武田 五一	〃	9
洛東山科のアパートメント・ハウス	なにがし	5	6
アパートメント・ハウス建築の新傾向	葛野壮一郎	10	8
理想的文化住宅アパートメントに就いて	小山 秀雄	〃	〃
アパートメント論	松成 信夫	12	8
アパートメント・ハウスの実例 (1)～(4)	葛野壮一郎	〃	8～11
市営アパートメントに就いて		〃	〃
アパート礼讃	津田 鑿	〃	〃
現代集合住宅観	池田谷久吉	〃	〃
スリー・フアミリー・アパートメント・ハウス	小川安一郎	〃	〃
大阪市の最小アパートメント	富士岡重一	14	4
償還方法によるアパート計画案	住宅委員会	15	12
アパート写真		17	6
ジードルンクの概要	山田 守	〃	〃
集合住宅の将来	奥田 譲	〃	〃
アパート雑想	永戸 俊雄	〃	〃
大阪パニシオンに就いて	杉浦 巴	〃	〃
アパート経営に対する経済的考察	香坂 茂三	19	5
共同住宅計画の技術的基礎概念	山口 吾郎	24	2
アパート談義	新名 種夫	〃	〃
アパートメント設計覚之書	酒井 清一	〃	〃
記念事業中・アパート建設に関する件の報告書	藪中 一良	〃	〃
共同住宅の管理に就いて	酒井	26	4
清一家族向アパートに就いて	武田 健三	28	6～8
都市復興とジードルング	上野伊三郎	30	7
集合住宅とその生活	八嶋 茂	〃	9
鉄筋の共同住にに住んでみて	座談会	〃	〃
オーストラリアに於ける住宅管理組織について	民間情報教育局提供	〃	12
小宮町市営鉄筋アパートに住んで	郡山千鶴子	31	4
ブロック住宅散見	山地 英雄	32	1

c 工業建築物

工場建築私言	安達 将総	5	4
紡績工場建築に就いて	能村 知二	13	10
工場建築の床と屋根	池田 宮彦	〃	〃
工場建築は簡単なる単位組織とせよ	秋田喜代治	〃	〃
建築法規より見たる工場建築	和田 甲一	〃	〃
F. Haussmann陶磁器工場（スイス）		19	2

第 2 部 門

大阪衛星都市に於ける工場調査	都市計画大阪地方委員会	19	8
工場の構造設計に対する一考察	安井源一郎	20	9
工場建築の二つの行き方	東畑　謙三	23	8
工場の換気問題	佐藤　鑑	〃	〃
熔接を用いて建てた工場建物	池田　宮彦	〃	〃
工場換気に就いての一、二の知見	伊藤　正文	〃	〃
工場の防空施設に就いて	竹内佐平治	〃	〃
工場建築の採光換気種々相	今井　忠	〃	〃
工場建築の風圧に対する計算	堀口　甚吉	24	10
煙突設計に就いて	横見　幹	25	3
構造上から見た最近の工場建築	青柳　貞世	25	8
工場建設計画と防空の諸問題	新海　悟郎	26	1
決戦態制、工場管理、工場施設	川喜田錬七郎	27	3
日本の工場建築	浦辺鎮太郎	33	〃
工場建築に就いて	高橋　慶夫	〃	〃
我国紡績工場建築の発展	若木望太郎	〃	〃
我国最初の無窓人工換気照明工場	元木　真次	〃	〃
N板硝子KK、舞鶴工場について	榊　弘美	〃	〃
初期酒造蔵建築 (一)	沢部実之助		
牛乳搾取場と処理場計画法	政岡　基次	19	12

d 農業建築物

南フランス・ハヴイラ地方の農家	伊藤　正文	7	9
欧米の牧場を訪ふて	津田　鑿	〃	11
コロ・ハウス	大屋　霊城	8	9
農民住宅の考察	淡路　素元	〃	〃
煙草乾燥場建築に就て	鈴木忠五郎	17	12
鴻池新田会所		18	7
伊万里の陶器蔵屋敷と津和野の紙蔵屋敷	大熊　喜邦	〃	〃
南難波村百文銭吹立所	〃	〃	〃
年頭に当て農村住宅を展望す	竹内芳太郎	25	1

e 公共建築物

公共的築造物の管理又改善	葛野壮一郎	1	4
官公署に於ける建築課の独立	池田　実演	〃	5
議院建築調査会に就て	准　敬生	1	1
議院建築問答	片岡　安	〃	2
天下の秋	甲南生	〃	〃
議院建築問題	T N 生	〃	3
議院建築計画回想録		〃	4
議院建築問題	片岡　安	〃	〃
他山の石		〃	5
議院建築意匠設計懸賞募集規程		〃	11
〃		1	12
議院建築懸賞募集に関する質疑応答	議院建築局	〃	〃
〃	〃	〃	13
〃	〃	〃	14
〃	〃	2	1
柱冠　感　想	竹内　新七	〃	11
〃　武者修業として応募した	吉木　久吉	〃	〃
満洲に於ける軍部の建築	内藤　太郎	16	11
帝国議会議事堂の建築を語る	大熊　喜邦	20	1
航空界と航空港	佐々木利吉郎	15	3
大停車場の計画と大阪駅	酒見　佐市	18	11
駅前広場に就いて	遠藤金之助	〃	〃
欧米に於ける停車場本屋の現状	永田　念郎	〃	〃
名古屋停車場に就いて	坂本　鎮雄	〃	〃
地下鉄道停車場	伊藤　和夫	〃	〃
停車場と百貨店	佐竹　三吾	〃	〃
空港と防空	笹間　一夫	20	3
空輸問題としての空港の保護	亀井幸次郎	〃	〃
新名古屋駅建築工事を通じて見る旅客駅建築の使令	増田　誠一	〃	4
空港に関する二つのトピックス		〃	6
Holman 空港に対しst. paulでは公債を発行す		21	〃
米国合衆国に於ける空港及着陸場の状勢		〃	〃
ブリヂポートの新設空港急速に完成に近づきつつある		21	7
都市に於ける航空港の将来	後藤　典夫	22	8
テキサス空港の開発	星野　一雄	〃	11
停車場の印象	津田　鑿	24	〃
アメリカの停車場	住藤　滋	32	4
本邦最初の美術館	堀越　三郎	17	8
近代美術館に就て	波江　悌夫	〃	〃
美術館計画の新傾向所感	小林　政一	〃	〃
古宝物の格納庫に就いて	大江新太郎	〃	〃
正倉院に就いて	高橋　栄治	〃	〃
建築の形式、徳川美術館の形式に就いて	城戸　久	〃	〃
大阪市美術館	富士岡重一	〃	〃
大阪市美術館	富士岡重一	19	6
電気科学館と同館内プラネタラウムの概要並にその設計に就て	新名　種夫	26	3
クラブ建築の目的と設備に就いて	葛野壮一郎	13	3
盤谷日文化会会館、建築事業	柳沢　健	20	9
神戸市公会堂建築設計懸賞競技当選者図案		19	2
講堂の研究を望む	山本　良吉	5	7

幼稚の保育と建築物から見たる幼稚園 上	小田切平和	5	8
〃 下	〃	〃	10
学校の建築	山本 良吉	6	8
小菅刑務所を観て	田辺 平学	12	11
昭和四年に於ける学校建築の趨勢	富士岡重一	13	1
学校建築偶感	大倉 三郎	〃	2
東京帝国大学復興建築に就て	清水 幸重	〃	〃
神戸市学校建築の方針	横尾 繁六	〃	〃
大阪市小学校校舎の実状と其計画の大要	富士岡重一	〃	〃
横浜市の小学校建築	鳥海 他郎	〃	〃
大阪市に於ける小学校の庭園に就いて	奥野 章治	〃	〃
幼稚園舎に就て	富士岡重一	〃	〃
学校建築に必要なる附帯設備	楠瀬 徹	〃	〃
大阪市小学校用品規格統一に就いて		〃	〃
我国最近の兵営建築	内藤 太郎	15	3
最近に於ける学校建築の傾向並にその特徴	葉垣鼎太郎	16	10
学校建築風害に対する所感	白根 竹介	17	11
将来の学校建築	中沢誠一郎	〃	〃
大阪市木造小学校の被害状況と大阪市木造校舎標準規矩画	富士岡重一	〃	〃
学校建築の強化	井上 佽一	〃	〃
大阪市小学校風害所感	伊藤憲太郎	〃	〃
将来の学校建築	中沢誠一郎	18	1
学校建築と建築家	大須賀 巌	18	7
アメリカの新しい学校建築について	Hltotsoyanagi	31	10
学校建築・主題	伊藤 正文	〃	〃
新制中学校の教育計画と平面計画	池田 伝蔵	〃	〃
学校教室のあり方	堀口 吾吉	〃	〃
耐震耐風の木造高学校建築	横尾 義貫	〃	〃
政策上より見た学校建築の発展について	西村 勝	〃	〃
学校建築について一或る対話	村鳥 彰	〃	〃
新天王寺公園グラフ		17	4
天王寺公園の沿革と全貌	椎原 兵市	〃	〃
動物飼育の立場から見た動物檻舎	林 佐市	〃	〃
天王寺公園の建築物に就いて	富士岡重一	〃	〃
天王寺公園の改造工事	方 米治郎	〃	〃
動物舎考	宮田 秀穂	〃	〃
大阪府営公園とその建築施設	加藤 善吉	〃	〃
大阪市営公園の沿革と将来	大阪市公園課調査	〃	〃
綜合競技場	牧野 正己	17	9
運動場建築の発達と新傾向	小林 政一	〃	〃
都市公園と運動場	椎原 兵市	7	9
室内プールを持つ体育館の一例	古茂田甲子郎	〃	〃
観覧席の形について	小田島兵吉	〃	〃
振甫游泳場に就いて	池田篤三郎	〃	〃
大阪商科大学の体育館	富士岡重一	〃	〃
室内及野外のスポーツ建築	坂本 啓一	22	4
青少年訓練道場に就いて	北村 春吉	24	9
医学上より観たる青少年訓練所	深山 杲	〃	〃
興亜拓植訓練道場の建築に就て	竹内 政治	〃	〃
惟神道場建築所感（日本精神的建築構図）	禿筆 生	〃	〃
体位向上厚生施設に就て	野中 駒市	25	1
イコマサンと厚生鍛練	竹内 孝	〃	〃
修養道場八紘苑	荒川卓次郎	〃	〃
我社の厚生施設に就て	南 岩男	〃	〃
簡易生命保険施設に就て	佐藤 重夫	〃	〃
工場労務者厚生施設	平岡 正夫	26	11
西宮競輪場事工概要		30	6
病院を設計する人々に望む	S・T 生	4	12
病院建築に関する雑感 上	〃	5	4
将に工を始めむとする大阪市立公民病院	一 記 者	6	5
病院建築 雑感	岡戸 武平	8	7
病院建築は斯うありたい	小幡 亀寿	〃	8
病院建築の近代的傾向	武田 五一	17	10
病院建築に就いて考へる	梶原 三郎	〃	〃
個室への傾向	鷲尾 九郎	〃	〃
医院建築の諸問題	大倉 三郎	〃	〃
自然療法を中心とする結核療養所の計画	新名 種夫	〃	〃
特種病院建築に就いて	熊谷謙三郎	〃	〃
甲南病院の特色と特種設備に就いて	木下益治郎	〃	〃
州計画局の病院問題に関する研究		22	8
f 宗教建築			
法隆寺修理写真及図板		18	4
法隆寺問題の今昔	伊東 忠太	〃	〃
法隆寺の大修理計画	武田 五一	〃	〃
法隆寺の建築一其の焼失論争に就て	浜田 青陵	〃	〃
法隆寺式伽藍配置に就て	藤島亥治郎	〃	〃
法隆寺食堂所用材料に就て	大滝 正雄	〃	〃
東院礼堂の建築に就て	浅野 清	〃	〃
法隆寺食堂及細殿の構造	杉山 信三	〃	〃
収 穫	天沼 俊一	18	6
住予興隆寺遊記	吉村 孝義	20	9
壮観三十三間堂 (2)	藤原 義一	22	4

第 2 部 門

四天王寺五重塔に就て	吉村 孝義	22	5
趣味の塔を語る	岩尾 保衛	〃	〃
直線美の構造 (3)	藤原 義一	〃	〃
唐様の奇様 (4)	〃	22	6
巧構奇架	〃	22	9
精巧、巧緻	〃	22	10
古建築復活時代	〃	22	11
石造建築物	〃	22	12
古建築の四季	〃	23	1
支那式建築	〃	23	2
支那式建築（その2）	〃	〃	3
仏像と建築	〃	〃	4
特殊建築	〃	〃	5
特殊建築（その2）浴室	〃	〃	6
昭和十五年五月落成の四天王寺五重塔に就いて	天沼 俊一 玫岡 基次	〃	7
言葉より見た婆塔	滝沢 真弓	〃	〃
四天王寺再建五重塔に就いて	吉村 孝義	〃	〃
食堂：東司・西浄	藤原 義一	〃	8
有名・無名	〃	〃	9
文化再建の四天王寺五重塔に就いて	池田谷久吉	〃	10
有名・無名	藤原 義一	〃	〃
北国の古建築	〃	〃	12
伊遠正宗の営造	〃	24	2
東海より中国へ	〃	〃	3
四国の建築	〃	〃	4
定県興国寺と天慶玉皇殿の建築に就いて	木村 宗弘	〃	5
九州の古建築	藤原 義一	〃	〃
神社建築様式の変遷	〃	〃	6
神社建築の性格	田辺 泰	〃	〃
鳥居	藤島亥治郎	24	6
神社建築雑考	井上 一雄	〃	〃
神社と石燈籠	川勝政太郎	〃	〃
軍艦「沖の島」に就いて	藤島亥治郎	〃	〃
牡丹江神社に就いて	佐藤文四郎	〃	〃
箱崎八幡宮の鳥居に就て	滝 与荘	30	4
法隆寺復興、外論	滝沢 真弓	33	10
法隆寺復原問題	藤原 義一	〃	〃
法隆寺金堂修理と復原に就て	池田谷久吉	〃	〃
法隆寺五重塔の復原の修理	杢 正夫	〃	〃

g 其 の 他

大阪市の下水処理事業に就いて	島崎 孝彦	17	1
最新塵芥処理工場に関する資料	新名 種夫	19	6
JOBKの建物に就いて	大倉 三郎	10	3
昭和三年前半に於ける博覧会建築の大観		11	12
昭和三年後半に於ける博覧会建築の大観		〃	〃
平安京・大内裡及内裡の建築	伊東 忠太	12	1
御大典と京都の表慶施設	松室 重光	〃	〃
両替屋の間取と局見世の今昔	佐古 慶三	〃	4
奉安殿建築の普及に就て	宮飼 克二	13	9
温室建築と其材料	加藤 善吉	〃	12
造幣局に就いて	中村角之助	15	8
昭和十年度阪神防空演習に於ける夜間操業中の工場の燈火管制状況調査	報告都市武装促進委員会演習部	18	12
防空建築	田辺 平学	20	1
防護室に就て	芦浦 義雄	〃	6
防空建築ニュース	加藤得三郎	〃	8
防空的工場計画	熊井 安義	〃	〃
都市防空の建築技術	加藤得三郎	〃	11
防空上の避難防護施設	熊井 安義	〃	〃
防空上より見たる都市建築行政	芦浦 義雄	〃	〃
工場に於ける防空遮光施設に関する調査報告	都市武装促進委員会演習部	〃	12
住宅委員会		21	4
防空濠試設	吾田 信武	〃	11
焼夷弾対策確立への待望	内藤 亮一	22	1
防空関係法規並防空建築規則に関する講演抄		〃	4
第一回防護室実験報告	大阪市建築科会	〃	6
防空と長屋	新森 修太	〃	〃
防空模範街区防火改修の完我に際して	松井清之助	〃	9
防護室に就いて	設備委員会	23	1
工場の防空施設に就いて	竹内佐平治	〃	8
防火改修事業当面の問題	中沢誠一郎	24	3
防火改修の緊急性	井上 新二	24	3
木造建築街の解体と防火改修	小合 茂	〃	〃
木造家屋の防火改修	巽 純一	〃	〃
防火改修の促進	竹内佐平治	〃	〃
防火改修問題	板井 公威	〃	4
空襲の実相と防空建築の着眼に就て	柴田真三朗	〃	5
市民防空壕展覧会		〃	6
防空と建築	岩田 恒	〃	9
防空建築に就いて	富田 清	〃	〃
防護室構造に関する力学の問題	坂 静雄	〃	12
防空と建築熔銑炉の遮蔽装置	岩田 恒	〃	〃
防火改修事業一ヶ年の回顧	大野勝三郎	25	1
防空待避施設	竹内佐平治	25	6
防空壕に就て	寺岡 真	〃	7
家庭の待避所と工場の待避所に就て	岡田 達称	26	4

No. 6 材　　料

a 総　　論

台湾営林局事業に就て(一)～(四)	谷　民蔵	2	2～6
建築材料委員会に望む	渓　月　生	〃	4
朝鮮営林廠所管の森林一班(一)(二)(三)(畢)	谷　民蔵	〃	8～11
木材貿易と利用方面の節約	鶴見左吉雄	6	1
建築材料の国産化提唱	池田　宮彦	7	5
木材饑饉と其の対政策	市川　三祿	8	6
埃及古墳の顔料	細木松之介	〃	8
建築に使用する材料の常識	古橋柳太郎	9	12
建築材料の新生面	片岡　安	17	2
建築材料の重要性	松室　重先	〃	〃
建築材料陳列場の誕生	徳政　金吾	〃	〃
建築材料陳列場記	〃	〃	3
建築物の寿命に就いて	政岡　基次	22	1
温古知新	池田　宮彦	26	1
建築陶器の進路	秋月　透	27	2
文化石について	中野順次郎	30	4
アルミ箔と建築	川島　浪夫	31	2
軽金属住宅の曙光	清家　清	〃	〃
建材界展望	編集部	〃	〃
建築資材への高周波加熱の応用	篠原　卯吉 大島　重蔵	〃	3
建材工業界当面の問題	住藤憲太郎	〃	5
建築の着物タイル	平田作太郎	〃	9
建材界の回顧と展望	住藤憲太郎	32	1
建材界に望む（回答）		〃	9
メンブレン防水とルーフイング	笠原梯治郎	〃	〃
建築金物製作の使命	稲葉　礼三	〃	〃
建材商社の立場	山本　武雄	〃	〃
建築若人の座談会（建材と設備の立場より）		33	5
「合成樹脂は燃える」と云う記事に対して	プラスチックス協会大阪支部	〃	8

b 各種材料

コンクリート	大　薫　生	1	1
石と日本人	〃	〃	2
本邦森林と建築用材に就て(一)～(七)	谷　民蔵	〃	7～13
赤阪大理石に就て	T・T 生	〃	8
煉瓦屋より観たる米国の建築材料	谷口　徳政	4	4～6
セメントの成分及其硬化に伴ふ変化	細木松之介	〃	5～8
歴青質屋根葺材料に就て	細木松之介	〃	9
〃	〃	〃	10
ペイントと鉛毒	細木松之介	4	11
鉛製ペイント排斥説補遺	〃	〃	12
煉瓦に就て　上、中、下	大熊　喜邦	〃	10～12
木材に就て　上　下	松井　清足	〃	11. 12
ペイントの種類並に応用に就て　上、下	伊藤　貞興	5	1～2
製鉄雑話	斉藤　大吉	〃	7
板硝子の今昔	磯田　次郎	8	1
木材利用の研究　一～三	藤　園	〃	2～4
コンクリート塗料の性質に就て	大島　重義	〃	3
セメントの製造並に変化	細木松之介	〃	4
セメントと化学反応	〃	〃	5
セメントの凝結及硬化を生ずる変化	〃	〃	6
セメントの凝結緩除法	〃	〃	7
アスファルトに就て	〃	〃	9
鉄及鋼等の腐蝕に就て	〃	〃	10
白ペンキの材料たる鉛白に就て	〃	〃	11
建材科学庁	〃	〃	21
白色ペイント製造の材料	〃	9	2
セメントの製造性質試験及び其等の相互関係	小山　九市	〃	5
建築材としてのコルクに就いて	刀禰　英彦	10	1
製鉄所の高炉セメント見聞記	小山　九市	〃	2
新塗料パイロキシリンラッカーに就いて	大島　重義	〃	5
セメントの凝固と顕微鏡的観察	吉岡　藤作	12	1
和　　紙	藤井　厚二	〃	11
琉球トウバーチン宇流間石に就いて	武田　五一	〃	12
石綿板及金属板の防火試験	池田　宮彦	13	3
壁面塗装と壁紙に就て	早良　俊夫	〃	5
福山城の用材	大須賀　巌	〃	8
セメント及漆喰仕上塗料に就て	松本　源	〃	12
漆喰塗材料に対する一考察	小寺　弥一	〃	〃
テラコッタに就て	ＡＢＣ生	〃	〃
新興建築材料としてのアルミニウム(上)	葛野壮一郎	14	7
〃	〃	〃	8
本邦瓦の研究	材料委員会	15	12
リノリュームに就いて	材料委員会	16	2
衛生陶器の製造行程	坪井　礼三	〃	6
コンクリート調合表に就いて	浜田　稔	17	2
含ニッケル合金	石川純一郎	〃	〃
ホワイトブロンズと其の製品	池田　宮彦	〃	〃
木材の市場品概況	酒井勇三郎	〃	〃

第 3 部 門

労銀より見たる石材採掘場の調査	鈴木忠五郎	17	2
現場打「コンクリート」並にその骨材の試験に就いて	張　菅雄	17	3
日本ポルトランドセメント技術会第22回例会に出席して	三浦　尚史	〃	6
早強ポルトランドセメントに就て	〃	〃	10
各種パイプ類市場品調査報告	材料委員会	〃	12
添加剤がコンクリートの強度に及ぼす影響に関する実験報告	浅野新一、神足繁雄 菅　陸二、平野忠雄	〃	〃
アスファルト防水施工に関する研究	日本建築協会材料委員会	18	4
アスファルトに関する研究会梗概	材料委員会	〃	6
アスファルト製法並に蒸溜釜の進化及各機能	材料委員会	〃	7
新建築板一種	石川純一郎	〃	8
混凝土構造物の防水法	大道　彰	〃	〃
国産網入板ガラスの強さ	杉江　重誠	20	9
鉄材に就て	栗本勇之助	〃	〃
型枠に関する研究報告	災害強度委員会	〃	12
コンクリート管内鉄筋の応力		21	1
仮設土留工事構法	災害強度委委会	22	1
鉄鋼節筋を繞る数種の建築材料とその使用上の注意	浅野　新一	〃	4
金属代用木材並に竹材製建築材料及び家具類に就て	加藤政之助	〃	5
「建築材料代用品及び新材料」座談会		〃	〃
竹の屋根	山口　正	〃	6
リノリュームの耐焼夷弾性		23	12
耐火資材の種類と其の性能	相三　衛	24	3
竹筋「コンクリート」学術的研究	岩田　恒	25	2
今後のセメント代用品に就て	永井彰一郎	26	7
建築用材としての合製材に就て	須藤喜八郎	27	3
建築材料に関する座談会		30	4
厚型スレートに就て	松井　邦雄	〃	〃
〃　（続）	〃	〃	5
現場に於て簡単に出来る代用セメント強度試験	川村　統之	〃	7
本邦におけるアルミニウム製造法を就いて	中尾　忠雄	31	2
加工アルミニウム及び合金に就て	小崎　正秀 河内　利平	〃	〃
建築材料としてのアルミニウム	伊藤　鉱一 福田　佐二	〃	〃
建築材料としてのアルミニウムの利用	伊藤猛三郎	〃	〃
アルミニウムの腐蝕と防蝕	山田　史郎	〃	〃
アルミニウムを建築材料に使用するについて	小西　岬	〃	〃
アメリカ式コンクリート、ホロー、ブロックの製造法	幕内　守也	31	7
弾力のあるアスファルトタイル	笠原悌治郎	32	9
リノリウムとリノタイル	安田　金吾	〃	〃
フローリング	福田真美雄	〃	〃
耐火ボード	大野　定二	〃	〃
サンライト	宮谷　芳夫	〃	〃
ベニア板	井田　泰玄	32	9
大仏瓦	佐藤　正義	〃	〃
ナニワ瓦	仲野梅太郎	〃	〃
平安瓦	佐村木　実	〃	〃
東洋フレンチ瓦	青木　友一	〃	〃
厚型スレート	松井　邦彦	〃	〃
ナニワ厚型スレートとネオスレート	上田　清	〃	〃
ヤマト厚型スレート	万瀬　正治	〃	〃
ニッポン防水材	黒川　健二	〃	〃
マノール	中島　照	〃	〃
メタルラス	奥村重兵衛	〃	〃
衛生陶器について	青木　真一	〃	〃
陶磁タイルモザイク、テラコッタ	高田　良	〃	〃
陶　管	船津　稔	〃	〃
コガネライト	長尾　精一	〃	〃
新しき石材	西林　岩助	〃	〃
建築用ガラス	村田　経政	〃	〃
日本瓦の歴史	仲野梅太郎	〃	〃
建築材料としての有機硝子「アクリライト」	鈴木　広好	33	6
殺虫ペイントの新輸入		34	2

c 各部材料

ドイツに於ける体操場の床材料の問題	滝沢　真弓	17	2
防水材料に就いて	富士岡重一	〃	〃
屋根葺茸材料に就いて	〃	〃	〃
乾式構造建築の壁体材料	三浦　尚史	17	4
法隆寺食堂所用材料に就て	大滝　正雄	18	4
ドイツに於ける藁茸屋根	大石忠夫抄訳	22	2
竹の屋根	山口　正	〃	6
新興木構造の理論と実際(1)	宇賀　神行	24	11
建築構造材としての鋳鋼品に就いて	池田　宮彦	15	1
ガラスによる屋根材の新創案		30	12
ゴムタイル・ゴムマットの使用法	片岡　清	32	9
ゴムタイルに就て	和田　友一	〃	〃
リグノイド床	高橋　進	〃	〃
波型スレートの高圧成型に就いて	佐藤　亮一	〃	〃

浪型スレートの品質向上	白井 正雄	32	9
スカイライト	糸井直太郎	〃	〃
スカイライトとベンチレーター	岩元 熊雄	〃	〃
建具家具金物	平山 円治	〃	〃
床ワックス	鈴木 清市	〃	〃
壁紙	樋口 春太	〃	〃

d 寸法及規格

本邦森林の伐材寸法概要	谷 民蔵	2	7
度量衡の統一に就て（上）	山本辰五郎	3	12
〃（下）	〃	4	1
建築材料規格統一案に就て		4	6
度量衡規格統一に就て（上）（下）	佐藤 功一	〃	9.10
セメント試験方法改正に関するお話	構造計算調査委員	9	8
出来合木材寸法の統一	中島 智喜	13	12
木材の寸法に就いて	須川康太郎	〃	〃
畳の調査	材料委員会	16	〃
各種パイプ市場品調査報告	〃	〃	〃
木材の市場品概況	酒井勇三郎	17	2
木材市場品寸法規格案	材料委員会	〃	10
木材市場品規格調査委員会報告	木材市場品規格調査委員会	18	12
会員各位に告ぐ	材料委員会	23	11
建築単位の改革	西山 卯三	24	2
用材規格改正案に就て	松久保敬三	〃	12
建築用常用木材規格		27	3
資料		29	〃
〃		30	2
釘に関する資料		〃	〃
主張、統一と規格の再認識		〃	4
厚型スレートに就て	松井 邦雄	〃	〃
〃（続）	〃	〃	5
アスファルトフェルト、アスファルトルーフィング JISおよび砂付ルーフィング標準仕様書	関西建材会編	32	4

e 需給及統制

コンクリート配給所設置に関する研究	設備分科会	17	12
建築物資配給統制に就て	玉置豊次郎	23	11
規格統制に補足を提唱する	古塚 正治	24	8
建築資材の統制並に新興建材に関する座談会		〃	10
木材配給機構に就て	松本 儀八	25	1
木材配給機構について	松本 儀八	25	1
一般民需建築用物資の配給に就て	守谷 茂雄	〃	4
板硝子の配給機構の解説並需給状態及公定価格	沢村 揚世	25	4
給汽、給水、衛生設備工事民需用資材割当取得要領	須賀藤五郎	〃	〃
木材統制の概要	市原弥太郎	〃	9
大阪市における木材の供給に就て	白石 英夫	〃	〃
大阪府に於ける建築用物資配給に就て	平山 琴治	26	2
一般建築用資材の取得概況に就て	守谷 茂雄	〃	7
一般民需建築用木材の配給機構と其運営	井上 佳次	〃	〃

No. 7 構造

a 総論

住宅の構造に就いて	酒井勇三郎	10	1
木造建築の将来	東畑 謙三	13	7
朝日ビルデイング構造概説	青柳 貞世	15	2
鉄筋混凝土打継に関する実験	盛 道雄	〃	9
建築非常時	諫早 信夫	17	11
大阪市小学校風害所感	伊藤憲太郎	〃	〃
木造建築は果して風に弱いか	巽 純一	〃	〃
建築構造設計の本領	坂 静雄	18	1
法隆寺食堂及細殿の構造	杉山 信三	〃	4
京都朝日会館の構造概説	青柳 貞世	〃	6
新建築構造法に就て	内藤 多仲	〃	7
理窟から産れた構造	坂 静雄	〃	〃
現在の鉄筋コンクリート構造	井手 正雄	19	7
構造設計家の立場	平野 忠雄	〃	9
建築構造発展の為に	菅 陸二	〃	〃
建築構造強度計算法に於ける諸問題	飯田 猛夫	〃	11
建築物の寿命に就いて	政岡 基次	22	1
石造、煉瓦造の再検討	橋橋 諒	31	7
偶感……石造建築	三田 一男	〃	〃
志摩観光ホテル		32	7
塔婆の構造と補強	橋橋 諒 高原 道夫	〃	10
古社寺に於ける構造についての随想	堀口 甚吉	〃	〃
「デザイン構造」雑感	竹山謙三郎	33	1
朝日放送演奏所に就て	松室 重真	〃	4
ラジオ京都演奏室設計覚書	増田 友也	〃	〃
産業会館ビルの構造所感	石田 正	〃	11
構造問題 1952～1953年	鷲尾 健三	34	1
構造 1952～1953年	伴 潔	〃	〃

b 外力

建築物に於ける風圧荷重	池口 凌	19	11

第 3 部 門

鋸型屋根を有する工場建築物の風圧分布に就て	小谷寛之亮	21	2
鋸型状屋根を有する工場建築物の屋根の傾きと風圧分布の関係に就て	〃	〃	3
仮設土留工事構法	災害強度委員会	22	1
建築物の強度計算に於ける仮定風圧に関する研究(第一報)	〃	〃	11
〃 (第二報)	〃	〃	12
引張力を受けるコンクリートの隅部、共通の中心なき8つの放射状トラス	堀口 甚吉	〃	〃
工場建築の風圧に対する計算	〃	24	10
爆風に関する常識	古塚 正治	〃	12

c 基 本 理 論

耐震構造上の諸説(上)	佐野 利器	9	11
〃 (下)	〃	〃	12

d 構 造 力 学

ボストン市建築条例鉄筋コンクリートに関する研究	伊藤 正文	4	2
鉄筋コンクリート其の日その日 一〜五	増田 清	5	1〜5
〃 六	〃	〃	8
鉄筋コンクリート構造と施工上の諸問題 一〜三	T N 生	5	1〜3
コンクリートより鉄筋コンクリートまで 一〜四	中村 鎮	7	2〜5
〃 畢	〃	〃	7
混凝土施工能率の鉄筋混凝土結構の強度に及ぼす影響	八木幸次郎	7	5〜7
剛節架構の彎曲力率解法考察と其研究 一〜五	大野 直平	8	2〜6
大阪の風力に就て	池田 宮彦	〃	12
構造計算のシステムとチエックの方法 (一)(二)	池田 宮彦	9	6.7
床板に関する一考察	石井 勇	10	12
二次率一様ならざる柱を有する小屋組の解法 (1)	〃	11	2
構造強度計算の変遷	八木幸次郎	〃	3
二次率二様ならざる柱を有する小屋組の解法 (2)〜(5)	石井 勇	〃	3〜6
大阪市立小学校建築構造強度計算の概要	川口 一二	13	2
耐震構造の経済	福田 勇雄	〃	9
高層倉庫の実際荷重と仮定荷重	佐野 俊三	〃	10
鎔接接合部の計算及諸実例	鶴田 明	15	1
阪急ビルの構造計算に就て	阿部美樹志	〃	2
大阪城天守閣構造計算概要	竹内 政治	〃	7
水平力の分布係数と建築物のねぢれの問題	棚橋 諒	〃	9
大阪歌舞伎座主体構造計算に就て	黒田 茂	〃	11
建築物の風荷重に関する最近の進歩に就て	坂 静雄	17	11
新大阪ホテルの構造及強度計算	竹内 政治	18	3
T形断面の二次モーメントを求める図表	中沢 洵	19	9
新土質力学の実際計算上への二三の応用に就て	山口 昇	〃	11
新基礎調査法と其の応用実例	渡辺 貫	〃	〃
ラーメン計算の力学意味	横田 道夫	〃	〃
熔接接手の強度計算	浅野 新一	20	4
Tanabasi Method による耐震構造計算の或る実例	飯島 猛夫	〃	6
筋鉄コンクリート計算図表に就て	黒田 茂	〃	8
鉄筋コンクリート矩形梁計算図表	藤田 静雄	〃	〃
機械的作表法の係数配列	宇津木 潔	〃	9
鉄材の節約を廻る二三の問題	水原 旭	〃	〃
鉄筋コンクリート単節T形梁計算図表	藤田 静雄	21	1
梁或の変化する単純支持梁に任意荷重の動く場合の梁撓みの計算	〃		2
鉄鋼節約建物の一例	浅野 新一 長尾 清一	22	1
仮設土留工事構法	災害強度委員会	〃	〃
不規則ラーメン反復試索解法に就て	中沢 洵	23	11
独逸に於ける長時間木造架構の計算実例	佐々期 保	24	11
木造屋根構造の実例と計算	小沢憲一訳	〃	〃
木造充腹梁	西田耕三訳	24	11
防護室構造に関する力学の問題	坂 静雄	〃	12
合方線のトラス解法えの応用 (1)	寺門四志猪	25	12
〃 (2)	〃	26	5
新興木構造	宇賀神行一	27	1
計算図表	岡本 忠行	〃	2
各国に於ける単一圧縮機の挫屈計算法	富田 清	〃	3
鉄筋コンクリート造公営アパート構造解説補足	久米権次郎	31	7
木造床梁の図表	小泉 昇	〃	8
耐震的価値から見た鉄筋混凝土構造の話	落藤 藤吉	12	2
倉庫建築とフラットスラブ	内藤 多仲	13	10
不然質小住宅の新構造法	岡田 孝男	15	6
メタルラスにて補強せるコンクリートスラブに就に就いて	三浦 倘史	〃	9

e 各 種 構 造

鉄筋コンクリートの実力	浜田 稔	18	1
鉄骨梁の経済的配置		20	11

軽版構造法による建築施工	鈴木忠五郎	22	9
新時代の木造小屋組 電気熔接による鉄骨造の煙突の建物	堀口 甚吉	23	5
無筋コンクリート建造物設計例(第一報)	災害強度委員会	〃	11
無筋コンクリート造建物設計例(第二報)	〃	24	1
木造新架構による屋内体操場と講堂	天野 一正	〃	11
釘打充腹梁について	堀口 甚吉	〃	〃
木造屋根構造の実例と計算	小沢憲一訳	〃	〃
木造充腹梁	西田耕三訳	〃	〃
竹筋「コンクリート」の学術的研究	岩田 恒	25	2
新興木構造に依る応急倉庫に就て	宇賀神行一	25	11
木造建築の耐腐朽性	十代田三郎	26	4
木造工場建物の大阪府規準図に就て	川勝 健二	〃	7
煉石造と耐寒建築	今井 光雄	〃	12
鉄筋石造構法による設計	棚橋 諒	29	2
組立式移動現場事務所について	川村 統之	30	5
プレコンに就て	田辺 平学	31	7
ジュラルミン住宅の構造に就いて	元吉勇太郎	〃	〃
徳祥式ブロック構造について	桐生 政夫	〃	〃
コンクリート構造二題	奥島 正一	33	1
溝穴を有する塔の心柱礎に就いて	川村 清一	10	11

f 各部構造

柱が弱い	井上 一之	17	11
最近の電気溶接	浅野 新一	18	8
近代数寄屋住宅と明朗性	吉田五十八	〃	10
木造建築の合理的設計	法眼 純一	19	11
木造二鉸迫持の実施に就て	原田 有 塩崎仲太郎	〃	〃
撓みを考えた場合の梁端敷鈑の設計法		20	12
工場建築の母屋・胴差が懸垂線を為すと考える事に就て		〃	〃
木材接手に於けるボールトの強さ	堀口 甚吉	22	7
木理に対し或角度をなす木の側圧強	〃	〃	〃
連積梁の設計、木造トラスの節点にコンクリートを用いた例	〃	〃	11
大阪市に於ける木造二階梁実験報告	大野勝三郎	24	〃
新興木構造の理論と実際(1)	宇賀神行一	〃	〃
木造大張間建築に就いて	船場 浩	〃	〃
新興木構造の理論と実際(2)	宇賀神行一	〃	12
〃 Ⅲ	宇賀神行一	25	2
〃 Ⅲ	〃	〃	3
〃 Ⅴ. Ⅵ	〃	25	4.5
〃 Ⅶ	〃	〃	7〜9
千木と勝男木に次いで	三津田 鑿	26	2
昔の人の建築保持	城戸 久	〃	4
新興木構造	宇賀神行一	27	1〜2
建築用材としての合製材に就て	須藤喜八郎	〃	3
英国の組立式コンクリート構造の一例	白石 博三	31	7

g 防災構造

木造耐震構造法	池田 宮彦	11	11
大阪木造小学校建築の耐震構造		12	2
構造より観たる耐震、耐火的築建 (上)	田辺 平学	〃	12
〃 (中)(下)	〃	13	1.3
商店建築と其の耐震的構法	永田 愈郎	〃	9
火災に対する工場建築物の安全化 (1)(2)	菅野 久一	〃	10.11
架構耐震論の発達	坂 静雄	14	2
木造建築構造に対する横力の概念と対応方針	大野 直平	〃	〃
耐震木造建築への一考察	巽 純一	15	20
都市武装(懸賞論文第一等)	山口儀三郎	17	7
都市武装論(懸賞論文第2等第一席)	吉村 辰夫	〃	〃
都市武装に就きて(懸賞論文第2等第2席)	田中 進	〃	〃
耐震耐風の家の建て方	田辺 平学	18	1
都市住宅の新防火構造法	西山 卯三	21	3
日本民家の防火構造に就て	藤原 義一	〃	11
木造建築の耐火	石川 儀有	22	2
防火改修事業一ヶ年の回顧	大野勝三郎	25	1
煙火管制と換気	伊藤 偽吉	25	7
防空に関する新考案の発表	伊藤 正文	〃	〃
工場の煙火管制施設	横見 幹	〃	〃
重工業工場に於ける防空暗幕に就て	的場 浩	〃	〃
木造建物の防火構造	岡田 遠称	〃	10
防火改修基準図	大阪市	〃	〃
防災の面から見た木造建築の将来	大谷 東平	30	1
耐震耐風の木造学校建築	横尾 義貫	31	10

h 特殊構造

船の衝撃に抵抗する杭上の柱の設計		21	3
熔接を用いて建てた工場建物	池田 宮彦	23	8
特殊木構造法の回想	久米権九郎	27	2

第 3 部 門

祇園祭の鉾の組立	京都工芸繊維大学建築工芸教室	31	9
旭ガラス尼崎工場の特殊拡築工事について	棚橋 諒 〃	〃	12
寒さや住宅の防寒構造と暖房の一例	勝田 千利	32	2
基礎の新しい試み（脚壁つき浮函・基礎の話）	高橋 慶夫	34	3

No. 8 施 工

a 総 論

最近十五年間に於ける建築工事施工方面の発達と将来	渡部 圭吾	13	1
小学校建築の現場	大野 直平	〃	2
北米合衆国最近十数年間に亘る建築工業の発達概観	吉井 長七	〃	12
建築費指数	石田 曾次	14	6
大阪歌舞伎座新築工事施工に就て	渡辺 家三	15	10
硝子の使途の拡大	新名 種夫	16	1
満洲に於ける建築請負界の現状	小黒隆太郎	〃	11
監督制度より親たる近畿風水害	山崎 英二	18	1
住宅施工の合理化	矢田 鉄造	20	8
昭和14年度建築界の展望	渡部 圭吾	22	1
昭和14年度建築業界の曙光	益尾 辰雄	〃	〃
建築物の寿命に就いて	政岡 基次	〃	〃
土建業者の将来	渡部 圭吾	26	1
今後の建築施工について	日野 勝好	30	6
施工期間の問題	一部、アメリカン・ビルダー誌より	〃	10
施工業界のあり方	市浦 健	32	1
アメリカより帰りて	吉川 清一	〃	4
志摩観光ホテルの施工者として	県山 良雄 近藤 鉄治	〃	7
建築費はなぜ変動するか	相沢喜久太郎	〃	12

b 仕 様

電弧鎔接仕様書準備案	関場 茂樹	14	7
電弧鎌接並瓦斯切断仕様準備案	〃	〃	〃
熔接研究会電弧熔接標準示方書（案）	熔接研究会	15	4
小住宅設計概要書	住宅委員会	〃	6
混凝土の配合決定に関する提案	災害強度委員会	〃	12
諸アパート工事概要		17	6
家具標準仕様書	建築装飾協会	19	6
電気科学館と同館内プラネタリウムの概要並にその設計に就て	新名 種夫	20	3
石綿スレート標準仕様書(1)	関西建材会編	32	3
〃 (2)	関西建材会編	32	4
アスファルト防水工事施工仕様	〃	〃	5
避雷針仕様書	和田避雷針製作所	33	8

c 積 算

内訳明細書の添削に就て	瀬戸 文吾	11	3
米国の小住宅に使用せる家具の種類及価格の実例	樋口辰太郎		
住宅建築と其工費予算	議破智堂男	10	1
建築工事費に対する一考察	高田利一郎	〃	2
建築実施明細と建坪の比	白石 登喜	11	8
仮設土留工事構法	災害強度委員会	22	1
建築積算 便覧 (1)〜(4)		30	5〜8
建築積算便覧について		〃	11
建築積算便覧 (5)〜(7)		〃	10〜12
〃 (8)(9)		31	1.2
〃 (10)(11)		〃	5.6
〃 (12)		〃	8
〃 (13)〜(16)		32	4〜7
〃 (17)		〃	11
建築積算便覧 (18)	川村統之(編)	33	2
〃 (17.補1)	〃	〃	6
標準建築費指数図		〃	8
〃		〃	9

d 契 約

実費報酬加算制契約に於ける所謂実費の範囲に就いて(一)(二)	岡田 宗一	9	5.6
〃 (三)	〃	〃	8
実費積算式施工規程案	日本建築協会法制委員会	13	3
実費報酬請負工事に就いて	本田 登	14	6
建築施工契約制度に就て	山下 寿郎	〃	〃
土木建築請負工事入札並に契約に関する条項を改正統一の問題		15	11
改正されたる工事請負規程		16	5
請負契約書改正要旨	請負契約書改正聯合調査会	17	7

e 経 営

土建業者の向上と保証金問題に就て	山本辰五郎	3	5
現場監督員と請負事従員	小笠原 鋼	〃	6
築建職工組合設置に就て	〃	〃	8
建築業者の被選挙権と保証制度改善	山本辰五郎	〃	11
我等は進歩的理解力の所有者たれ	〃	4	5
請負人が注意すべき権利義務 上、中、下、畢	有山福重郎	〃	7〜10
英国に於ける建築組合の進歩 上、下	ジーデー・エッチ・コール	〃	7.8

再び建築職工組合の設置に就て	小笠原 鈞	5	3
現場工事管理に就て (上)(中)(下)	本田 登	〃	6〜8
建築工事の革新運動に就て	片岡 安	〃	11
英国建築士業務上の行為及常習	中村達太郎註訳	6	4
建築工事の施工と実費計算制設 上、下	小笠原 鈞	4	4.5
実費加算報酬式請負奨励に就て	松本 禹象	〃	8
工事予算公示論	江村 郊邨	〃	9
江村君の提論せる「予算公示論」を読みて	山本辰五郎	〃	11
実費計算式請負制度と所謂直営工事	設楽 貞雄	〃	〃
設楽氏の「実費計算式請負制度」を読みて	田中 譲	〃	12
建築工事の勘定と事務 (1)	由良 基夫 中島 智喜	11	11
〃 (2)	〃	12	4
住宅建築の工費と工期の問題 (1)(2)	松本 儀八	〃	5.6
建築工事の勘定と事務 (3)	由良 基夫 中島 智基	〃	7
〃 (4)	〃	〃	9
〃 (5)〜(7)	〃	〃	10〜12
〃 (8)	〃	13	1
建築請負会社のタイプと現場の管理	芝田 知重	〃	8
工場建築の現場施工に就て	中根 亀一	〃	10
建築の現場事務に就いて	馬場 良三	14	6
米国に於ける現場事務組織の大要	芝田 知重	〃	〃
建築工事の計劃と実施 (1)	渡部 圭吾	〃	〃
エムパイヤー・ステート・ビルディング建設組織	アール・エッチ・シュレーブ	〃	〃
エムパイヤー・ステート・ビルディング現場組織及方法	ジョン・ビー・カーモディー	〃	〃
周到なる用意と確信を	由良 基夫	〃	〃
建築工事の計劃と実施 (2)	渡部 圭吾	〃	7
七十一階の建物が卅三週間で出来上つた工事の施工概況	小山 九市	〃	8
建築工事の計劃と実施 (3)	渡部 圭吾	〃	〃
〃 (4)	〃	14	11
建築職工の再認識	鈴木忠五郎	21	1
建築労務の問題について	桜井 良雄	32	12
我邦現代住宅改良の施工法 (1)〜(4)	小笠原 鈞	2	7〜10
初めて組立家屋を取扱つて	和田 順顕	3	〃
案外気の利いた便利な組立式家屋	内藤 彦一	〃	10
キルペレス氏の煉瓦積の方式と動作	本田 登	5	12
再びキルペレス氏の煉瓦積の方式と動作	本田 登	6	1
〃	〃	〃	5
建築施工屑談	増田 清	〃	1
西洋館の床の組成に就て	ひろし生	〃	3
家屋移転用「ローラ・ジャッキ」に就て	復興局建築部	8	3

f 施 工 法

北米に於ける建築施工法の実況 (1)(2)	下浦 光衛	9	6.7
住宅の簡易舗装法	小山 九市	10	1
混凝土施工上の注意(上)(下)	下浦 光衛	〃	3.5
建築工事実施方法 (1)(2)	渡部 圭吾	1	3.4
大阪の地盤と杭打基礎工事(一)	池田 宮彦	〃	5
建築工事実施方法 (3)	渡部 圭吾	〃	6
大阪の地盤と杭打基礎工事(二)	池田 宮彦	〃	7
建築工事実施方法 (4)	渡部 圭吾	〃	8
〃 (5)	〃	〃	10
〃 (6)	〃	12	2
鋲接合に代るべき電弧鎔接に就て	池田 宮彦	13	9
鉄筋の電気鎔接に就て	三浦 倚史	〃	〃
作図に依る基礎杭長決定法	太田 秀雄	〃	12
電弧熔接法、主として交流使用の場合に就ての理論を論じて其応用に及ぶ	井口庄之助	14	2
ビルディングの基礎工事その他にニウーマチック・ケーソンを応用することに就いて	小笠原 鈞	15	1
鎔接と電気熔接 (上)(下)	鶴田 明	〃	9.10
潜函工法	災害強度委員会	〃	12
一般建築工事施工上必要なる設備の研究	設備委員会	16	12
コンクリート調合表に就いて	浜田 稔	17	2
一般建築工事施工上必要なる設備の研究	設備委員会 設備分科会	〃	12
アスファルト防水施工に関する研究	日本建築協会 材新委員会	18	4
大阪朝日新聞社京都支局の基礎工事に就て	芹生 幹二	〃	6
宝塚大劇場復興工事	鷲尾 九郎	〃	8
木材造作工事の施工に就て	小川安一郎	〃	〃
潜函基礎工事に就いて	西村 安彦	〃	〃
コンクリートの振動填充施行法に就て	武内 富雄	〃	〃
建築工事場仮設備に要する重なる器具機械の研究及附帯工事中主に水道衛生工事に就て	設備委員会	18	12
最近に於ける建築工事の電弧熔接に就て	平野 忠雄	19	11
軽版構造法による建築施工	鈴木忠五郎	22	9
建築施工技術の振興を計れ 1	渡部 圭吾	28	3〜5

第 3 部 門

〃 2	渡部 圭吾	28	6～8
〃 3	〃	〃	9～12
アスファルト防水工事のあり方	大西 幸七	30	7
工程表と連捗表の活用について	越智 隆晴	〃	5
鉄筋コンクリート造建物の移転	辻 鋭太郎	〃	6
重量物移転工法の一考案	京都市土木局営繕課	〃	8
「施工法の基礎智識」の必要性	西村 清士	25	5
アルミ建築に関する基礎資料	潮田 豊治	31	2
アッシュコンクリート建築工法について	斉藤 茂信	〃	7
佐々木式ブロック建築の機構及工程に就て	佐々木京一	〃	〃
地下室アスファルト防水施工に就て	大西 幸七	〃	8
煉石造建物の曳移転工事について	香川 次男	〃	12
AEコンクリートに就て	谷口 伺武	32	6
アスファルト防水工事施工上の注意要項	関西建材会編	〃	〃
「ドライプイット」について	日野 勝好	34	3

g 工事報告

大阪中央公会堂建築工事に就て	谷民 蔵	11	4
神戸海洋気象台建築工事概要		3	8
須磨西尾氏本邸新築工事概要		〃	9
大紙倶楽部建築工事概要		〃	10
芝川商店建築工事概要		〃	11
大阪ビル工事概要		8	11
大阪城天守閣の造営工事	富士岡重一	15	7
第四師団司令部庁舎新築工事に就いて	平田 範政	〃	〃
日本綿業会館新築工事に就いて	須藤 隼人 牧野 忠	〃	〃
南海ビルディング新築工事に就て	平井 勇馬 牧 毅	〃	11
旅順大谷邸新築に就いて	城 始	16	2
天王寺公園の改造工事	方 米治郎	17	4
大阪市美術館	富士岡重一	17	8
白鶴美術館新築工事概要		〃	〃
病院建築工事概要集		17	10
新大阪ホテル設備設計施工の跡を顧みて	甲斐原四郎	18	3
新大阪ホテル工事施工に就て	加藤 誠二	〃	〃
明治初年に於ける京阪神間の国鉄建設工事費に就て	佐古 慶三	〃	11
関西日仏学館の建築を顧る	木子 七郎	19	7
帝国議会議事堂の建築を語る	大熊 喜邦	20	1
京都競馬場見馬所の設計経過と概要	安井 武雄	21	11
昭和十五年五月落成の四天王寺五重塔に就いて	天沼 俊一 政岡 基次	23	7
花園グランド改修工事説明書		28	1
第25師団工場並兵舎新改築工事		〃	〃
スバル座工事概要		〃	9～12
鉄筋石造構法による設計	棚橋 諒	29	2
大阪競輪場		30	5
西宮競輪場工事概要		〃	6
鉄筋コンクリート造建物の移動		〃	〃
大阪プール建設概要	増井 敏克	31	11
大阪プール施工に就て	鳥野 民男	〃	〃
旭ガラス尼崎工場の特殊拡築工事について	棚橋 諒	〃	12
阪神パーク復興建設工事について	真口 恒夫	〃	〃
パキスタン日本館建設記	坂永 金重		
法隆寺保存工事の報告書について	杉山 信三	32	10
広島平和記念陳列館を施行して	橋本 定	33	6
沖縄工事の実情	吉田 一彦	〃	7
大和ビルディング工事概要	編 集 部	〃	9
産業会館ビル施工機械化に就て	山田 義行	〃	11
大阪府五結核療養所羽曳野病院建設工事概要		34	2

No. 9 設 備

a 総 論

住宅の改善と考慮すべき要点に就いて	須賀藤五郎	12	5
〃	〃	〃	6
台所の設備と衛生	藤原九十郎	13	5
建築と快感	関藤 国助	14	3
敷地とその保健的条件	野地 修左	〃	〃
室内の清掃とその設備	増山 新平	〃	〃
国民保健上急要なる設備と施設	宮飼 克二	〃	〃
阪急ルビの附帯設備	中西 亀吉	15	2
住宅設備	伊藤 正文	29	1
アメリカの住宅設備	岸 浩三	30	3
建築に附帯する設備 座談会		〃	5
日本のお台所	恩田 和子	〃	7
大阪プールに就て	奥野 章法	31	11
森宮球場	松下 寿吉	〃	〃
建築設備展望	吉田 享二	32	1
最近の住宅設備について	石原 正雄	〃	3
広島ABCC設備工事に就て	日野 勝好	〃	4

新しい炊事竈と風呂釜の考案	松崎 甫	32	10
建築設備の発達と今後の見透し	桜井 省吾	33	1
電気と水と管工事	棚橋 元治	〃	〃
建築と設備の新動向	大倉 三郎	〃	2
朝日放送演奏所に就て	松室 重真	〃	4
ラジオ京都演奏室設計覚書	増田 友也	〃	〃
NJB新日本放送スタヂオ綜合音響測定報告	小川 正	〃	〃
建築若人の座談会（建材と設備の立場より）		〃	5
家庭台所のあり方	野田 義夫	34	2

b 暖房、冷房、換気及空気調整

温度の自動調節装置に就いて	三浦 勉	9	1
煖房の話	台 惣三郎	〃	12
住宅の採煖	徳政 金吾	10	1
建築周囲の損失熱量と電気煖房決定法	小原 邦雄	12	11
安価に出来る保熱装置	アリース・テロン	〃	〃
最近の煖房換気界	大沢 一郎	〃	〃
改良炬燵	武田 五一	13	5
新大阪ホテル設備概要と配管準備工作に就て	竹花 未春	18	3
新大阪ホテル衛生設備	須賀藤五郎	〃	〃
満洲における住宅の採煖法に就て	田中 進	19	1
住宅に最適の「温床煖房」	中島 彦六	〃	5
煖炉と煙突	矢田 鉄蔵	22	1
Bedford「調温・換気の最新原理」抄録 (1)〜(4)	前原大二郎	〃	6〜9
工場の換気問題	佐藤 鑑	23	8
工場換気に就いての1・2の知見	伊藤 正文	〃	〃
工場建築の採光換気種々相	今井 忠	〃	〃
住宅の床下通風に関する私見	寺門四志緒	〃	9
燈火管制と換気	伊藤 偽吉	25	7
住宅の新しい煖房法	民間情報教育部提供	31	8
熱ポンプ式暖冷房装置と給湯装置	柳町政之助	〃	11
寒地住宅の防寒構造と暖房の一例	勝田 千利	32	2
我国最初の無窓人工換気照明工場	元木 真次	〃	3
森永チョコレート工場のアルミニウム反射断熱法	陶浪 貞彦	〃	〃
産業館会ビル冷暖房、空気調整に就て	柳町政之助	〃	11

c 給水・排水及衛生設備

煖房を奈何にすべき？	日高 胖	5	2
生活を楽しくする為一円づつ寄附の煖房	羽室まきゑ	〃	〃
浄化装置に就て (一)	米元 晋一	6	8
〃 (二)	〃	〃	9
〃 (三)	〃	〃	12
アドソール応用	山本 栄男	7	1
汚物処理法の其の構成	沢部実之介	8	5
水洗便所と汚物処理槽の関係及構造	〃	〃	6
建築と汚物処理の関係	〃	〃	9
汚物処理槽及その他	〃	〃	10
住宅に於ける汚物処理法	〃	10	1
住宅建築衛生の話	伴 秀雄	〃	〃
家庭用ポンプの種々	山田 醇	〃	〃
内務省案改良便所と大正便所との優劣に就いて	城口 亀吉	11	11
住宅の衛生問題 (1)(2)	藤原九十郎	12	5.6
小住宅と保健問題	宮飼 克二	〃	〃
貸家建築と衛生施設	今林彦太郎	〃	8
住宅の裏から覗いた保健衛生的設備	白石登喜男	〃	9
汚水浄化装置に就いて	伴 秀雄	〃	11
衛生器具と扱い方	桜井 省吾	14	3
建築衛生施設とその運用に就て	北油 重之	〃	〃
建築工事場仮設備に要する重なる器具機械の研究及附帯工事中主に水道衛生工事に就て	設備委員会	18	12
曲つた管へ通る水の流れ		21	9
管工事の面から	岩井 久雄	28	3〜5
飲用水中の弗素とその除去装置について	大路清一郎	31	8
熱ポンプ式暖冷房装置と給湯装置	柳町政之助	〃	11
衛生陶器工事用図面(其ノ一)(其ノ二)	関西建材会編	32	7.8
管工事界に於ける近年の発達及将来の見透しその管工事界に於ける諸問題	堤 耕作	33	1
屋内消火設備について	小川 誠耳	〃	5
沖縄の衛生設備工事に於て	斉藤 光夫	〃	7
新設備—衛生設備の分野	小川 誠耳	〃	9

d 照明設備

簡易且つ実用的な室内照明法	今沢 敏郎	9	1
住宅照明としての内面艶消電球に就いて	今沢精一郎	10	1
近代照明の傾向に就いて	伊藤 奎二	12	11
建築の洪光飾	工藤 寿男	〃	〃
現代的照明	アンドレ・サロモン	〃	〃
住宅に於ける照明器具に就て	工藤 寿男	13	5
住宅照明	岩崎 勇	〃	〃
螢光照明の広告的価値		15	4

第 3 部 門

大阪歌舞伎座電気設備に就いて	杉浦　豊	15	11
商店照明の話	内田　幸夫	18	9
建築電気設備と節電	杉浦　豊	23	4
螢光灯に就いて	浅田常三郎	31	5
アメリカの螢光灯の灯具	宮島　久七	〃	11
我国最初の無窓人工換気照明工場	元木　貞次	33	3

e 機械及電気設備

最近避雷針の進歩 (一)	青柳　栄司	32	〃
〃 (二)	〃	〃	7
〃 (三)	〃	〃	9
電熱の応用に就て	佐立　健雄	6	4
エレベーターに就て 上、下	堀　覚太郎	〃	5.6
電化される新住宅を覧て	伊藤二也子	6	5
電化される嵯峨野の新邸	郊　邨　生	〃	7
「エレベーター」の製作及び使用に就いて	堀　覚太郎	9	1
住宅の神経系統一電気設備	工藤　寿男	12	6
住宅の電気設備	小畠　康郎	13	5
電気設備に就いて	岩崎　勇	14	4
昇降機速度に就いて	長野　文一 藤川　保	〃	12
新大阪ホテル設備概要と配管準備工作に就て	竹花　末春	18	3
新大阪ホテルの厨房に就て	上田　清一	〃	〃
昇降機に就きて	設備委員会	19	7
節電と大建築物	毛呂　喜平	23	4
電力節限の建築に及ぼした影響に就いて	久木　宜 横見　幹 権平　国雄	〃	8
最近の電気内線工事の傾向	常石　稔	31	8
電話設備工事に就て	高橋　正夫	〃	9
エレベーター	谷　民蔵	32	〃
沖縄の電気工事について	栗原　信虎	33	7

f 防音設備

g 保安設備

建築と防火設備に就いて	須賀藤五郎	9	1
商店建築の防火設備に就いて	今林彦太郎	12	12
工場と倉庫の防火設備	中島　彦六	13	10
百貨店の災害防止設備について	中沢誠一郎	16	2
可燃性物資を集蔵するビルディングの消火設備に就て	古塚　正治	〃	〃
高層建築物に対する災害防止策	大谷　順作	〃	〃
百貨店の防火消火避難設備に就いて	坪井　誠一	〃	〃
百貨店内交通機関の非常時に於ける対策	山本　一	〃	〃
火災に対する構造と設備に就いて	里見純吉	16	2
新築に際して防火設備私見	木水栄太郎	〃	〃
阪急百貨店の防火設備に就いて	上田　寧	〃	〃
大阪三越の防火施設に就いて	竹内　泰次	〃	〃
大阪府に於ける百貨店建築防火避難設備に関する懇談会		〃	〃
建築学会提唱に依る百貨店防火施設		〃	〃
内務省の高層建築物に対する災害予防法		〃	〃

h 雑

これからの家庭燃料としてのガス	西村　七夫	30	11
北海道一年生	堀江　悟郎	32	2

(164頁より続く)

N板硝子株式会社舞鶴工場	33	3
不二屋心斎橋店	〃	4
国際見本市会館	〃	〃
樫山株式会社本社	〃	6
岡崎旅館	〃	〃
平和大橋勾欄	〃	〃
大阪府立労働会館	〃	9
蝶理株式会社	〃	〃
大和ビルデイング	〃	〃
産業経済ビルデイング	〃	11
羽衣住宅	〃	12
これからの住宅展、羽衣住宅展	〃	〃
大阪府立結核療養所羽曳野病院	34	2
帝国銀行夙川寮	〃	3
室町物産株式会社大阪支店	〃	〃
久宝館	30	12
大阪南納税会館	〃	〃
大阪専門学院中学部	〃	〃
兵庫県度量衡検定所	〃	〃
市川歯科医院	〃	〃
日本聖公会聖テモテ教会	〃	〃
山口銀行漁港支店	〃	〃
岩国錦水軒ホテル	〃	〃
三菱レイヨン健康保険組合阿多田島保養所	〃	〃
三菱化成工業株式会社大竹工場職員社宅	〃	〃
豊中市立第三中学校	〃	〃
豊中市立上野小学校	〃	〃

No. 10 法　　規

a 法 規 論

建築条令制定の急務	片岡　安	1	3
都市建築法令調査会設置に関する建議		〃	4
大連市の建築規則に就て	片岡　安	2	7
大連市建築規則批判(上)(下)	池田　実	〃	10.11
借家法と建築法規　(上)(下)	郊　邨　生	4	5.6
我国建築行政の現状に就て	片岡　安	〃	10
内務省令第十七条と家屋及土地の差益税	三　太　郎	5	9
借地借家調停法の実施	小川市太郎	〃	10
土地市有と建築取締	田鳩　錦治	6	5
市域変更と地域制の実施	岡崎早太郎	8	〃
現行市街地建築物法は果して完璧か	玉置豊次郎	10	11
建築法令中の諸問題の研究	法制委員会	17	12
市街地建築物法並に関係命令の改正に就て	玉置豊次郎	18	4
市街地建築物法施行細則（大阪府）の改正に就て	松井清之助	〃	〃
市街地建築物法施行細則（京都府）の改正に就て	板井　公威	〃	〃
市街地建築物法施行細則（兵庫県）の改正に就て	本田　林八	〃	〃
最近の建築行政偶感三題	玉置豊次郎	19	4
第五回全国都市問題会議題	会　議　題	19	5
建築物法其の他に関する討議研究	法制委員会	18	12
三十坪住宅法案是非論	古塚　正治	22	9
戦時建築規格に就て	横山　不学	26	6
建築規格	川勝　健二	〃	〃
住宅の決戦的性格と貸家組合法	玉塚　締伍	〃	8
戦時建築規格に就て	恒岡　俊行	〃	〃
建築行政の徹底簡素化	草　一　路	〃	12
防火建築規則と集団住宅の経済	越智　隆晴	30	3
建築行政情報　(1)〜(3)	大阪府建築部指導課	31	5〜9
建築士法施行に伴う当面の二三の問題について	内藤　亮一	〃	8
改めて「山」を見直せる—建築士法の制定	山下　寿郎	〃	〃
建築基準法と建築行政の今後の在り方	中野　吉称	〃	〃
建築士法公布に対しての意見	池田　宮彦	〃	〃
「神戸国際港都建設法」制定にあたりて	長浜　時雄	〃	12
建築行政のメモ	越智　隆晴	33	2
建築基準法飄々談	西野久左衛門	〃	〃
防火改修の困難性	堀井　啓治	25	10
防火改修実施上の諸問題	大野勝三郎	25	6

b 都市計画関係法令

英国に於ける住居及都市計画法令　(1)〜(3)	伊藤　真雄	1	5〜7
英国の都市計画法　(1)(2)	〃	2	1.2
都市計画に関する法制　(1)	池田　宏	〃	8
〃　(2)	〃	〃	9
〃　(3)	〃	〃	10
セントルイス市に於ける地帯式都計条例	伊藤正文訳	1	12
都市計画法案内容	内務省都市計画課	2	1
建築法案内容	〃	〃	〃
都市計画法案	〃	〃	3
貴衆両院を通過せる二大法案		〃	4
公安より見たる都市計画及都計立法　(上)(下)	岡田　重次	2	5.6
欧米の都市計画法制	田中　清志	7	11
誤解されたる都計と理解されざるその法制	〃	8	9
都市及建築に関する勅令法令其他		10	7
不良住宅地区改良法		〃	8
都市計画及建築に関する勅令法令其他		〃	11
都市計画公報		11	7
美観地区並に風致地区建議案		12	7
現行地域制に於ける所謂未指定地に就て	加藤　善吉	〃	12
美観地区並に風致地区建議案追申		13	4
風致地区規則	京　都　府	〃	〃
地域制と高層建築	加藤　善吉	15	1
時　　報		18	2
大阪駅前土地区劃整理内建物高の最低限度		19	3
台湾都市計画令		20	3
台湾都市計画令施行規則		〃	4
台湾都市計画令(2)		〃	5
台湾都市計画令施行規則(3)		〃	6
台湾都市計画令施行規則(完)		〃	7
関東州州計画令		21	7

c 市街地建築物法関係法令

市街地建築物法の実施期と建築界		3	12
建築監督官としての任務	竹内　六蔵	〃	〃
市街地建築物法の施行に際して	池田　実	4	1
市街地建築物法一般構造設備	井尻　義雄	〃	2
市街地建築物法構造強度	中西　嘉作	〃	〃
市街地建築物法の意義	内田　祥三	〃	〃
市街地建築物法地域其の他	置塩　章	〃	3

第 4 部 門

最低制限の問題 (甲)	菱田 厚介	6	4
〃 (乙)	〃	〃	5
建築線の言い草	加藤 善吉	8	3
市街地建築物法施行細則の改正に就いて (一)	津田 敏雄	9	11
〃 (二)	〃	〃	12
都市住宅と建築法規	池田谷久吉	10	1
市街地建築物法令及規則に関する改正意見及希望	片岡 安	11	〃
警視庁令市街地建築物法施行細則改正案を通覧して	池田 実	〃	11
建築関係法規集(大工取締規則)		12	3
防火建築に関する法規的考察	池田 実	〃	12
ニューヨーク市及びシアトル市の地域条令に於ける建築物の高さ制限規定	内藤 亮一	15	1
建築物の高さの制限に就いて	吉田信武(訳)	〃	〃
市街地建築物法施行令改正に就いて	玉置豊次郎	〃	5
市街地建築物法施行規則改正に就いて	松井清之助	〃	〃
市街地建築物法施行規則の内構造強度に関する条文に就いて	落藤 藤吉	〃	〃
改正市街地建築物法施行細則(兵庫県)に就いて	山崎 英二	〃	〃
市街地建築物法施行細則 (京都府)の改正に就いて	和田 甲一	〃	〃
市街地建築法施行令並に同規則の改正に就て	津田 敏雄	〃	〃
建築法規に関する質疑応答欄	後川 隆一	16	10
〃	本島 武夫	〃	11
時 報		17	4
時 報		〃	5
時 報		18	3
時 報		〃	4
建築法規に関する質疑応答欄		〃	9
建築法規に関する質疑応答欄		〃	10
建築法規に関する質疑応答欄		〃	11
建築法規に関する質疑応答欄		〃	12
各府県改正市街地建築法施行細則(北海道、警視庁)		19	2
各府県改正市街地建築法施行細則(京都府庁、大阪府庁)		〃	3
各府県改正市街地建築法施行細則(神奈川県庁)		〃	4
市街地建築物法施行規則中強度計算の改正		20	7
市街地建築物法改正		21	5
市街地建築物法施行令改正		22	2
市街地建築物法令改正の要旨	伊東 五郎	〃	3
施行細則(市建法)の改正	川勝 健二	25	4
臨時防火建築規則施行さる		30	1
臨時防火建築規則		〃	2
大阪市防火建築帯図と耐火助成のしるべ		33	12

d 各種建築物関係法令

危険物品取締規則		1	2
ベネチャ市建築条例		〃	6
羅馬市建築条例		〃	7
維納市建築条例		〃	8
〃		〃	9
巴里市建築条例		〃	10
巴里市衛生警察令		〃	12
巴里市衛生規則		〃	13
ブリュッセル市建築規則(上)(下)		2	1.2
哈爾賓市内建築規則摘訳		〃	3
現行伯林建築条例 (1)〜(3)		〃	4〜6
巴里市衛生規則 上 下		〃	7.8
ベルン市建築条例 (上)(中)(下)		〃	9〜11
大連市建築規則 上 下		〃	10.11
ブタペスト建築条例(上)(中)(下)		3	1.3.4
新制定の都市法規		〃	2
ブルュッセル市建築規則 上中下		〃	5〜7
巴里市衛生警察令		〃	8
ベネチャ市建築条例 上下		〃	9.10
市街地建築物法施行令		〃	11
市街地建築物法施行規則		〃	12
〃 施行細則		4	1
改正大阪府建築取締規則		5	3
市街地建築物法施行令同規則一部改正		7	8
遊技場営業取締規則		10	4
工場附属寄宿舎取締規則		〃	11
函館大火に於ける不燃質建物の被害概況	中沢誠一郎	17	5
特種建築物規則		19	10
附録建築関係法規一覧表		22	1
木造建物建築税制規則の発令に際して	井上 新二	23	3
木造建物建築統制規則に就いて	玉置豊次郎	〃	〃
防空建築規則解釈(大阪府)		24	3
資材難と建築物法	岡田 達弥	25	3
建築取締規則の改正	川勝 健二	25	4
最近の建築関係規則	生田 五郎	28	1
臨時建築制限規則の改正について	小寺 保	30	9
建築基準法		31	6
住宅金融公庫法		〃	〃
住宅金融公庫法の一部改正		32	7
AAJ資料 (耐火建築促進法)		33	8
大阪府耐火建築促進規則		〃	11

大阪市耐火建築促進条例		33	11
大阪市耐火建築促進条例施行規則		〃	〃

e 其　他

土地区劃整理の施行と特殊銀行改正法の必要	岡崎早太郎	9	2
共同建築組合法案に就いて	〃	〃	9
不良住宅地区改良法要綱を見て	伊藤　倉雄	〃	11
土地収用法の改正に就いて	岡崎早太郎	10	6
建築衛生工事と其の取締規則の制定に就て	大沢　一郎	14	3
日本建築士会の「建築競技報行規準」草案に対する意見書	法制委員会	15	12
〃　を読む	堀越　三郎	16	3
法規に現われたる住居標準	荒木　正己	19	5
大阪の防火地区追加指定	加藤　善吉	〃	〃
大阪防火地区拡張に就き雑感	鳥井　信	〃	6
大阪都市計画地域追加変更	加藤　善吉	〃	〃
建築士法案一考	山口儀三郎	〃	9
フランスの地方計画立法	尾崎　祐治	20	2
建築家としての法律常識	山口儀三郎	〃	3
市街地建築物法施行規則改正規定解説	浅野　新一	〃	8
附録建築申請書及届書雛形の連続掲載に就いて	法制委員会	〃	9
附録・建築申請書及届書雛形（その2）	法制委員会	〃	10
防空の統制	小林　隆徳	〃	11
防空法関係法令		〃	〃
鉄鋼工作物築造許可規則		〃	〃
附録・建築申請書及届書雛形（その3）	法制委員会	〃	〃
建築申請書及届書雛形（其の4）	〃	〃	12
フランスの防空法規		21	3
度量衡制度改正の諮問から答申まで	岡　実	21	4
地区制度改正問答	菱田　厚介	〃	5
燈火管制規則		〃	〃
銅使用制限に関する規則		21	6
防毒資材取締規則		〃	〃
土木建築に関する鉄鋼使用証明書交付規程並解説		〃	〃
土木建築工事安全衛生規則抜萃	設備委員会	〃	7
築造工(大工)資格試験制度に関する質疑	鈴木忠五郎	〃	12
台湾住宅と建築行政	中村　綱	22	2
六大都市建築会議		〃	〃
防空建築規則		〃	3
防空関係法規並防空建築規則に関する講演抄		〃	4
地方都市と建築行政	中村　俊一	23	2
建築家と都市構築	実崎　靖	〃	〃
電力制限の話	一本松珠璣	23	4
第3回全国都市美協議会に出席して	錦田　直一	〃	7
都市住宅法の制定	藤田進一郎	〃	9
重要都市に於ける建築物の防火方策急施に関する建議文		〃	12
排水装置築造内規		〃	〃
金属類回収令		24	〃
防空法の改正	竹内佐平治	25	2
労務調整令について	松田徳太郎	〃	3
労務調整令の解説	松田　正太	〃	〃
労務調整令についての質疑応答	係官　松田正太、玉置直忠、赤松直俊、橋本卯三郎	〃	〃
大規模木造建物防火改修	水原　敏一	25	3
防空建築規則の改正、防火改修規則の公布	岡田　達也	25	5
戦時立法と建築物法	岡本正次郎	〃	〃
防火改修規則の解説	中村吉太郎	〃	10
大阪市防火改修設計者提要とその解説	小泉嘉四郎	〃	〃
大阪市防火改修基準図		〃	〃
防空法令及防空建築規則抜萃		〃	〃
工作物築造統制規則	岡田　遠弥	26	6
土木建築業関係職別工業の統制機構整備に就て	一ノ瀬　正	〃	7
防空疎開の法的根拠		27	3
建築士法草案		30	〃
建設業法について	浅野　弘	〃	7
大阪府建築代理業条例		〃	〃
大阪府建築代理業条例施行細則		〃	〃
建築士法草案について	日本建築協会	31	1
建築基準法草案	建設省住宅局	〃	2
建築士法		〃	6
建築基準法施行令の一部を改正する政令		33	2
AAJ資料（消防関係法規一覧表）		〃	8

No. 11 都市計画

a 総　論

都市計画　(1)～(3)	ネルソン・リュイス	1	3～5
我国都市改良計画の将来(上)(下)	片岡　安	〃	7～8
都市計画と市民的訓練	葛野壮一郎	〃	8
都市計画より見たる遷都(上)(中)(下)	片岡　安	〃	10～12
都市計画と建築界の任務(上)	野村　一郎	〃	13
公安より見たる都市計画及都計立法(上)(下)	岡田　重次	2	5.6

第 4 部 門

都市計画に就て (1)〜(3)	吉村 哲三	2	7〜9
都市計画の財政観	関 一	3	1
都市計画事業と財源(1)(2)(畢)	池田 宏	〃	3〜5
都市計画と文化的計画	武田千代三郎	〃	3
広義の都市計画	江村 郊郵	〃	〃
家賃騰貴都市及土地増価税上	戸田 海市	〃	4
〃 下	〃	〃	5
私は都市計画に就て斯う思ふ	山本辰五郎	〃	6
都市計画と河川の改修及運河の開鑿	横浜 勉	〃	7
都市計画事業と日本文化の曙光		4	1
都計途上最初の一つの出来事	大川多麿夫	〃	〃
都市計画事業と市民の覚悟	〃		2
特別賦課若くは受益者負担に依る都計	チャールス・エー・ピアード	6	1
都市計画の根本的設置	田中 清志	〃	12
都市計画の経済的基礎	チャールス・エー・ピアード	〃	〃
御成既紀念事業としての都市計画	園部 文雄	7	2
都市計画実行令果して如何？	宗 兵蔵	〃	3
都市計画と建築家	加藤 善吉	〃	4
都市計画備考	青山しげき	〃	9
大阪源流考—都市計画の見地より—	田中 清志	〃	12
愛なき都市計画	大屋 霊城	8	4
都市計画思想の推移	田中 清志	〃	5
市民の理解を基調とする都市計画	伊東 俊雄	〃	6
吾人に家無し安ぞ祖国あらむ	白井 和夫	〃	〃
誤解されたる都市計画と理解されざる其の法制	田中 清志	〃	9
都市計画に対する市民の理解に就て田中氏に答ふ	伊藤 俊雄	〃	10
都市計画の実際的施設	K・S 生	〃	〃
続誤解された都市計画	田中 清志	〃	11
都市生活の動的考察	宇治伊之助	9	2
都市観念の訂正	小野田秀作	〃	〃
共同建築に就いて	渡辺 鉄蔵	〃	3
都市計画事業は何故進まないか	西村 健吉	〃	〃
復興計画と残された二つの問題	佐野 利器	〃	5
人形の都市	藤田進一郎	〃	7
核心に触れざる住宅問題	平賀 周	〃	8
独墺地方の都市 (1)	姪夢 衷生	〃	〃
下層階級住宅政策の確立	紫安新九郎	〃	9
観て来た欧米の都市	木南 正宜	〃	〃
独墺地方の都市	姪夢 衷生	〃	〃
都市問題の一考察 (1)	楠原祖一郎	〃	10
人間の都市 (上)	藤田進一郎	〃	〃
航空機と都市の建築	片岡 安	9	10
都市計画の問題	渡辺 鉄蔵	〃	11
都市問題の一考察 (2)	楠原祖一郎	〃	〃
人間の都市 (下)	藤田進一郎	〃	〃
二つの花苑都市の建設に就いて	大屋 霊城	〃	12
都市問題の一考察 (3)	楠原祖一郎	〃	〃
共同建築から地方計画へ	笠原 敏郎	10	2
都市計画の理論と実際	松室 重光	〃	〃
大大阪を一瞥して	松室 重光	10	3
〃 (下)	〃	〃	5
滅び行く都市の樹木	方 米治郎	〃	〃
都市計画の完成近き大江橋以北		〃	6
上本町広場と渡辺橋以北の一部		〃	〃
阪神国道改修平面図と完成実況		〃	〃
自由空地を加味した都市改良	大屋 霊城	〃	〃
元禄年間に於ける大阪の埋立工事の概要	池田 宮彦	〃	9
現代都市と公園	片岡 安	〃	10
土地区劃整理後の町界町名地番整理 (1)	加藤 善吉	〃	11
〃 (2)	〃	〃	12
都市計画事業の一大危機	片岡 安	11	1
都心地の土地の共同利用	直木倫太郎	〃	〃
交通機関と建築	八木幸次郎	〃	〃
都市周辺部の改良問題	藤原九十郎	〃	〃
大阪湾頭を囲む都市計画	置塩 章	〃	〃
堺都市計画地域に就いて	磯村 遠	〃	〃
都市美と法律	溝江 五日	〃	〃
私人の行ふべき都市計画	岡崎早太郎	〃	3
都市の美観	片岡 安	12	7
都市連絡と都市計画	溝口 親種	〃	〃
我国に於ける都市計画の現勢(1)	加藤善吉	12	7
都市計画受益者負担に関する若干の考察 (1)	玉井 猛	〃	〃
我国に於ける都市計画の現勢(2)	加藤善吉	〃	8
都市計画受益者負担に関する若干の考察 (2)	玉井 猛	〃	〃
都市の震火災と防火都就	波江 悌夫	〃	12
大阪都市計画地域変更に就て	加藤 善吉	13	6
住宅改良と都市計画	藤田進一郎	14	8
大阪の区劃統制の過去と現在	玉置豊次郎	〃	〃
大阪都市計画地域一部変更（第二回）に就て	加藤 善吉	〃	11
ソヴェート聯邦に於ける新都市建設	エルンスト・マイ	15	4
大阪市とその郊外地の展望	矢田 鉄蔵	16	1
大阪市の社会事業施設	山口 正	〃	5
大阪市に於ける社会事業建築に就いて	新名 種夫	〃	〃

ソヴェート・ロシヤの都市計画と建築	藤田進一郎	16	6
国家の更生を目標とする集団生活機構としての都市村落の分布統制	松室 重光	〃	8
実際問題としての地方計画と地域制	加藤 善吉	〃	〃
大阪都制の問題	小川市太郎	〃	〃
海港都市神戸の片貌	宮本 長治	〃	〃
横浜市に於ける港湾都市としての特殊計画に就て	丸山 照六	〃	〃
奈良市に於ける遊覧都市として特殊計画に就て	薬師神栄七	〃	〃
都市計画より土地計画まで	石原 憲治	16	9
都市と都市計画	吉田 信武	〃	〃
都市生活と国民保健	藤原九十郎	〃	〃
「理想都市」	吉田 信武	〃	〃
都市雑考	北垣熊之介	〃	〃
都 人	岩本 真人	〃	〃
空の都の建設	葛野壮一郎	17	3
都市武装促進に関する対策案	池田 実	〃	7
都市の武装構築に就いて	波江 悌夫	〃	〃
防空と都市計画	伴野三千良	〃	〃
都市武装に就きて（懸賞論文第2等第2席）	田中 進	〃	〃
都市武装計画論（懸賞論文第3等第1席）	横田 実	〃	〃
護れ!!!我等の都市を（懸賞論文第3等第2席）	平野 一男 四方 靖郎	〃	〃
都市武装に就いて（懸賞論文佳作）	亀井幸次郎	〃	〃
「南海道沖大地震の謎」及「北西大阪地塊の慢性的運動」（要約）	今村 明恒	〃	〃
都市計画の新方向と田園建築への回首	大須賀 巌	〃	〃
都市計画の再検討	片岡 安	17	11
都市環境と其の改善問題	都市計画委員会法制委員会	〃	12
都市建築の重大性	片岡 安	18	1
明朗都市の建設	鳥井 信	〃	〃
地方計画に資して	吉田 信武	19	2
都市美の問題	葛野壮一郎	〃	3
日本の都市計画と住居	高橋 寿男	〃	5
都市計画と地方計画	片岡 安	19	8
都市計画より地方計画へ	中沢誠一郎	〃	〃
都市計画一地方計画一国土計画	吉村年辰夫	〃	〃
地方計画「夜明け前」	中村 綱	〃	〃
都市美について	田中 弥一	〃	9
社会事象と計画界	宮田 秀穂	20	2
衛星都市の意義	シビー・バーダム 亀井幸二郎訳	〃	〃
都市計画の将来の為に	吉村 辰夫	20	5
都市の型 (Civic pdtters)	トーマス・アダムス 亀井幸次郎訳	21	3
国家としての都市の位置	〃	〃	5
都市計画は教育機関計画をも包括すべきなり	エヌ・エル・エンゲルハート	〃	6
土地区劃整理雑感	田辺 右門	22	4
本邦都市の発達の動向と其の諸問題	東京市政調査会	23	1
民族性と現代都市構築との関聯性	亀井幸次郎	92	5
25周年と都市計画	片岡 安	25	11
都市復興への提言	富田 清	28	3〜5
都市計画の現状と将来	宮脇 泰一	30	6
建築基準法と都市計画	伊藤 通畦	31	11

b 計劃各論

紐育市の交通問題 (1)〜(3)	伊藤正文訳	1	5〜2
最近の大阪港 (1)〜(4)	大阪市役所港湾部	〃	8〜11
運河に就て (上)(下)	石川 文吾	〃	12.13
大阪港の将来	直木倫太郎	2	2
街路鋪装工事と市財政	武居高四郎	〃	5
街道樹路論 (1)〜(3)	大屋 霊城	〃	7〜9
華城街樹私見	衣笠 滋三	〃	8
都市計画と河川改修及運河の開鑿	横浜 勉	3	7
道路の整理と路面の改修	山本辰五郎	〃	〃
路面電気軌道に関する私見	花井文太郎	〃	8
道路の改善と木敷道路	志賀 泰山	〃	9
都市計画の先決問題として地域設定を論ず	田中 清志	4	3
シカゴ貨物運搬用地下鉄に就て	清水 潔	5	8
道路問題の一考察	大藤 高彦	5	10
右？ 左？	田辺 朔郎	〃	11
都市建就の発達と都市計画	片岡 安	6	5
大都市の公園計画	崎田 鵬心	7	1
街路の拡張と惨害の緩和	関 一	〃	9
都市計画に於ける地域制	宮本 長治	〃	10
郊外の土地区劃整理に就て	加藤 善告	〃	12
家屋と道路に就て	チャールス・エッチ・タルボット	8	7
都市計画施行都市と其の区域問題	加藤 善吉	〃	8
街路樹に就いての研究	方 米治郎	〃	〃
市営苗圃及街路樹の定植	〃	〃	9
都市と現代的墓地園 (1)(2)	椎原 兵市	9	4.5
内容から見た我国の公園	方 米治郎	〃	〃
都市と現代的墓地園 (3)(4)	椎原 兵市	〃	6.7

第 4 部 門

自由空地	関　一	10	6
大阪市の道路瞥見	近藤　博夫	〃	〃
京阪神の交通に就いて	村山喜一郎	〃	〃
大阪市高速鉄道に就いて	清水　凞	〃	7
不良住宅地区の保健状況と改良問題	藤原九十郎	〃	8
不良住宅地区改良問題	岡崎早太郎	〃	〃
工業地域内特別地区のこと	加藤　善吉	〃	〃
都市と住宅問題	磯村　遠	〃	〃
ガルテンコロニーに就いて	大屋　霊城	〃	〃
大阪の橋に就いて	橋本　政吉	〃	9
街巷公園	井下　清	〃	10
都市の広場施設	方　米治郎	〃	〃
都市の建築と田園	竜井松之助	〃	〃
高速鉄道都市計画観	花井又太郎	11	1
都市問題より見たる港湾	松田　健作	〃	〃
大阪の大玄関に就いて	K　生	〃	3
〃	〃	〃	4
大阪の鉄道軌道	岡崎早太郎	〃	6
道路の耐久力に就いて	小山　九市	〃	11
震災時の公園の使命とその設計	椎原　兵市	12	2
住宅問題の世界的動き	上野伊三郎	〃	6
斯くあるべき地区　(1)	岡木　彰一	〃	7
24間道路と建築の関係　(1)	岡崎早太郎	〃	〃
都市計画より見たる都市の交通問題　(1)	内山新之助	〃	〃
交通の立体化	藤田進一郎	〃	〃
都市に於ける公園新設と受益者負担制度　(1)	溝江　五月	〃	〃
斯くあるべき地区　(2)	岡木　彰一	〃	8
24間道路と建築の関係(2)	岡崎早太郎	〃	〃
都市に於ける公園新設と受益者負担制度　(2)	溝江　五月	〃	〃
商店街と交通の問題		〃	9
将来の防火地区に就いて	玉田昇次郎	〃	12
都市計画と防火地区	内山新之助	〃	〃
防火地区建築の助成促進	光安梶之助	〃	〃
都市と学校計画	加藤　善吉	13	2
都心の風致	藤田進一郎	〃	4
都市風景の構成	大屋　霊城	〃	〃
待望せらるる大阪駅附近の新面目	加藤　善吉	14	3
都市小額収入生活者の住宅問題を中心として	川村種三郎	〃	4
都市と住地と住宅	加藤　善吉	〃	7
濠洲シドニー港対岸連絡計画に就いて	宮飼　克二	〃	〃
ラジオ・シチーの計画		15	4
大阪城趾の公園計画	椎原　兵市	〃	7
大阪駅前整理工事に関する建議案	法制委員会	15	12
都市の防火	片岡　安	16	8
都市の防空施設	中村　浜作	〃	〃
都市と不良住宅問題	新名　種夫	〃	〃
大成を期すべき我が都市公園	田村　剛	〃	9
都市の交通施設	伊藤　和文	〃	〃
大阪市の下水処理事業に就いて	島崎　孝彦	17	1
都市構築と新建築	加藤　善吉	〃	3
大阪市営公園の沿革と将来	大阪市公園課調査	〃	4
集合住宅の将来	奥田　譲	〃	6
神戸市改良住宅に就いて	〃	〃	〃
武装都市の建設	鳥井　信	〃	7
都市武装（懸賞論文第一等）	山口儀三郎	〃	〃
都市武装論（懸賞論文第二等第一席）	吉村　辰夫	〃	〃
明朗都市の建設	鳥井　信	18	1
通過交通路計画案(アメリカ)		19	3
TVAに依る町の改造計画案（アメリカ）		〃	〃
資源委員会の分散計画促進案(アメリカ)		〃	4
都市計画と住居問題	武居高四郎	〃	5
工業大都市の都市構築法と経済	ERICH KABEL 元吉勇太郎訳	〃	〃
地方計画の思想的背景	亀井幸次郎	〃	8
都市計画に対する施設及防火地区に於ける耐火建築物の促進、助成	加藤　善吉	〃	〃
米国に於ける州計画に就いて	尾崎　祐治	〃	9
ジードルング技術並に都市計画の観点より見たる大ベルリンの区域	菅　陸二	20	4
新計画令の原則とする都市拡張計画と空地保存の問題	ドクル・ユング・ウエンツエル 高橋寿男訳	〃	5
地方計画の一分力としての鉄道計画		〃	9
自治制五十周年を迎えて明日の大堺市へ企図	加藤　善吉	21	6
都市構築の基本形態	後藤　典夫	23	1
ロード・アイランド州南海岸地方に於ける再開発計画	星野　一雄	〃	4
大府の将来性	菅野和太郎	25	11
満州に於ける都市計画	桑原　英治	〃	〃
大学都市計画試案	塩原　正典	26	9
都市計画と建築取締	森田　康次	28	1
大阪港修理計画	堀　威夫	30	1
復興公園計画について	樺西　貞世	〃	〃
大阪市の地域	伊藤　甫	〃	〃
京都都市計画の展望	福林　点三	31	9
京都の広場	西山　卯三	〃	〃
都市の不燃化について	高橋竜太郎	33	8

都市不燃化の思い出と将来	中沢誠一郎	33	8

c 実　例

日本の都市	日高　胖	1	8
東京市大改造論 (1)〜(3)	片岡　安	2	1〜5
大阪市の電車交通に就いて	佐竹　三吾	5	12
移り行く大阪の偉観	内山新之助	6	1
小都市の目覚め(小松島を見て)	直木倫太郎	〃	〃
大阪の橋梁に就て	加藤　善吉	〃	3
中都市の計画(堺都市計画)	田中　清志	〃	4
大阪の運河と橋梁の改善に就て	横浜　勉	〃	12
セントルイス市に於ける地帯式都計条例	伊藤正文訳	1	12
紐育都市雑観	内藤　多仲	〃	13
テームス河 (上)(中)(下)	TN生　訳	2	3〜5
将来のシカゴ市	ZY生　〃	〃	6〜12
〃	〃	4	1〜9
都市計画に於ける精神的方面 (1)〜(3)	ZY生　訳	4	10〜12
アメリカの都市計画(1)〜(7)	〃	5	1〜7
世界三大都市之制度 (上)(中)(下)	石川　東一	5	10〜12
欧米の都市計画 (1)(2)	内山新之助	5	3.4
伯林郊外の発達に関する研究 (上)(中)(下)	関　一	5	5〜7
紐育市の人口	Z Y 生	6	3
初めて見た倫敦 (上)(下)	小川市太郎	〃	6.7
古代伊太利の都市計画	山邑　弘	〃	〃
紐育市歩羅都記	吉本　時介	6	7
北米の一都市から	山　邑　弘	〃	8
紐育の脅威されたる建築界	一　記　者	〃	9
シカゴ市の地域制	加藤　善吉	7	1
英国に於ける都市	S・K　生	8	9
効果ある土地区画整理（アメリカ）		19	2
我国最初の都市計画一団地の住宅経営	加藤　善吉	〃	5
Welvyn 田園都市の 宅地割種々相(イギリス)		〃	〃
大阪都市計画地域追加変更	加藤　善吉	〃	6
大阪駅附近都市計画事業について	福留　並喜	〃	9
交　通　島	吉田　信武	〃	10
田園都市 "Welvyn" の成功	前岡幹夫訳	20	9
大阪市地下鉄道新線に就いて	伊藤　和夫	21	6
大阪府下に於ける都市計画	松井清之助	〃	〃
St. paul に於ける区劃整理進捗する	ジョージ・エッチ・ヘロルド	〃	〃
パリ地方計画の概要	尾崎　祐治	〃	10
最大な近隣住宅地計画の工事着手さる		22	1
大阪市の防火改修事業に就いて	桐本　楠雄	25	10
神戸市の防火改修に就いて	吉野　新吉	〃	〃
兵庫県広畑新興工業都市計画	長沢　忠郎	〃	11
大阪市の区劃整理と住宅問題	井上　新二	28	9〜12
岡山市の戦災復興	佐藤　重夫	30	10

d 其 の 他

一事一想「都市計画の観方」			
税務行政の側から観た都市計画	楠木　正隆	3	4
路面と公園と交通機関	池松　時和	〃	〃
保健関係から観た都市計画	岩尾　次郎	〃	5
消防方面から観た都市計画	宮田　警視	〃	〃
交通問題から観た都市計画	岡　嵐信	〃	6
給水政策から観た都市計画	沢井　準一	〃	〃
都市計画と電気軌道	清水　凞	〃	7
都市計画と天物の保全	石原　保	〃	8
都市計画の基礎的問題	尾中　勝也	〃	9
都市計画と墓地	横浜　勉	〃	11
都市計画と屎尿処分政策	上林　慶喜	6	3
台北市の市区改正に就いて	野村　一郎	1	7
東京市区改正条例の改正		〃	〃
大阪市区改正に就いて	片岡　安	2	1
我国大都市改善の必要	渡辺　鉄蔵	〃	〃
都市改良問題	水野錬太郎	〃	〃
市区改正委員任命		〃	2
大阪市区改正事業の前途に就いて	片岡　安	3	〃
大阪市区改正計画に対して	安井　武雄	〃	4
大阪駅前都市計画事業に就き技術的一考察	本田　長次	18	11
都市と交通	森　忠一	19	2
「愛の設計図」の完成まで	新名　種夫	〃	〃
都市と防空	小倉　尚	〃	3
第十四回住宅問題及都市計画国際会議	吉田　信武 津田　文平	〃	〃
今日の都市—明日の住宅	南雲　義治	〃	5
漸く躍進せむとする名古屋	井上　新二	〃	6
都市計画欄		〃	〃
大阪昔時の地割を論す	佐古　慶三	〃	7
米国に於ける計画界最近の趨向	吉田　信武訳註	〃	〃
緑地帯都市	アルバート・マイヤー 亀井幸次郎訳	〃	〃
〃緑地帯都〃市の敷地計画		〃	10
国土資源局による州計画に関する緒言		〃	11
郊外区劃整理局による〃緑地帯都市〃案が無効を宣言さる		〃	〃
英国の帯状発展制限条例		〃	12

第 4 部 門

昭和11年度都市計画委員会調査研究報告都	都市計画委員会	19	12
都市計画に並考して都市防空要塞化を提唱す	古塚　正治	20	1
大阪港拡張計画	内山新之助	〃	3
都市と緑地の科学	横山三四次	〃	4
本邦都市住宅の改善の根本問題	平野　真三	〃	5
航空測量による地図成作に就いて	森口　清訳	〃	7
元鉄道構内敷が Oklahoma 市の都市中枢地となる		〃	〃
被洪水地に於ける住宅地開発としての対策		〃	〃
第一回全国都市美協議会概況報告		〃	〃
市域内及その周囲に於ける生産緑地	タマスアダムス	20	8
適地・立地・地代	中村　綱	〃	9
遊園地小感	杉江　直巳	〃	〃
国土計画奉仕機関に就いて		〃	〃
都市計画に於ける理論	西山　卯三	〃	10
第四回全国都市計画協議会情報	鳥井　信	〃	〃
大都市の保存地域に就て	ションエスランシル ジャコブクレーン	〃	11
適地とその限界性	高橋　寿男	〃	12
近隣計画委員会の示唆による斬新な土地（Real-Estate）開発	ウイリアムハートウエルハドロー	〃	〃
適地論と地域制との関係	中村　綱	21	2
都市計疑は何処へ行く	石川　栄耀	〃	5
革新への波動と都市計画	吉村　辰夫	〃	〃
自治制五十周年を迎えて明日の大堺市へ企図	加藤　喜吉	〃	6
Louisvile 市に於ける河辺地区改良計画	エッチダブリウアレキサンダー	〃	〃
チュリッヒと郊外市町村に関する建設計画と緑地	カールヒラベンメヤー	21	6
武装都市建設方法に就て	古塚　正治	〃	7
都市防空への道	宮田　秀穂	〃	〃
支那の都市防空		〃	〃
小都市の産業的自覚 (1)	アサエスノウルス	〃	〃
自動車の危険から安全なる住居地域		〃	〃
量よりも質のよい計画へ	HPハラル	〃	〃
都市人口の計画に対する新しいグラフ方法		〃	〃
リヴアプールの中央開発計画		〃	〃
小都市の産業的自覚 (2)	アサエスノウルス	〃	8
耕作技術的計画	ルドルフミユラー	〃	〃
大都市区域の開発	ジョーヂビウオタース	〃	9
ニューヨーク州新法令による土地区劃整理の制限化に就て	WDハイデッカー	21	9
軍事的見地より見たる都市の緑地に就て	白川　泰	〃	10
第六回全国都市問題会議報告書	中沢誠一郎	〃	12
都市工学と防空の結合の前吏	宮田　秀穂	22	2
都市の消火施設と水量	増井　敏克	〃	〃
有益な近隣計画		〃	〃
公益事業に於ける計画の有無		〃	〃
速度、保安、美を求める高架国道の設計		〃	〃
コンクリートの街路標識		〃	〃
美観審査委員会とその運用に就て	平野　真三	〃	3
公共的及商業的の価値を発揮し得る土地用途別図	亀井幸次郎	〃	5
未開地より建築敷地となすまでの土地開発費	後藤　典夫	〃	9
アメリカ都市計画家協会提供の映画 The City	星野　一雄	〃	10
市街地価再増進への一要素としての交通	〃	〃	〃
中学生によつて勧められた街路用紙屑籠	〃	〃	〃
緑帯都市が直面した1939年の出来事	亀井幸次郎	〃	12
農耕地帯システム	〃	23	2
都市美の為にする建築表彰	菊池　慎三	〃	5
都市美と自然美	川路　柳虹	〃	〃
都市美と建築・道路	今井　哲	〃	〃
都市の美観と風致に関する管見	田村　剛	〃	〃
都市美随想	島田　藤	〃	〃
都市の綜合的調和と諧律的美の創造	藤井　真透	〃	〃
都市美雑感	新名　種夫	〃	〃
都市美の催体性	宮脇　泰一	〃	〃
都市の美観と風致に関する問題	白川　泰	〃	〃
住宅論の社会的性格	奥井復太郎	〃	6
都市住宅の現状と産業住宅計劃への試み	亀井幸次郎	〃	〃
田園都市の共国的計画の問題	亀井幸次郎訳	〃	〃
都市美増進への規定とその組織	井上　新二	〃	8
農村より見たる都市問題	木村　靖二	〃	9
工業文化と都市	石川　栄耀	〃	〃
都市計画界の回顧と展望	中沢誠一郎	24	1
都市防空の貧困	堀　良吉	〃	3
都市防空の根本政策	難波三十四	25	6
防空的都市計画	山田　正男	〃	〃
支那都市の防空的素質	吉田　信武	〃	〃

防火改修実施上の諸問題	大野勝三郎	25	6
都市防空の目標	田辺 平学	27	1
大阪市の都市疎開に就て	山田 正男	〃	3
米国コネクチカット州に於ける「都市計画法指針」の刊行に就て	民間情報教育局提供	31	5
第4回「国土週間」実施要領	建 設 省	33	7

No. 12 災　　害

a 総　　論

欧洲西部戦線に於ける歴史的建築の破壊	谷本多喜治訳	1	4
廃墟の山累卵の東京	磯部鉄吉談	〃	7
災害防止と建築物の改善	片岡 安	5	8
破壊された帝都と其の復興	黒田 鵬心	6	10
〃	〃	〃	11
都市防備論	薬師寺主計	7	8
変災と救療設備	上村 行彰	〃	9
破壊は建設の始	黒田 鵬心	〃	10
木造建築の保存	松室 重光	11	8
災害と其予防漫談	池田 宮彦	〃	10
貸家建築と災害の予防	〃	12	8
名古屋都市計画防火地区	中沢誠一郎	13	9
現在都市に於ける木造建築の不安	池田 実	14	2
防空と都市及建築	古荘 幹郎	17	7
災害防備に関する根本省察	松室 重光	〃	11
非常時の都市と重要建築	波江 悌夫	〃	〃
災害と人の力	内藤 多仲	18	1
震害に鑑みて	葛野壮一郎	〃	〃
災禍の昭和13年	藤原 義一	21	12
日本の災害史とその対策	中野 吉称	31	8
建物の防災補修と老朽補修事業の経済的効果の推算	藤田金一郎	32	12

b 火　　災

都市大火の危険	片岡 安	1	1
匡技館災害視察報告（講演）	葛野壮一郎	〃	3
〃 （〃）	木子 七郎	〃	〃
神戸郵便局の火災に就て（〃）	波江 悌夫	〃	〃
安田倉庫の経験せる火災に就て	〃	〃	4
学校建築と火災	T N 生	〃	5
アメリカの花	伊藤正文訳	〃	8
消防瑣談	福原 金吾	2	4
都市大火に対する防備	片岡 安	〃	6
刹那的建築物焼失と国民性		〃	11
消防方面より見たる我国の家屋	緒方惟一郎	〃	12
彼と吾等防ばなし	郊 邨 生	4	7
都市と火災	編輯 同人	5	10
如何にして火災に因る損害を軽減すべき乎	内田 祥三	6	5
出火原因となるべき危険物品に就て	菅野 久一	〃	12
大火災の危難を伏蔵する我大阪市	土井 末吉	7	9
蘆分倉庫の爆発事件調査報告書	第四部災害調査委員会	1	1
天満青物市場災害調査報告書	〃	〃	2
三国セルロイド会社工場災害調査報告書	木子 七郎	〃	3
爆発に対する建物の強さ	倫敦タイムス月報	〃	4
三越呉服店災害調査報告書	第四部災害調査委員	〃	6
神戸市栄町に於ける火災に就て	〃	〃	10
府立大阪工業試験所の火災に就て	〃	〃	11
神戸市に於ける焼打事件に就て	第四部委員 H I 生	〃	12
横浜市大火罹火家屋に関する調査（A）		2	7
〃 （B）		〃	8
〃 （C）		〃	9
建築物に対する防火帯、防火地区の設定	大谷 順作	3	5
都市の防火問題	押本 重平	〃	6
防火構造と公営物建築	郊 邨 生	4	10
建築上の防火的施設に就て	田所 美治		
木造建築と耐火的処理	三浦伊八郎	5	3
防火地区の指定に就て	押本 重平	〃	4
防火地区に関して	大須賀 巌	〃	6
防火対策の第一義	広瀬 耕治	〃	10
防火地区の指定と建築費の補助に就て	園部 文雄	6	8
防火地域の設定に付て	宮本 長治	7	2
大阪市防火計画私案	島崎 孝彦	〃	9
防火宣伝号		6	2
高層建築と消火施設（冠頭言）			
火災防止の急務	片岡 安		
日本国民性と防火問題	松本文三郎		
火災防止に就て	土井 末吉		
防火地区に就て	中西 甚作		
火災に対する国民の自覚	小川市太郎		
建築よりする都市の防湾策	田中 清志		
火災保険から観た防火問題	大谷 順作		
都市火災の防備に就て	池田 実		
耐火的建築に就て	日高 胖		
高層建築の火災	葛野壮一郎		
大阪都市の火災分布	江村 郊邨		

第 4 部 門

古代伊太利の都邑計画の起源と防火的施設	Z Y 生		
防火と住宅敷地の選択	ひろし生		
帝都防火制の変遷	多奈加生		
倫敦大火の回顧	一記者		
防火宣伝展覧会に就て	堀居左五郎		
防火宣伝宣伝展覧会より	K・E		
「焼ける家」から「焼けぬ家へ」	黒田鵬心		
火災保険率協定案と倉庫建築		1	2
火災保険業者より見たる日本の建築	小沢増太郎	3	1
火災保険と都市計画	瀧谷善一	〃	10
火災保険と建築	長田岩次郎	4	4
〃	〃	〃	5
〃	〃	〃	6
応急消火器具に就いて	菅野久一	9	7
劇場火災に就いて	〃	10	5
大阪市大火分布図		〃	6
防火と建築	片岡安	〃	〃
火災防備と建築	土井末吉	〃	〃
都市の防火と耐火構造の建築	波江悌夫	〃	7
不燃質建築と火災	土井末吉	〃	〃
学校火災に就いて (一)	菅野久一	11	3
〃 (二)	〃	〃	4
建築防火と生活の安定	片岡安	12	12
防火建築の促進に就いて	日高胖	〃	〃
防火建築考察の重点	鷲尾九郎	〃	〃
最近の耐火建築の燃焼性と被害とに就て	尾崎久助	13	9
劇場及映画館の火災に就て	菅野久一	14	12
東京白木屋本店の火災		16	1
白木座百貨店火災の教訓	池田実	〃	2
防火か避難か	村野藤吾	〃	〃
時報		17	2
函館大火の跡を視察して	鳥井信	〃	5
函館市大火災の実地踏査をして	中沢誠一郎	〃	〃
函館大火に於ける不燃質建物の被害概況	〃	〃	〃
函館大火画報		〃	〃
大火に対する都市の防備	中沢誠一郎	〃	7
宝塚大劇場火災被害状況視察記	黒田茂、矢田鉄蔵、三浦倚吏	18	2
米国の大学に於ける防火教育	能美輝一	20	5
百貨店に対するスプリンクラーと自働火災警報装置	永野貞次	21	4
気の付かぬ大火災原因	〃	22	3
災害の調査に就いて	渡辺要	23	〃
災害地の復旧建築に就て	後藤米太郎	〃	〃
静岡大火に拾ふ	山越五郎	23	3
静岡の火災の跡を見て	井手正雄	〃	〃
静岡の大火と調査の綜合制	亀井幸次郎	〃	〃
静岡大火災調査報告	災害強度委員会	〃	〃
函館災害復興を省みて	島影岩次郎	〃	4
防火について	井上新二	24	9
焼夷弾と火災の特異性に就て	富田清	25	1
都市防火の根本対策	井上新二	25	6
家屋延焼の実体	空本吉造	〃	〃
火災の常識	川勝健二	〃	10
関西諸都市の防火診断	田辺平安	33	8
大火ということ	亀井幸次郎	〃	〃
都市の不燃化について	高橋竜太郎	〃	〃
都市不燃化の思い出と将来	中沢誠一郎	〃	〃
原爆と火災	奥田毅	〃	〃
大阪における防火建築促進について	竹口信夫	〃	〃
火災危険度測定法	菱田厚介	〃	〃
木造公共建物防火要領	文部省、日本火災学会、全国町村会	〃	〃

c 風水害

淀川の洪水と河村瑞軒		1	2
九州地方風害地を巡りて	田辺平学	13	9
台風関西を襲ふ	中島智喜	17	10
近畿大風水害の復興に就て	懸忍	17	11
学校建築風害に対する所感	白根竹介	〃	〃
大阪市の風水害と復興	関一	〃	〃
災害雑感	川畑清蔵	〃	〃
風水禍	葛野壮一郎	〃	〃
風伯の空襲と海襲とに依る教訓	池田実	〃	〃
台風水害の跡を視て	鳥井信	〃	〃
大阪大風害調査概況	大阪府都計課建築係	〃	〃
将来の学校建築	中沢誠一郎	〃	〃
吾等の採る可き途	山崎英二	〃	〃
京都市内の風害建築物に就て	和田甲一	〃	〃
関西地方大風水禍と大阪府営建物	川口一二	〃	〃
大阪市木造小学校の被害状況と大阪市木造校舎標準基準規矩画	富士岡重一	〃	〃
台風と高潮	前田末広	〃	〃
若し地震なりせば！	田辺平学	〃	〃
暴風と建築構造	武藤清	〃	〃
京阪地方風水害を視察して―主として大阪市内小学校の被害に就て―	十代田三郎	〃	〃
関西風害を視る	木村幸一郎	〃	〃

京阪両市風害小学校を視察して	滝本 義一	17	11
大阪市小学校風害所感	伊藤憲太郎	〃	〃
関西風水害の調査と対策	災害調査委員会	〃	〃
監督制度より観たる近畿風水害	山崎 英二	18	1
地震と台風	武藤 清	〃	〃
京都市水害状況視察報告	三浦 倘吏	〃	8
昭和10年6月29、30日大阪府下水害報告	松井清之助 元吉勇太郎	〃	12
豪雨による大阪府下再度の水害9月2日堅下村の水禍	中井新一郎、元吉勇太郎	勾坂弘美、〃	〃
災害忘備録	亀井幸次郎	19	4
阪神地方水害座談会		21	8
阪神地方水害調査報告	災害強度委員会	〃	9
阪神地方水害調査報告（第2報）	災害強度委員会	〃	10
阪神地方水害調査図		〃	12
ジェーン台風に依る大阪府下建築物被害調査報告	大阪府建築部指導課	32	2
ジェーン台風に依る京都府の被害	京都府建築部調	〃	〃
〃 尼崎市の被害	尼崎市建設部河港課調	〃	〃

d 地　震

地震と家屋	対馬吉三郎	3	10
関東大震火災特輯号		6	10
大阪都市大震災の記録			
関東大震災の被害に就て	片岡 安		
震災後に於ける東京市復興に関する意見	武田 五一		
大震災に対する都市の計画	田辺 朔郎		
関東震災後の大阪市の為めに	伊藤 正文		
大自然と我等技術家	大井 清一		
破壊された帝都と其の復興	黒田 鵬心		
樹木の防火的価値	大屋 霊城		
日本震災史考	江村 郊邨		
東京は何故亡んだか	谷 民蔵		
横浜の廃墟を踏破して	池田谷久吉		
大震災後の箱根を越えて	岡本 茂樹		
後世へ史家へ	叟 葉		
関東震災の教訓	片岡 安	6	11
木造建築と震災	本野 精吾	〃	〃
関東震災より得たる教訓と将来の防災	古宇田 実	〃	〃
震害に対する煉瓦建築と木造建築	小笠原 鈅	〃	12
関東震災に目覚め大正維新の実を挙げよ	片岡 安	7	1
都市生活と震害防止	渡辺 鉄蔵	〃	〃
関東の震災を見て	藤井 厚二	7	1
形式上の復興と同時に精神上の復興を要す	園部 文雄	〃	〃
今後の地震には如何に処すべきか	今村 明恒	〃	〃
木造家屋の研究を進むの要なきや	大屋 霊城	〃	〃
非常時の設備	武田 五一	〃	〃
関東方面震災被害視察日誌(一)	小川安一郎	〃	〃
〃 (二)	〃	〃	2
〃 (三)	〃	〃	3
〃 (四)	〃	〃	4
震災と都市問題雑記 (一)～(四)	楠原祖一郎	7	2～5
震災後の桑港と帝都の新計画に就て	津田 鑿	〃	3
復興他話糊塗	本多 二郎	〃	〃
大震災以来の我国民の態度に就て	片岡 安	〃	4
地震と耐震建築	無漏 樹林	〃	〃
〃	〃	〃	5
〃	〃	〃	6
〃	〃	〃	7
耐震構造に対する一考察	内藤 多仲	8	5
震災と地震	須田 皖次	〃	7
毀れぬ先の用意	古塚 正治	〃	〃
但馬地方の震災	松本儀八他二名	〃	〃
但馬地方の震災による建築物の被害状況	田辺 平学	〃	〃
地震と大阪市	松山 基範	〃	8
地震の予防と震災の軽減	須田 皖次	〃	10
帝都復興の現状に就て	葛野壮一郎	7	7
バラックに光る初夏の東京	楠原祖一郎	〃	〃
関東震災の一週年に際して国民の自覚を望む	片岡 安	〃	9
復興東京の根本問題と震災の追憶	楠原祖一郎	〃	〃
国民は覚めたるか	大須 賀巌	〃	〃
国家の存亡と震火災の応対策	片岡 安	8	7
北丹後地方震災実況（写真）		10	4
大阪地方震災分布図		〃	〃
北丹後地方震災分布図		〃	〃
震災軽減の方策を講ぜよ	片岡 安	〃	〃
地震と家	波江 悌夫	〃	〃
丹後地方震災の実地を踏査して	増田 清	〃	〃
奥丹後地震災害調査報告	黒田 茂	〃	〃
丹後の震災と但馬の復興を視て	中島 智喜	〃	〃
北丹後震災見聞記	八木幸次郎	〃	〃
奥丹後地震による大阪附近に於ける被害状況	（災害部委員会）	〃	〃

第 4 部 門

震度といふ言葉に就いて	増田 清	10	7
地震の時の心得	今村 明恒	11	9
地震と建築	日高 胖	〃	11
震災軽減の急務	片岡 安	12	2
震災予防と日本建築協会の使命	佐野 利器	〃	〃
都市計画の基礎としての地震学的調査	松山 基範	〃	〃
地震国に建てる家と住む人の覚悟	池田 宮彦	〃	〃
地震と火災	土井 末吉	〃	〃
我国の震災の歴史		〃	〃
過去の大地震から見て大阪の地盤は何処がよいか		〃	〃
安政頃の地震の研究		〃	〃
近畿地方地震活動に就いて	今村 明恒	12	2
紀伊半島に於ける漫性的並に急性的地形変動に就いて	〃	〃	9
南海地動研究所現況報告		13	8
豆相地方大震災視察報告	川口、落藤、三浦	14	1
豆相地方震災地巡礼記	巽 純一	〃	〃
伊豆地震に於ける地盤変動に就いて	小川 琢治	〃	2
宝永安政両度の大震と大阪	江波 悌夫	〃	〃
最近に於ける京阪地方の地塊運動に就いて		〃	3
地震と台風	武藤 清	18	1
静岡地方震災調査報告	山田 誠 中井新一郎	〃	8
昭和11年2月21日大阪府下震災調査報告	災害強度委員会	19	4
南海地動研究所現況報告	南海地動研究所	〃	6
福井烈震の教えるもの	松山 久春	30	1
地震と神戸	高木 聖	〃	6
京都市建物の現状	松井清之助	〃	8
地震とその対策の常識(1)〜(3)	災害委員会	31	10〜12
〃 (〃)	〃	32	1

e 其 ノ 他

雪と建築	木子 七郎	1	5
家白蟻の予防撲滅法に就いて	城島 徳市	9	4
大阪海岸線の変遷と西大阪の地盤	池田 宮彦	10	7
航空機の発達と都市の建築	片岡 安	11	7
航空機の発達と建築	武田 五一	〃	〃
防空都市構成と建築	渋谷 大佐	〃	〃
航空と建築	八木幸次郎	11	〃
防空都市	四凸子	〃	〃
白蟻の駆除及その予防法	伊藤 元	12	9
石川県下某セメント工場貯蔵塔崩壊調査	林 豪蔵	〃	12
都市と防空	小倉 倚	15	3
地下鉄と国防	花井又太郎	〃	〃
最近火砲及投下爆弾と其破壊威力	小倉 倚	〃	〃
飛行機の現状と其爆撃力に就いて	佐々木達治郎	〃	〃
満洲事変と国防	中村 浜作	〃	〃
盗賊と建築	青柳 憲五	17	5
防盗座談会記	住宅委員会	〃	〃
ガラス破壊実験報告	岡田 孝男	〃	〃
本年度に於ける災害研究報告	災害強度委員会	18	12
災害に関する民家への現れ	大熊 喜邦	21	11
旬街座事件の技術的解剖と其対策	田上 善吉	〃	〃
火災実験前奏曲	亀井幸次郎	〃	〃
空襲、火災、防火工学 (1)	藤田金一郎	22	7
工事場の災害予防問題	熊谷 兼雄	〃	〃
吾等の立場より見たる災害	杜 貞雄	〃	〃
災害に関する座談会	1 2 氏	〃	〃
毒瓦斯について	関谷 房春	〃	10
防災委員会を組織せよ	山口 正	23	4
簡易生命保険の保健施設に就いて	佐藤 重夫	25	1
実爆演習関係技術者座談会		〃	2
鳴尾に於ける実焼夷弾投爆自衛消防演習に就いて	演習本部調査班	〃	〃
逆瀬川実爆演習報告書	〃	〃	3
投下爆弾痕調査報告書	調査神戸市役所	〃	〃
逆瀬川実爆演習煉瓦造家屋調査写真	日本建築協会	25	4
煉瓦造家屋調査報告書	〃	〃	〃
木造家屋実験報告	大阪府兵庫県建築課	〃	5
逆瀬川実爆演習木造家屋実験写真		〃	〃
〃 硝子実験写真	大阪府建築課日本建築協会	〃	6
爆風による硝子の破壊状態実験	〃	〃	〃
逆瀬川実爆弾投下演習に於ける各種供試体の被害状況	演習本部調査班	26	5
大型焼夷弾実験	竹田佐平治	〃	6
建造物樹木の強敵白蟻に就いて	前田 保次	32	5

No. 13 座 談 会

新建築に就いて	〃	9
博覧会座談会	〃	12
レストラン・カッフェー座談会	12	3
郷土建築座談会	14	5
新興建築座談会	〃	7
「建築より見たる都市の諸問題」座談会	〃	8

「朝日ビル」と「阪急ビル」とを語る		15	2
特輯三建築を主題として		〃	7
片岡氏を中心とする座談会		〃	9
その頃を語る座談会		〃	10
協会の将来を語る座談会		〃	〃
東京白木屋百貨店火災の座談会		16	2
住宅及土地経営に関する座談会		〃	4
日本建築協会建築学会、懇親晩餐会卓上演説		17	1
防盗座談会	住宅委員会	〃	5
防凧方法に就いての座談会概要録	住宅委員会	〃	〃
住宅と防湿防風に関する座談会	住宅委員会	〃	6
便所の改良に就いての座談会記		〃	8
住宅に於ける防暑に対する座談会記		〃	〃
防虫に対する座談会概要録	住宅委員会	〃	12
住宅に於ける防風防火に対する座談会概要録	住宅委員会	〃	〃
関西風水害に関する建築通俗講演会		18	1
〃新大阪ホテル〃の建築を語る夕		〃	3
大阪株式取引所の建築を語る		〃	6
〃京都朝日会館〃の建築を語る		〃	〃
住宅構造座談会記録	住宅委員会	〃	12
大阪の都市美座談会		19	1
建築と社会とを語る座談会		20	3
大工徒弟問題並に資格検定制に関する座談会		21	4
阪神地方水害座談会		〃	8
市街地建築物改正に関する座談会		22	3
満洲の建築事情を訊く（座談会）		〃	4
「建築材料代用品及び新材料」座談会		〃	5
婦人より見た建築に関する座談会		〃	6
災害に関する座談会	1 2 氏	〃	7
「あるぜんちな丸」を語る座談会	1 4 氏	〃	8
技術者の養成並に補充に関する座談会		〃	11
大阪を中心とした郷土建築座談会		23	10
防空に関する座談会		24	5
菖蒲池・厚生住宅展・懸賞設計入選佳作図案の批評座談会		〃	10
「これからの住宅」を語る座談会		〃	〃
建築資材の統制並に新興建材に関する座談会		〃	〃
実爆演習関係技術者座談会		25	2
「南方事情を語る」座談会		〃	3
「25年回顧と変遷を語る」座談会		〃	5
「建築界の将来を語る」座談会		〃	〃
和田君を偲ぶ座談会	恒岡（記）	〃	7
「防空建築と耐火木材に関する」懇談会		25	8
これからの建築はどうあるべきか		29	2
同上	（続）	〃	3
建築材料に関する座談会		30	4
建築に附帯する諸設備座談会		〃	5
鉄筋の共同住宅に住んでみて座談会		〃	9
名古屋の建築を語る座談会		31	3
女子学生座談会		〃	4
京都の新建築を批評する座談会		〃	9
建築若人の座談会（建材と設備の立場より）		33	5
〃	（設計者の立場より）	〃	〃
「羽衣住宅展」座談会		〃	12
「これからの住宅展モデルルーム出品者座談会」		〃	〃
「これからの建築技術の学校教育はどうあるべきか）座談会	（第1回）	34	2

No. 14 特　　輯

ビルディング号	9	1
震　災　号	10	4
庭園と建築号	〃	10
都市問題号	11	1
航空と建築号	〃	7
建展特輯号	〃	10
博覧会建築号	〃	12
御大礼記念号	12	1
震災予防号	〃	2
レストランとカッフエー号	〃	3
郷土建築号	〃	4
小住宅研究　第一集	〃	5
〃　第二集	〃	6
都市美観号	〃	7
貸家建築とアパートメント号	〃	8
商店建築号	〃	9
材泉と庭園号	〃	10
照明暖房・衛生研究号	〃	11
防火建築号	〃	12
建築大観号	13	1
学校建築	〃	2
ホテルと倶楽部	〃	3
建築と風致	〃	4
住宅の様式・装飾・設備	〃	5
郷土建築	〃	6
木造建築の将来	〃	7
明日の建築	〃	9
耐震耐火建築の普及	〃	10

第 4 部 門

工場と倉庫		13	11
銀行と事務所		〃	12
建築工事とその材料		〃	13
震火災と建築号		14	2
保健と建築号		〃	3
小住宅号		〃	4
郷土建築号		〃	5
建築と実務号		〃	6
新興建築号		〃	7
建築と都市問題		〃	8
住宅		〃	9
小売店百貨店		〃	10
映画館		〃	11
劇場		14	12
高層建築		15	1
最近建築研究 Ⅰ		〃	2
国務と建築		〃	3
最新世界建築論説		〃	4
建築法規		〃	5
実用小住宅		〃	6
最近建築研究 Ⅱ		〃	7
郷土建築		〃	8
建築構造		〃	9
創立満十五年記念号		〃	10
最近建築研究 Ⅲ		〃	11
常設委員会昭和七年度調査研究報告		〃	12
百貨店の防火		16	2
住宅号		〃	4
社会事業建築		〃	5
新興建築		〃	6
新建築集		〃	7
都市計画 1		〃	8
〃 2		〃	9
学校建築		〃	10
満洲建築		〃	11
常設委員会昭和八年度調査研究報告		16	12
国防の将来と都市武装	林 銑十郎	17	7
将来戦と武装都市	植田 謙吉	〃	〃
防空と都市及建築	古莊 幹郎	〃	〃
近畿防空演習に就いて	寺内 寿一	〃	〃
近畿防空演習の計画に就いて	井関 隆昌	〃	〃
都市の武装	県 忍	〃	〃
近畿防空演習と大阪市の防護に就いて	関 一	〃	〃
都市の発展を堅実にせよ	片岡 安	〃	〃
本年の防空演習につきて	武田 五一	〃	〃
都市武装促進に関する対策案	池田 実	〃	〃
都市の武装構築に就いて	波江 悌夫	17	7
空に対する都市の備え	富士岡重一	〃	〃
武装都市の建設	鳥井 信	〃	〃
大火に対する都市の防備	中沢誠一郎	〃	〃
都市武装（懸賞論文第一等）	山口儀三郎	〃	〃
都市武装論（懸賞論文第二等第一席）	吉村 辰夫	〃	〃
都市武装に就きて（懸賞論文第二等第二席）	田中 進	〃	〃
都市武装計画論（懸賞論文第三等第一席）	横田 実	〃	〃
護れ！我等の都市を（懸賞論文第三等第二席）	平野 一男 四方 靖郎	〃	〃
都市の防空と武装計画（懸賞論文第三等第三席）	大井弘治郎	〃	7
都市武装に就いて（懸賞論文佳作）	亀井幸次郎	〃	〃
都市武装促進運動に対する本協会の事業(1)		〃	〃
〃	(2)	17	8
住宅問題の笑論を測る調査	亀井幸次郎	19	5
都市計画と地方計画	片岡 安	〃	8
都市計画より地方計画へ	中沢誠一郎	〃	〃
都市計画—地方計画—国土計画	吉村 辰夫	〃	〃
地方計画「夜明け前」	中村 綱	〃	〃
地方計画の思想的背景	亀井幸次郎	〃	〃
都市計画地域に対する施設及防火地区に於ける耐火建築物の促進助成	加藤 善吉	〃	〃
大阪衛星都市に於ける工場調査	都市計画大阪地方委員会	〃	〃
オリンピヤ祭の競技	原 随円	〃	10
古代希臘の競技と競技場	森田 慶一	〃	〃
オリンピヤスおぼえがき	滝沢 真弓	〃	〃
オリムピア大祭とオリンピック雑考	中尾 保	〃	〃
オリンピック競技施設に就いて	小林 政一	〃	〃
建築と宣伝	田 誠	〃	〃
オリンピック大会に際して建築家に望む	木下 東作	〃	〃
ベルリンオリンピック村計画について	和田 登	〃	〃
ガルミッシュパルテンキルヘンに於ける冬季オリンピック競技及び建築施設	勾坂 弘美	〃	〃
オリンピック東京招致と市庁舎問題	亀井幸次郎	〃	〃
オリンピックと大阪	小泉嘉四郎	〃	〃
オリンピックと大阪	本多 正道	19	10
オリンピツクに主張する	松沢 一鶴	20	11
日支事変とオリンピツク東京大会	岸田日出刀	〃	〃
オリンピツク競技場として外苑改造に就いて	小林 政一	〃	〃

オリンピック芸術競技に就て	石原 憲治	20	11
東京オリンピック村の一試案	小宮 賢一	〃	〃
オリンピック施設駒沢案		21	6
建築構造強度計算法に於ける諸問題	飯島 猛夫	19	11
新土質力学の実際計算上への二三の応用に就いて	山口 昇	〃	〃
新基礎調査法と其の応用実例	渡辺 貫	〃	〃
建築物に於ける風圧荷重	池口 凌	〃	〃
安全率の問題	棚橋 諒	〃	〃
木造二鉸迫持の実施に就いて	原田 有 塘崎仲太朗	〃	〃
木造建築の合理的設計法	巽 純一	〃	〃
組立工場を兼ねた長径間飛行機格納庫2題	青柳 貞世	〃	〃
飛行機格納庫建設に要する鉄骨量の経済限度	高梅 太郎	〃	〃
最近に於ける建築工事の電弧熔接に就いて	平野 忠雄	〃	〃
ラーメン計算の力学意味	横田 道夫	〃	〃
大阪市の営繕事務に就いて	富士岡重一	20	10
市に於ける営繕事務経営	小野 二郎	〃	〃
建築士と官庁建築技術者	堀越 三郎	〃	〃
鉄道省所管建築物と営繕事務	坂本 鎮雄	〃	〃
復興建築助成株式会社の業績とその批判	小林 隆徳	〃	〃
復興建築助成会社の技術的事務に就いて	平林 金吾	〃	〃
建築行政事務に関する二三の問題に就いて	内藤 亮一	20	10
原動機の取締に就いて	井上 新二	〃	〃
建築事務所に於ける設計事務	池田 宮彦	〃	〃
建築計算事務所の業務	織本道三郎	〃	〃
建築工事現場の事務的組織大要	芝田 知重	〃	〃
建築技術者と国民徴用令	大島 二郎	22	10
建築技術者の不足と国民徴用令	伊藤 滋	〃	〃
建築技術者の徴用に就いて	山田 守	〃	〃
徴用令と建築家の大陸開眼	吉村 辰夫	〃	〃
建築徴用所感	中山 元晴	〃	〃
建築技術者と国民徴用令	新名 種夫	〃	〃
事変と建築家	山口 正	23	2
建築行政と都市構築	菅 陸二	〃	〃
満洲国建築展望	渡 苅雄	〃	〃
災害の調査に就いて	渡辺 要	23	3
災害地の復旧建築に就いて	後藤米太郎	23	3
静岡大火に拾ふ	山越 五郎	〃	〃
静岡の大火と調査の綜合性	亀井幸次郎	〃	〃
静岡の火災の跡を見て	井手 正雄	〃	〃
静岡大火災調査報告	災害強度委員会	22	10
阪神間に家を建てる人の為めに	浅野 新一	23	3
都市美の為にする建築表彰	菊池 慎三	23	5
都市美と自然美	川路 柳虹	〃	〃
都市美と建築・道路	今井 哲	〃	〃
都市の美観と風致に関する管見	田村 剛	〃	〃
都市美随想	島田 藤	〃	〃
都市の綜合的調和と諧律的美の創造	藤井 真透	〃	〃
都市美雑感	新名 種夫	〃	〃
都市美の全体性	宮脇 泰一	〃	〃
都市の美観と風致に関する問題	白川 泰	〃	〃
事変下の住宅問題	新居善太郎	23	6
住宅問題と大阪	滝山 良一	〃	〃
住宅論の社会的性格	奥井復太郎	〃	〃
住宅改善問題	菱田 厚介	〃	〃
家賃よる見たる不動産価格構成の2法則	小田 勝	〃	〃
住居生産寸論	山田 守	〃	〃
強力なる住宅政策を翹望す	小林 隆徳	23	6
住宅題題と建築家	中山 元晴	〃	〃
住宅の思ひ出	石井 桂	〃	〃
満洲に於ける住宅供給の実際	荘原 信一	〃	〃
国民住居の標準	高山 英華	〃	〃
台湾に於ける住宅の質の問題	中村 綱	〃	〃
厚生運動の技術分野に於いて	伊藤 正文	〃	〃
景気変動の住宅企業に及ぼす影響に就いて	小宮 賢一	〃	〃
住宅建築と都市構築	池田 凌	〃	〃
労務者住宅計画に就いて	政岡 基次	〃	〃
郊外生活片言	木村 浩	〃	〃
都市住宅の現状と産業住宅地計画への試み	亀井幸次郎	〃	〃
昭和十五年五月落成の四天王寺五重塔に就いて	天沼 俊一 政岡 基次	23	7
言葉より見たる「塔婆」	滝沢 真弓	〃	〃
讃仰	村田 治郎	〃	〃
再建成る四天王寺五重塔	藤原 義一	〃	〃
四天王寺再建五重塔について	吉村 孝義	〃	〃
工外建築の2つの行き方	東畑 謙三	23	8
工場の換気問題	佐藤 鑑	〃	〃
熔接を用ひて建てた工場建物	池田 宮彦	〃	〃
工場換気に就いての1・2の知見	伊藤 正文	〃	〃
工場の防空施設に就いて	竹内佐平治	23	8
工場建築の採光換気種々相	今井 忠	〃	〃
欽県の建築に就いて	木村 美雄	〃	〃
琉球の民家	辺 泰	23	1011

第 4 部 門

郷土色の美		津田	23	10
建築と郷土性		小倉 強	〃	〃
越前の一古民家		城戸 久	〃	〃
都市と厚生施設		田村 剛	23	12
大阪市の煤煙防止運動		下田 吉人	〃	〃
工場厚生施設と厚生運動		大塚 好	〃	〃
大阪市の厚生施設		竹内 政治	〃	〃
名古屋市の2つの厚生施設		疋田 武二	〃	〃
都市建築郡体の疎開		宮田 秀穂	〃	〃
「国民住居」の提案		旗 咲平	〃	〃
共同住宅	特集		24	2
防火改修	〃		〃	3
住 宅	〃		〃	4
防 空	〃		〃	5
神社建築	〃		〃	6
城 郭	〃		〃	7
南洋建築	〃		〃	9
修 練 場	〃		〃	9
これからの住宅	〃		〃	10
木 構 造	〃		〃	11
防空、防護室	〃		〃	12
厚生施設	〃		25	1
実爆演習	〃		〃	2
都市防火	〃		〃	6
防 空	〃		〃	7
防火改修	〃		〃	10
都市計画	〃		〃	11
最近の住宅問題	〃		〃	12
古 建 築	〃		26	3
木造建築保持	〃		〃	4
協同施設	〃		〃	5
戦時建築	〃		〃	6
建築材料取得概要	〃		〃	7
夏の住居	〃		〃	9
古典建築	〃		〃	11
演 芸	〃		〃	12
新興木構造	〃		27	2
休 刊	〃			
再 刊	〃		29	1〜2
設計、論文懸賞	〃		〃	3〜5
住 宅	〃		29	1
復興大阪	〃		30	1
法 隆 寺	〃		〃	3
建築材料	〃		〃	4
神 戸 市	〃		〃	6
京 都 市	〃		〃	8
九州北方住宅問題	〃		30	9
中国地方 〃	特集		〃	10
観 光	〃		〃	11
建築教育	〃		〃	12
建築界展望	〃		31	1
建材界展望	〃		〃	2
住宅の合理化	〃		〃	3
博 覧 会	〃		〃	5
九州地方	〃		〃	6
各種構造施工法	〃		〃	7
建築と法制	〃		〃	8
京 都 市	〃		〃	9
学校建築	〃		〃	10
体育施設	〃		〃	11
兵 庫 県	〃		〃	12
寒地建築	〃		32	2
住宅設備	〃		〃	3
アメリカ	〃		32	4
和 歌 山	〃		〃	5
志摩観光ホテル	〃		〃	7
建 築 界	〃		〃	8
建築材料	〃		〃	9
古 建 築	〃		〃	10
設計業界	〃		〃	11
建築経済	〃		〃	12
建築設備	〃		33	1
工場建築	〃		〃	3
放送施設	〃		〃	4
建築若人の座談会	〃		〃	5
広 島 県	〃		〃	6
沖 縄	〃		〃	7
都市不燃化	〃		〃	8
新 設 備	〃		〃	9
法 隆 寺	〃		〃	10
産経会館	〃		〃	11
これからの住宅	〃		33	12

No. 15　雑

a 評　論

大阪北区大火と倫敦大火
（「都市と建築」大正7年2月1輯4号にあり）

安政元年の関西・同二年の江戸の地震
（「都市と建築」大正7年3月1輯5号にあり）

米国の火災損害高
〃

明暦・三年江戸大火の記
（「都市と建築」大正7年6月1輯8号にあり）

住宅問題と田園都市　A～D	三宅	勘一	2	7～10
都市住宅の建設に就て　上下	片岡	安	〃	8, 9
大都市の建築物　(A)(B)	佐野	利器	3	3, 4
都市建築勃興の大勢　上, 下	片岡	安	〃	4, 5
新都市の建設	江村	郊邨	〃	〃
都市の改善　上, 下	片岡	安	4	6, 7
都市改良の財源	渡辺	鉄蔵	〃	8
分散主義の都市建築	関	一	5	1
集中主義の都市建設	〃		〃	2
都市民の自覚を望む　上, 下	片岡	安	〃	4, 5
進め過群より花園へ	大屋	霊城	6	1
将来の都市建築	武田	五一	〃	11
国際市の実現	太田	寛吾	7	6～8
都市美観の生産的価値	西村	健吉	8	1
都市美学	稲津	圭之	〃	2
都市悪の拒否	別所	悌一	〃	4
都市を巡る風、音、句	青山	しげき	〃	5
大都市は斯く膨脹すべきである	方米	治郎	〃	12
大阪都市生活の矛盾と其建築行政	池田	宏	3	11
都市生活と住宅	片岡	安	4	3, 4
現代の自治生活　上, 下	後藤	新平	〃	8, 9
日本の郊外生活	小川市太郎		5	7
現代科学に伴はぬ我国民の性癖	谷	民蔵	7	1
技術家とは何ぞや (上)(下)	直木倫太郎		1	8, 9
建築技術家の社会に対する責務	片岡	安	〃	10
軍備と文化　(上)(中)(下)	渡辺	鉄蔵	2	6～8
節約と文化事業	葛野壮一郎		5	10
奈良朝の文化	佐藤	小吉	〃	12
米国建築界の同盟罷業に就て　A, B	本田	登	〃	8, 9
建築家の社会的地位	片岡	安	〃	6
建築の経済観	片岡	安	1	2
国防上より観たる都市の防備	〃		〃	3
建築の職業と其の技術に就て	日高胖抄訳		〃	11
都市の心理的基礎	賀川	豊彦	2	2
都市学理的完成の必要	阪谷芳郎談		〃	4
建築改善と土地所有権の制限	片岡	安	5	1
裸体建築を提唱す	伊藤	正文	7	2
使用者側よる観たる現時の建築	広田	精一	〃	5
営繕事務統一に就て	葛野壮一郎		〃	11
貯蔵と建築	松井	清足	8	1
借家賃昂騰原因としての粗造家屋	渡辺	鉄蔵	〃	4
借 島 難	津田	鑿	〃	〃
続借家難	〃		〃	11
地方高等女学校に於ける「住」の教育に就いて	佐藤	功一	9	3
構造美の実際問題	伊藤	正文	〃	4
古建築と木材　(一)	江崎	政忠	〃	〃
古建築と木材　(二)	江崎	政忠	〃	6
ゴシツク芸術　(上)	柳	宗悦	〃	8
ゴシツク芸術　(下)	柳	宗悦	〃	9
五十年前の米国建築界 (一)	葛野壮一郎		〃	〃
五十年前の米国建築界 (二)	葛野壮一郎		9	10
建築物の彫刻	古塚	正治	〃	〃
朝日会館	中尾	保	〃	〃
五十年前の米国建築界 (三)	葛野壮一郎		〃	11
室内建築の真理	本野	精吾	10	1
大正建築界の回顧	黒田	鵬心	〃	2
昭和時代の建築観	八木幸次郎		〃	3
住宅の不良化	藤田進一郎		〃	6
河岸地の利用と建築	池田	実	〃	9
大阪橋名考	佐古	慶三	10	9
大正より昭和の建築と社会	八木幸次郎		11	12
我等が父祖の建築文化記念物を保存せよ	本間	乙彦	〃	3
露西亜に於ける建築運動	JEAN BADOVICI		〃	4
高火鉄道を防火壁に	塩	都生	〃	5
大阪城天主閣再建に就いて	佐藤	佐	〃	10
飛行機より見たる建築と社会 (一)	下浦	光衛	〃	11
昭和の新時代と我建築界	片岡	安	12	1
御即位の大礼と建築	同		〃	〃
昭和の即位大典に際して	武田	五一	12	1
旧大阪近郊に於ける郷土建築の一種	葛野壮一郎		〃	4
京都の建築	大倉	三郎	13	1
建築と風致	片岡	安	13	4
同	本多	静六	〃	〃
同	関口鉄太郎		〃	〃
風景美より建築を見る	井下	清	〃	〃

第 5 部 門

風景地の建設物に就て	椎原 兵市	13	4
建築と風景と造園	田村 剛	〃	〃
木造建築の将来	岸田日出刀	〃	7
同	天沼 俊一	〃	〃
耐震耐火建築の普及	片岡 安	13	9
震火災保険	光安梶之助	〃	〃
工場と倉庫の形式美に就いて	伊藤 正文	〃	10
建築材料の回顧	中村達太郎	13	12
科学的建築へ	田辺 平学	14	1
地雨と建築	日高 胖	〃	2
地震国日本の建築	武田 五一	〃	〃
耐震上より見たる木造建築物	落藤 澄吉	〃	〃
大阪城天守閣再建と豊公	徳政 金吾	〃	11
復興大阪城天主閣に就いて	富士岡重一	〃	〃
大劇場主義か中劇場主義か	坪内 士行	〃	12
経済的観察を主としたる将来の高層建築	村山 長挙	15	1
高層建築は何処迄伸びる？	田辺 平学	〃	〃
小住宅問題雑考	南 信	〃	6
満洲建築界を顧て内地建築家に望む	岡 大路	16	11
空襲と都市の建築（朝日会館に於ける講演）	波江 悌夫	19	1
大日本の建築	市浦 健	22	1
満洲的建築	白石 博三	〃	2
忠霊塔ほか2題	新名 種夫	23	4
新東亜を建築す	大須賀 巌	23	11
アパート建築と造園	白川 泰	24	2
建築技能工界の現状及将来	鈴木忠五郎	25	5
日本建築家の模倣する力と創作する力	山田 守	〃	9
建築とジヤーナリズム	安孫子三雄	〃	12
技術者の練成	田中 弥	〃	〃
建築界の新体制とこれからの請負制度	島田 藤	26	2
建築工員の養成	本多 正道	〃	7
遊休家屋の利用更生	草一 路	〃	9
中支建築ことども	富田 清	〃	12
建築行政と生産増強	堀井 啓治	27	3
戦時規格と木造建築	大井弘治郎	〃	〃
アメリカ建築の性格	棚橋 諒	28	1
復興新住宅に就て	塚本 猛次	〃	〃
復興大阪を観る	井上吉次郎	30	1
建築に真を求める	藤島亥治郎	〃	2
都市復興と建築家の責任	神田 省三	〃	6
学制改革と建築学科	白石 博三	〃	12
或婦人服デザイナーと建築家の対話	飯田精次郎	31	1
神戸博と建築物	河合 正一	31	5
わが建設業界に危機来る	木下 清司	31	9
建築教育は如何に行わるべきか	堀口 捨吉	32	1
金融界から見た建設業について	田辺 信	〃	12
建築経済	都藤希八郎	〃	〃
建築家の地位と責任（法隆寺再建工事を巡つて）	中村 鋼	33	10

b 資料統計

建築材料及工手間調査	建築業協会関西支部	1	13
労銀及建築材料価格並指数表	〃	〃	14
世界鉄道沿線の森林概況	谷 民蔵	3	1
大阪市都市計画参考資料（1～9）		3	4～12
失業救済事業と建築	鳥居 信	14	5
台所改善資料としての調査	鷲井 清子 角 静子	〃	9
劇場建築に関する文献録	佐藤 武夫	〃	12
電気熔接に就ての部分報告	災害強度委員会	15	〃
版画に残れる郷土建築資料（堺玉県の一部）	堀越 三郎	18	7
大阪市内工場通勤者距離表	吉田 信武	19	6
建築工事の季節的変動	広瀬 初夫	20	5
和歌山県庁舎基礎地耐力試験	増田 八郎 坪井 善勝	20	7
オランダ水槽塔	堀口 捨吉	22	5
工事場の災害予防問題	熊谷 兼雄	22	7
高度地区と百貨店	伊藤 甫	22	9
建築電気設備と節電	杉浦 豊	23	4
満洲に於ける住宅供給の実際	荘原 信一	〃	6
大阪市の厚生施設	竹内 政治	23	12
大阪府下に於ける人口増加調べ	横見 幹 川勝 健二	〃	〃
日本城郭の種類及構造	鳥羽 正雄	24	7
近世日本城郭に於ける防備施設	城戸 久	〃	〃
ロンドン塔	藤島亥治郎	〃	〃
二条城二ノ丸に就いて	沢島英太郎	〃	〃
城郭と国防	古川 重春	〃	〃
桃山江戸時代に於ける鯱鉾の遺構	佐藤 佐	〃	〃
内南洋の建築	森田 慶一	24	8
南洋方面の建築写真	近藤 泰夫	25	3
飛鳥時代より奈良朝に至る風俗	江馬 務	26	3
法隆寺修理の実際	浅野 清	〃	〃
法隆寺金堂壁画の調査	豊田 弥吉	〃	〃
兵庫県下建設業者の変遷	山内嘉兵衛	30	6
性病と建築	安住 義人	〃	8
統計から見た広島県下の住宅復興	曽根田 彰	〃	10

神戸元町通りの今昔		30	6
和歌山県における住宅の実情	奥村 胖	30	11
京都市の住宅事情	扇田 信	31	9
ジエーン台風に依る大阪府下建築物被害調査報告	大阪府建築部指導課	32	2
ジエーン台風に依る京都府の被害	京都府建築部調	〃	〃
ジエーン台風に依る尼崎市の被害	尼崎市建設部河港課調	〃	〃
大阪市に於ける土地家屋の評価	片岡 一雄	〃	12
建築代理業者資格試験問題集	大阪府建築部指導課	〃	〃

c 随 想

婦人と衣食住	葛野壮一郎	1	6
建築と趣味 (一)(二)	香櫨書生	〃	11,12
神前結婚の過去及現在	大番町人	2	1
葬式の沿革と途中行列廃止	青谷生	〃	2
番犬の飼育法	田丸亭之助	〃	10
大阪の外廓を歩して(上中下)	斎藤直太	5	3
住宅を建てる標準	翠甍庵	6	11
伝説に遺されたる建物の話	野村俊一郎	4	1
四宜草堂漫筆 1	佐藤 四郎	2	10
〃 〃 2〜5	〃	3	1,4,6,8
坪内士行氏夫婦の理急の住宅	M婦人記者	4	3
訪問者のこゝろ	恩田 和子	5	4
素人の眼に映じた建築	平田 春江	9	10
女性中心の建築及び環境に就いて	同	〃	11
紐育の労働長屋	藤田進一郎	10	1
非文化住宅	南 信	〃	〃
茶趣味から観た日本住宅	木津 宗一	〃	〃
三女性の観た住宅	平田 春江	〃	〃
吾家を建てるには (1)	(諸名士)	〃	〃
統計上から見たる若き婦人と其住宅観	松本 儀八	10	3
名士の考へてゐる邸宅	(諸名士)	〃	9
名士大震回想録	(諸名士)	11	9
ロシヤの家、支那の家	豊島 欽爾	12	4
民家行脚	津田 鑿	〃	〃
残されたる旧大阪	鶴丸 呆二	12	4
古建築用材と鴻池男爵邸	江崎 政忠	13	6
東京と大阪とを比較して	黒田 鵬心	14	8
つひへ往く大伽藍	徳政 金吾	〃	〃
朝日ビル素描	石川純一郎	15	2
阪急ビルデイング断片	鷲尾 九郎	〃	〃
満洲と建築	安井 武雄	〃	3
満洲在住者としての雑感	村田 治郎	〃	〃
満洲見学旅行感想の断片	永澗 狂三	16	11
若し地震なりせば	田辺 平学	17	11
本会使命の重大性に就て—都市武装の急要—	片岡 安	18	3
千年家の古文書と棟札に就て	大熊 喜邦	18	8
建築教育の今昔	田辺 平学	19	3
建築教育の片見	渋谷 五郎	〃	〃
新京から	南 信	〃	4
水都景観	元良 勲	19	6
日本折衷主義と我国の建築家	西山 卯三	〃	〃
非常時に直面する新春の建築界	片岡 安	21	1
時局に際して建築技術者の抱負	酒井勇三郎	〃	〃
時局下に於ける建築家の立場	古塚 正治	21	9
時局対策私見	伊藤 正文	〃	〃
時局下の建築界断想	大倉 三郎	〃	〃
重大時局下に於ける建築家の覚悟並に将来への対策	鈴木忠五郎	〃	〃
非常時局下に於ける建築家の覚悟並に将来への対策	大石 忠夫	〃	〃
重大時局下に於ける建築家の覚悟並に将来への対策	田中幸太郎	〃	〃
御堂筋を語る	亀井幸次郎	22	6
土木と建築	新名 種夫	〃	〃
色と健康	元良 勲	〃	〃
満洲瞥見記	大石 忠夫	22	10
工場建築家に望む	山口 正	〃	11
生命保険と住宅問題	諏訪 一郎	23	1
工場の高層化	伊藤 甫	〃	〃
支那の家	富田 清	23	12
竹の効用に就いて	池田 宮治	24	5
神社建築漫稿	津田 鑿	24	6
ナチス建築と石原産業	小泉嘉四郎	24	11
満洲の住宅瞥見	赤座 三太	25	4
唐招提寺	藤田 元吉	〃	6
支那料理、支那芝居、支那建築	尾崎 久助	25	9
千木をあさりて	津田 鑿	〃	11
戦争に勝つ家	杉山 雅則	26	7
人と用具に就て	豊口 克平	〃	〃
進展せる木造建築を顧みる	富田 清	27	2
創立25年記念事業経過に就て	記念事業幹事会	〃	3
我が日本建築協会は「かくありたい」	小崎 修	28	1
建築会館のことども	京都 Y生	〃	6〜8
住宅問題と民主々義	稲葉 房蔵	29	1
大阪市の復興を阻むもの	中村 綱	30	1
法隆寺災す	中村 直勝	〃	3
法隆寺金堂の思い出	望月 信成	〃	〃

第 5 部 門

法隆寺の鐘	亀田 孜	30	3
法隆寺罹災雑考	中尾 保	〃	〃
伏 蔵	藤原 義一	〃	〃
法隆寺金堂失火の起因と再建に就て	池田谷久吉	〃	〃
皇居の家と庭	中野順次郎	32	6
建築と街	神田 省三	〃	10

d 紀 行

満鮮雁信	波江 悌夫	6	6
樺太の事ども	中村 義雄	8	1
米国へ行くまで (一) (二)	波江 悌夫	3	2, 3
渡欧日記より (一)〜(三)	置塩 章	4	10〜12
西欧をめぐりて	星野須磨子	5	8
埃及旅行記 (1巻15)	八戸成蟲楼	6	4
南洋旅行漫談	武田 五一	15	10
京阪地方の風水害を視察して一主として大阪市内小学校の被害に就て一	十代田三郎	17	11
関西風害を視る	木村幸一郎	〃	〃
京阪両市風害小学校を視察して	滝本 義一	〃	〃
京都市水害状況視察報告	三浦 尚史	18	8
静岡地方震災調査報告	山田 誠 中井新一郎	〃	〃
第2回四建築聯合大会略記四建築会聯合大会台湾瞥見記	清水 栄二	18	12
春季大会記録 (宇治山田より鳥羽まで)	新名 種夫	19	5
松殿山荘見学の記	岡田 孝男	20	7
北支と満洲を視察して	岡部 顕則	22	2
南紀の古蹟を見学して	建築倶楽部室	22	7
撫養製塩工場見学概記	倶楽部室主催	23	7
会勢幹事会主催八幡宮円福寺随行記		24	7
倶楽部室主催和歌山方面見学記		〃	〃
飛鳥路 (スケツチ)	辰巳 孝雄	26	8
修 二 会	岩佐 信也	28	6〜8
ヨーロツパ住宅建設と戦災復興	尾崎 久助	34	3

e 記 事

関西建築協会第一回大会記事		1	14
住宅改造博覧会記事 (一)		5	7, 8
神戸高工開校記念展覧会		〃	12
建築知識普及展覧会		11	10
生活改善展覧会に就いて	中村 義雄	12	4
貸家展見たまゝの記	本間 乙彦	〃	9
「婦人と住宅」展覧会概記		13	10
緑ケ丘保健住宅博覧会開会式		15	10
大美野田園都市住宅博覧会開場式に参列して	坪井 誠一	〃	〃
満十五周年記念の各事業を記録して		15	12
満十五周年記念建築通俗大講演会速記録		16	1
東京白木屋被害視察報告		〃	〃
四会聯合建築大会と満鮮の見学	松室 重光	〃	11
関大阪市長の長逝を悼む一都市公園にもかゝる功績を残された一	椎原 兵市	18	2
昭和10年6月29日30日大阪府下水害報告	松井清之助 元吉勇太郎	18	12
豪雨による大阪府下再度の水害9月2日堅下村の水禍	中井新一郎、向坂弘美、元吉勇太郎	〃	〃
豊公聚楽第の大広間	大熊 喜邦	19	3
議院建築雑話	中栄 一徹	20	1
日本インターナショナル建築運動	中尾 保	20	6
噫・本間乙彦氏	渋谷五郎、松本儀八、鶴丸菊太郎、高橋栄治、新名種夫	〃	9
噫・内藤太郎氏	波江悌夫、柳井平八、中村琢治郎	21	2
上海方面防空視察報告	鳥井信、八木憲一、松井清之助、吉田信武	21	3
武田君を憶ふ	片岡 安	21	4
武田先生の思出	坂 静雄	〃	〃
先生の思ひ出	村田 治郎	〃	〃
防空展覧会開催		〃	4
本協会指導支那防毒室模型出品		〃	〃
時局と建築界の諸団体	竹腰 健造	21	7
北支古建築の保存と中国営造学社	関野 克	22	2
樺太の建築に就て	飯島 猛夫	〃	〃
「あるぜんちな丸を見て将来に対する希望	松田 軍平	22	8
姫 路 城	藤原 義一	〃	〃
故橋本勉君を偲びて	永瀬 狂三	22	12
北山丸太の植林見学	建築倶楽部室	〃	〃
紀元2600年記念「建築文化展覧会」	編 輯	24	1
紀元2600年記念事業委員会報告		〃	〃
昭和15年度会勢幹事会事業報告		〃	〃
「女性と住生活」展について	小田島兵吉	26	5
再刊の辞	出版幹事会	28	1
ホテル・ナニワ見学記	参加会員記	〃	9〜12
西大寺赤膚見学記	岩佐 信也	〃	9〜12
建設大臣具申抜萃		29	3
「これからの住宅展」について		30	9
建築技術者の資格制度に関する要綱建議		〃	11
日立造船所見学記		〃	3
神戸博の建設に就いて	野田 清三	31	5
アメリカ博とその企画	鶴 秀茂	〃	〃

「伸びる家」展覧会について		31	5
日本建築協会和歌山支部結成記		31	7
阪神パーク見学記		〃	10
和歌祭に就て	今津 吉兼	32	5
建築を志す学生諸君え	東畑 謙三	〃	8
日本学術会議報告	坂 静雄	33	2
広島の平和大橋勾欄と慰霊碑の設計不採用問題について	吉田 三郎	〃	6
ヒロシマ漫歩	柴田 斉男	〃	〃
沖縄通信	浅沼 茂夫	〃	7
自然に帰れ（講演）	リヒアルト・ノイトラ	〃	〃
ノイトラを迎えて	上野伊三郎	〃	〃
ノイトラ的、ライト的	村野 藤吾	〃	〃
法隆寺復興・外論	滝沢 真弓	〃	10
法隆寺復原問題	藤原 義一	〃	〃
関西建材会の歩み	関西建材会	34	1

f 消 息

創立当時の模様（一）（二）		1	1, 2
建築業協会の消息		〃	8
住宅及都市計画国際会議開催		20	5
訪伊の片岡会長より会員諸君へ		23	6
訪欧の会長より会員諸君へ！		23	7
沖縄だより 第1信	政岡 基次	31	11
〃 第2信	〃	〃	12
竹腰会長のN・R・A便り		33	7

g 懸 賞

議院建築意匠設計懸賞募集規程		1	11
明治神宮外苑記念建築物懸賞		〃	12
懸賞改良住宅設計案審査報告		3	4
大阪美術館新築設計図案懸賞募集規程		〃	11
第一回改良住宅応募図案審査概評(1〜3回)		4	〃
頭等に当選せる大阪府庁舎設計図案		6	1
大阪都計広路橋梁設計懸賞当選案審査評	C・T 生	7	11
阪堺電車田園住宅懸賞応図案評	武田 五一	8	4
ゼネバ国際聯盟建築に関する懸賞設計綱領並に規定		9	9
懸賞論文募集（課題、将来の日本の住居）		10	5
覚王山日暹寺鐘楼建築設計図案懸賞募集規程		〃	7
照明智識普及映画脚本懸賞募集		〃	〃
同一等当選論文（課題、将来の日本の住宅）	加藤 善吉	11	2
国際聯盟会館懸賞設計図案選定の事情		〃	〃
懸賞募集日暹寺鐘楼当選発表		〃	〃
サンマーハウス設計図案懸賞募集規程		12	1
地下鉄「ビルデイング」建築意意匠設計図案懸賞募集		12	2
第三回建築展覧会作品図案募集		〃	8
貸家住宅懸賞入選図案発表		〃	〃
貸家住宅懸賞入選図案審査評		〃	〃
住宅室内設備設計図案懸賞募集		13	7
「集合住宅」に関する懸賞募集	婦人之友社	〃	〃
日本生命館新築懸賞図案		〃	8
サン・ドミンゴ燈台設計入選案		〃	〃
大礼記念京都美術館建築設計懸賞入選図案		〃	9
東京帝室博物館建築設計図案懸賞募集に就て		14	1
軍人会館建築設計懸賞入選図案		〃	3
改善住宅設計図案懸賞募集		〃	〃
小住宅設計懸賞図案当選者発表		〃	8
日本建築協会紋章図案懸賞募集		15	2
メートル法に依る実用安価小住宅設計図案懸賞募集		〃	5
大美野田園都市住宅設計図案懸賞募集		〃	7
東豊中住宅設計図案懸賞募集		〃	8
職工向分譲住宅設計図案懸賞募許	同潤会	〃	〃
第一生命保険相互会社本館建築設計図案懸賞募集		〃	〃
朝鮮貯蓄銀行本店新築意匠設許懸賞当選図案		〃	9
阪和上野芝住宅設計図案懸賞募集		〃	11
日本放送協会関西支部局舎設計競技図案		16	2
第一生命保険相互会社本館設計懸賞競技当選図案		〃	〃
職工住宅素人設計懸賞当選図案		〃	3
阪和上野芝住宅懸賞設計当選図案		〃	4
建築博覧会住宅設計図案懸賞募集		〃	〃
大阪市「シビツク・センター」計画理想案懸賞募集		〃	6
電気スタンド図案懸賞募集	照明学会	〃	7
エヂソン翁記念碑設計図案懸賞募集	同建設会実行委員会	〃	〃
表紙当選図案発表		17	1
海辺に建つ「夏の家」懸賞設計当選図集		17	5
東京市庁舎新築設計懸賞当選図案		17	10
第6回工芸意匠図案募集に就て		21	5
第12回建築展覧会規定		21	7
大連市公会堂建築設計図案懸賞募集規定	大連市役所	21	8
小住宅設計図案懸賞募集		22	1
忠霊塔設計図案懸賞募集規定		22	9
静岡市復計画懸賞募集規定		24	11
神戸市公会堂建築設計懸賞競技当選者図案		19	2
農村住宅設計懸賞募集趣意及募集規定（福井県）		19	8

第 5 部 門

訪日宣詔記念建造物建築設計図案懸賞競技募集規定	19	11
静岡市霊城懸賞当選図案	25	5
復興設計当選図案（天王寺区）	28	3—5
広島市平和記念公園及び記念館設計懸賞募集要項	30	6
第一回建築サロン懸賞競技募集規程	〃	7
広島市平和記念公園懸賞応募図案審査評	〃	9
天理教東京会館競技設計一等当選図案	32	8
愛知県文化会館懸賞競技設計募集規程	33	12
小豆島内海町章（マーク）懸賞募集	〃	〃

h 実　例

近代亜米利加に於けるオフイスビルデイング構造様式の傾向（写真）	9	1
中田邸　（写真）	〃	2
電気大博覧会の建築物（写真）	〃	3
同　（記事）　松室　重光	〃	〃
野村証券株式会社（写真）　設計—安井武雄氏	〃	4
株式会社宝塚ホテル（写真）　〃—古塚正治氏	〃	5
同　（工事概要）	〃	〃
住友ビルデイング　（写真）	〃	6
同　（工事概要）	〃	〃
有隣小学校、九条共同宿泊所（写真）	〃	7
同　（工事概要）	〃	〃
八　馬　邸　（写真）	〃	8
同　（工事概要）	〃	〃
大阪市高速鉄道計画の概要　清水　熙	〃	〃
江商ビルデイング　（写真）	〃	9
同　（工事概要）	〃	〃
大阪電気軌道株式会社　（写真）	〃	10
同　（工事概要）	〃	〃
朝日会館	〃	11
同　（工事概要）	〃	〃
大阪府新庁舎　（写真）	〃	12
大阪府新庁舎　（工事概要）	〃	2
大阪府新庁舎が建つまで　八木幸次郎	〃	〃
T氏の邸宅	10	1
大阪高等学校官舎	〃	〃
不動貯金銀行大阪西支店	〃	2
同　工事概要	〃	〃
大阪放送局	〃	3
第一銀行大阪支店	〃	5
同　工事概要	〃	〃
神戸東神倉庫	〃	7
同　工事概要	〃	〃
百瀬博士邸	〃	〃
同　工事概要	〃	〃
大同病院	10	7
同　工事概要	〃	〃
同潤会アパートメント・ハウス	〃	8
京都・共同火災支店	〃	〃
同　工事概要	〃	〃
別府・白洲家別邸	〃	〃
同　工事概要	〃	〃
芦屋・仏教会堂	〃	9
同　工事概要	〃	〃

i 紹　介

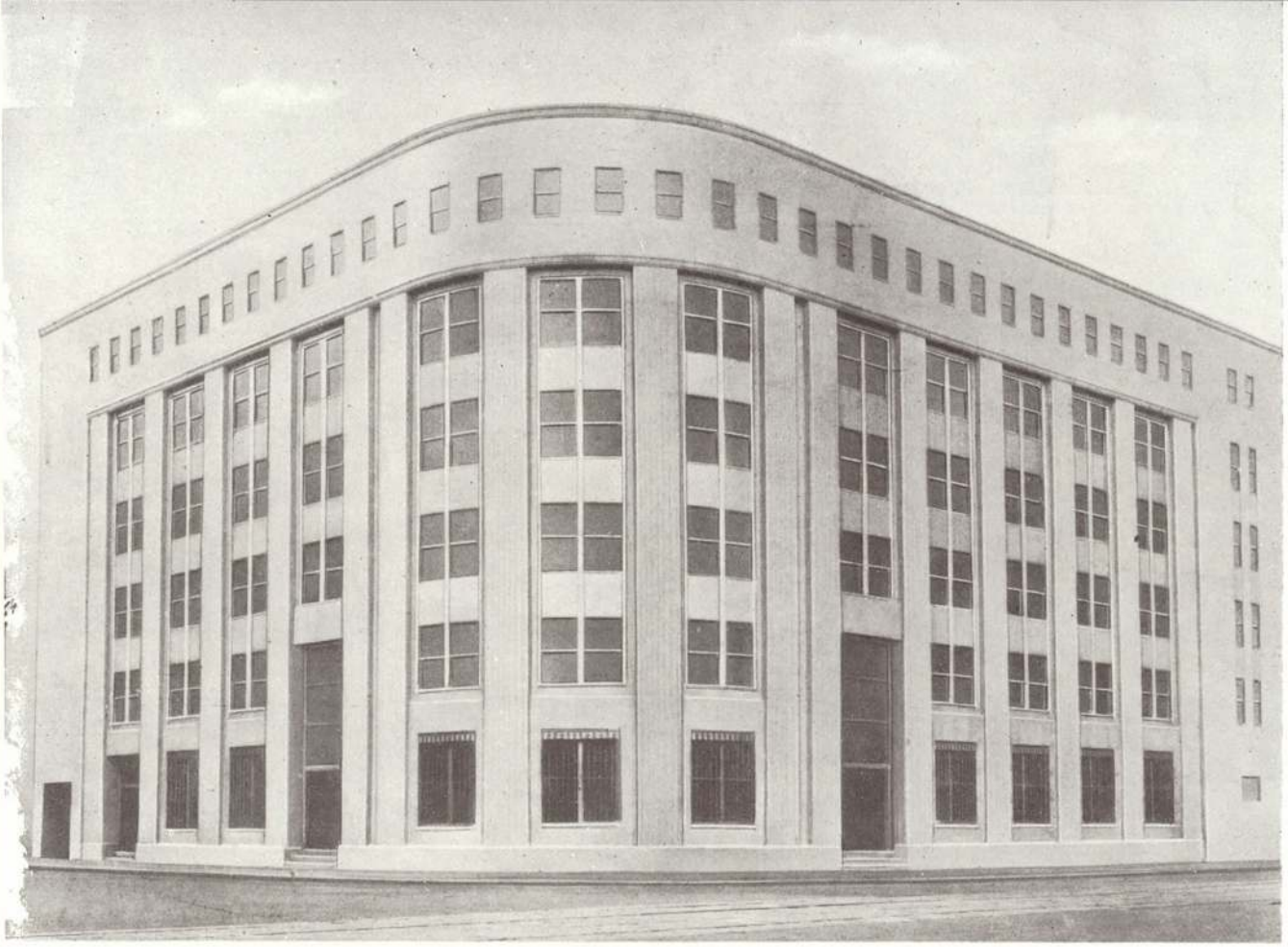
建築材料陳列場出品者一覧表		23	11
陳列場出品者一覧表		24	3
米国に於ける貸金庫見聞記 (一)	村野　藤吾	11	5
〃 (二)	〃	〃	6
〃 補遺	〃	12	1
〃 〃	〃	〃	2
船尾の簡易住宅村	翠煙　庵主	6	3
米国に於ける炭坑夫の小住宅	それがし	〃	〃
泉南の富豪種子島氏と其住宅	江村　郊邨	〃	4
川田順氏の御影邸	三　太　郎	〃	12
郵船ビルの新築	黒田　鵬心	6	8
大阪府知事新官邸に就て	沢原　隆夫	7	2
爪哇の建築	柳沢　彰	6	1
青島の住宅	加藤　善吉	〃	6
建築資料綜合陳列場出品者一覧表		25	1
〃		〃	2
観光京都の古建築案内	村田　治郎	30	8
大阪市立、職員厚生園体育館		25	1
日本電力修養道場八紘苑		〃	〃
三友会武庫川運動場クラブハウス		〃	〃
日赤大阪支部病院分院 阿倍野勝景園		〃	7
安宅商会天津支店長社宅及独身寮		〃	9
第2 山水小学校		〃	11
同　平面図		〃	〃
住宅営団、労務者住宅		26	1
神戸　K工場工員寄宿舎		〃	2
同　平面図		〃	〃
絹人絹会館		〃	3
甲子園　竹友寮		〃	4
同　平面図		〃	〃
菖蒲池厚生住宅展図譜 (1)		〃	5
〃 (2)		〃	8
大阪千日前　スバル座		28	9—12
大阪道頓堀　ダンスホール　メトロ		〃	〃

ホテル・ナニワ	28	9—12
大阪道頓堀　中　座	29	1
西成税務署	〃	2
玉水会館	〃	〃
白雲ビル	〃	〃
愛知労働会館	〃	〃
喫茶　ブランタン	〃	〃
大阪府　医師会館	〃	〃
京都　上村氏邸	〃	〃
A氏邸	〃	〃
スバル　ビル	30	1
広島児童文化会館	〃	〃
人絹文化協会	〃	5
大阪競輪場	〃	〃
神戸葺合電話局	〃	6
神戸木材会館	〃	〃
兵庫県繊維貿易問屋街	〃	〃
兵庫県教職員組合会館	〃	〃
兵庫県教職員組合会館	30	6
〃　飼料会館	〃	〃
西宮競輪場工事概要	〃	〃
大阪府営鉄筋共同住宅	〃	7
神戸みなと会館	〃	〃
京都祇園会館	〃	8
京都女子大学	〃	〃
立命館大学文学部校舎	〃	〃
某　氏　邸	〃	〃
北　税務署	〃	9
日興物産株式会社大阪支店	〃	〃
BAR SHARK	〃	〃
広島駅前郵便局	〃	10
下関水産ホーム	〃	〃
HIROSHIWA STATION	〃	〃
鳥取電気通信工事局	〃	〃
広島鉄道郵便局　糸崎係員事務室	〃	〃
広島女学院高等学校講堂	30	10
ニユーオリエンタンホテル改造	〃	11
日立造船桜島会館	〃	〃
CLUB TOURIST	〃	〃
NIGHT CLUB CISCO	〃	〃
広島ガスビル	〃	〃
大阪警視庁　第二別館	〃	12
大阪南郵便局	31	1
日本毛織株式会社	〃	〃
日本板硝子株式会社仁川寮	〃	〃
タイガー計算器販売株式会社大阪支店	〃	2
大阪　重乃家	31	2
実例　アルミニウム建築作品集	〃	〃
名古屋電気通信管理所	〃	3
名古屋電報局	〃	〃
名古屋港郵便局	〃	〃
千歳劇場	〃	〃
竹中工務店　名古屋支店	〃	〃
農林中央金庫名古屋支所	31	3
農協会館	〃	〃
名古屋栄町郵便局	〃	〃
既製服会館	〃	〃
毛織会館	〃	〃
都築紡織　大垣工場	〃	〃
東洋倉庫事務所	〃	〃
松坂屋栄町店	〃	〃
川瀬書店	〃	〃
東京銀行一宮支店	〃	〃
三和銀行上前津支店	〃	〃
すみれ洋裁学院	〃	〃
大阪木材会館	〃	4
日本生命新潟支社	〃	〃
三菱化成岐阜工場再建工事	〃	〃
名古屋市分譲住宅	〃	〃
S　氏　邸	〃	〃
SE 氏 邸	〃	〃
名古屋競輪場	31	〃
名古屋市立柳小学校	〃	〃
日本板硝子四日市工場事務所	〃	〃
KOBE FAIR 建築作品	〃	5
博覧会風景　小磯　良平	〃	〃
AMERICA FAIR MODEL HOUSE	〃	〃
福岡簡易保険支局	〃	6
福岡競輪場	〃	〃
農林中央金庫福岡支所	〃	〃
福岡市南警察署	〃	〃
福岡建設会館	〃	〃
炭坑労務者住宅	〃	〃
聖ザビエル記念館	〃	〃
中央信託銀行福岡支店	〃	〃
福岡石炭局庁舎	〃	〃
三菱高島鉱業所端島坑アパート	〃	〃
日発小倉火力発電所	〃	〃
長　崎　駅	〃	〃
佐賀県青年会館	〃	〃
日清製粉鳥栖工場本館	〃	〃
大分電報局	〃	〃
宮崎県町村会館	〃	〃

第 5 部 門

熊本県信用農業協同組合連合事務所	31	6
熊本県会議所	〃	〃
聖ザビエル記念教会堂	〃	〃
大阪府工業奨励館本館	〃	7
東邦ガスビル	〃	〃
日本興業銀行大阪支店増改築	〃	8
東税務署新庁舎	〃	〃
池田市役所	〃	〃
堺税務署	〃	〃
日華ゴム株式会社大阪支店	〃	〃
建築家の住宅	〃	〃
公楽会館	〃	9
京都市交通局病院附属療養所	〃	〃
京都市警察本部庁舎	〃	〃
京都市消防局庁舎	31	〃
京都府立精神病院	〃	〃
京都府庁舎（税務課）	〃	〃
大阪星光学院	〃	10
関西大学大学院	〃	〃
聖心女子大学	〃	〃
豊中市立桜井谷小学校講堂	〃	〃
豊中市立第4中学校	〃	〃
布施第6中学校	〃	〃
名古屋市立笈瀬中学校	〃	〃
名古屋市立第3幼稚園	〃	〃
名古屋市立前津中学校	〃	〃
白百合女子専門学校	〃	〃
大阪球場	〃	11
大阪プール	〃	〃
森の宮球場	〃	〃
松阪市競輪場	〃	〃
竹中工務店神戸支店	〃	12
兵庫県社会事業会館	〃	〃
阪神パーク	〃	〃
西宮市民館	〃	〃
香港上海銀行神戸支店	〃	〃
山一証券株式会社神戸支店	〃	〃
有馬温泉観光ホテル「池之坊」附属観光会館	〃	〃
神戸市交通局庁舎	〃	〃
小野田セメント神戸サービスステーション	〃	〃
坂口吉蔵商店　寿海蔵	〃	〃
兵庫県下に於ける新建築の動向	〃	〃
安田火災海上保険株式会社大阪支店	32	1
大日本紡績株式会社アパート	〃	〃
日芸会館	〃	〃
大阪モータース株式会社	〃	2
高島屋新館	〃	〃
大阪高等裁判所同心町アパート〃〃	32	3
Y 氏 邸	〃	〃
S 氏 邸	〃	〃
川村氏邸	〃	〃
社 宅	〃	〃
神戸銀行協会	〃	〃
放送局和歌山支局	〃	〃
某 料 亭	〃	〃
海南映画劇場	〃	〃
サーリラインの遺作	〃	6
伊藤忠商事鉢山アパート	〃	〃
O氏邸応接と玄関改装	〃	〃
志摩観光ホテル	〃	7
ホテル、マルエイ	〃	〃
ホテル、エル、パナマ	〃	〃
日本経済新聞社大阪支社	〃	8
芦屋市宮川小学校	〃	〃
三洋電機株式会社	〃	〃
日端貿易株式会社大阪事務所	〃	〃
アポロ座	〃	〃
協和銀行船場支店	〃	〃
阪急航空ビルデイング	〃	〃
自転車会館	〃	〃
三泰貿易株式会社	〃	〃
東京銀行宝塚倶楽部ハウス	33	1
金属会館	〃	〃
ローマの停車場	〃	〃
市立池田病院	〃	2
NHK池ノ上家族寮	〃	〃
アメリカの住宅	〃	〃
オーストラリアの住宅	〃	〃

建 築 と 社 会
第34輯　第12号
本号に限り 売価1部200円（送料共）
昭和28年11月25日印刷・昭和28年12月1日発行
編集発行人　沖 田 誠 一
発 行 所　社団法人 日本建築協会
大阪市北区中ノ島3ノ3朝日ビル
電話 北浜㉓1334～9番
振替口座大阪39975番
大阪市北区堂山町66
印刷者　綱 野 栄
大阪市北区堂山町66
印刷所　株式会社研文社（電話曙絞2056番）



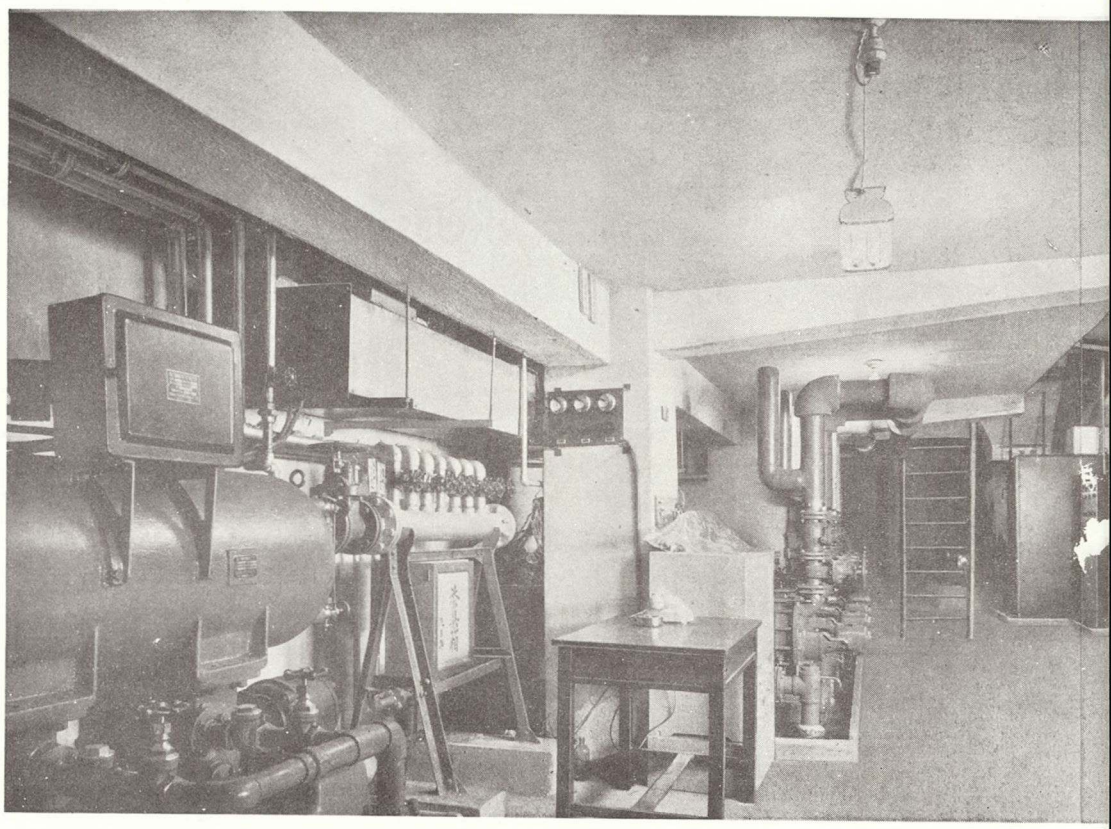
三和銀行東京支店

新　築　概　要

位置	東京都千代田区丸ノ内一丁目二番地
工期	起工　昭和27年8月
	竣工　昭和28年9月
敷地面積	647.85坪
建築面積	2349.77坪
階数	地下1階　地上6階
主体構造	鉄骨鉄筋コンクリート造
軒高	83尺
設計監理	三和銀行建築課
主体工事施工	清水建設株式会社

冷暖房・換　氣・衛生設備施工

須賀工業株式會社



本 設 備 の 概 要

冷暖房設備

この設備は次の三系統に大別されます。

第一系統

営業室の中央式冷暖房設備別館の機械室で洗滌調整された空気を壁面のレジスターより吹込み一年中を通じで室内の温湿度を快適に而も衛生的に保持致します。

第二系統

一階から四階迄のユニット式冷暖房設備各室に設置された須賀式エヤーコンヂショナーにより一年中を通じ各室の温湿度を自由に調整する事が出来ます又別に機械室で調整された新鮮な空気を送気して換気を行ひます。

第三系統

五、六階及別館の直接暖房設備ベースボードヒーター及び鋳鉄製ラヂエーターが各室の構造意匠に適応して配置され機械室から送らるスチームにより冬の室温も快適に保ちます。

換 気 設 備

右記の7系統に分けて強制換気を行つてゐます。

1）地階機械室送風系統

2）地階機械室排気系統

3）東便所排気系統

4）西便所排気系統

5）書庫排気系統

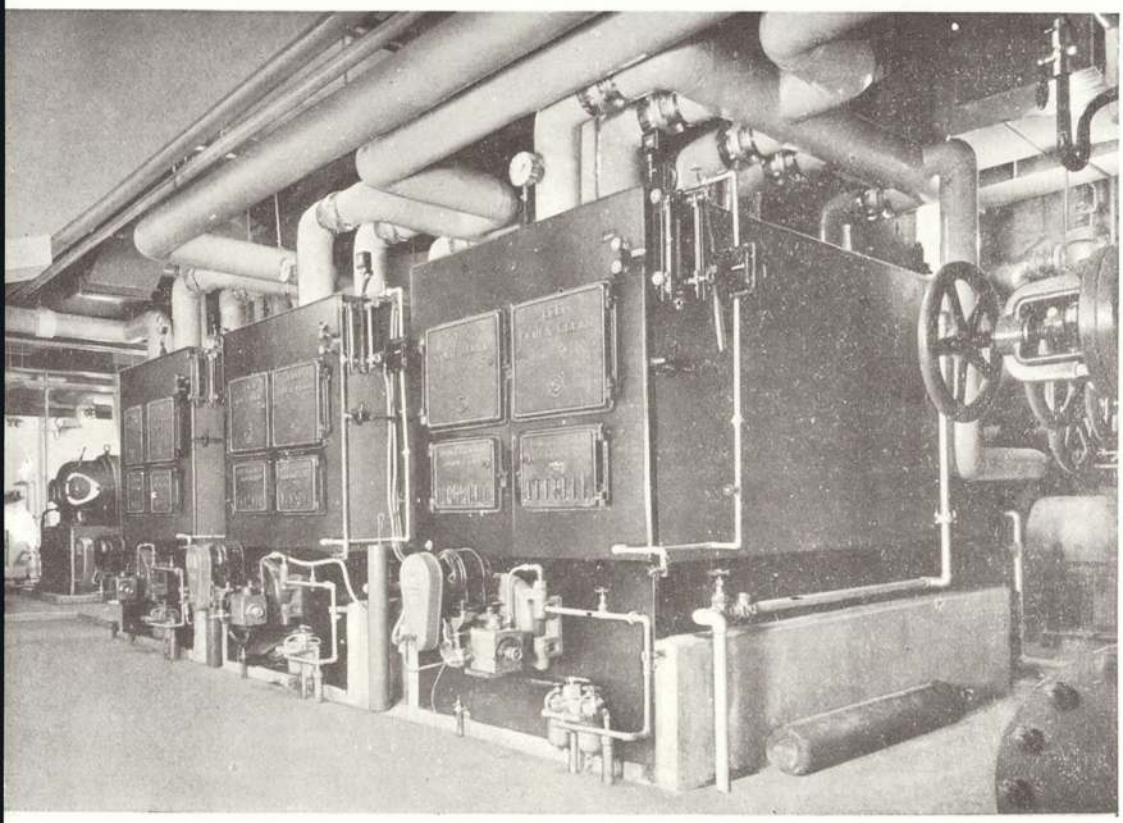
6）6階厨房排気系統

7）其他個別排気系統

衛 生 設 備

消火設備は別館地階機械室に25HPの消火ポンプが設置され消火栓附属の押ボタンスヰッチを押せば直ちに起動致します、尚建物外壁のサイヤミーズコネクションから消防隊のポンプに依て送水を受ける事が出来ると共にウオールハイドラントより近隣の出火に対応して放水する事が出来ます。

給水設備は市水及井水の二系統に分ち夫々地階機械室の送水ポンプが自働的に運転され、別館屋上の圧力水槽を介して各使用個所に給水されます。



本設備に使用の主な機器

冷暖房設備

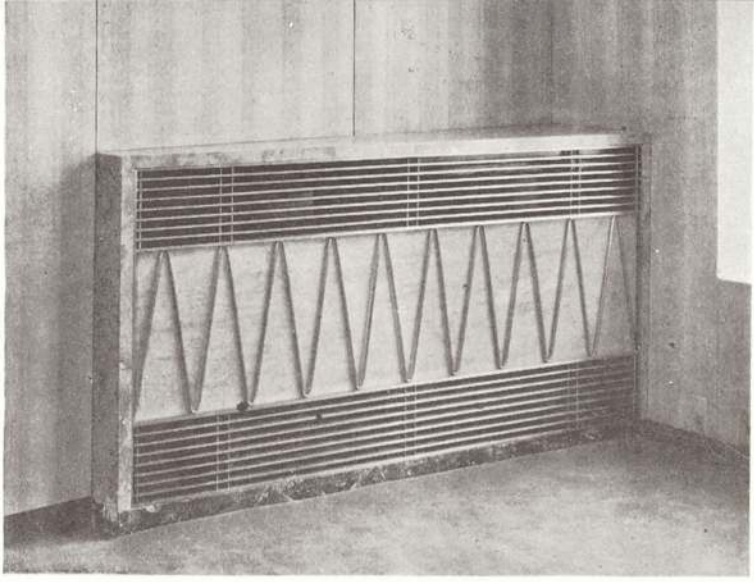
ターボ冷凍機	180冷凍噸×230馬力	1 台
ルームエヤーコンデイシヨナー		69台
循環ポンプ	4吋×7½馬力	1 台
コンデンサーポンプ	5吋×10馬力	1 台
冷水ポンプ	4吋×15馬力	2 台
空気洗滌器	巾1.5×高 1.35米	2 基
送風機	No. 5×15馬力	2 台
セクシヨナルボイラー	S— 515	3 罐
オイルバーナー	40ガロン/時×1馬力	3 台
オイルタンク	1.4米×2.2米×高3.8米	1 基
真空給水ポンプ	2.500米²×3馬力(2台)	1 台
熱交換器	径0.65米×長2.0米	1 基
温水循環ポンプ	2½吋×2馬力	1 台

換気設備

送風機	No. 5×5馬力	1 台
排風機	No. 4×2馬力	1 台
排風機	No. 4×2馬力	1 台
排風機	No. 2½×1馬力	1 台
排風機	No. 3½×2馬力	1 台
排風機	No. 1½×¼馬力	1 台
プロペラーフアン	12吋×45ワット	5 台

衛生設備

消火ポンプ	4吋×25馬力	1 台
市水ポンプ	3吋×15馬力	2 台
井水ポンプ	3吋×15馬力	2 台
空気圧縮機	1馬力	2 台
圧力水槽	径6尺×高10尺	2 基
受水槽	1.8米×1.2米×高3.0米	1 基
ボアホールポンプ	6吋×40馬力	1 台
排水ポンプ	4吋×5馬力	2 台



ルームエヤーコンデイショナー

現在施工中の主要工事

東京	平和不動株式会社	衛生設備
東京	丸ノ内日活劇場	冷暖房、衛生設備
横浜	飯野海運ビルデイング	衛生設備
浦和	埼玉県廳舎	衛生設備
大阪	神戸銀行大阪支店	衛生設備
和歌山	紀陽銀行本店	冷暖房設備
滋賀	滋賀県公会堂	冷暖房設備
金沢	日本銀行金沢支店	衛生設備
神戸	兵庫県立医大附属病院	冷暖房、衛生設備
小倉	井筒屋百貨店	衛生設備
福岡	博多会館	衛生備設

暖房・冷房・水道・衛生工業設備

設計・施工

須賀工業株式會社

大阪市福島区堂島浜通四丁目一〇

電話 福島 ㊺ 1157. 1158. 2057. 2058. 6679

支店

東京支店	東京都港区芝田村町六丁目七	電芝 7151. 7152. 7153 / 7154. 7155
名古屋支店	名古屋市中区材木町一丁目六	電本局 2784. 5453
京都支店	京都市下京区烏丸通松原下ル	電下 1989. 2255
神戸支店	神戸市生田区北長狭通二丁目	電葺合 5804. 5805
福岡支店	福岡市千代栄町六番地ノ二	電東 1279. 2749

●第三四集 第一二号 掲載広告一覧（掲載順）

ナショナル・コンクリート・ブロック工業
岩住鉄工所
荏原製作所
日本耐火建材
満点製作所
工英社
三菱レイヨン
日本ドアーチエック製造
東洋陶器
伊丹木材
田中工業
久保商店
大阪城口研究所
大阪電気商会
桐田商会
斉久工業
三機工業
須賀工業
西原衛生工業所
建材社
栄興商会

三晃商会
第一工業
浅海電気産業
近畿電気工事
中央電気工業
立花商会
矢橋大理石商店
黒川化学工業所
大島応用化学工業
明正社
林塗装店
東邦商会
樫野石灰工業
高野アスファルト
不二製作所
ケーアールゴム
岩元工業
東亜ペイント
田島応用化工
三高製作所
室谷商店
福島産建工業

日本サッシュ
田村商会
川岸窯業
田中風呂製作所
東洋アルミニウム
水島商店
ナニワ瓦
佐村木商店
三舟窯業
三幸商会
福屋工業所
福昌
金剛商会
大仏組
谷山鉄工所
尾北商店
大阪窯業セメント
前沢商行
吉田芳雄商店
太洋組
藤森工業
井上工材
日本金具製作所
大阪建材工業

玉置産業
東洋機械
東京鋼板工業
シフカー工業所
ライト製作所
瀧青工事保証協会
中央写真
木下工務店
明青工業写真
利倉幸商店
内外土木建材社
岸田塗工店
鈴木シヤタア商会
大阪コンベス建材社
木下謹三商店
亀井
大正鉄筋コンクリート
杉田組協栄
汎建製作所
油脂化工社
浪速建材工業
日本セメント防水剤製造所
建材信和会事務所
日新工業